2019年度
授業改善のための学生アンケート
実施報告書

東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

目　次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2019 年度授業改善のための
　学生アンケートについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

授業・レッスンアンケート用紙 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

参考資料　～　全体集計結果表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

講義・演習系、実技（個人レッスン）、大学院　全体集計結果

専攻別集計結果・アンケート結果考察

◆ 大学 ◆

ピアノ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

声楽 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

管弦打楽器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

音楽創造 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

音楽療法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79

音楽専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87

基礎教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159

教職に関する専門科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203

音楽療法に関する科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215

文化教養科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223

外国人留学生に関する科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 229

◆ 短大 ◆

ピアノ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243

声楽 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 255

管弦打楽器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 267

ピアノ指導者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 277

音楽教養実技 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285

音楽専門教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 299

基礎教育科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 323

◆ 大学院 ◆

ピアノ領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 339

管弦打領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 349

声楽領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 357

共通科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 373

はじめに

多様な背景を持っている学生に対する大学教育に対して、学士課程教育の一層の充実が年々求められています。各大学では、これらの状況に対して教育の改善、充実をはかるため全学的な FD 活動が活発に遂行されています。本学に於いても研修会をはじめ、各種アンケートの実施等、着々と FD 活動の実質化を行ってきました。

本学の「授業改善のための学生アンケート」は、平成 17 年度の施行以来、教育内容、方法の改善に重要な役割を果しています。教員一人一人が自主的な自己点検、評価を行い教育の質的向上を目指すための重要なエビデンスになっています。今後はピアレビューを踏まえた授業公開やアクティブ・ラーニングの活用方法等の実現化に議論を深めたいと思います。教育に関する問題、課題は絶えることはありません。今後とも改善、改革のため不断の対応を継続的に推進したいと思います。

令和 2 年 3 月

東邦音楽大学・短期大学
FD 委員会

山崎　明美(委員長)
片岡　啓子
高橋　幸雄
遠山　菜穂美
大場　文惠
宮野　陽子
中島　裕紀
國谷　尊之
荻久保　和明
木下　容子
粕谷　麻里乃
江沢　博昭
菅野　映之
山岡　香苗

2019 年度　授業改善のための学生アンケートについて

Ⅰ　実施目的

学生による「授業改善のためのアンケート」は、学生の視点から見た授業・レッスン内容、方法、教材などについて意見を聴取し、より充実した授業・レッスンにするための参考資料とするものである。

Ⅱ　実施対象科目

原則として、すべての開講科目・レッスンについて行う。

Ⅲ　実施機関

東邦音楽大学・同短期大学 FD 委員会

Ⅳ　調査内容

別紙のとおり

Ⅴ　実施手順

各授業・レッスン担当教員が、授業・レッスン時間終了前に、学生に本調査の趣旨を説明し、用紙を配布した。学生が回答記入後、回収した。

Ⅵ　集計

集計は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

Ⅶ　教員への結果通知

各授業・レッスン担当教員の各授業・レッスンごとの個人集計分は、平成 31 年度 3 月初旬から順次手渡し、分析を依頼した。

Ⅷ　結果の公表と活用

調査結果については、自己点検・評価特別検討委員会で報告書にまとめ、委員会の責任において公表する。各教員は調査結果を参考にして、次年度の授業・レッスンの内容の改善に役立てる。

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目系 用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名	曜日
担当教員名	時限

記入上の注意

1.記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2.訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3.用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例 ●　悪い例 ✓ ⊖ ✗ ◉ ○（うすい）

		強くそう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
		5	4	3	2	1
I 授業への取り組みについて	a. この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業の出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	c. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	d. １回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	⑤ 5時間以上	④ 4時間	③ 3時間	② 2時間	① 1時間未満
II 授業内容・授業方法について	a. この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業の難易度はどうでしたか。	⑤ 難しい	④ やや難しい	③ 適切	② やや易しい	① 易しい
	c. 開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	⑤	④	③	②	①
	d. この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	⑤	④	③	②	①
	e. 教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	⑤	④	③	②	①
	f. 授業内外における質問や相談の対応は適切だった。	⑤	④	③	②	①
	g. 授業回数や時間は守られていた。	⑤	④	③	②	①
	h. この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
III 授業の成果について	a. 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	⑤	④	③	②	①
	b. 授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	⑤	④	③	②	①
	c. この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	⑤ 新しい知識・技能が身についた	④ 新しいものの見方が身についた	③ 関連分野をさらに学びたくなった	② 問題発見・問題解決能力がついた	① コミュニケーション能力が向上した
	d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄

この授業で良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15308C 90 kg

授業改善のための学生アンケート

実技（個人レッスン）用

東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名

担当教員名

記入上の注意

1．記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2．訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3．用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例　悪い例　うすい

		強くそう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない
Ⅰ レッスンへの取り組みについて	a. このレッスンの出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	c. １回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	⑤ 5時間以上	④ 4時間	③ 3時間	② 2時間	① 1時間未満
Ⅱ レッスン内容・指導方法について	a. このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	⑤	④	③	②	①
	b. このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
	c. 教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	⑤	④	③	②	①
	d. レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	⑤	④	③	②	①
	e. このレッスンの回数や時間は守られていた。	⑤	④	③	②	①
Ⅲ 授業の成果について	a. 開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	⑤	④	③	②	①
	b. このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	⑤	④	③	②	①
	c. このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

Ⅳ 自由記述欄

このレッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15309C 90 kg

授業改善のための学生アンケート

講義・演習科目・レッスン(共通)用

東邦音楽大学
大学院

このアンケート調査は、授業内容をより充実したものにするために、担当者が授業を検討し、改善を図るために実施するものです。あなたの成績評価とは一切関係ありませんので、率直に答えてください。またアンケートの参加は、皆さんの自由意思によるものです。以下の項目のそれぞれに対して、授業を受けたあなたの評価を５点法で評価してください。

科目名	曜日（授業のみ記入）
担当教員名	時限（授業のみ記入）

記入上の注意

1. 記入は、ＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消してください。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

マーク例　良い例　悪い例　うすい

		5 強くそう思う	4 ある程度そう思う	3 どちらとも言えない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない
I 授業・レッスンへの取り組みについて	a. この授業・レッスンへの出席は良好であった。	⑤	④	③	②	①
	b. 熱意を持って積極的に取り組んだ。	⑤	④	③	②	①
	c. １回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	⑤ ５時間以上	④ ４時間	③ ３時間	② ２時間	① １時間未満
II 授業・レッスンの内容・指導方法について	a. シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	⑤	④	③	②	①
	b. 教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	⑤	④	③	②	①
	c. 教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	⑤	④	③	②	①
	d. この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	⑤	④	③	②	①
	e. 教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	⑤	④	③	②	①
III 授業・レッスンの成果について	a. この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	⑤	④	③	②	①
	b. この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	⑤	④	③	②	①
	c. この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	⑤	④	③	②	①
	d. この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	⑤	④	③	②	①

IV 自由記述欄

この授業・レッスンで良かった点、改善すべき点等について書いてください。

K15310C 90 kg

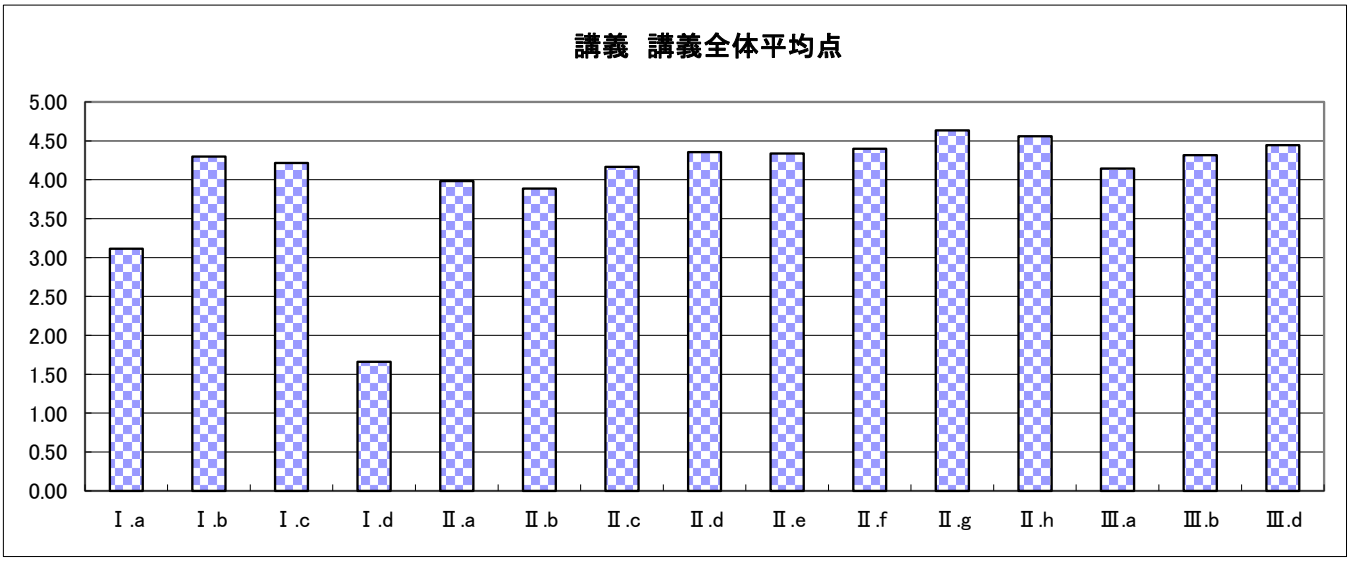
全 体 集 計 結 果 表

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

区分	講義
科目数	162

履修者数	1,793
回答者数	1,371

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.11	278	393	277	21	10	1,365	6
				285.0	132.0	20.4	28.8	20.3		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.30	753	176	12	26	5	1,367	4
				358.0	68.0	55.1	12.9	0.9		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	634	204	21	34	3	1,362	9
				467.0	36.0	46.5	15.0	1.5		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.66	74	139	902	3	15	1,359	12
				40.0	204.0	5.4	10.2	66.4		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.98	536	424	35	26	1	1,363	8
				354.0	14.0	39.3	31.1	2.6		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	149	806	50	22	4	1,367	4
				305.0	57.0	10.9	59.0	3.7		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.16	647	292	20	27	3	1,367	4
				373.0	35.0	47.3	21.4	1.5		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.35	778	166	17	27	3	1,366	5
				366.0	39.0	57.0	12.2	1.2		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.34	788	208	22	23	2	1,364	7
				319.0	27.0	57.8	15.2	1.6		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	831	206	14	22	1	1,366	5
				295.0	20.0	60.8	15.1	1.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	1,023	107	6	16	1	1,367	4
				215.0	16.0	74.8	7.8	0.4		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	942	128	11	20	1	1,366	5
				276.0	9.0	69.0	9.4	0.8		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	567	282	14	35	2	1,363	8
				477.0	23.0	41.6	20.7	1.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.32	757	189	29	27	2	1,362	9
				362.0	25.0	55.6	13.9	2.1		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	948	482	280	39	19	1,294	77
				502.0	250.0	73.3	37.2	21.6		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.44	684	98	23	23	2	1,069	302
				243.0	21.0	64.0	9.2	2.2		

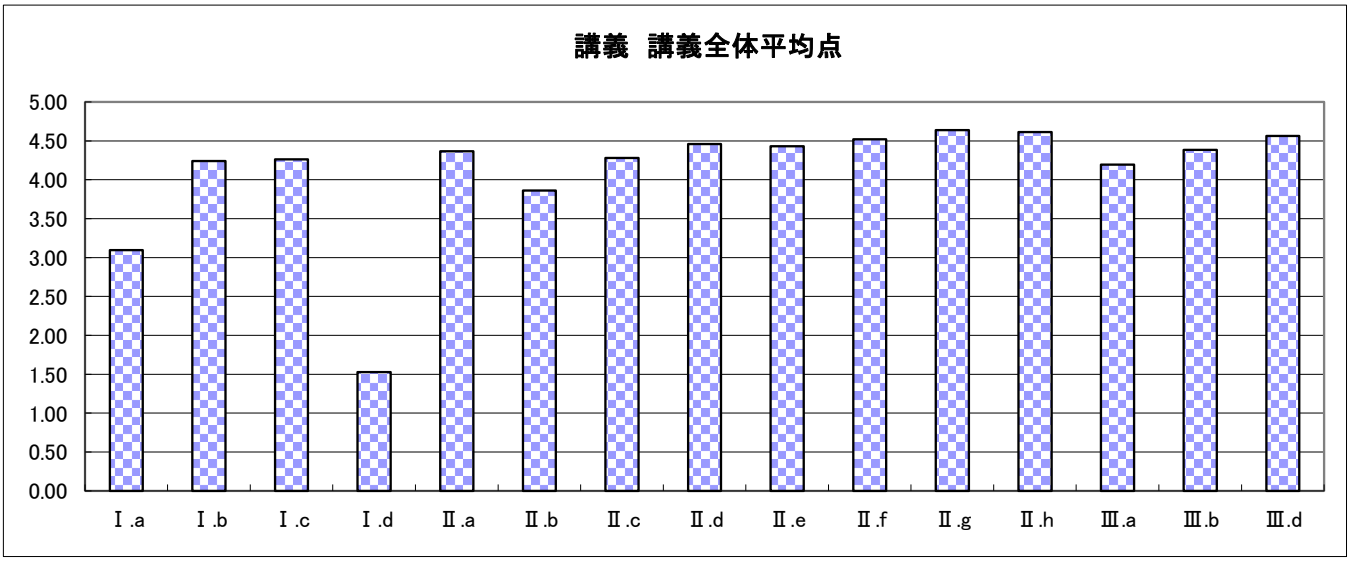


授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

区分	講義
科目数	38

履修者数	464
回答者数	388

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.09	84	88	95	23	8	383	5
				87.0	29.0	21.9	23.0	24.8		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.24	224	43	15	21	6	385	3
				81.0	22.0	58.2	11.2	3.9		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.26	196	54	9	31	2	386	2
				120.0	7.0	50.8	14.0	2.3		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.53	20	31	281	1	12	382	6
				5.0	45.0	5.2	8.1	73.6		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.37	228	79	2	18	1	379	9
				68.0	2.0	60.2	20.8	0.5		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	49	238	23	16	4	385	3
				61.0	14.0	12.7	61.8	6.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.28	217	81	4	20	2	386	2
				76.0	8.0	56.2	21.0	1.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46	243	43	4	23	2	384	4
				88.0	6.0	63.3	11.2	1.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	247	41	10	21	1	385	3
				82.0	5.0	64.2	10.6	2.6		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.52	264	45	5	18	1	385	3
				69.0	2.0	68.6	11.7	1.3		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.64	295	20	6	16	1	387	1
				61.0	5.0	76.2	5.2	1.6		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.61	295	18	10	15	1	386	2
				58.0	5.0	76.4	4.7	2.6		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.19	183	74	6	30	2	386	2
				115.0	8.0	47.4	19.2	1.6		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.39	232	45	8	25	2	387	1
				95.0	7.0	59.9	11.6	2.1		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	260	124	46	42	16	378	10
				159.0	61.0	68.8	32.8	12.2		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56	201	18	4	20	2	286	102
				58.0	5.0	70.3	6.3	1.4		

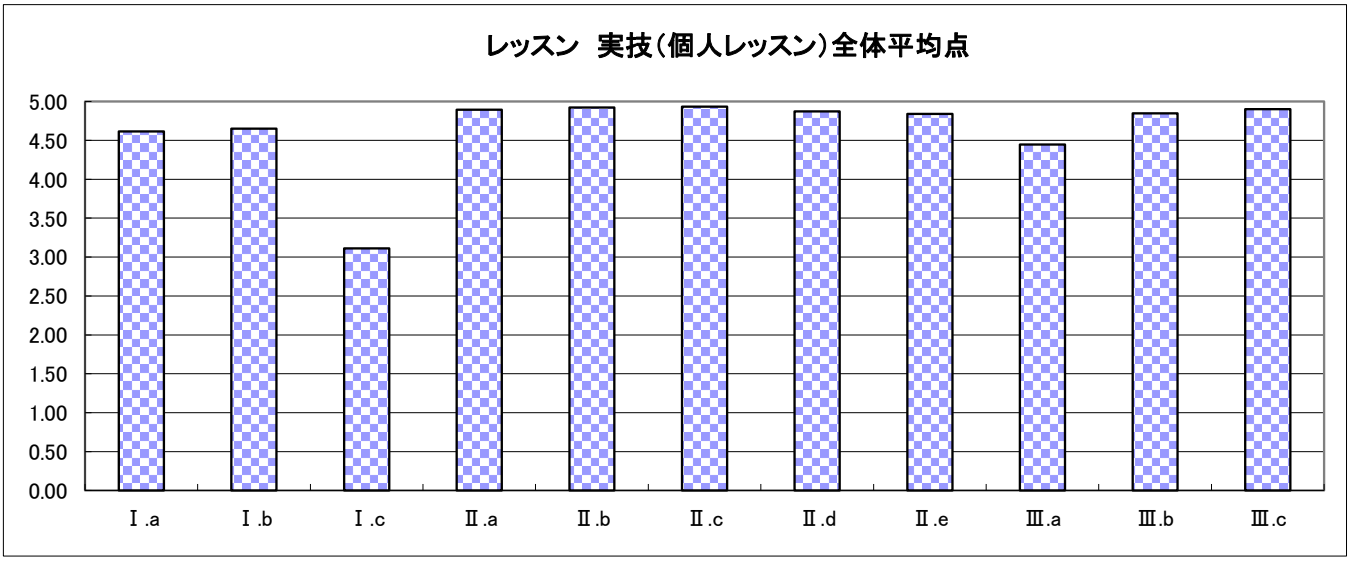


授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

区分	レッスン
科目数	51

履修者数	246
回答者数	215

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.61	150	9	1	24	1	215	0
				52.0	3.0	69.8	4.2	0.5		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.65	151	9	0	25	0	215	0
				54.0	1.0	70.2	4.2	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.11	60	44	38	12	21	214	1
				26.0	46.0	28.0	20.6	17.8		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	193	1	0	10	0	215	0
				21.0	0.0	89.8	0.5	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	200	2	0	6	0	215	0
				13.0	0.0	93.0	0.9	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.93	201	1	0	6	0	214	1
				12.0	0.0	93.9	0.5	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.87	191	4	0	9	0	214	1
				19.0	0.0	89.3	1.9	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.84	187	3	0	10	1	214	1
				22.0	2.0	87.4	1.4	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.45	117	18	0	36	1	213	2
				76.0	2.0	54.9	8.5	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.85	186	3	0	11	0	214	1
				24.0	1.0	86.9	1.4	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	196	3	0	7	0	214	1
				15.0	0.0	91.6	1.4	0.0		

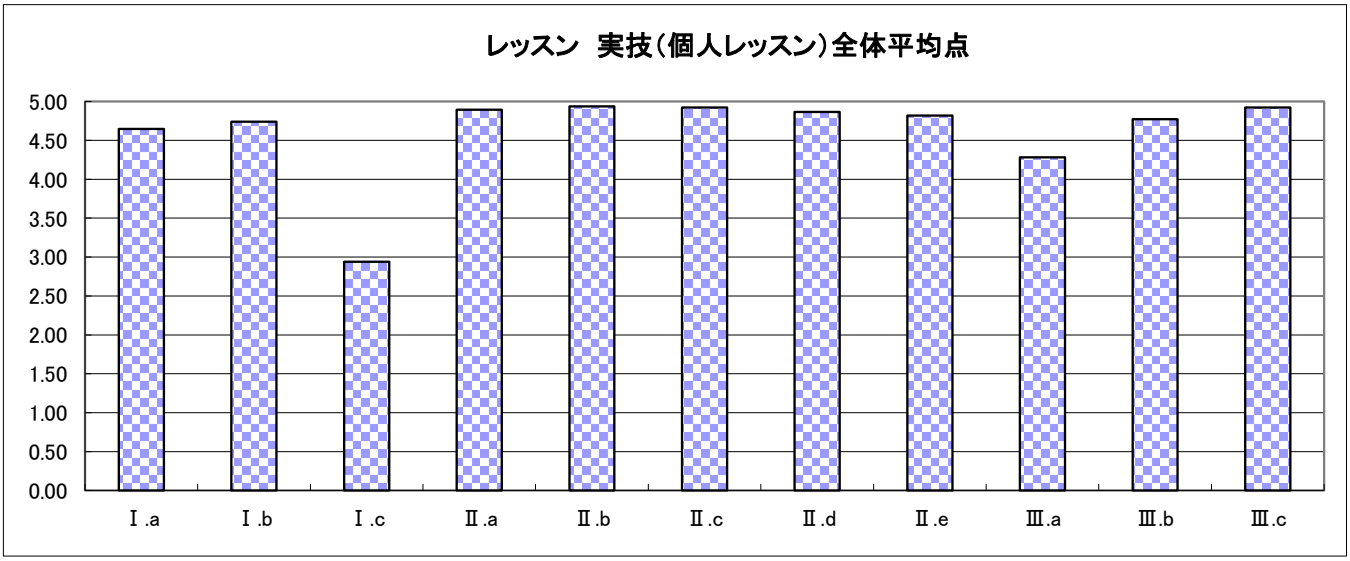


授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

区分	レッスン
科目数	38

履修者数	75
回答者数	67

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.65	50	2	0	15	5	65	2
				10.0	3.0	76.9	3.1	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.74	50	2	0	20	0	65	2
				13.0	0.0	76.9	3.1	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.94	19	7	15	10	28	67	0
				7.0	19.0	28.4	10.4	22.4		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	59	1	0	8	0	65	2
				5.0	0.0	90.8	1.5	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.94	62	1	0	3	0	65	2
				2.0	0.0	95.4	1.5	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	62	1	0	5	0	66	1
				3.0	0.0	93.9	1.5	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.86	59	2	0	8	0	66	1
				5.0	0.0	89.4	3.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.82	57	0	1	12	0	66	1
				8.0	0.0	86.4	0.0	1.5		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.28	30	11	0	39	0	67	0
				26.0	0.0	44.8	16.4	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.77	52	1	0	20	0	66	1
				13.0	0.0	78.8	1.5	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.92	62	1	0	5	0	66	1
				3.0	0.0	93.9	1.5	0.0		

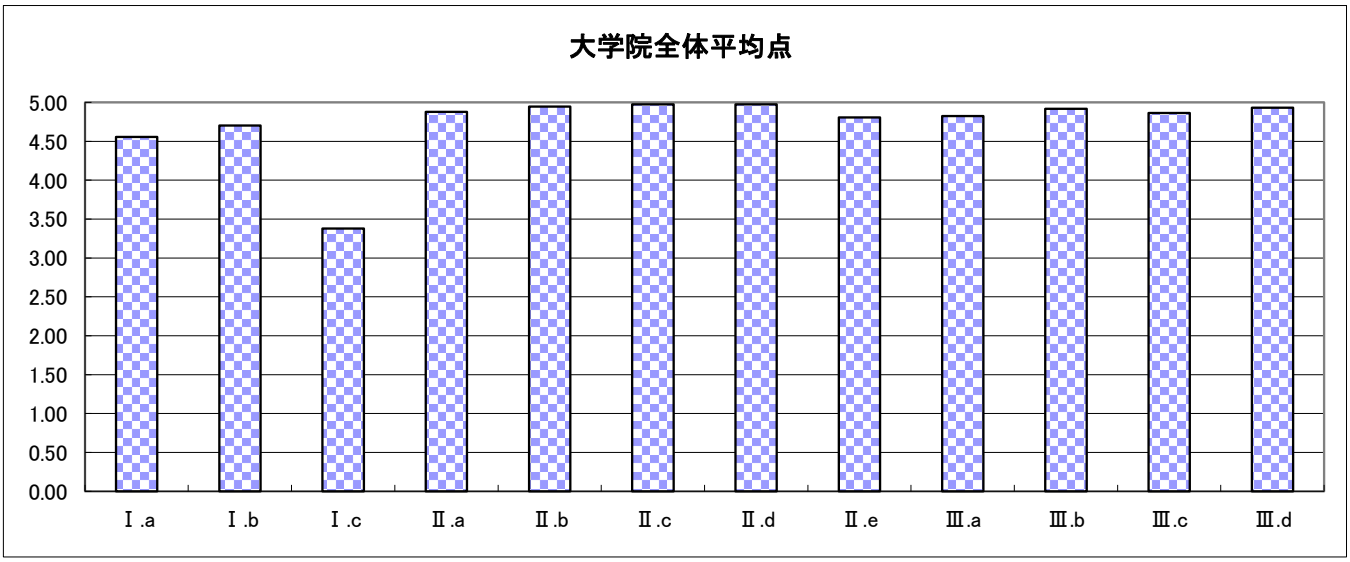


授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

区分	大学院
科目数	27

履修者数	91
回答者数	74

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.55	51	4	0	22	4	74	0
				16.0	3.0	68.9	5.4	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	52	0	0	30	0	74	0
				22.0	0.0	70.3	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.38	21	13	12	26	12	74	0
				19.0	9.0	28.4	17.6	16.2		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.88	65	0	0	12	0	74	0
				9.0	0.0	87.8	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.95	70	0	0	5	0	74	0
				4.0	0.0	94.6	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.97	72	0	0	3	0	74	0
				2.0	0.0	97.3	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.97	72	0	0	3	0	74	0
				2.0	0.0	97.3	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.80	33	0	0	20	0	41	33
				8.0	0.0	80.5	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.82	61	0	0	18	0	74	0
				13.0	0.0	82.4	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.92	68	0	0	8	0	74	0
				6.0	0.0	91.9	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.86	64	0	0	14	0	74	0
				10.0	0.0	86.5	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	69	0	0	7	0	74	0
				5.0	0.0	93.2	0.0	0.0		



東 邦 音 楽 大 学

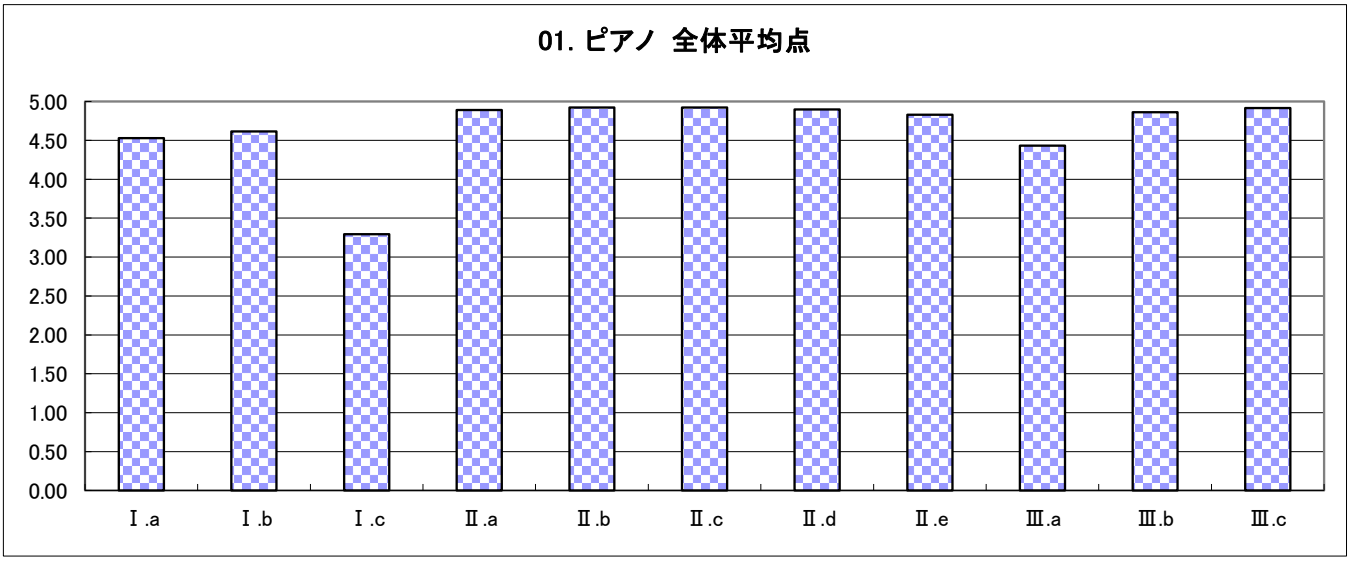
ピ ア ノ

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	01. ピアノ
科目数	19

履修者数	135
回答者数	117

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.53	74	35	5	2	1	117	0
				63.2	29.9	4.3	1.7	0.9		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.62	77	35	5	0	0	117	0
				65.8	29.9	4.3	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.29	40	14	21	22	19	116	1
				34.5	12.1	18.1	19.0	16.4		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	105	11	1	0	0	117	0
				89.7	9.4	0.9	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	109	7	1	0	0	117	0
				93.2	6.0	0.9	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	108	7	1	0	0	116	1
				93.1	6.0	0.9	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.90	105	10	1	0	0	116	1
				90.5	8.6	0.9	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.83	104	8	3	2	0	117	0
				88.9	6.8	2.6	1.7	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	64	40	10	2	0	116	1
				55.2	34.5	8.6	1.7	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.86	102	14	1	0	0	117	0
				87.2	12.0	0.9	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.91	107	8	1	0	0	116	1
				92.2	6.9	0.9	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

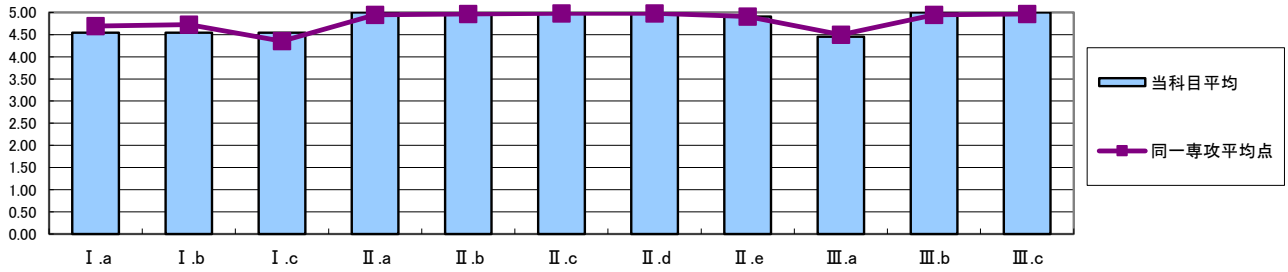
科目名	ピアノ
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	11
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.55	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.55	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.91	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.45	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度は、大学のピアノ専門レッスンを11名担当した。学年別の内訳は1年次生4名、2年次生2名、3年次生1名、4年次生4名である。うち2名はKonzertfach演奏専攻、2名は教職実践専攻である。レッスンでの表現技術や知識の習得のみならず、コミュニケーションスキルや社会人基礎力の向上についての指導も取り入れ、それがさらに能動的な学びにつながるように考えている。演奏専攻の学生には、2回の演奏専攻演奏会、2回のウィーン特別研修の準備を、ウィーンアカデミーのカリキュラムとの連携に留意しながら進めた。トライアルコンサート等、各種演奏会に向けての指導も必要に応じて行った。

●　問題点

到達目標を充分に達成できたかを問う項目で、「どちらとも言えない」との回答が1名あった。

●　改善の方策

全ての学生が到達目標を達成できるよう、学生ひとりひとりの状況の把握と、それを踏まえた適切な指導計画の策定・実行、学修に対する適切な支援を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

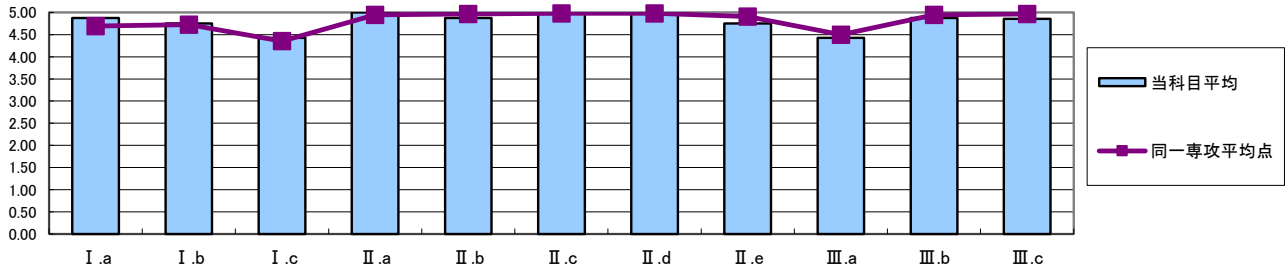
科目名	ピアノ
教員名	中島　裕紀

職名	02. 教授

履修者数	9
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.88	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.43	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学のピアノ専攻実技は演奏専攻１名、留学生２名を含む９名が在籍しており、内８名からの回答を得た。学生たちは、それぞれの力に応じて毎週のレッスンのために準備を行い、真剣に取り組んでいた。　アンケート結果を分析すると、練習時間についてばらつきがあるが、１週間の練習時間と1日の練習時間とを勘違いしてマークした学生がいたようであり、設問の改善が必要である。　レッスンに関すること及びその効果に関しては、数値を分析すると、多くの学生が５「強くそう思う」に集中しており、特に問題はない。 自由記述欄には、「教授が実際に演奏して例を示してくださったので、理解しやすかった。学生のレベルにあった演奏法を提示してくださった。」と書かれており、実際に演奏を示すことが理解への大きな意味があると改めて感じる。

●　問題点

数値の上では、特に大きな問題になるようなことは見られない。

●　改善の方策

学生一人ひとりに目を向けて教育活動ができるのが、個人レッスンである。その環境を生かし、今後も学生一人ひとりのニーズに合わせた指導を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

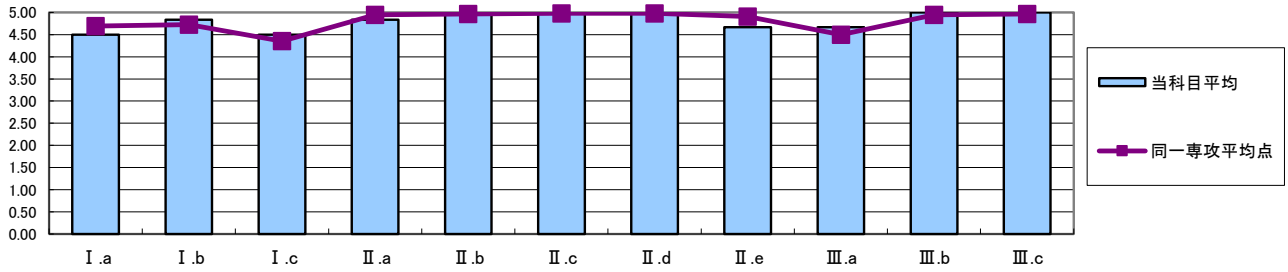
科目名	ピアノ
教員名	太田　幸子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.50	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.67	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２０１９年度、4年日本男子学生、３年大編入の留学生内訳は（短大より2名、国籍は台湾と中国、ほかの１名は中国出身の大学卒業生です。）２年中国籍の留学生。１年日本女子学生の計６名を担当。留学生は、演奏レベル、意欲、忍耐力等に著しい個人差を感じる。初心に戻り、留学の意味をもう一度しっかりと受け止めて欲しい。芸術の厳しさ、深く長いスパンが必要等。十分理解出来るように、コミュニケーションを通して指導を続けている。又日本人男子学生は、入学時には、特に目立った存在ではなかったが、２年後半頃より、卓越したテクニック、豊かな表現力と音楽性で、人を魅了する演奏が出来るまでに成長した学生がいる事を、特記しておきます。

●　問題点

設問ＩCが、同一専攻平均より大分高いが、練習時間５時間以上が４人いるとは思えない。レッスン室の使用時間が5時間以上と勘違いしている人がいるのではないのでしょうか？又留学生は曲の完成度がよくわかっていない人が多い。大学院の先輩達の演奏を聴いて、大変驚いておりました。

●　改善の方策

留学生の好む、大曲、難曲だけでなく、完全に弾きこなせる選曲が大事。「十分練習を積む事が、暗譜につながる事」と良くわかるように、指導を続けて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

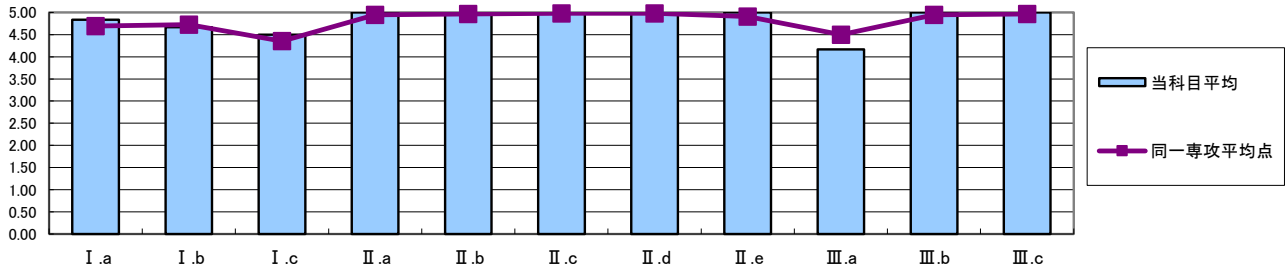
科目名	ピアノ
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.83	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.50	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

1年生1名、3年生2名、4年生3名の６名より回答がありました。レベルは個人差がありますが、全員が真摯に音楽に向き合い向上心を強く持っています。そしてそれぞれが地道に努力をし、音楽面だけでなく人間的にも確実に成長していることを多くの場面で感じることができ、それはとても大きな喜びでした。自由記述欄には「先生に教えて頂き、ピアノに取り組む日々が、とても充実していました。」「一人一人のレベルに応じた教え方をされていて、今まで教えて頂いた先生の中で一番ついて良かったと思いました。」「毎回のレッスンの内容が濃く、とても充実していました。」と書かれていました。

●　問題点

演奏することだけでなく、音楽を取り巻くさまざまな事柄への探求心が不足しています。

●　改善の方策

ピアノの演奏技術や表現法については、レッスンでしっかり受け止められていると思います。音楽を取り巻く歴史や文化、また理論的なことにも興味を持てるよう、多方面からアプローチしていきたいと思います。特に図書館等を利用しての学習は、「アクティブラーニング」という意味からも必要なことです。図書館の魅力を伝え、学生が自ら課題を見つけられるよう仕向けて行くことも必要かと思います。私自身、図書館の話題を頻繁に出すなど工夫してみたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

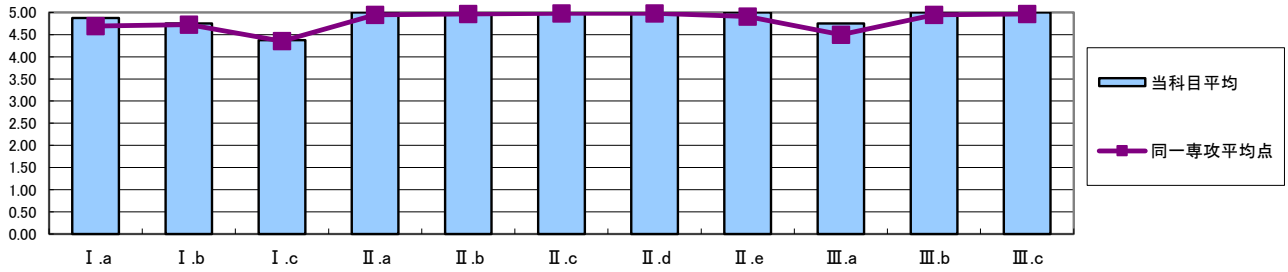
科目名	ピアノ
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	9
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.88	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.38	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度、大学では9名の専攻実技を担当した。内訳は1年次生2名（1名は教職実戦専攻）、2年次生1名、3年次生4名（その内1名は教職実戦専攻、あとKonzertfach専攻1名）、4年次生2名である。総じて真面目な学生であり、しっかりと自らの意志で学ぶ姿勢が見受けられた。その根底には、より技術を向上させたい、より良い演奏を目指したいという想いがあるのだと思う。そして何よりも、ピアノという楽器が好きで、ピアノを演奏することに強い魅力を感じているのだろう。これは、ひとつのことを学ぶ上では大変重要な“核”となるので、学生たちからその様な印象を受けることができ、大変喜ばしい。アンケートの結果においても、学生たちの専攻実技に対する達成感・満足感がうかがえる。本当に皆、よく努力したと思う。

●　問題点

特にないが、期初に各学生と学習計画を立てるのだが、その内容をより緻密に、それぞれの学生の希望に添えるものにしていきたいと考えている。

●　改善の方策

その為には、学生たちとよく話すこと。考えをよく聞くこと。この2点を徹底しようと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

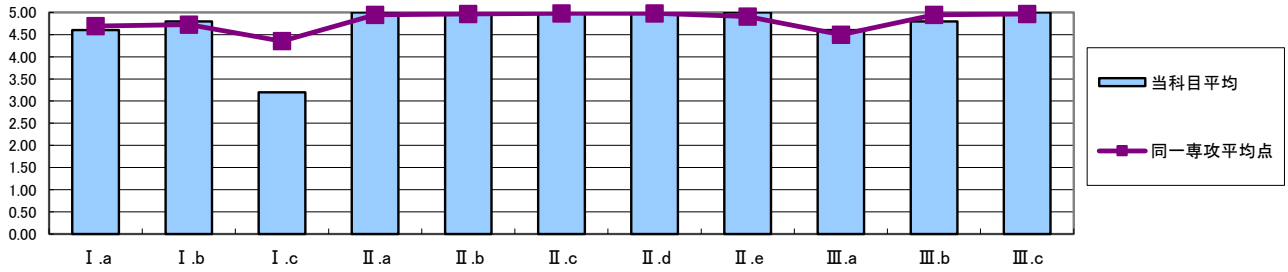
科目名	ピアノ
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.20	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

レッスンの現状としては概ね順調な展開であり、履修者達はそれぞれに自分の課題に対して真摯に取り組んでいる。クラスの中においては学年の垣根を超えたコミュニケーションが活発であり、各自が充実した学生生活を送っている。

●　問題点

練習時間の確保について、自己評価が分かれている。また、自らの熱意や新しい知識等を学び取る姿勢について、やや抑制された回答も見受けられた。

●　改善の方策

各学生の意欲の充実を持続させ、実り多き学びへと繋げていくことが重要であると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

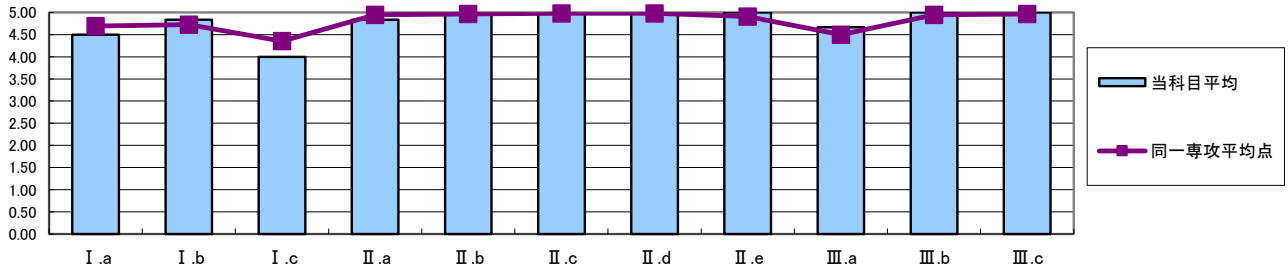
科目名	ピアノ
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養１年1名、副科１年2名、２年1名　 アドバンス1名大学は、専門が１年2名、３年2名、４年2名。副科は１年8名、２年1名　 3年2名　 4年3名短大の1年音楽教養の学生は、音楽全般に渡ってこれから一つ一つ学んでいく状態であり、本人に合わせてゆっくりなペースで行った。専門の出席は概ね良かったが、学科においては殆ど落としている。同級生達との間は良好であるが、今後が心配な学生である。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く大変熱心である。副科の３名の出席も良好で、能力の差はあるが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生6名は、出席も良好で皆一生懸命に取り組んだ。１年の学生にコミュニケーションが苦手で授業について行けず途中在学が危ぶまれた。が、本来真面目な学生であり学校のサポートもあって再起し乗り切った。もう１人の１年は転専攻した学生であるが対応に苦慮した。ウィーン研修や学内演奏に携わった3年の2人は、その都度よく健闘しそれによって力がついてきた。４年の２名は最終学年の年であり今まで以上に頑張った。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

今年は入学してきた１年生達はそれぞれに真面目で出席もよいのだが、意外なところで様々な問題を抱えていた。また転専攻を希望していた留学生は国民性ゆえか、言動が一致せず大いに混乱した。多種多様な学生がいる中で、どのように対応していくかを考えさせられた。

●　改善の方策

多様な学生とのコミュニケーションをきめ細かくとりながら、彼らが苦手なことや問題点を聞き出し理解できるように根気よく指導を行うことに努めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

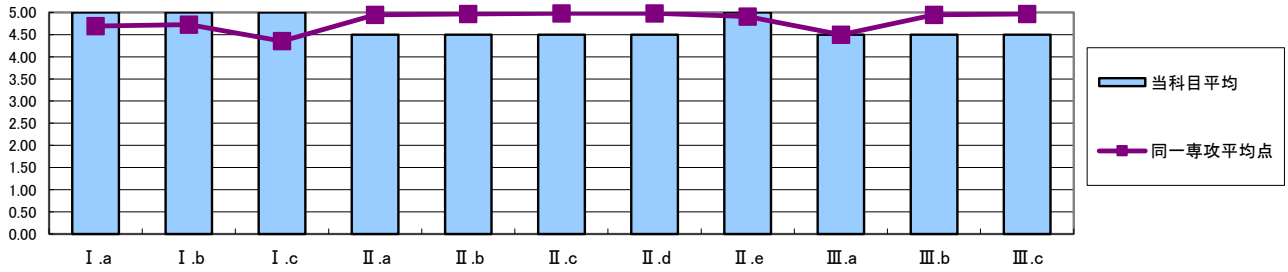
科目名	ピアノ
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2名とも短期大学音楽教養科専攻ピアノからピアノ科に転科、その後大学に編入。それぞれ家庭があり時間に追われている中で、きちんと練習時間を確保している。また熱意も素晴らしい。課題は「緊張との戦い」と「ミスなく弾く」ということに囚われ過ぎている事。幼い頃からミスしない事を一番にレッスンを受けていたせいか、なかなかそこから抜け出せない。[分析]Ⅰ.a「このレッスンの出席は良好であった。」2名とも遅刻もなくきちんとレッスンに出席していた。Ⅰ.b「熱意を持って積極的に取り組んだ。」2名とも熱意を持って積極的に取り組んでいた。Ⅰ.c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。」2名ともきちんと練習していた。Ⅱ.a「このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。」やや平均点から下回っている。なかなか伝わらないこともあった。Ⅱ.b「このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。」やや平均点から下回っている。なかなか伝わらないこともあった。Ⅱ.c「教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。」やや平均点から下回っている。なかなか伝わらないこともあった。Ⅱ.e「このレッスン回数や時間は守られていた。」問題特になし。Ⅲ.a「開講時に示された到達目標を充分に達成できた。」ある程度達成できたと思う。Ⅲ.b「このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。」やや平均点から下回っている。ある程度達成できたと思う。Ⅲ.c「このレッスンは総合的に判断して、意義のある物でしたか。」やや平均点から下回っている。ある程度達成できたと思う。

●　問題点

全体的に学生とのズレは余りないと思う。あるとすれば状況説明で課題とした「ミスなく弾く」よりも「音楽的に表現豊に弾く」事が大事であるという事がなかなか伝わらない。

●　改善の方策

2名ともとても長い期間指導してお互いに慣れが出てきたので、アプローチや、課題、ディスカッションなど、新しいことを試みたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

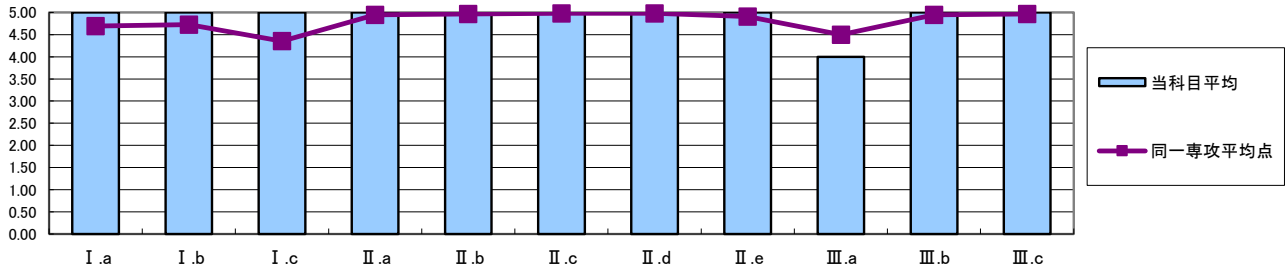
科目名	ピアノ
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

昨年度に引き続き、担当する二年生１名から回答を得た。感情表現は控えめで淡々とした演奏や取り組みをする印象の学生だが、自らの技能への課題と向上が共に見えてきた一年であり、とても勤勉な対応を見ることができた。アンケートでも５の回答が占め、実技に対しおおむね高い意欲が読み取れ、こちらとしても今後の方策が取りやすくなった。

●　問題点

Ⅰ、Ⅱ共に５の回答が占め、実技に対する姿勢が一貫しており問題はないと認識している。Ⅲａのみ４の回答となっており、本人の努力や意気込みに対する「結果」に多少のズレや乖離があったものと見られる。

●　改善の方策

レッスン開始時に明確な目標設定や学生本人への年度の到達したいテーマ、レベルの確認をどれだけできただろうかと講師自身振り返る必要がある。その年度開始時のみならず、年間を通し定期的に学生の求める到達目標とそこに追随する探究心をできるだけ引き出してあげること。「自身の取り組み方・努力」と「結果・成果」の因果関係を満たせるよう、レッスンでの工夫・アドバイスを心掛けること。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

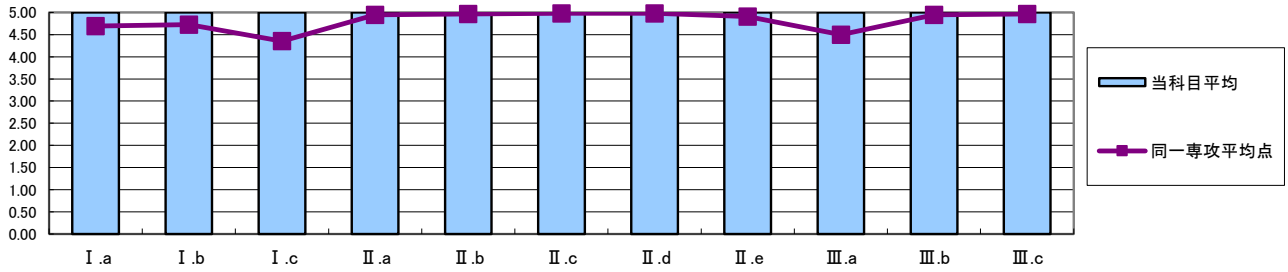
科目名	ピアノ
教員名	永岡　京子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は１人の履修学生からのアンケート結果となり、年間を通しての実情を反映しているかをとらえるには明らかなものとなっている。　全ての設問において強い肯定を示す結果であるが、部分的には現状と合っていない。その一つは出席状況であり、必ずしも良好ではなかった。学生には、個人的に学習への集中を妨げてしまう要素があり、それは個人的な情報をここに晒す事となるので、記述しない。しかし、学生がそれを乗り越えるべく努力をしていた事は、教員側に十分伝わる学習過程であった。過去の年度と比較した場合、多少進度や学習目標到達において劣る部分があったのは否めないが、学生が現状でできる最大の進歩を見せたという事は、特記しておく。

●　問題点

課題と学習目標の設定が、学生には適切であったが、本来の学習過程ではない状況であった今年度に限り、そこに若干の乖離があったように感じる。　その他には、学生の意欲が失われないようにする事が今年度の最大の焦点であったが、学生の意欲や関心に沿った課題設定が、学生の意欲の空回りと焦りにつながったと考える。

●　改善の方策

今年度に限っての状況であったため、これと同じ状況が毎年続く事はないと思われるが、次年度以降にも考えられる方策としては、以下の二つがあると思う。　引き続き学生の現状を的確にとらえ、学生の最大の関心には合致しないかもしれないが、学習できる現実的な課題においても学生が納得するよう、十分な話し合いを続けたい。それぞれの学生の主張や音楽的傾向などを考慮して、妥協点を見つけた上で目標を設定し、説明し、学習をサポートしていく。　別の視点では、最終的な実技試験での結果によらず、今年度のように学生が意欲を持って取り組んだ場合、それも一つの目標達成と認め、教員側の設定だけが評価基準とならないようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

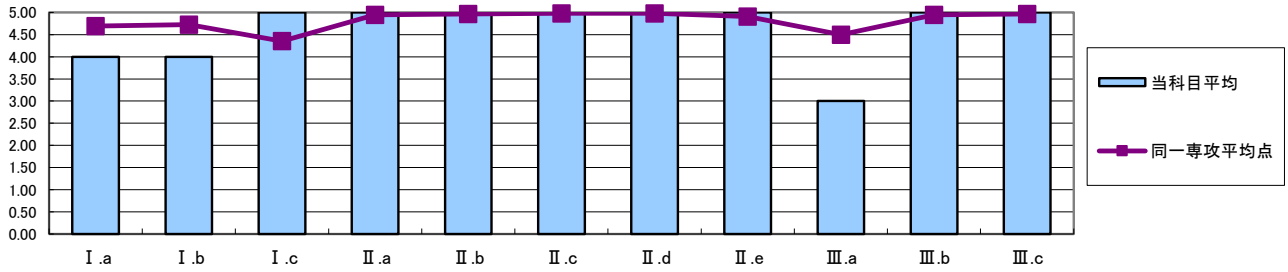
科目名	ピアノ
教員名	中島　剛

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.35
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.95
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.96
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.98
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.98
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.50
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.95
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.96

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度、大学ピアノ科1名を担当しました。基礎的な部分で悩んでおりその部分を少しずつ丁 寧に臨みました。

●　問題点

耳から聴いて音を出すので正確に譜面から読み取る作業も同時に進めてみました。暗譜が思う様 にいかなかったので、ハーモニー感、楽曲分析も取り入れて効率良く暗譜の仕方を身に付けて欲し いと思いました。

●　改善の方策

本人の熱心な努力の成果が2回の試験とも発揮され本当に嬉しく思いました。 今後の成長がより一層楽しみです。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

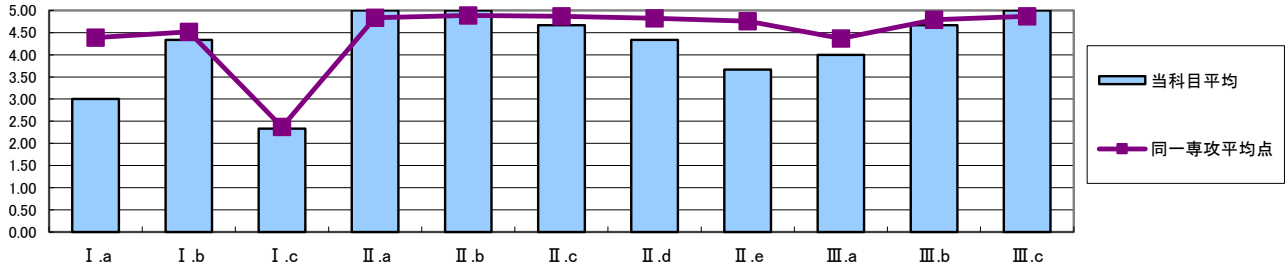
科目名	副科ピアノ
教員名	太田　幸子

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.00	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.67	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.33	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	3.67	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２０１９年副科生４名担当中3名より回答を得る。Ⅰaの設問が低いが、副科生は専攻楽器の特性であったり又卒業年次の学生は就活も入り、色々な事情があるのが現状です。２名を除くと出席率は問題ないと思う。ⅠCが低いが、学生によっては教材伴奏法を時間の許す限り指導している。副ピとの両立が難しく、表示されていると思う。Ⅱeが低いが、回数はきちんと守られている。又試験前には補講も入れており、充分な回数だと思っている。

●　問題点

Ⅲaに於いて、副科生で個人差があるため、特に目標を立てていない。今年度は目標を立てて、指導を行いたいと思っている。

●　改善の方策

副科生４名共、この集計結果より、真面目に努力を重ねており、特に問題のある学生はおりません。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

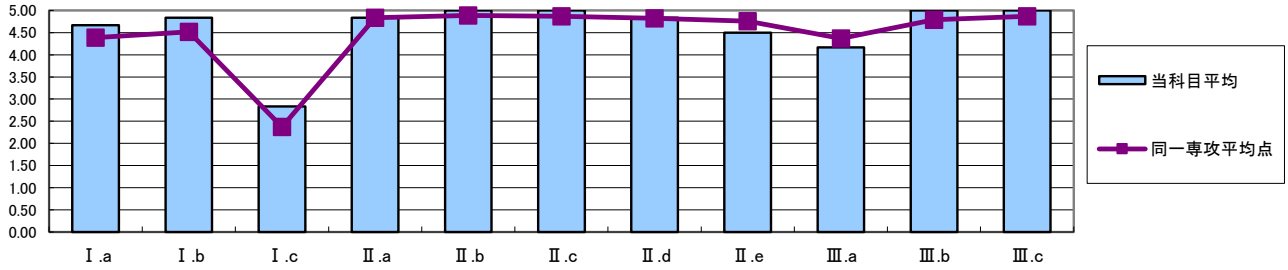
科目名	副科ピアノ
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	15
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.83	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.83	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者15名のうち8名は留学生で、グループレッスンという形でレッスンを行いました。日本語が不自由であるため、その8名についてはアンケートを実施しませんでした。他の7名のうち、欠席1名を除く6名より回答がありました。内訳は1年生2名、2年生2名、3年生1名、4年生1名です。全員が熱心に取り組み、それぞれが1年間でたいへん上達しました。レッスンの内容については十分に受け止められていると感じています。専門同様に副科ピアノにも力を入れているのは嬉しいことです。自由記述欄には「基礎からしっかり教えて下さり、またそれが出来るように何度でも教えて下さるので自分でも少しずつ変化していくのがわかりました。」「作曲家の背景や楽曲文責など学ぶことばかりで毎回が楽しく、充実した時間でした。」「先生に教えて頂くことで、よりピアノが好きになり、さらに深く学びたい思いが強くなりました。」「これからも頑張っていきますので、よろしくお願いします。」と書かれていました。

●　問題点

Ⅰ.cの練習時間について、1回のレッスンのために2時間というのは、少し短いかと思います。

●　改善の方策

練習については、量より質が大切です。副科ですので多くの時間は費やせない中での練習内容について、一人一人の状況を聞き話して合ってみたいと思います。そして、それぞれのより効率的な練習法を提示できるようにしていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

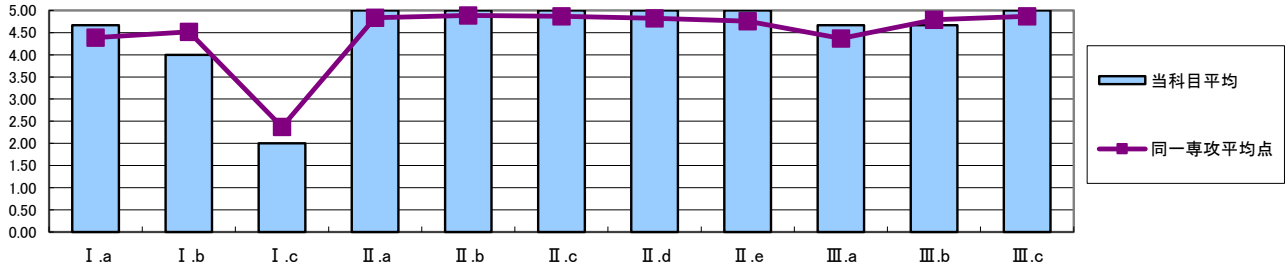
科目名	副科ピアノ
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

レッスンの現状としては概ね順調な展開であり、履修者達はそれぞれに自分の課題に対して真摯に取り組んでいる。各自の能力を最大限に発揮できることを目指し、指導に当たっている。

●　問題点

管楽器専攻の学生は演奏会等の行事への準備に時間を費やすことが多いが、今年度はスケジュールの面では無理なくレッスンが開講できた。

●　改善の方策

学生一人一人の状況をよく把握することが最も大切であると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

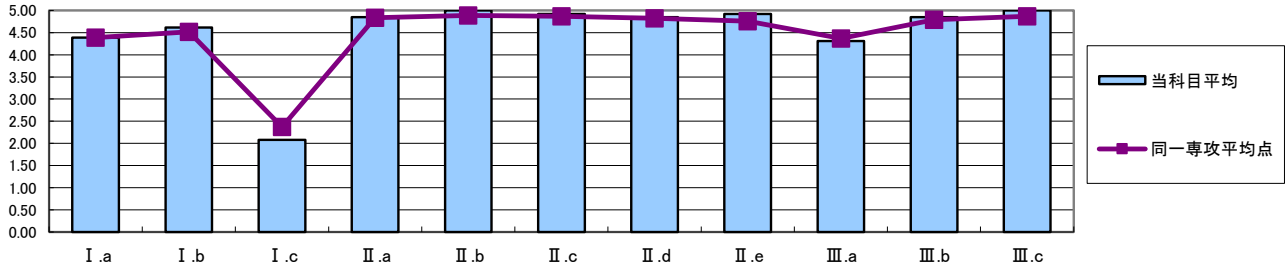
科目名	副科ピアノ
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	14
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.38	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.62	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.08	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.85	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.92	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.85	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.92	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.31	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.85	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養１年1名、副科１年2名、２年1名　 アドバンス1名大学は、専門が１年2名、３年2名、４年2名。副科は１年8名、２年1名　 3年2名　 4年3名短大の1年音楽教養の学生は、音楽全般に渡ってこれから一つ一つ学んでいく状態であり、本人に合わせてゆっくりなペースで行った。専門の出席は概ね良かったが、学科においては殆ど落としている。同級生達との間は良好であるが、今後が心配な学生である。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く大変熱心である。副科の３名の出席も良好で、能力の差はあるが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生6名は、出席も良好で皆一生懸命に取り組んだ。１年の学生にコミュニケーションが苦手で授業についてけず途中在学が危ぶまれた。が、本来真面目な学生であり学校のサポートもあって再起し乗り切った。もう１人の１年は転専攻した学生であるが対応に苦慮した。ウィーン研修や学内演奏に携わった3年の2人は、その都度よく健闘しそれによって力がついてきた。４年の２名は最終学年の年であり今まで以上に頑張った。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

今年は入学してきた１年生達はそれぞれに真面目で出席もよいのだが、意外なところで様々な問題を抱えていた。また転専攻を希望していた留学生は国民性ゆえか、言動が一致せず大いに混乱した。多種多様な学生がいる中で、どのように対応していくかを考えさせられた。

●　改善の方策

多様な学生とのコミュニケーションをきめ細かくとりながら、彼らが苦手なことや問題点を聞き出し理解できるように根気よく指導を行うことに努めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

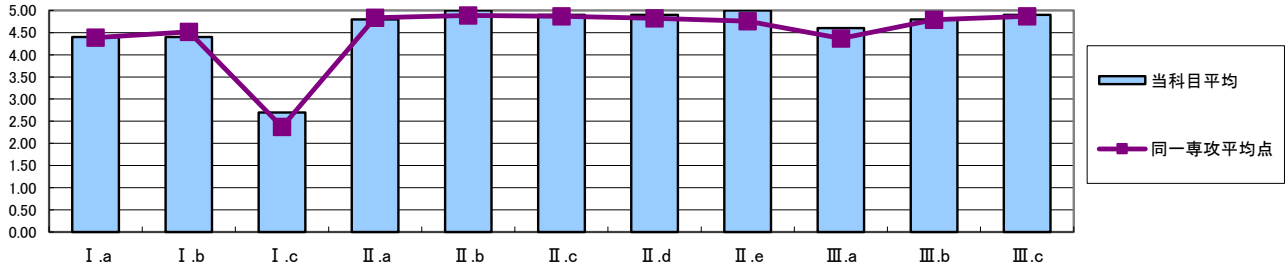
科目名	副科ピアノ
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.40	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.70	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.80	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.90	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.90	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.60	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

ピアノ実技レッスン、受講者数11名。[状況説明]学生はそれぞれ練習量や進むペースも違うが、きちんとレッスンに来て（来ない時は連絡があった）、態度も良い学生ばかりだった。日本語が話せない留学生もいたが、スマートフォンアプリで対応してさほど問題はなかった。それぞれコミュニケーションが取れていたと思う。[分析]Ⅰ.a「このレッスンの出席は良好であった。」中には休みがちな学生もいたが、おおかたきちんと出席していた。Ⅰ.b「熱意を持って積極的に取り組んだ。」大方積極的に取り組んでいたと思う。Ⅰ.c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。」思っていたよりも練習時間が少ない。Ⅱ.a「このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。」1年生の前期の試験曲は技術を見極めるのがやや難しく、多少難度の高い曲を選んだかもしれない。Ⅱ.b「このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。」特に問題なし。Ⅱ.c「教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。」特に問題なし。Ⅱ.e「このレッスン回数や時間は守られていた。」問題特になし。Ⅲ.a「開講時に示された到達目標を充分に達成できた。」ある程度達成できたと思う。Ⅲ.b「このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。」特に問題なし。Ⅲ.c「このレッスンは総合的に判断して、意義のある物でしたか。」特に問題なし。

●　問題点

全体的に学生とのズレは余りないと思うが、思ったよりも練習時間が少ない事が1番の問題。

●　改善の方策

学生が興味が湧くように、個性にあった色々な練習方法を教えたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

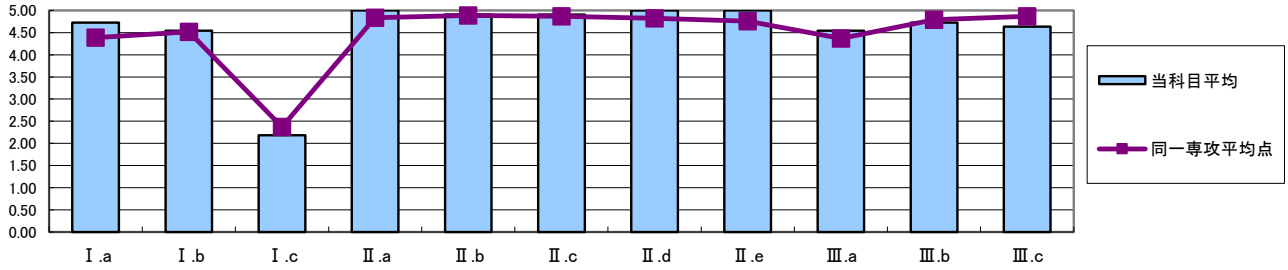
科目名	副科ピアノ
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.73	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.55	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.18	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.91	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.91	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.55	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.73	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.64	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は四年生４名、三年生３名、二年生３名、一年生２名の計１２名が履修し、体調不良による履修停止の１名を除く１１名から回答を得た。大学生はそれぞれが大変よく学び、積極的に課題に取り組み、学生自ら明確に目標を定めるなど、個々の取り組みがクリアに見えた年でもあった。また、学生の色彩豊かな各々の個性に、柔軟に対応することを心掛けた一年であった。新一年生に意欲的な学生が入り、その姿勢が周囲に伝播し良い影響をもたらしていたように見受けられた。最終学年も多く、課題やカリキュラムに追われ、満足に練習ができず意気消沈している学生も何名か見られたが、熱心で意欲的な学生ほどその傾向が強く、講師自身、能力如何よりも、「学生の心理的な混乱を招かぬよう、共に現状を整理し、モチベーションを上げること」がいかに学生の充実に繋がるかを学んだ。期待以上の上達を見せる学生が多く、特に最終学年の試験に取り組む四年生の努力には感心させられた。アンケートではⅠｃにばらつきが見られ、Ⅱの設問では問題はなく、Ⅲに学生の意欲の高さと結果への物足りなさが伺えた。

●　問題点

Ⅰｃの設問において、1・2・3の回答が大部分を占め、練習時間のばらつきや少なさが顕著である。Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅲｃの設問で4または3の回答がみられる。副科実技に対する学生の期待や希望に細やかに対処すべき。

●　改善の方策

・練習時間の確保・学生の自己到達目標の明確な設定・副科実技に対する期待・要望をよく確認すること・実技への向き合い方を客観視し、レッスンで分析しながら模索するサポートを心掛けていくこと

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

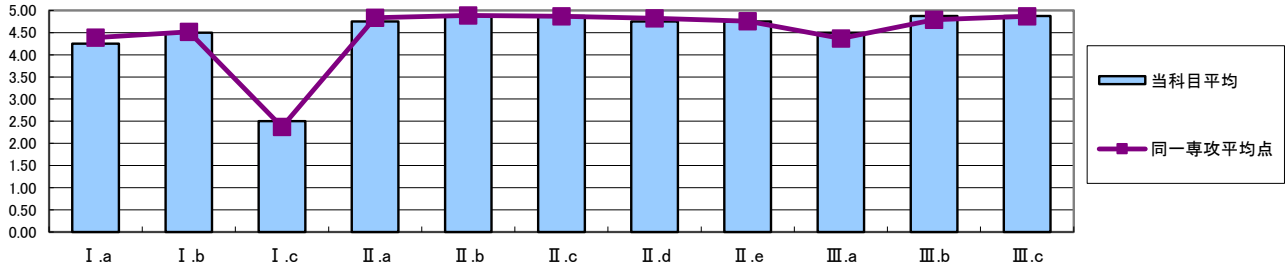
科目名	副科ピアノ
教員名	永岡　京子

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.25	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.88	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.75	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.88	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、とても意欲的に副科ピアノに取り組む履修学生ばかりであった。　設問1aでは、あと数名の学生は出席が悪かったと言わざるを得ないが、それでも練習成果をきちんと示し、技術の獲得は成功していた。設問1cで、学生が長時間ピアノに費やしている様子が見受けられるが、進度から見てより多くの時間をかけて練習していたと思われる学生もいた。　設問２においては、短いレッスン時間内に実際に学生の演奏と話から、次回へ向け、最終目標に向けた最大の効果を得るようレッスンを進めた。その実情を反映した結果だと思う。　設問3bでは、学生の視野が広がった結果となった。ピアノという楽器だけに限定せず、個々の専門実技にも役に立つであろう内容も盛り込んだ事もあり、全員の学生が意欲を保ちつつ学習目標を達成できた。

●　問題点

現状を十分反映する結果である事から、大きく学生の実情や考え方と異なる点は無いと考えるが、設問1cにおける、練習時間の少ない学生は、多少学習に支障が出て問題だと思われがちである。しかし、最終的に実技試験で演奏できるまでに練習を重ねられたという事から、練習時間に不足はなかったと認識している。

●　改善の方策

引き続き、学生の関心と副科に費やせる時間や労力に考慮し、そこから最大の効果を得られるレッスンを展開する。それには、学生との十分なコミュニケーションが不可欠であり、双方がオープンであるよう心掛け、オープンでフェアな状態を保てる努力をする。　「改善」という点には当たらないと思うが、今後求められるソーシャルディスタンスを守る中でのレッスンで、元来のレッスン方法の長所が生かされなくなり、その代わりこの形態で学生が学習できる事を積極的に発見し、生かしていくしかないのだと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

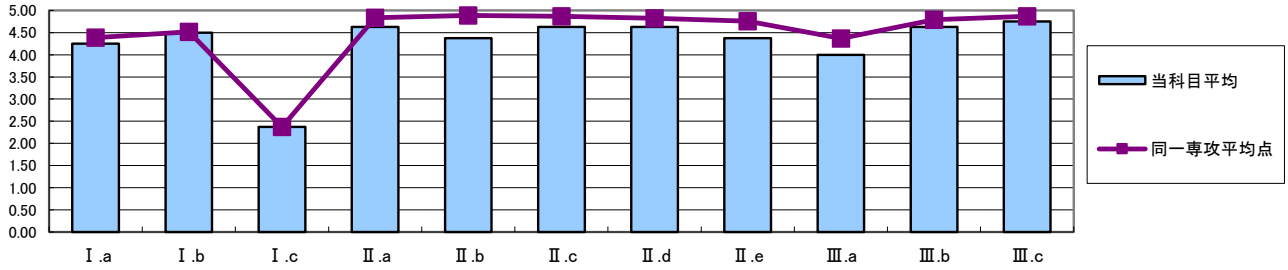
科目名	副科ピアノ
教員名	中島　剛

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.25	4.39
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.38	2.37
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.63	4.84
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38	4.89
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.63	4.87
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.63	4.82
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.38	4.76
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.37
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.63	4.79
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度、大学副科ピアノ9名を担当しました。大学副科ピアノに限っては新入生はいなかった のですが、皆、熱心に基礎的な事も含め臨んでいました。

●　問題点

やはり副科と言うこともあり基本生徒の好きな曲目を弾かせるのですが、中々曲がまとまらない傾向が見られました。個人差があり弾ける生徒、全然練習をして来ない生徒の差が見られ、やれば出来るのにやらないのが勿体無いと思いました。譜読みという作業をもっときめ細かく丁寧に見てもらえるよう根気強さを身につけて欲しいと思いました。

●　改善の方策

毎年、試験前の2回おさらい会と題し僕の生徒の前で弾かせて聴く生徒にも講評を書いてもらうと いう会がありアンケートの中には出たくない生徒が数名います。でもほとんどの生徒からはおさ らい会があるおかげで試験が緊張しないで弾けたという生徒がほとんどなので、これからも続け て出たくない子にも出来るだけサポートして行きたいと思います。

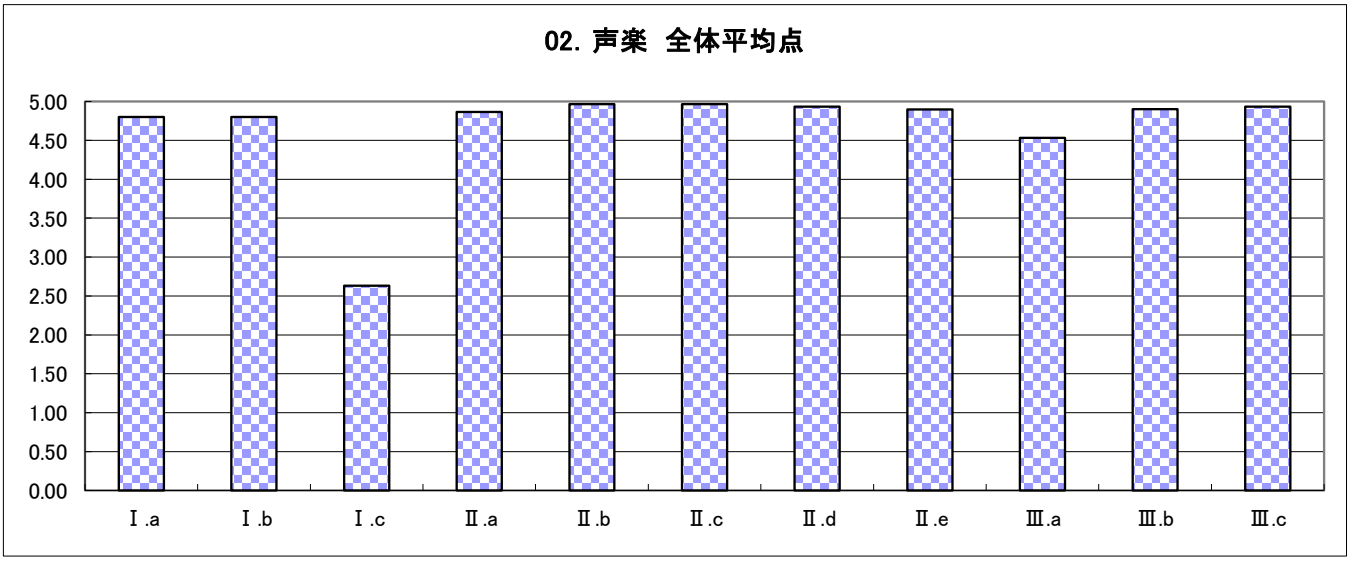
声　楽

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	02. 声楽
科目数	7

履修者数	39
回答者数	30

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.80	25	4	1	0	0	30	0
				83.3	13.3	3.3	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	24	6	0	0	0	30	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.63	5	4	5	7	9	30	0
				16.7	13.3	16.7	23.3	30.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.87	26	4	0	0	0	30	0
				86.7	13.3	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.97	29	1	0	0	0	30	0
				96.7	3.3	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.97	29	1	0	0	0	30	0
				96.7	3.3	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.93	28	2	0	0	0	30	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.90	26	3	0	0	0	29	1
				89.7	10.3	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.53	17	12	1	0	0	30	0
				56.7	40.0	3.3	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.90	27	3	0	0	0	30	0
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	28	2	0	0	0	30	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

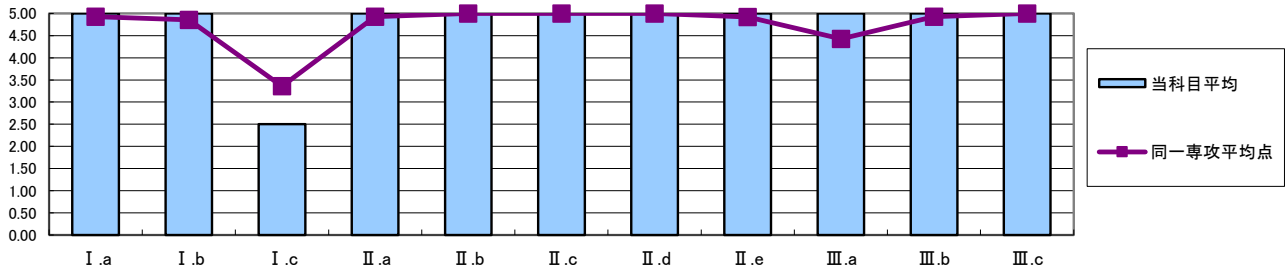
科目名	声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.93
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	3.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.92
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本年は声楽は２名を担当した。・３年生１名　・４年生１名である。個々、各々の個性を生かして伸々勉強をしていた。成長も感じられた。

●　問題点

●　改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

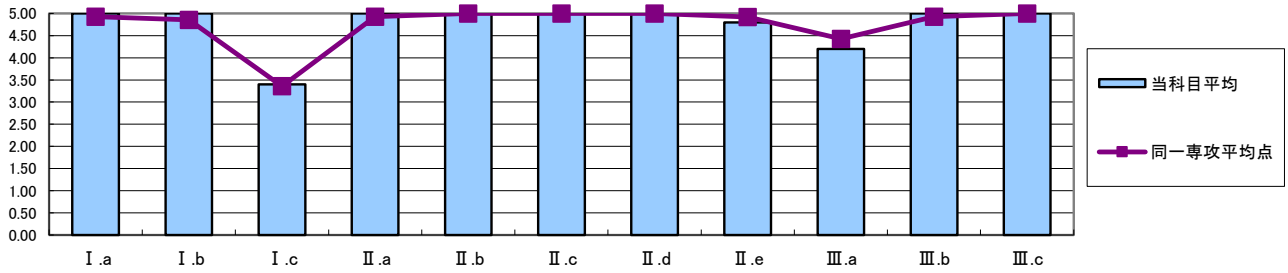
科目名	声楽
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.93
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.40	3.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.92
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は、４年生を１名、３年生を３名、１年生を３名の計７名を担当し、アンケートへは５名が回答した。今年度は、ほとんどの平均点が5.00であり、人格・学習成果共に充実した学生が多く、私としても集中して指導することが出来た。

●　問題点

アンケートの集計結果からは、特に問題点はないと考える。

●　改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

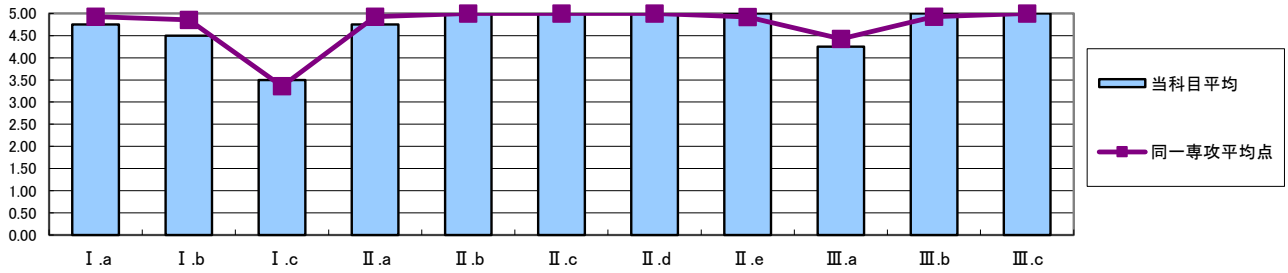
科目名	声楽
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.93
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.86
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.92
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度は大学生5名。内訳は1年生1名、2年生1名、3年生2名（内1人は演奏専攻）4年生1名。川越校舎で木曜日のレッスンとなりました

●　問題点

4年の学生1名が3年の後期から欠席が増えていました。2019年前期はギリギリの出席でなんとか学校に来て歌う事が出来ておりました。後期に入ってからは色々な理由をつけて毎回欠席のメールが送られて来て、結局1日も出席しないで終了となりました。

●　改善の方策

来られなくなってからはレッスンの時間毎にメールや電話でのやり取りをして、本人の気持ちを聞いておりました。歌は歌いたい！レッスンは受けたい！けれどその都度身体のあちこちの不具合で家を出られない状況を訴えておりました。現実的に身体の具合が悪くなる事はあったと思いますが、実際には心の問題で引き籠もりの状態になり、来られないまま大学の4年目が終わりました。改善の余地が無かった事が残念です。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

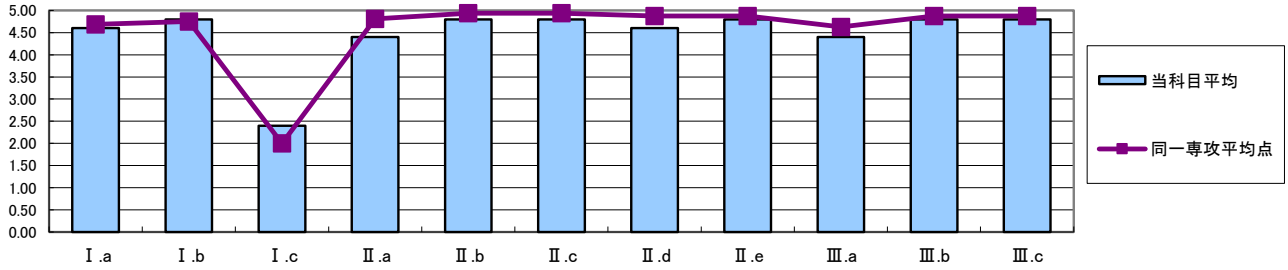
科目名	副科声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.60	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.40	2.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.40	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.94
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.60	4.88
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.88
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

副科声楽は５名を担当した。２年生１名、３年生４名（ピアノ科１名、教職２名、音療１名、教職１名）個人差は有るが、教職の学生には教職に必要曲を取り上げる事もあった。

●　問題点

Ⅰ-Cが平均点より、かなり低いので、問題になると思うが、現状のレッスンでは、曲も順調に進んでいたので特に足りないとは感じられなかったが、２年生が慣れるまで苦労していた様子だった。

●　改善の方策

よく様子を見て行く

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

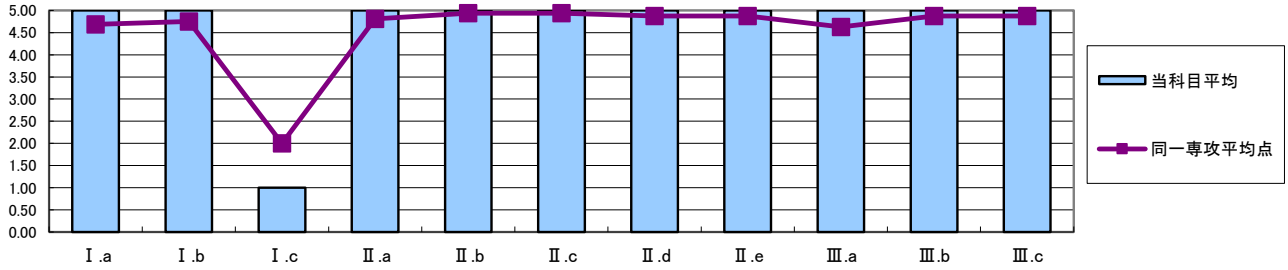
科目名	副科声楽
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.88
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

今年度は３名を担当し、アンケートへは１名が回答した。意欲的に上達していく学生ばかりで、特に問題はない。

● **問題点**

● **改善の方策**

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

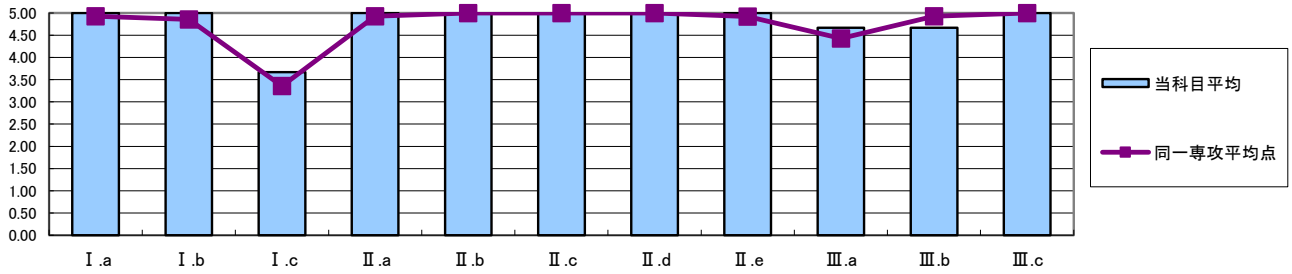
科目名	声楽
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.93
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.86
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.67	3.36
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.93
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.92
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.93
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



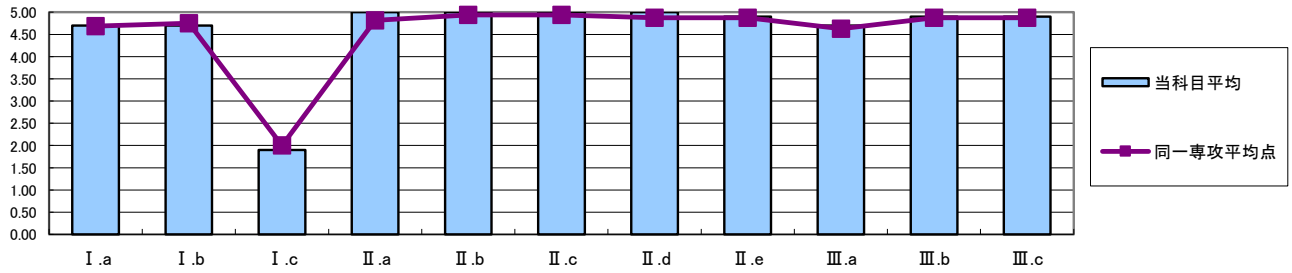
科目名	副科声楽
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	14
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.70	4.69
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.90	2.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.81
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.94
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.88
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.90	4.88
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.70	4.63
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.90	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	4.88

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



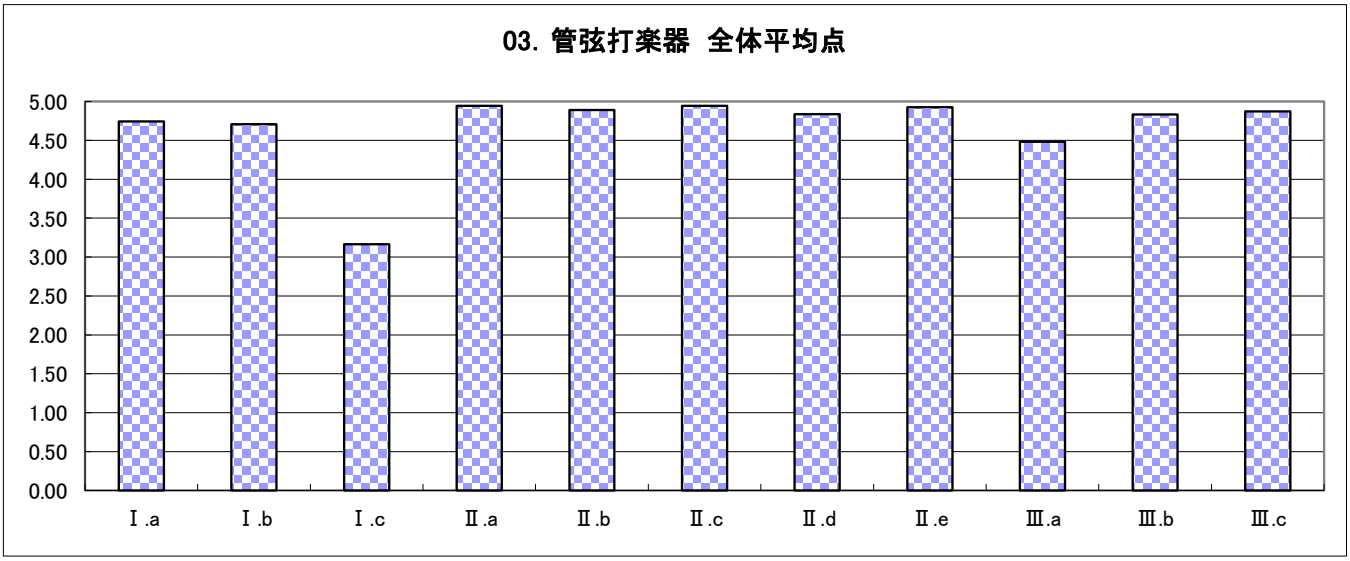
管弦打楽器

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	19

履修者数	58
回答者数	55

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	44	8	3	0	0	55	0
				80.0	14.5	5.5	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	42	11	1	1	0	55	0
				76.4	20.0	1.8	1.8	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.16	14	8	15	9	9	55	0
				25.5	14.5	27.3	16.4	16.4		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.95	52	3	0	0	0	55	0
				94.5	5.5	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	50	4	1	0	0	55	0
				90.9	7.3	1.8	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.95	52	3	0	0	0	55	0
				94.5	5.5	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.84	48	5	2	0	0	55	0
				87.3	9.1	3.6	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.93	51	4	0	0	0	55	0
				92.7	7.3	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.48	30	20	4	0	0	54	1
				55.6	37.0	7.4	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.83	48	4	1	1	0	54	1
				88.9	7.4	1.9	1.9	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.87	50	3	2	0	0	55	0
				90.9	5.5	3.6	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

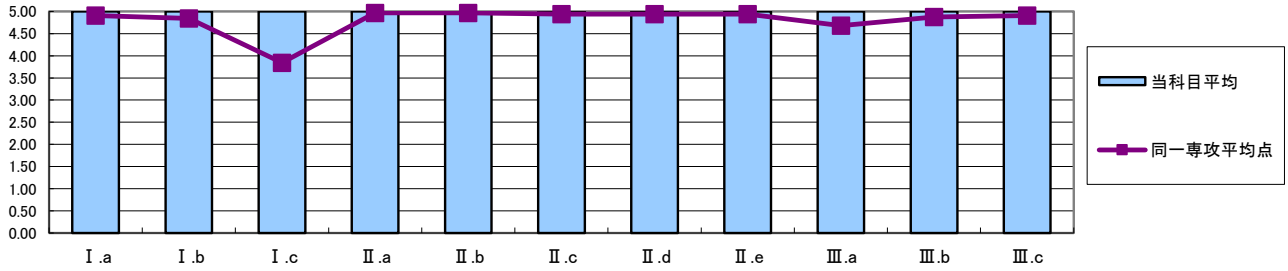
科目名	管弦打
教員名	天満　敦子

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学院・大学共に学生の意欲がとても前向きでレッスンもわりと充実していると思います。社会に出てからも、意欲と夢を持ち続けていけるよう、積極的に励ましていきます。

●　問題点

問題は感じていません。

●　改善の方策

激励のみ！！

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

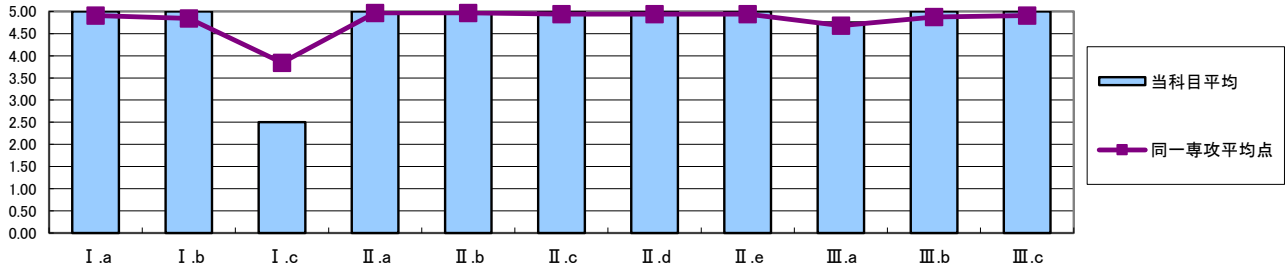
科目名	管弦打
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度は5人の専攻生を受け持った。それぞれ卒業後の夢(?)は違うが、今ある時間の中で、出来得ることに精一杯取り組んでもらいたいと思って、毎回のレッスンに臨んだ。　4年生は、卒業後も見据えながら、選曲を考え、音大最後の試験で悔いのない演奏が出来るように計画的に取り組めるようにした。その結果2人の4年生は、今までで一番良い演奏をすることができた。（一人は自分のキャパシティ以上に頑張りすぎたか、私の思いが重荷だったのか、他の科目に影響が出てしまった。可哀想なことをしてしまった。）　3年生は、ウィーン研修の後しばらくはモチベーションを維持していたが、夏休みにインターンシップに行ったりしているうちに、音楽の方への情熱が覚めてきて、学内演奏や後期の試験は、今一つの結果だった。　2年生は教職実践専攻の学生で、練習時間の確保も大変なようだったが、計画的に取り組むことができた。またオーケストラやアンサンブルにも積極的に参加し、私の予想以上に音楽的な要素も成長できた。　1年生の留学生は、大変勤勉に熱心に取り組んでいた。私のアドバイスは次週までに克服してきていた。言葉の壁で本意が伝わらないこともあったが、この先お互いの人間性の理解を深めることが出来れば、もっと伝わりやすくなるのではないかと思う。

●　問題点

学生の現状況、環境をよく理解したうえで、選曲、到達目標を決め、方針を立てなければならない。コミュニケーションの取りにくい学生や、言語の違う留学生は、方針が立てにくい。ともすると間違いかねない。

●　改善の方策

個々の学生に見合ったレッスンを展開していくためには、学生をより良く理解しなければならない。そのためには、コミュニケーションの時間が必要である。レッスン時間内（45分）には限りがあるので、時間に余裕のあるスケジュールにしたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

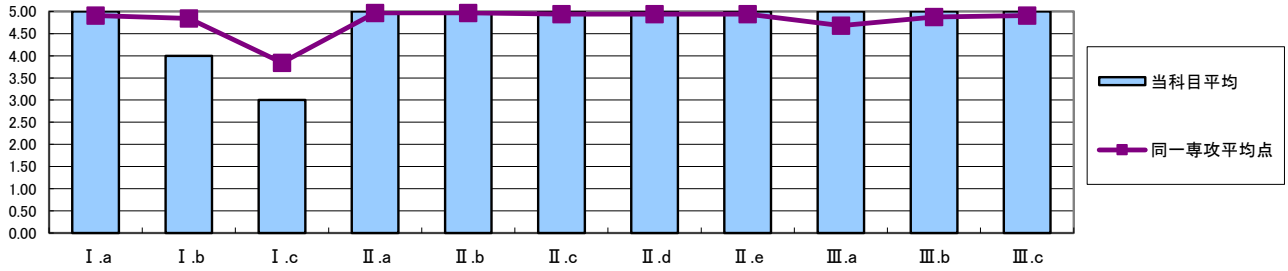
科目名	管弦打
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

積極性が少し少なかったようですが、そのほかについては順当でした。

● **問題点**

レッスンに対する姿勢が少し消極的だったようです。

● **改善の方策**

レッスンに対して消極的といっても、原因はいろいろあります。単に練習不足によるものなのか、又は体調によるものなのか、教材によるものなのか、常に注意して学生とコミュニケーションをしていかなければと思いました。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

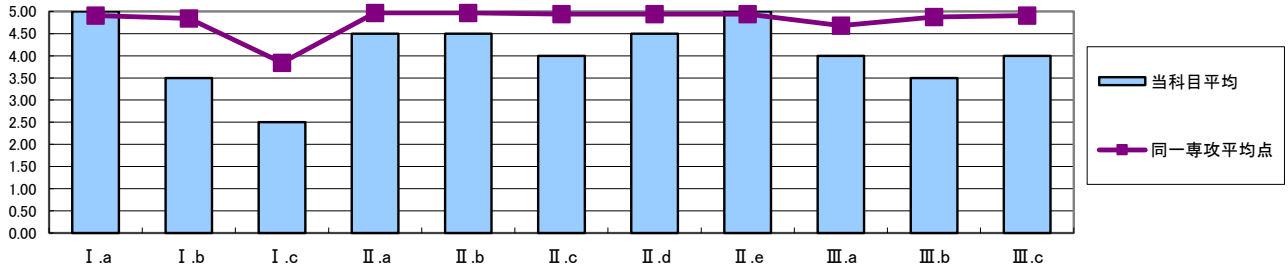
科目名	管弦打
教員名	加古　勉

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.50	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	3.50	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度、この授業ではトランペット専攻生２名の個人レッスンを行った。楽曲のレッスンを行うこと以外に、常に奏法のレベル・アップ対応を行っている。 つまり、レッスンの中心は、基礎奏法・応用奏法の修得と音楽表現である。これは以前からも、そして今後も変わることは無い。また、学生個々のレベルに合わせたレッスンをしていることも当然である。私が重きを置いているのは学生個々の絶対的レベルよりも、どれだけのレベル・アップがみられたかということ。つまり伸び幅である。その観点から考察すると、２名共順調であった。経済的理由でアルバイトに多くの時間を割かなければならなかった者、モチベーションの差、才能の差、努力の差、練習時間の差、思考力の差、などと言った具合に種々の原因から生じた学生個々の結果である。共通したレッスンの具体的内容は基礎練習メニューは「ロングトーン」「スケール」「フレキシビリティー」「ブレス・コントロール」「姿勢」「フィンガリング」「タング・コントロール」「スロート・コントロール」「アパチュア・コントロール」「サポート・コントロール」など。また、基礎奏法・応用奏法の修得のために使用している教材は「アーバン教則本」「シグマンド・ヘリング」「ロバート・ゲッチェル」「ハーバード・クラーク」「ルイ・デイヴィッドソン」「マックス・シュロスバーグ」「ジェイムズ・スタンプ」など。

●　問題点

本学ではアンサンブル教育（オーケストラ・吹奏楽・室内楽等）にもウェイトを置いている為、それらの事前譜読みやリハーサルに多くの時間を要している。その為、レッスンで扱う内容（エチュード・楽曲等）に対する準備が時期によっては、やや不十分になりがちのようである。

●　改善の方策

１日の大半を個人レッスンの為の準備練習に使うことは出来ない。各種授業、並びに、その予習・復習・課題等にも時間を費やさなければならない。オーケストラ・吹奏楽・室内楽等のアンサンブル授業の為の個人レベルでの譜読みも必要である。長時間アルバイトをしなければならない学生もいる。それ故に、限られた時間の中で如何に無駄の無い合理的な練習方法を組み立てるのか。また、ただ単にがむしゃらに練習するのではなく、think　and　play　の習慣を持てるのかを改善のためのポイントにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

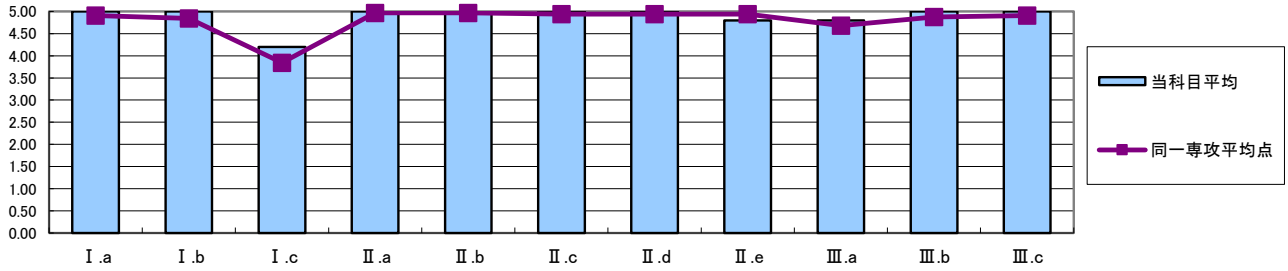
科目名	管弦打
教員名	渡辺　由美子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.20	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.80	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.80	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

学生は、自分の大学生活での学びの目的や意義をしっかりと理解し、学校内での勉強、楽器の技術向上はもちろん、外部での演奏会出演や、演奏会見学などにも意欲的に取り組んでいた。しかし、アンケート結果を見る限りレッスンに向けての練習時間をもっと作るべきと思い学生に話をきいたところ、アンケートを実施された12月上旬から１２月中旬にかけては、秋口の台風１９号や中高生のためのソロコンテストのお手伝い、ハンドベル演奏会などで打楽器という楽器がらか学校施設を利用しての学修が自分の満足できるところまで、まだ到達目標を充分に達成出来なかったとのこと。これは専攻実技の技術向上にとっても音楽大学に進学し打楽器と向き合う時間をさらに確保したいと意気込んでいた1.2年生にとって自分での時間探しがこれからの重要課題であると言える。また、専攻実技に気持ちが傾きすぎて、広く音楽を学ぶ意識の薄れがないように、大学で学ぶ姿勢を専攻と同じようにほかの教科にも前向きで興味関心を大きく持てるように導いてゆきたい。

●　問題点

少ない時間でもいかに学生の達成感を得られるか。具体的には、楽器に対する意欲は増しているので、技術向上に向かいがちな気持ちをレッスンの中でも音楽的知識は座学からも学べるということをじっくりと説明する必要があると考える。東邦らしい学生像と学生の学習に対する成長感度や学びの実態等を、しっかりと関連付けて効果測定してゆきたい。

●　改善の方策

学生の音楽的、人間的成果を指導者が見守り、頑張ろうとする努力を評価する。勇気付ける事を第一の役割と考え、コミュニケーションを大切にし、今まで以上に助言のタイミングや手法等の開発も検討してゆく必要がある。また学生の向上心をさらに高められるよう環境を整えたり、学内の施設も活用することを勧めたい。技術的指導は具体的にわかりやすく行い、進歩の状況を見極め、適切な助言をする事によって改善出来ると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

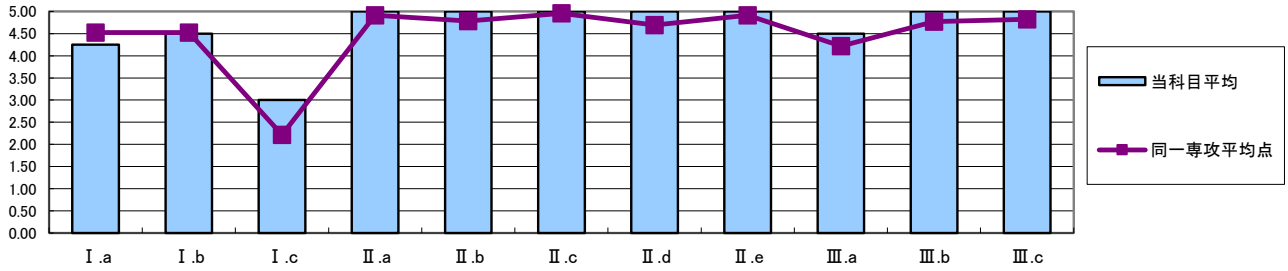
科目名	副科管弦打
教員名	宮野　陽子

職名	02. 教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.25	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度は5人の副科の学生を受け持った。（1人は後期から履修。）内2人は留学生である。4人とも大変真面目に取り組む学生であった。　4年生は音楽創造専攻の学生であったので、実際にヴァイオリン曲を創る時の留意点も意識して指導した。試験の時は自作の曲を弾くことによって、実際演奏してみての表現効果を確認することができ、また自分の曲をより良く聴かせたい一心で、技術も上げることが出来た。　2年生で昨年までヴァイオリンが本専攻で、音楽創造に転専攻した学生は、ヴァイオリンはオーケストラなどアンサンブルをメインにする、ということで、オケパートのレッスンも行った。作曲の勉強に専念できるよう、時間配分に気を付けていた。留学生は、生活にも馴染んできて緊張もほぐれてきたようで、1年の時よりは副科を楽しもうという雰囲気が感じられた。　1年生の一人は初心者ではなかったので、本専攻（ピアノ）との奏法上の共通点や、表現方法の違いなどを考察しながらのレッスンは私自身も楽しみながらできた。留学生は全く言葉が出来なかったが、勘が良く、また自分の意思もはっきり示す子なので、私も迷わずに色々な指示ができた。

●　問題点

副科を何のために履修しているか、によって指導の仕方が大分変わってくる。現在受け持ちの学生は、皆目的がはっきりしているので、特に問題はない。

●　改善の方策

テキスト選び、選曲については、常に考えていきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

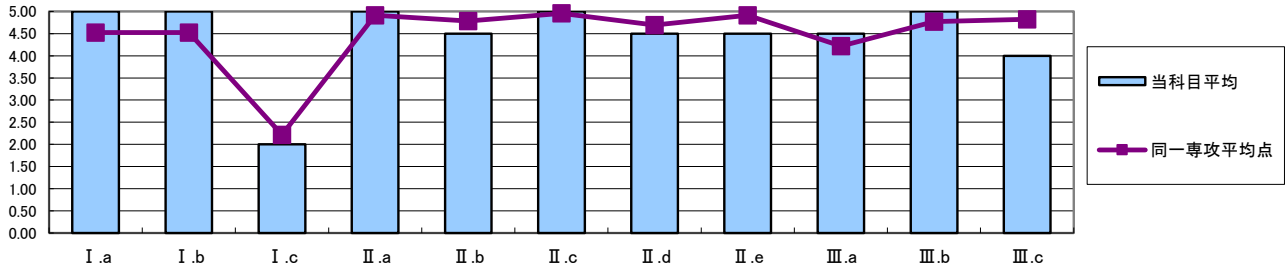
科目名	副科管弦打
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

ほとんどの設問に対しては平均以上か平均並で、高いパーセンテージで順当でしたが、レッスンの為の予習復習にあてる時間がかなり少ないようです。また、レッスンに対する意義が弱冠少ないですが、レッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がったという設問に対しては100%そう思ってもらえたようでした。

●　問題点

レッスンに対する練習時間が少ないようです。

●　改善の方策

副科レッスンの為、練習時間を確保する事は大変だと思いますが、毎日少しずつでも時間を作る事を進めてみます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

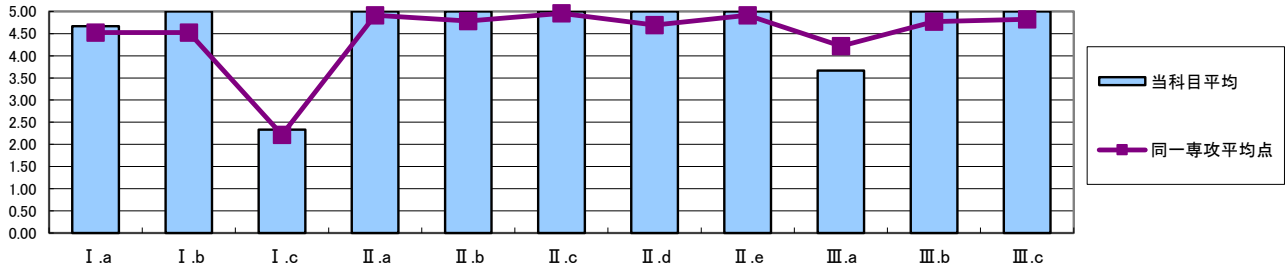
科目名	副科管弦打
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。回答はほぼ4～5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。今年度は初心者が多かったが、実際に上手く吹けるようになり、試験の成績が上がり喜んでいる学生もいる。

●　問題点

学生の準備不足もなく今年度は概ね良好であった。　自由記述欄を見ても学生は満足しているようである。

●　改善の方策

レッスン担当教員として、個人のレベルに合わせたレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

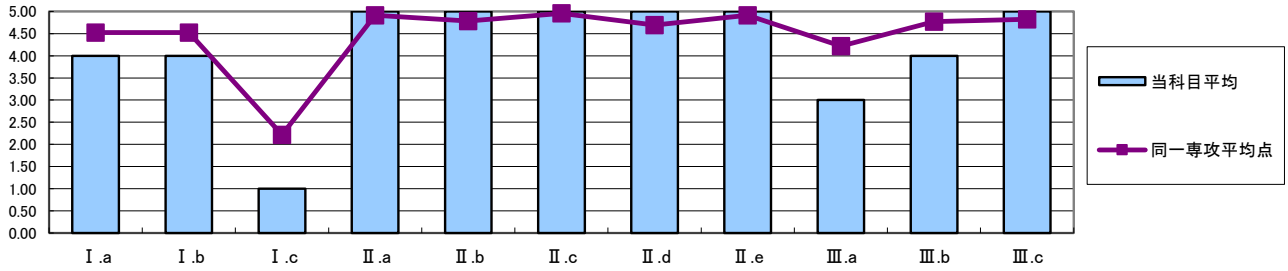
科目名	副科管弦打
教員名	加古　勉

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度、この授業では１名の個人レッスン(トランペット)を行った。この学生は全くの初心者であったため、様々なことを１から教える必要があった。楽器についての基礎知識としては「歴史」「種類」「特性」「各部の名称」「材質」「メンテナンス」など。基礎奏法に関する具体的内容としては「姿勢」「構え方」「ヴァルブの押さえ方(フィンガリング)」「ブレス・コントロール(呼吸法)」「ブレス・サポート(息の支え)」「唇の形(アンブシュア)」「マウスピースのあて方」「ロングトーン」「リップスラー」「タンギング」「スロート・コントロール」など。私が重きを置いているのは学生の絶対的レベルよりも、どれだけのレベル・アップがみられたかということ。つまり伸び幅である。その観点から考察すると、この学生は大変真面目に、そして意欲的に取り組んだため、とても良い結果が得られた。また、基礎奏法の修得のために使用した教材は「トランペットの吹き方(加古勉著)」。今後レベルの向上がみられた場合には「アーバン教則本」「シグマンド・ヘリング」「ロバート・ゲッチェル」「ハーバード・クラーク」「ルイ・デイヴィッドソン」「マックス・シュロスバーグ」「ジェイムズ・スタンプ」などを使う予定。

●　問題点

専攻(教職実践)の勉学に多く時間を必要としているので、レッスンで扱う内容（基礎練習・エチュード等）に対する準備が時期によっては、やや不十分になりがちのようである。

●　改善の方策

限られた時間の中で如何に無駄の無い合理的な練習方法を組み立てるのか。また、ただ単にがむしゃらに練習するのではなく、think　and　play　の習慣を持てるのかを改善のためのポイントにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

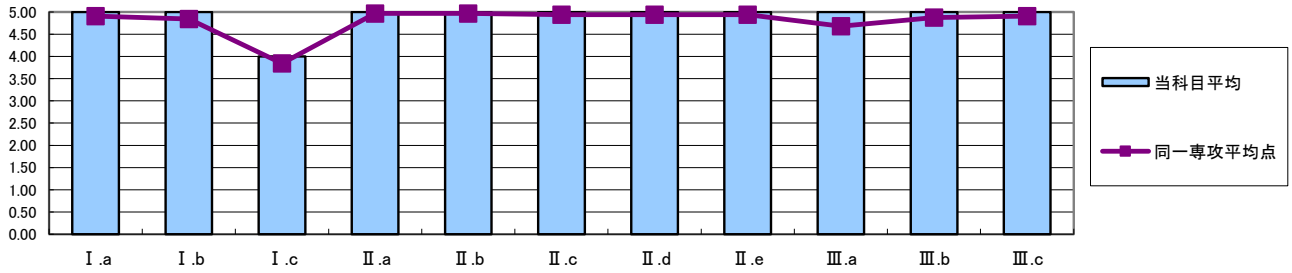
科目名	管弦打
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



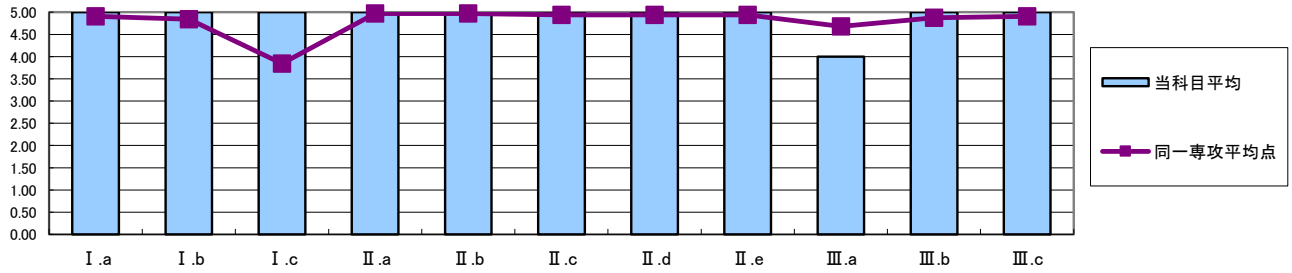
科目名	管弦打
教員名	加藤　里志

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

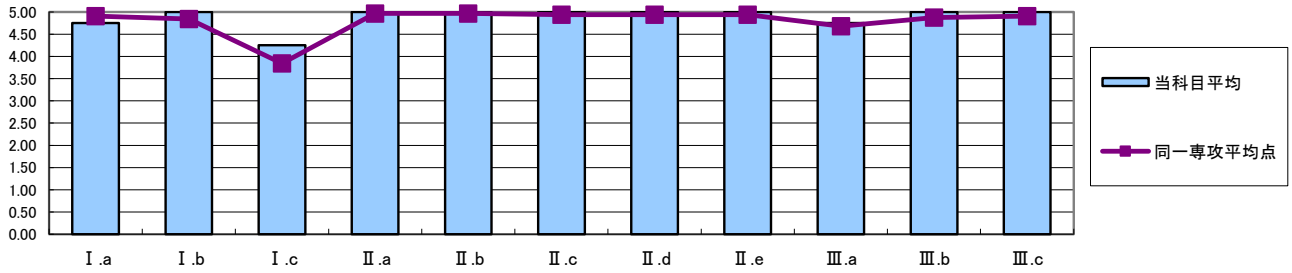
科目名	管弦打
教員名	田中　洪至

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.25	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



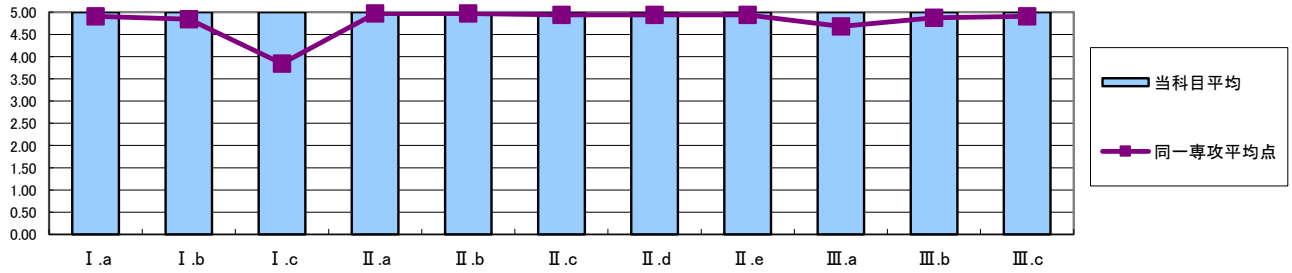
科目名	管弦打
教員名	西久保　友広

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

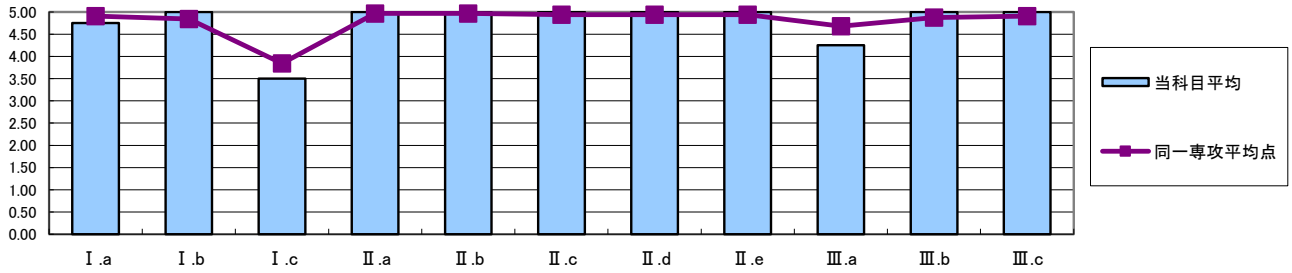
科目名	管弦打
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



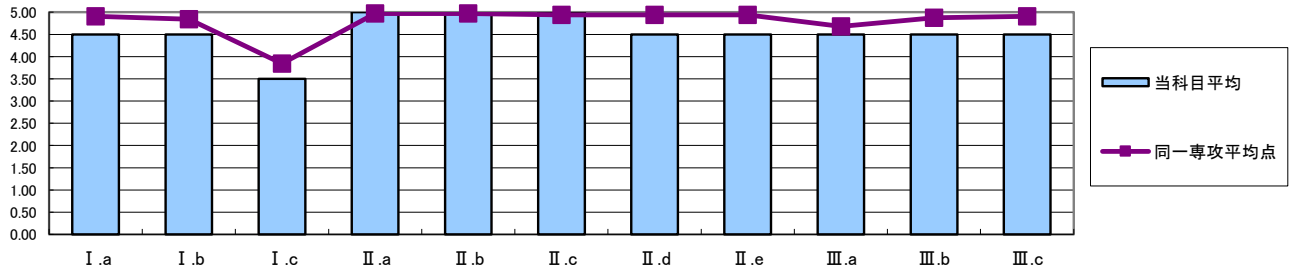
科目名	管弦打
教員名	村越　麻希子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.91
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.84
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	3.84
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.97
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.94
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.94
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.94
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.68
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.88
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.91

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

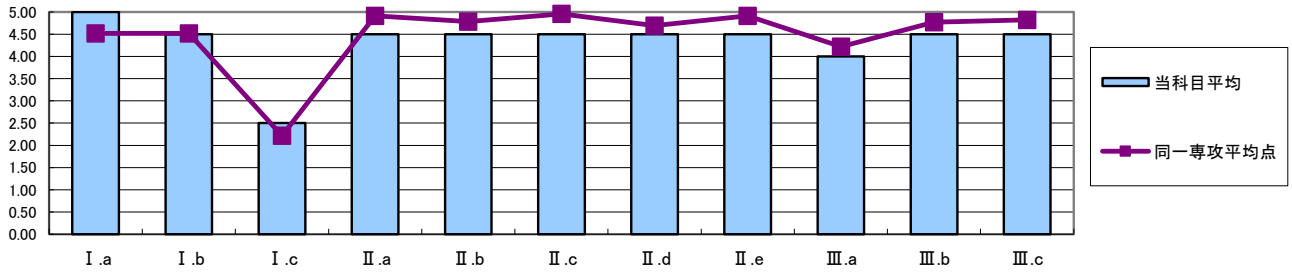
科目名	副科管弦打
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



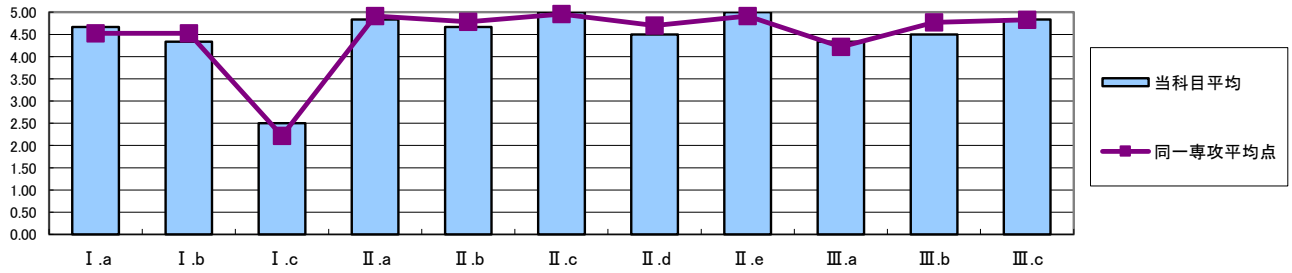
科目名	副科管弦打
教員名	香月　圭佑

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.50	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.83	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

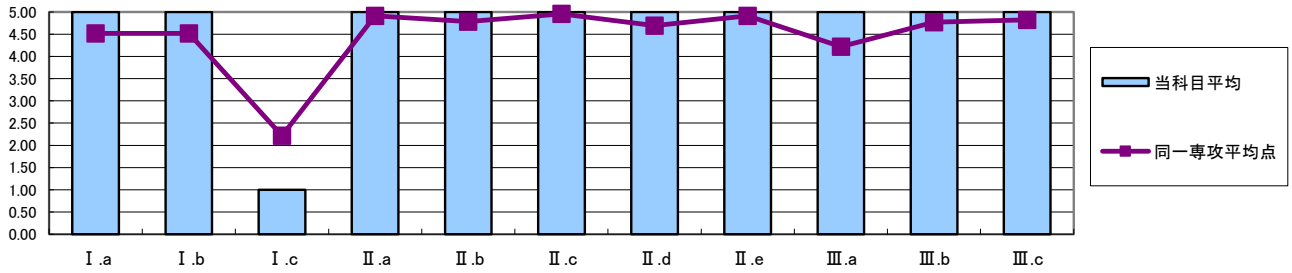
科目名	副科管弦打
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



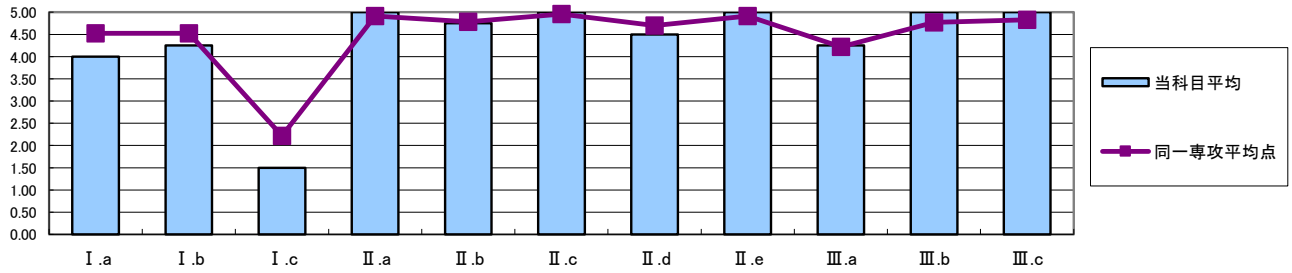
科目名	副科管弦打
教員名	村越　麻希子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.52
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.52
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.50	2.22
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.91
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.78
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.96
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.70
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.91
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.22
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.77
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.83

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



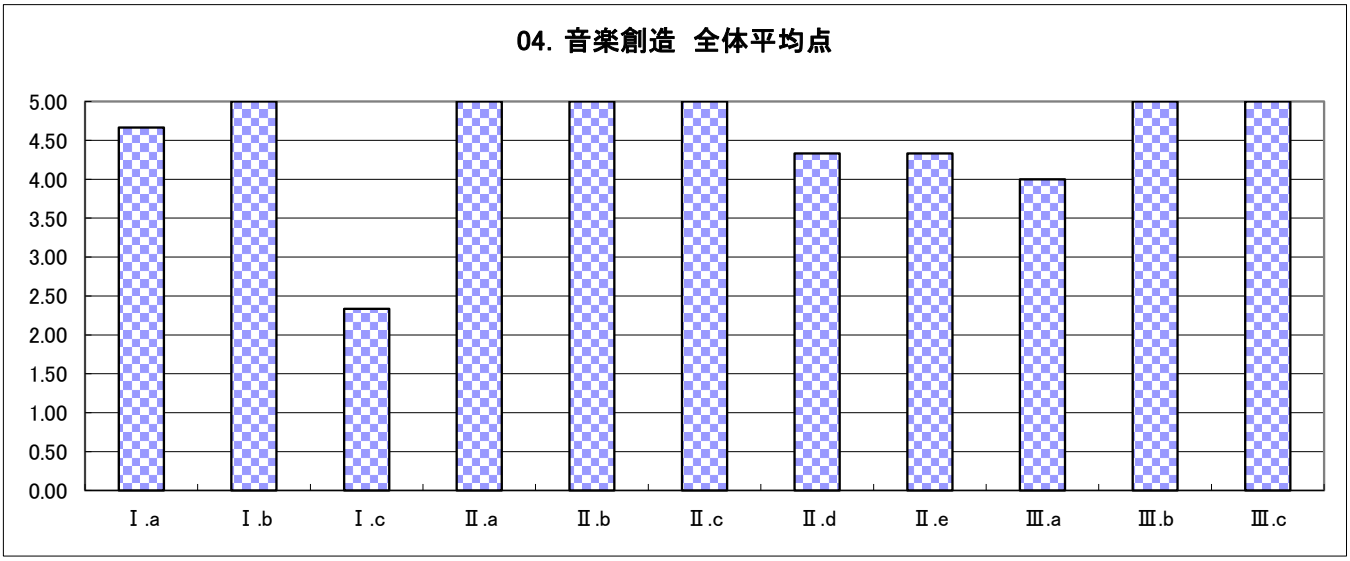
音 楽 創 造

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	04. 音楽創造
科目数	3

履修者数	3
回答者数	3

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.67	2	1	0	0	0	3	0
				66.7	33.3	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	0	0	1	2	0	3	0
				0.0	0.0	33.3	66.7	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.33	2	0	1	0	0	3	0
				66.7	0.0	33.3	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.33	1	2	0	0	0	3	0
				33.3	66.7	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	1	1	1	0	0	3	0
				33.3	33.3	33.3	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	3	0	0	0	0	3	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

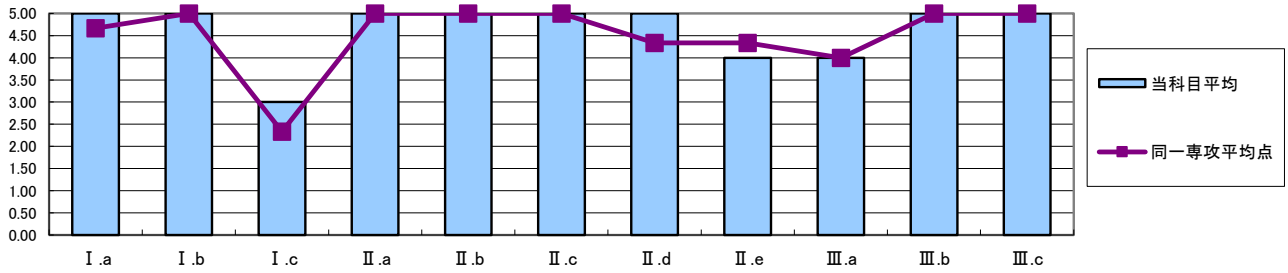
科目名	音楽創造
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.33
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.33
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.33
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は１年次生１名のみのレッスンを行った。1年次は三部形式と複合三部形式、ロンド形式を学ぶ。入学後は自由作曲に専念出来るよう、本来は作曲の基礎訓練である和声法、対位法および形式論は入学以前に終了しておくことが望ましいが、近年必ずしも全ての学生がその様な状態にはなっておらず、レッスンに形式論も含むこととなった。提出作品は演奏審査を踏まえた10分以内のピアノ独奏曲を課している。学生にとって限られたレッスン時間の中で扱う質や量の多さを、レッスンへのやる気や作曲意欲が欠如しないように、理解しそして応用して自由作曲に役立つように指導することが重要である。

●　問題点

今年度はアンケートに回答したのは１名である。人数的に必ずしもアンケートの体をなしているとは言えないし、作曲は演奏実技と違い、時間をかけるのと成果は一致しない。アンケートからは特に問題点となる事項は読み取れないが、出来るだけ多くの知識や経験を積んでもらうための柔軟性がより必要であろうと思われる。

●　改善の方策

個々の学生のレベルに合った下調べの方法や参考になる曲の紹介等を図書館の利用も含めて綿密に伝えて、さらに良い曲を書くためには熟考するための充分に余裕のある時間が必要ではあること、そのためにはレッスンへ臨むのに何が必要か、等を次年度も徹底して行きたい。また、学生のレッスンをするための最低のマナーなども普段から伝えて、お互いの意思の疎通を高めるようさらに心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

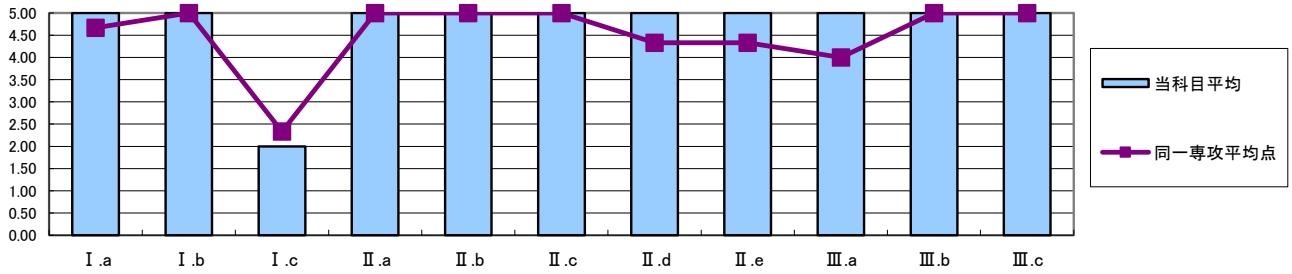
科目名	メディアデザイン演習6(実習を含む)
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.33
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.33
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.33
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



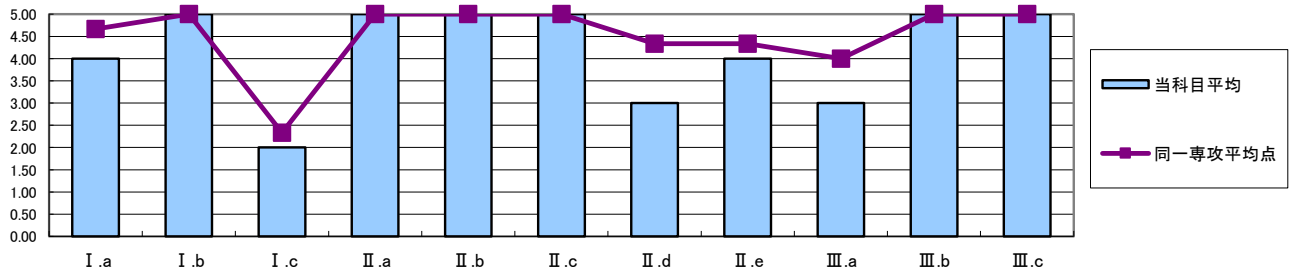
科目名	メディアデザイン演習8(実習を含む)
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.67
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.33
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	3.00	4.33
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.33
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



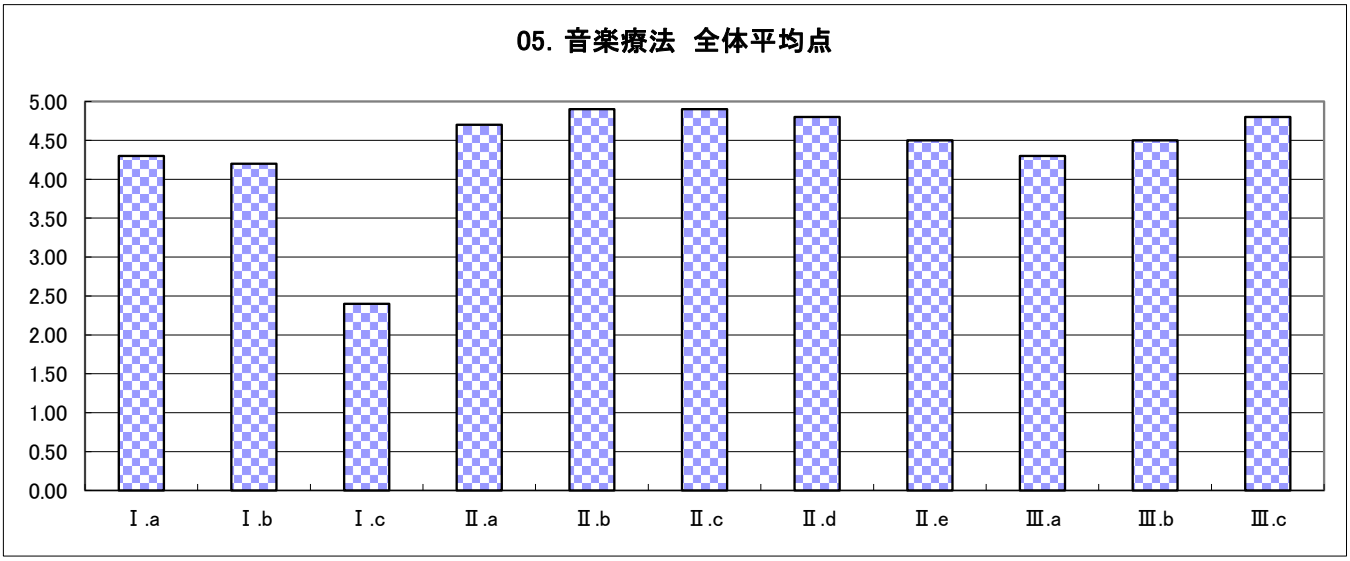
音 楽 療 法

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	05. 音楽療法
科目数	3

履修者数	11
回答者数	10

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.30	5	4	0	1	0	10	0
				50.0	40.0	0.0	10.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	5	2	3	0	0	10	0
				50.0	20.0	30.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.40	1	0	2	6	1	10	0
				10.0	0.0	20.0	60.0	10.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.70	7	3	0	0	0	10	0
				70.0	30.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	9	1	0	0	0	10	0
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.90	9	1	0	0	0	10	0
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	8	2	0	0	0	10	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	5	5	0	0	0	10	0
				50.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	5	3	2	0	0	10	0
				50.0	30.0	20.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	6	3	1	0	0	10	0
				60.0	30.0	10.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	8	2	0	0	0	10	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

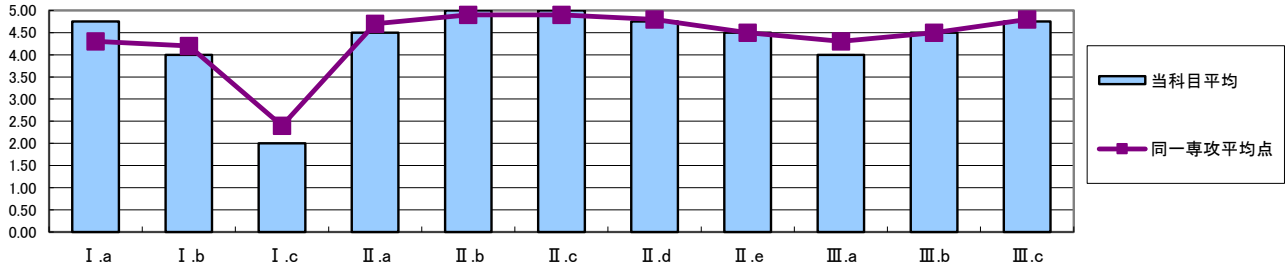
科目名	音楽療法6〔実習を含む〕b
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.75	4.30
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.20
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.40
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.80
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.30
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.50
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.80

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法の理論・技術を、音楽療法実習にどう生かすかについて学ぶ。また、学内実習発表に向けて、研究活動の意義を知り、データ収集・分析・客観的で説得力のある記述などの手法を身につける。＜内容＞音楽療法実践での対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの実践の基礎技術を、授業と実習の双方から体得する。また、学内実習発表の研究の指導を受け、研究の基礎技術も身につけていく。＜授業形態＞　実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。＜受講者数＞　４名。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ａ、bより、学生が積極的に授業にも実習にも取り組んだことが分かった。Ⅰ－ｃ「１回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」についての結果は、平均より低く、４名全員が「２時間」と回答していた。②Ⅱについては、どの項目も数値が高く、平均と同値程度であった。このことより学生は、概ねこの授業や実習の指導に対して満足していることが推察された。Ⅲについても同様で、どの項目も数値が高く、平均と大きな差はなかった。この結果から学生は、この授業や実習の目標を達成したと感じていて、なおかつ授業や実習から新しい知識や技術を獲得し、有意義に感じていることが明らかになった。③４名の自由記述では、「一人一人に合わせた指導」「実技も論文も個人に合わせてやってくれる」「自信がつく」「初めての研究だが心強かった」などの回答であった。これについては、４名とも実習先が異なるため、それぞれの実習先に合わせた伴奏の方法、グループ内での連携の方法、対象者の理解、接し方などを細かく伝えたり、ロールプレイを行ったりしたことが影響していると考えられる。また、論文のテーマも４名とも異なる領域であったため、全体指導の時間と個別指導の時間を、学生の状態や時期よって変化させたことも良かったのではないかと感じている。

●　問題点

①この科目は、授業と実習を合わせたものなので、おそらく学生たちは１回の授業に２時間だけではなく倍以上の時間をかけて準備していると推測できる（１回実習に行くのに、伴奏の練習、メインの練習、さらにロールプレイを１時間以上かけて行い、さらに事後ミーティングも行っている）。そのため、授業の問題点というよりは、アンケートの時に「この科目は実習も含んでいるので、ロールプレイなども含まれる」など、アンケートの対象を具体的に説明する必要があったと思われる。

●　改善の方策

①この科目は、授業と実習を合わせたものなので、おそらく学生たちは１回の授業に２時間だけではなく倍以上の時間をかけて準備していると推測できる（１回実習に行くのに、伴奏の練習、メインの練習、さらにロールプレイを１時間以上かけて行い、さらに事後ミーティングも行っている）。そのため、授業の問題点というよりは、アンケートの時に「この科目は実習も含んでいるので、ロールプレイなども含まれる」など、アンケートの対象を具体的に説明する必要があったと思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

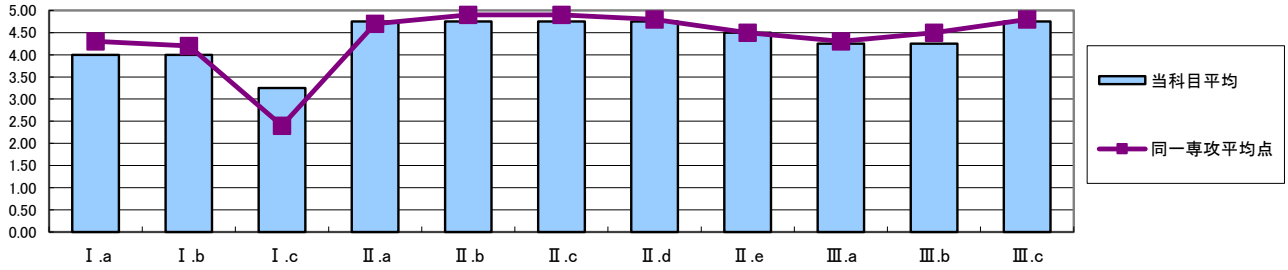
科目名	音楽療法8〔実習を含む〕b
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.30
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.20
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.25	2.40
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.75	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.75	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.75	4.80
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.30
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.25	4.50
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.80

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞卒業論文発表に向けて、論文を執筆する論理的思考力や客観的で説得力のある文章力・文章構成力を身につける。　　実習では、前年度までに体験して学んだ臨床知識・技術をさらに高める。また、それらを社会生活に活かす展望を得る。＜内容＞　　卒業論文の各自の研究テーマを確立し、集団ディスカッションや個別指導を通して卒業論文を執筆する。　　実習では、対象者の理解、伴奏の手法、音楽・非音楽的な対象者への即興的対応、対象者との関係性の構築などの臨床技術を、実習と授業の双方から体得して高めていく。＜授業形態＞　実習は、実践・ロールプレイ・ディスカッションで行った。授業は、ロールプレイ・ディスカッション・講義形式で行った。＜受講者数＞　４名。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ｂでは、平均が4.0であったが、４名中２名は＜5.強くそう思う＞で、他の２名は＜3.どちらともいえない＞の回答であった。つまり、２名は「積極的に授業に取り組んでいた」が、他の２名は「積極的に授業に取り組んだとは言い難い」という二分した結果であった。また、Ⅰ－ｃでも、結果に散らばりがみられた。②Ⅱではａ～ｅの全てにおいて、４名の回答結果に大きな散らばりはみられなかった。③Ⅲ－ａ、ｂの回答も、結果に散らばりがみられた。同一人物かは分からないものの、２名はこの授業の到達目標を十分に達成し、新しい知識や技術を獲得できたと実感できていることが分かった。

●　問題点

上記結果①③より：　授業の内容のメインが「論文の執筆」なので、文章力や言語理解力という《学習の基礎力》が低い学生にとっては、この授業自体が非常に難しいものに感じていたということが分かった。　また、欠席が多いと指導自体が出来ないため、教員は負のスパイラルに陥ってしまうこともあった。　学習の満足度が高かった２名は、授業で得たことを実習で活かし、実習で得たことを論文に盛り込む、といったように相乗効果がみられたため、他の学生との差が大きく出てしまっていた。

●　改善の方策

担当教員は、個別に授業・実習への出席を促し続けたものの、反応がある時とない時があった。　授業に出て来られない時でも、＜以前出来ていたことを称賛する＞、＜スモールステップでクリアできそうな課題を呈示する＞など、個別にハードルを大きく設定し直すことが重要であると考えられる。　また、他の教員や仲の良い学生からも前向きな声かけをしてもらうよう、連携していくことも必要であると考えられる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

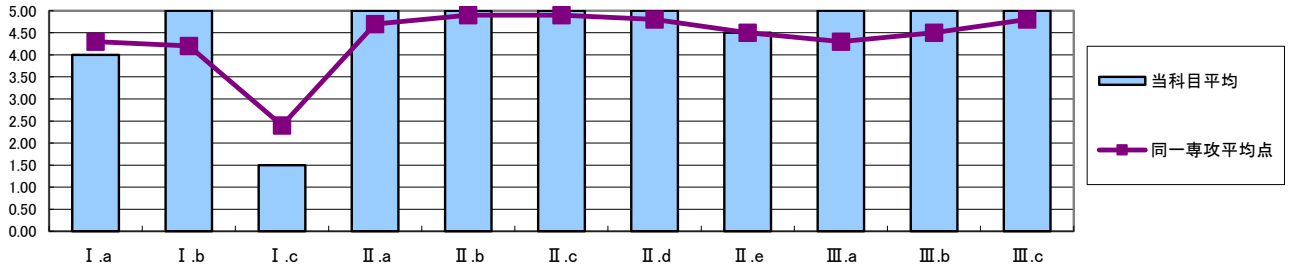
科目名	音楽療法4
教員名	二俣　泉

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.30
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.20
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.50	2.40
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.70
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.90
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.90
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.80
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.50
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.30
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.50
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.80

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



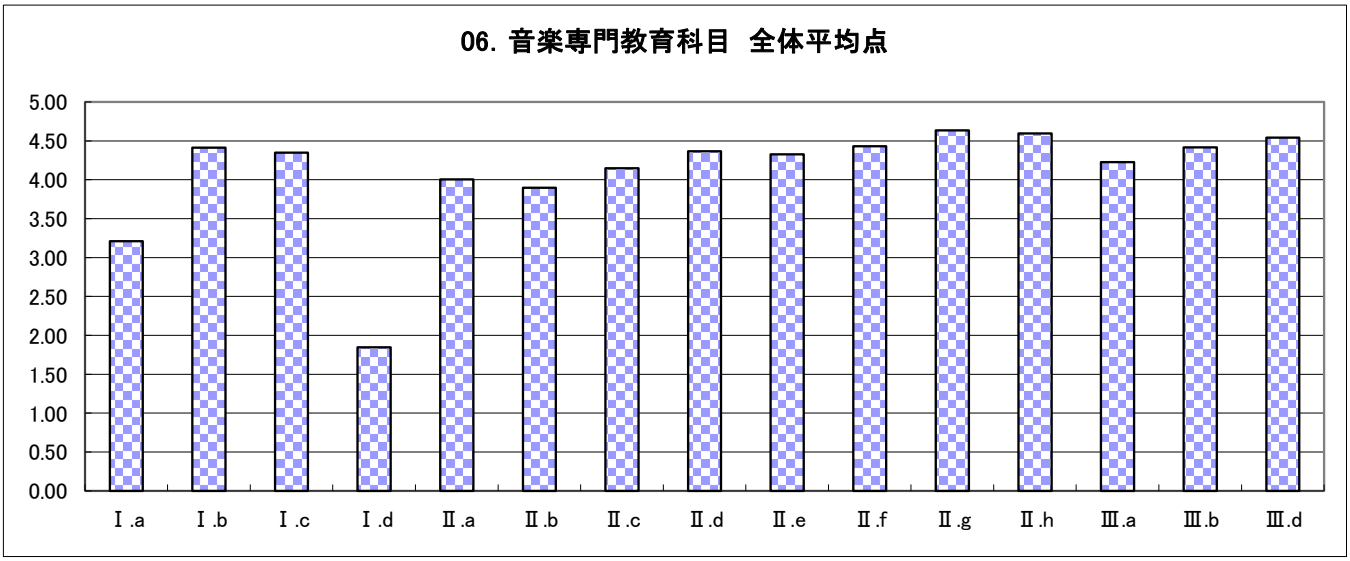
音楽専門教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	06. 音楽専門教育科目
科目数	89

履修者数	823
回答者数	629

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.21	140	134	183	57	113	627	2
				22.3	21.4	29.2	9.1	18.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.41	393	136	69	28	3	629	0
				62.5	21.6	11.0	4.5	0.5		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.35	329	204	76	9	6	624	5
				52.7	32.7	12.2	1.4	1.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.85	45	31	79	97	371	623	6
				7.2	5.0	12.7	15.6	59.6		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	246	166	199	4	12	627	2
				39.2	26.5	31.7	0.6	1.9		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.90	67	146	365	32	17	627	2
				10.7	23.3	58.2	5.1	2.7		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.15	293	165	145	20	5	628	1
				46.7	26.3	23.1	3.2	0.8		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.36	361	161	81	17	6	626	3
				57.7	25.7	12.9	2.7	1.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	359	144	106	9	10	628	1
				57.2	22.9	16.9	1.4	1.6		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	394	125	97	6	5	627	2
				62.8	19.9	15.5	1.0	0.8		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	473	91	53	7	3	627	2
				75.4	14.5	8.5	1.1	0.5		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	444	120	59	1	3	627	2
				70.8	19.1	9.4	0.2	0.5		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	280	221	116	9	1	627	2
				44.7	35.2	18.5	1.4	0.2		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.42	373	159	81	7	6	626	3
				59.6	25.4	12.9	1.1	1.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	467	242	248	144	75	600	29
				77.8	40.3	41.3	24.0	12.5		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.54	325	119	37	5	4	490	139
				66.3	24.3	7.6	1.0	0.8		

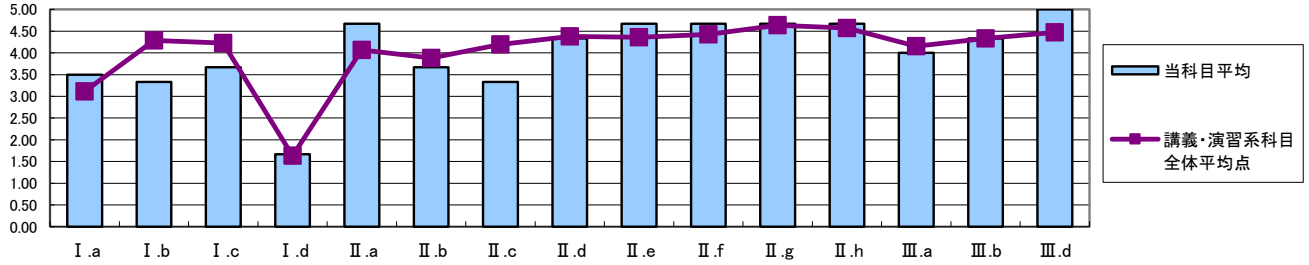


授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB	職名	02. 教授	履修者数	3
教員名	中島　裕紀			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 50.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

パフォーマンス芸術総合専攻対象の今年度新設科目であり、３名の履修者があり、３名より回答を得た。　この授業は、クラシック音楽の演奏を専攻としていないパフォーマンス芸術総合専攻の学生向けに、クラシック音楽の教養と芸術文化に対する素養を広げる目的で開設された科目である。　初年度であり、毎回、オリジナルの資料を作り、視聴資料を用意し、どのようにしたら興味を持ってもらえるかと工夫と試行錯誤の１年間であった。特に、普段受け持っているピアノ専攻の学生と興味のポイントが全く違う点では苦慮する面があった。　しかしながら、学生たちは、とても前向きであり、とても和やかに良い雰囲気で授業を進めることができた。　アンケート結果の数値は、５「強くそう思う」と４「ある程度そう思う」の２つにあり、肯定的な数値を得ることができた。また、自由記述には、「毎回素晴らしい資料を作って来てくださり、本当に充実した授業を１年間受講することができました。目と耳を十分に活用する授業で、受けてよかったと心から思いました。」と書かれており、授業の目的は伝わったことと思われる。

●　問題点

アンケートの内容として、シラバスに関わる意識が低いことが読み取れる。受講にあたりシラバスを活用したか、また開講時に評価の基準が示されていたかなどについては、開講時にシラバスをプリントした上で、十分に時間をかけて説明したにも関わらず、意識がない点は問題である。

●　改善の方策

初年度のまっさらの状態から始めた授業であったため模索することも多かったが、次年度に向けて内容をさらに高めることと、シラバスの活用についてアナウンスの機会を増やすことをしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

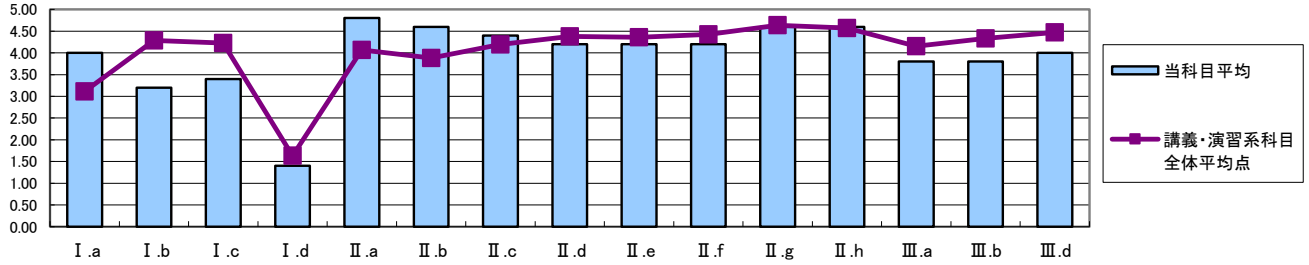
科目名	作曲家の肖像と作品の魅力ＩＢ
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.20	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.40	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.40	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.20	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.80	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.0 / 4: 80.0 / 3: 60.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

平成30年度に立ち上がった新専攻、パフォーマンス総合芸術文化専攻における授業である。1950年代以降のポップ音楽史など現代に求められる音楽業界における実践的知識を中心に学ぶ学生に対し、この講義ＩABにおいてクラシック音楽の声楽史を1600年以降から1950年に亘る作曲家達の横顔を学びつつ作品に触れる講義を行った。講義は、各学生がそれぞれの作曲家について調べ発表をし、その声楽作品を鑑賞し、学生からの気づきや、疑問をさらに話し合いながら作曲家についての知識を深めていく授業である。アンケートは、履修学生7名中当日体調不良で欠席した2名を除く5名から提出された。歌とは何か、歌の可能性とは何かを問う、または考えることを常に行い、幅広く作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとり、新しい音の中にも脈々と流れている先人の足取りを辿る事で、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とした。様々な試みが行われてきた声楽曲の背景にある時代、作曲家についての知識を持ち、歴史を理解した上で、歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べることが出来ることが到達目標である。アンケートは、16項目からなる。Ⅰa,b,c,dは、授業に取り組む学生の態度について、Ⅱa~hは、教員についての評価、Ⅲは、授業を通して身についたことを問う。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、Ⅰ－ｄ「1回の授業のために、平均どのくらい予習復習をしましたか」が、1，6と低い。設問Ⅰ、Ⅲは総じて三点台である。Ⅱに関しては4点台となり、授業が意義のある者だったかという問いには、4点となった。

●　問題点

このアンケート結果から、授業内容は適切であり、教員に対しても好評価となったが、自身の予習復習、授業への積極性については、消極的肯定から普通と3点台で推移している。問題点は予習復習が十分にさっレなかった点であろう。

●　改善の方策

この専攻の学生にとって、専攻の知識からは一見遠いところにあるかに見えるクラッシック音楽の歴史を取扱っていることが一因ともなっているかと考察する。本学の新たな試みであり、現代の音楽活動に生きる人材の知識、考え方の多様性を引きだす一端を担えれば喜ばしい。今後とも学生との対話を大事にしながら、何が必要なのか、何が提供できるのかを常に考慮し、授業に臨むことが授業をさらに進展させていくこととなる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

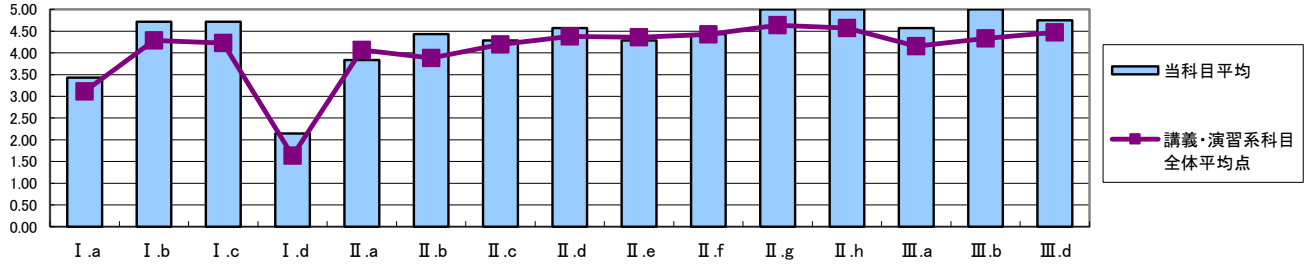
科目名	ソルフェージュ4c
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.14	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 28.6 / 3: 0.0 / 2: 28.6 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は、平成29年度より鍵盤楽器のためのソルフェージュとして始まりました。90分の授業を前半と後半に分け、初見視奏と移調奏を行っています。履修者8名のうち、欠席を除いた7名より回答がありました。この授業は専門実技を支えるものであり、また社会に出てからも必要とされる力であることをそれぞれが理解し、意欲的に取り組んだ結果、目に見えて力がついてきたと感じています。それは、「到達目標を十分に達成できた」「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」「この授業は総合的に判断して、意義のあるものだった」が高得点であったことからも伺えます。設問Ⅰ.a「この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した」と、Ⅰ.dの「予習復習について」「この授業はシラバスに沿っておこなわれていた」の得点が低くなっています。Ⅰ.aにつきましては、この授業は必修であるため、多くの学生がシラバスを確認することなく履修したため、低くなっているものと思われます。またⅠ.dにつきましては、学生の状況を見ながら相応しい内容に変更したためこのような結果になったと思われますが、良い方向に導くためには必要なことです。自由記述欄には「初見や移調のポイントを何度も教えて頂いたので、非常に勉強になりました」と書かれていました。

●　問題点

今年度は在籍者数の関係で履修者が少なく、レベルによるクラス分けをすることができませんでした。よって実力の差に開きがあり、授業の進め方や教材の選び方に難しい面がありました。

●　改善の方策

来年度はレベルによるクラス分けをして、それぞれの実情に合った教材を用いて授業を行うことにより、さらに達成感を感じられる授業を展開したいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

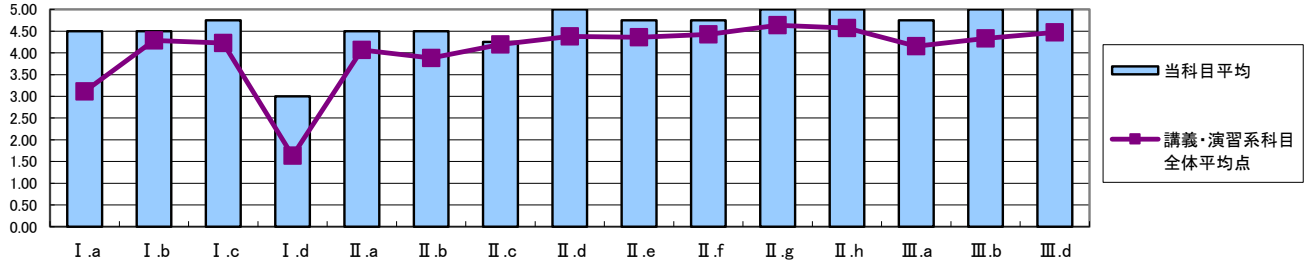
科目名	ピアノ伴奏法ＩＢ
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	7
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 50.0
			3: 0.0	2: 25.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は、ピアノ専攻の2年生以上を対象としています。ピアノは独奏だけでなく伴奏やアンサンブルの分野でも必要とされています。伴奏は、声楽や単旋律楽器の和声などを支えるという大きな役割を担っています。授業は、声楽や楽器と互いに補い支え合って一つの音楽を作り上げていく過程から最終的にプロの演奏家と合わせて完成させるまで、共に考え意見を出し合いながら進めました。履修者4名（ＩＡは7名）全員から回答を得ました。自由記述欄には、「どのように弾くか、どうしてそのように弾くかの根拠が明確で分かり易く、非常に勉強になる授業でした。この授業を受けて幸せでした」と書かれていました。

●　問題点

すべての設問に対して得点が高く、特に問題はありません。しかし気掛かりなのは、「ピアノ伴奏法Ｉａ」で7名いた履修者の数が「Ｉｂ」で4名に減少したことです。数年前まではピアノ専攻の学生の多くが履修していたのですが、ピアノの大切な分野である伴奏に興味を持たないのはとても残念なことです。

●　改善の方策

人前で演奏することの多い授業で厳しさも伴いますが、自分に負荷をかけることで成長するということを避けないで欲しいと思います。そしてピアノ専攻の学生が伴奏だけでなく、さまざまなことへの興味を持つよう折に触れ刺激を与えたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

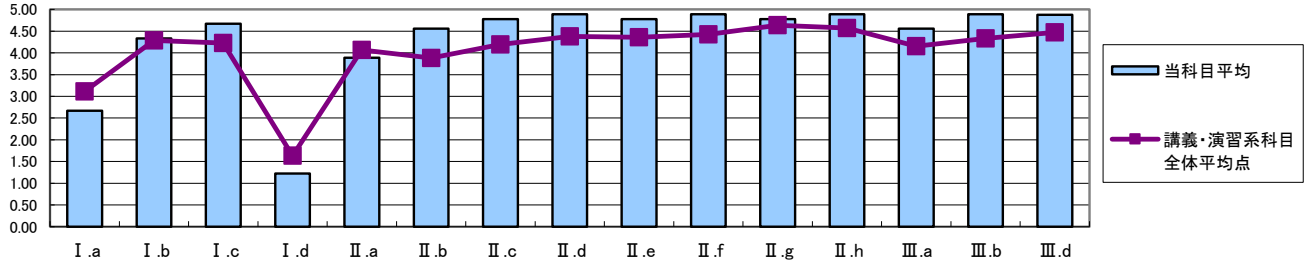
科目名	指揮法b
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	12
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.22	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.56	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.78	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.56	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.89	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 44.4 / 2: 0.0 / 1: 11.1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

●現状（科目の目的・内容・授業形態）　　本授業の目的は、教育現場における授業や学校行事、部活動指導に役立つ指揮法を身に付けることである。そのために、指揮法の基礎・基本を身に付け、叩き・平均運動・しゃくい、の三つの基本的な技法を修得することである。　　指揮法ａ、ｂともに学生たちは主体的に、かつ真剣に取り組んでいた。授業では、教員が作成した資料を配布するとともに、パワーポイントを使った技法の説明に加え、教員が手本を示して技法のイメージを持たせることを心がけた。個人演習、ペアワーク及び全体に向けての演習をほぼ毎回行った。中学校の共通教材からは、４拍子の「夏の思い出」、6拍子「浜辺のうた」、コンコーネ50番より数曲、また、「旅立ちの日に」などの合唱作品を取り上げて演習した。　　なお、評価については、授業への参加度や貢献度に加えて、ほぼ毎回行う全員の前での発表及び、授業の最後のまとめとして行った実技試験を参考とした。　　最終的には、一人ひとりの技術や表現力の向上、修得が目的であるが、学生の省察力を深めるため、他者の問題点を全体で共有するよう心がけた。

●　問題点

指揮法は個人の資質力量の向上が目的であることから、受講者の人数が多すぎては効果が薄れる。前期と後期の受講者数の差が大きかったが、特に前期では学生の理解度や技術の修得を向上させることに苦慮した。

●　改善の方策

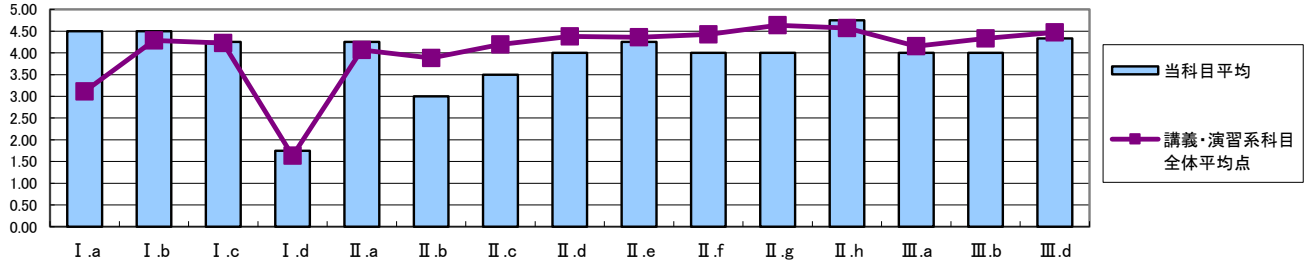
学生ひとり一人の特徴や問題点を迅速に把握し、一人ひとりの学生に寄り添って丁寧に技術を修得させていく。授業内容や進め方については、説明、全体演習、ペアワーク、個別演習の流れを効果的に行って授業の質を高めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	教育総合科目(教職実践)ＩＢ	職名	03. 特任教授	履修者数	4
教員名	粕谷　宏美			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.75	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 50.0 / 3: 25.0 / 2: 50.0 / 1: 75.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、教員として求められる資質能力を総合的に身に付けるための科目であり、教職実践専攻の学生が履修する科目である。また、本科目は、「教職特講」及び「教職インターンシップ」とも関連する教職実践専攻の特徴的な科目である。授業は、「教育総合科目Ⅰ」と「教育総合科目Ⅱ」を2年間継続して受講するようにカリキュラムが編成されている。前期では、音楽科の教員として求められる歌唱力や伴奏力及びギター、和楽器の知識など、音楽科教員としての専門的力量を高めることを中心に授業を展開した。　また、後期では今日の教育課題の把握、面接や集団討論への対応の在り方等について授業を進めた。とりわけ、学生一人ひとりの資質能力を伸ばすことを目的に、個に応じた指導を心がけ、特に面接や集団討論については、ⅠとⅡを分けて実施するなど、より授業効果が高まるよう工夫を凝らして実施した。終盤には、インターンシップの報告会のための準備を行い、最終回では、ひとり一人が今年度を総括するプレゼンテーションを公開形式で行った。

●　問題点

授業については必ずしもシラバス通りには進行できなかったが、科目の特性上、多少の変更はやむを得ないと考える。一方、評価方向についてはシラバスに明示してはあるが、学生にとってはわかりにくい点があったようである。また、教職実践専攻としての学修を深めるにつれ、このまま教職の道に進んでよいのかどうかについて悩む学生もいたようである。

●　改善の方策

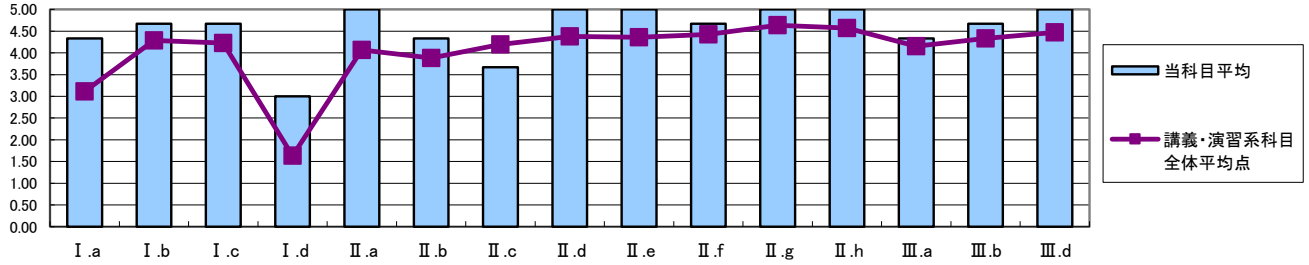
評価方法については、年度当初にシラバスを活用してわかりやすく説明する。「教育総合科目Ⅰ・Ⅱ」については、これまで同様、音楽科の教員としての資質力量を高めることを目標に、今後もこの方針で進めていく。後期は、教員採用試験の傾向と対策をふまえ、集団討論や教育論作文対策にも力を入れていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	教育総合科目(教職実践)ⅡB	職名	03. 特任教授	履修者数	4
教員名	粕谷　宏美			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 33.3 / 3: 66.7 / 2: 0.0 / 1: 66.7	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、教員として求められる資質能力を総合的に身に付けるための科目であり、教職実践専攻の学生が履修する科目である。また、本科目は、「教職特講」及び「教職インターンシップ」とも関連する教職実践専攻の特徴的な科目である。授業は、「教育総合科目Ⅰ」と「教育総合科目Ⅱ」を2年間継続して受講するようにカリキュラムが編成されている。前期では、音楽科の教員として求められる歌唱力や伴奏力及びギター、和楽器の知識など、音楽科教員としての専門的力量を高めることを中心に授業を展開した。　また、後期では今日の教育課題の把握、面接や集団討論への対応の在り方等について授業を進めた。とりわけ、学生一人ひとりの資質能力を伸ばすことを目的に、個に応じた指導を心がけ、特に面接や集団討論については、ⅠとⅡを分けて実施するなど、より授業効果が高まるよう工夫を凝らして実施した。終盤には、インターンシップの報告会のための準備を行い、最終回では、ひとり一人が今年度を総括するプレゼンテーションを公開形式で行った。

●　問題点

「教育総合科目Ⅲ」については、半年、1年後に控えた教員採用試験を見据えて、学生の学びに対する目的意識が明確でモチベーションの高さがうかがえた。一方、教員採用試験合格に向けて時宜にあった内容及びテーマを工夫して、各自治体の教員採用試験の実態に即した演習や場面指導を取り入れていく必要がある。

●　改善の方策

教員採用試験に向けて、教職特講、教職インターンシップとの連動を図り一体的に授業を展開していく。また、必要に応じて集中授業を取り入れ、理解力を深めていく。特に「教育総合科目Ⅲ」については、教員採用試験の傾向と対策をふまえ、集団討論や教育論作文対策に一層の充実を図っていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

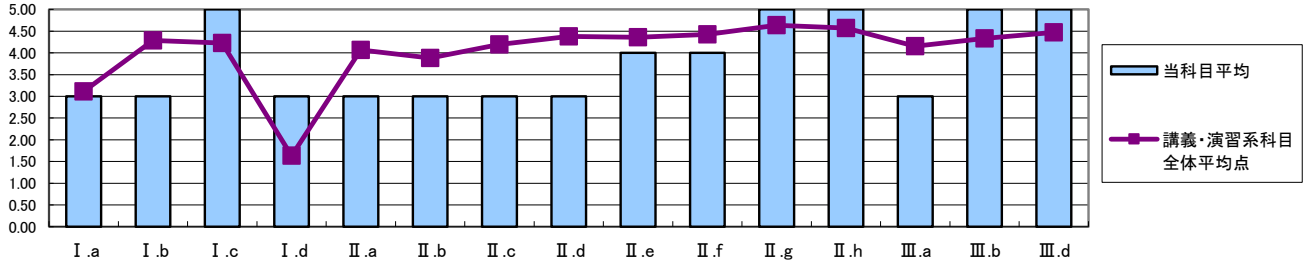
科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕g
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 100.0
			3: 100.0	2: 100.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

室内楽の授業は、音楽を演奏する者にとって、室内楽がいかに大事であるか知って頂く事を、まずは目的にしたいと思っています。アンケート結果は、学生の皆さん室内楽授業に対して少し消極的な感じです。それがいろいろな設問に対しての答えにあらわれています。特に予習・復習時間が少ない点は当科目平均だけではなく、全体平均でも少ないという共通点があります。しかしながら、新しい知識や技能を知ったとか、授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたという答えも頂きました。もう少し受講者数が増えて、積極性が増すと良いのですが。

●　問題点

室内楽の重要性が、まだまだ理解されていないようです。従って、その為の予習・復習にあてる時間も短くなってしまうようです。

●　改善の方策

問題点を改善していく為に、まず室内楽が「いかに大事か。」という事をお話ししてから、室内楽（アンサンブル）を楽しく演奏する為に必要な要素を、実際に演奏しながら説明を加えて進めてみます。今までもそうしていましたが、より細かくやってみたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

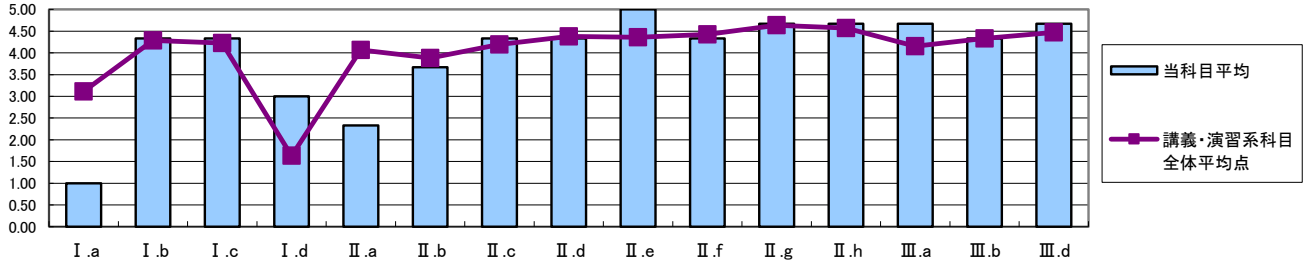
科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕g
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	2.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 66.7 / 3: 66.7 / 2: 66.7 / 1: 33.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

アンケート結果からは、シラバスとは違っていたように思われてしまった感がありました。後期室内楽は弦楽器と異種楽器とのアンサンブルですから、楽器が出揃わないと曲が決まりません。また、授業の難易度について、適切と思ってくださった方が多かったようですが、大変難しかったと感じた人もいました。あと設問に対しては、皆様順当に思われたようです。

●　問題点

教材である曲決めに時間がかかってしまう学生がいました。室内楽をただ難しいと感じてしまう学生がいました。

●　改善の方策

曲目を決める時のアドバイスを出来るだけいろいろな角度から出してみます。作曲された年代や作曲家の国による特長を説明する。アンサンブルで音楽を作っていく過程がいかに面白いか、分かるように説明していく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

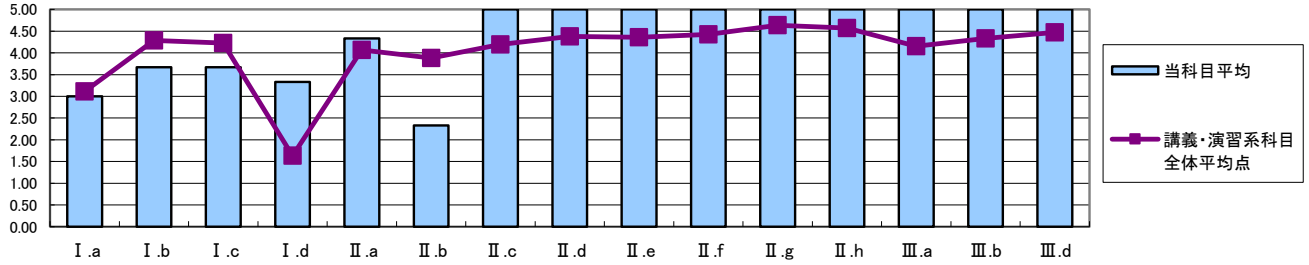
科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕g
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7 / 4: 0.0 / 3: 66.7 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

室内楽を難しいと感じてしまった学生がいたようです。また、その為か少し消極的な様子も伺えました。その他は皆さん、順当に思ったようです。

●　問題点

室内楽をただ難しいと思ってしまうのは問題です。また、その影響から、授業に対する積極性がそがれてしまうのはもったいない。

●　改善の方策

室内楽は作曲家が特に密度の高い音楽を書いている場合が多い。音楽をコミュニケーションしながら作っていく過程が面白いと思います。その為にはいろいろなコミュニケーションを音楽でする為、幅広い技術を知る事が大事です。音楽と技術の結びつきを分かりやすく説明する事を徹底的にやってみます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

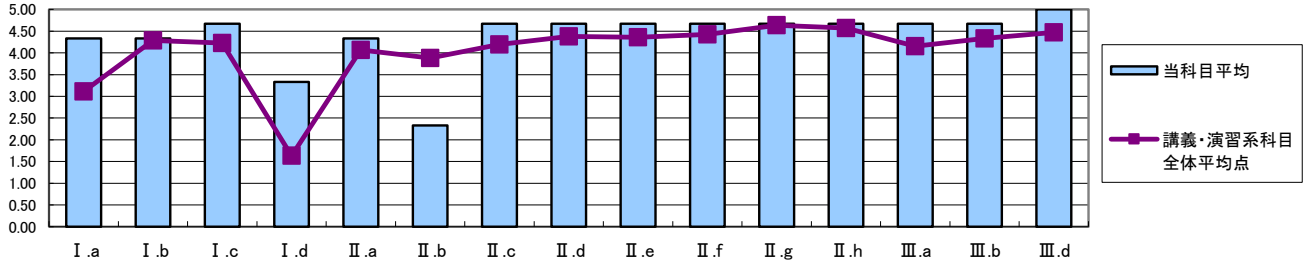
科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕g
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

ほとんどの設問に対して、全体平均以上で順当でしたが唯一難易度が高いと感じた学生がいました。しかし、授業に対しては積極的で、意義があったと思われたようです。「カルテットやピアノトリオなどを弾く事が出来て、勉強になりました。」という声も聞かれました

●　問題点

室内楽がただただ難しいと思われてしまったとしたら、大変残念です。

●　改善の方策

室内楽をする為には何が必要か。それを知ってもらう事を第1にしたいと思います。それはソロをする時も、オーケストラを弾くときも必ず関係します。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

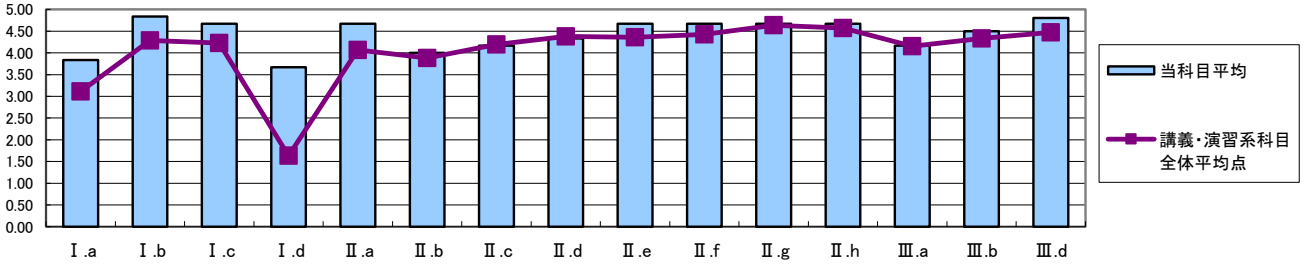
科目名	音楽科教育法Ba
教員名	西田　康子

職名	03. 特任教授

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.67	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 50.0 / 3: 16.7 / 2: 16.7 / 1: 16.7
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽科教育法の授業内容は、小学校、中学校高等学校の音楽教員を目指す者として必要とされる実践力を身につけるべき知識や技能を習得する科目である。　ここでは指導の根幹である学習指導要領の基礎的な理論や発達段階における学習の目的と指導内容を系統立てた指導方法を学ぶことが重要であると考えている。今年度は２０２１年に中学校新学習指導要領で全面実施されるので、ざっと、改訂の背景と基本的な考え方を理解させ、ポイントを理解させた→資質・能力の3つの視点として、（1）　生きて働く「知識・技能」・・・その授業学んだ知識・技能はその授業で終わりではなく、その後の学習や生活で生きて働くものだということ（2）　「思考力・判断力・表現力」・・・考える力・的確に判断する力を的確に相手に伝えていく力が音楽学習でも重要（3）　「学びに向かう力、人間性等」・・・関心・意欲・態度に該当する情意面や態度に関わるもの、音楽科の目標にある「音楽に対する感性」、「音楽に親しむ態度」も含まれる。※今までの学習指導要領は、この教材曲で「何を教えるか」が示されていたが、新学習指導要領では、子供たちにとって「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を表すものだということを理解していった。たとえば従来の学習指導要領での指導事項は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞すること」で示されていた。が、繰り返しになるが「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を基本として理解。テキストの（P140）図形を参照しながら進めた。また、一方的な講義形式にならないように、下記のように実施。① 教科書が変わるので⇒目次、曲目等に着目してグループごとにテーマに沿って話し合い、互いに考えを発表しあいまとめた。初期段階としてアクテイブラーニング的な手法を取り入れての授業を行うことを目的として実施してきた。② 目的と指導内容、弾き歌い演奏会、グループ１５分模擬授業実践、個別３０分模擬授業実践、研究協議会形式の発表形式実施。２０２１年には完全実施で教育課程が実施されるので、この段階で育成を目指す資質や能力を整理して理解させた。また技能面での初歩段階をマスターするために、ソプラノ・アルトリコーダーの奏法、箏の初歩奏法、などを高校生との（附属高校、第二高校生）授業見学と併せて実施。③ デジタル教科書を活用した、生徒にとっても教師側にとっても楽しい授業づくりと効果的な進め方を実践した。リコーダーの練習では、楽譜と音の連動、運指の連動も示されて、子供一人一人を把握することができること、創作の時間では、動くコンテンツがあるので、画用紙や磁石等の教具づくりが省けることを理解させた。和楽器では期では、動画を簡単に呼び出して再生できるので、DVD等の準備時間確保といったサポート面でも利点があること。④ 授業のどのタイミングでデジタル教科書を活用すれば、子供たちの音楽学習が効果的になるのか心がけながら実施。⑤ 学生たちにとって、より豊かな表現づくり、広がりと深まりのある授業づくりにつながっていくように行った。

●　問題点

免許取得だけを目的としている学生が多いのが現状である。全体的に真面目で課題目的のためには努力しようとする雰囲気を感じた。２年次から教職を目指している学生と免許取得だけを目的としている学生の中で、課題に対する学習態度や学習意欲の差が多少感じられたこともある。学習意欲や資質・能力等や、学生同士の集合した間関係から生じることも若干影響なのかな？と感じることもあったどの学生も模擬授業に対する意気込みを感じ、アイデアが豊富で、すばらしい授業展開を考える学生が多かったので頼もしい限りである。２限、３限での人数の偏りはしかたがないのかな。A・Bの授業内容においても９０分授業の、導入→展開→まとめ→振り返りを工夫しながら実施していった。

●　改善の方策

上記にも述べたが、２０２１年には完全実施で教育課程が実施されるので、学習指導要領におけるこの段階で育成を目指す資質や能力を整理して理解させていくことがこの時間のキーワードだと感じる。デジタル教科書を活用した授業づくりは、これから広がっていくので未来の子供たちのために、学生たちもより豊かな表現づくり、広がりと深まりのある授業づくりにつながっていければと考えている。子供たちにとって、「授業が楽しい」「音楽の出会いでこれからの社会の中で幸せな人生が送っていけるように」が必須であり、このことをモットーに学生たちが、さまざまな指導方法を研究して、どのような工夫をしていけばよいのか、曲や演奏の楽しさやよさを見いだせるようにしたらよいかを探究していただきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

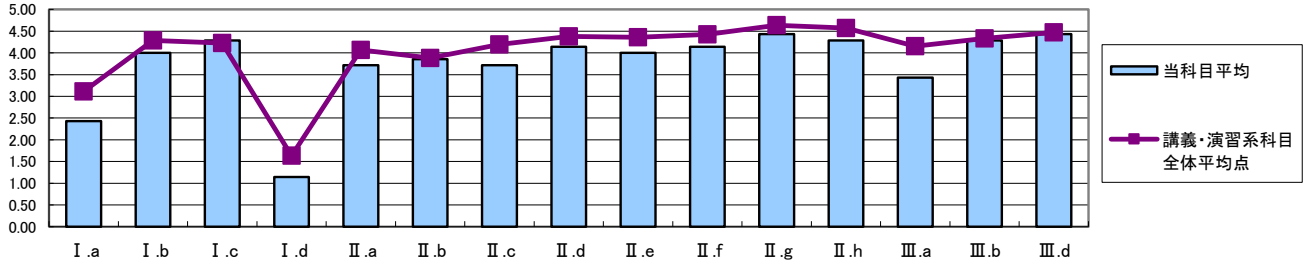
科目名	朗読法B(イタリア語)
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	9
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.43	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.71	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.71	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.14	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.29	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.43	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.7 / 4: 57.1 / 3: 71.4 / 2: 42.9 / 1: 14.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

朗読法B（イタリア語）は、前期のAC(ドイツ語)に引き続き、後期のみ毎週火曜の２限に開講している授業である。今年度は９名が履修し、うち７名がアンケートに回答している。今年度の履修者は前年までに比べ、能力・意欲にかなり大きな個人差があり、このことがアンケートの集計結果に大きく影響していると考える。しかしながら大多数の履修者は、大きな学習成果を感じており、自由記述欄も踏まえると、総じて良好であると考察する。

●　問題点

留学生や社会人履修者が増えていく中、全員が同じように意欲的に履修出来るような環境づくりは、今後の課題である。

●　改善の方策

能力に応じて課題を分ける方策を考慮中である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

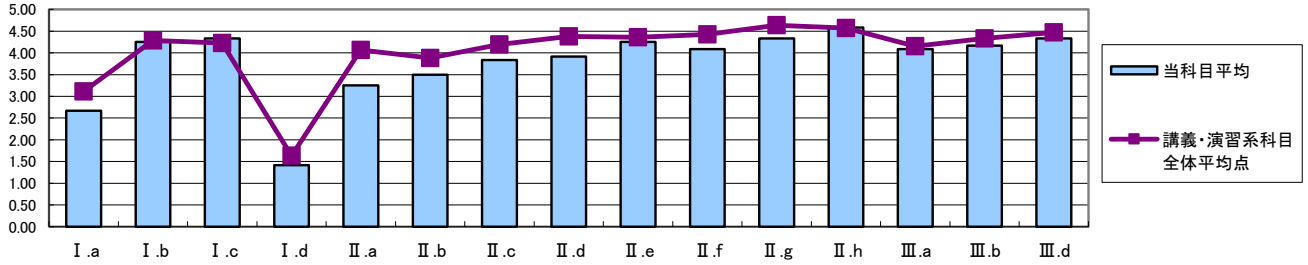
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	18
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.42	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.92	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.08	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.58	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.08	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 63.6	4: 36.4
			3: 27.3	2: 36.4
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１年次のソルフェージュ２の成績に基づき、再編成してa、bの２クラスに分けた上位のクラスで、履修人数は１８名である。授業時間は月曜日２限の週１コマ９０分である。聴音、弾き歌い、新曲視唱（３a）、リズム打ち（４a）を中心に授業を進めた。試験は授業で扱った上記項目に準拠して行った。aクラスとはいえ他の学年と比較すると、同じ課題でもやや難度が高かったようで、こなすのが追いつかない者が多かった。そのため、今ある力やモチベーションを落とさないことを前提とした。

●　問題点

この人数でも個々の能力や意識にかなりの差があり、各課題の体得を個人レベルで徹底させるのには、不得手な部分を繰り返し練習し、生徒の反応を見ながらその学生に適合した積み重ねを行うことが一番有効であるが、それには１８名では多すぎて、薄く広くの指導や結果はやはりまぬがれず、思ったような成果が出なかった。徹底するためには出来るだけ少人数の方が良いが、現状ではそれは難しいのだろう。さらに、一つの課題を広範囲のレベルに適応させることも無理があり、出来具合や理解にもそれが影響し、計画通りとはいかなかった。皆で声を出して歌う事はそれほど支障がないのだが、リズム打ちや特に聴音ではその差は大きく、問題に因っては集中力を欠いてしまう。ある課題が易しすぎてすぐ出来てしまう学生は時間を持て余し、全体の足並みが揃いにくかった。このクラスサイズで一つの課題を全ての学生に合うものとするのは作成も不可能である。課題が全員の能力に合うように十分配慮をして、出来る限り多様なレベルのことを行ったつもりではあるが、それでもやはり限界があった。

●　改善の方策

クラスを分ける意味を考えれば中途半端ではなく根拠に基づいて学生の利益を前提とするのが理想である。しかしながら、時間のロスとならないためにも、現状に合わせるには、各人にあった適切なアドバイスが出来るように、表面的ではなくもっと踏み込んだコミュニケーションを普段から心がけ、さらに日々の積み重ねが必要であること、また授業以外でも訓練を継続するように指導を適切に行いたい。時間的制約の中できめの細かい指導で対応するよう心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

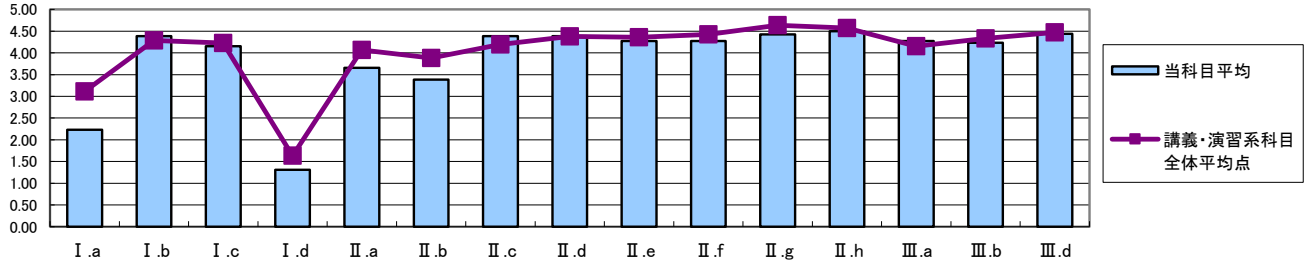
科目名	ソルフェージュ2a
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	30
回答者数	26

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.23	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.15	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.31	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.65	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.38	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.38	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.27	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.27	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.42	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.27	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.23	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.5	4: 11.5
			3: 30.8	2: 23.1
			1: 3.8	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

１年生を対象に入学式前にクラス分けの為の聴音による実力チェックを行い、２クラスに分けた、上のクラスである。履修者は３０名であった。授業時間は月曜日３限の週１コマ９０分である。聴音、弾き歌い、新曲視唱（１a）、リズム打ち（２a）を中心に授業を進めた。試験は授業で扱った上記項目に準拠して行った。課題に取り組む強い意欲は見られた。新曲視唱、弾き歌い等で旋律やハーモニーが流れの中でどのように音楽に結び付けられるかの理解や体感がまだ不十分で、例年aクラスに見られるのだが点数の高さと音楽的であるのとを混同してしまう傾向がある。アンケート項目のいくつかについては全体の平均点より低かった。

●　問題点

aクラスは毎年授業に積極的に取り組む学生が多く、活気に富み、雰囲気も良く授業をやりやすくしているが、それでも３０名というクラスサイズは大き過ぎる。aクラスであってもクラス内での学生の能力の差があり過ぎて、このクラスサイズは学生個々の能力を高めるには不適切である。その差がモチベーションの低下を学生に与えかねない。アンケートの結果に表れている、シラバスの活用やあり方、授業のテーマに「そう思わない」「全くそう思わない」という評価が出ている一因はそこにもあると思われる。また、扱う課題の共通性がなくなってしまい指導目的が一様に等しく遂行出来ない。繰り返しや積み重ねがまだ必要な学生と、鍛えればもっと伸びる学生が混在しており、個々の能力を授業時間内だけで高めることが出来ないのが大きな問題点であった。

●　改善の方策

同一クラス内で学生の能力のバラツキが大きいと、同じ課題でも難し過ぎてついて行けない者、簡単すぎて意欲が下がってしまう者と差が出てしまうため、授業内容はシラバスを正確に反映出来ず、授業の組み立て、教材の見直しの必要がある。その解消に効果があるのは、同じ能力の者を出来る限りOne to Oneに近いクラスサイズにすることである。そして、その上に音楽の習得のための日々の努力とその積み重ねる時間を、十分に行われなければならないが、限られた環境と時間の中での上達は困難を伴うため、指導やアドバイスを工夫し、授業がきっかけとなって個々に合った方法を考えたい。また授業のあり方や指針を検討する教員同士の場を設けることも必要である。多くの意見を持ち寄る事により独りよがりにならないより良い授業を展開させることが肝心である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

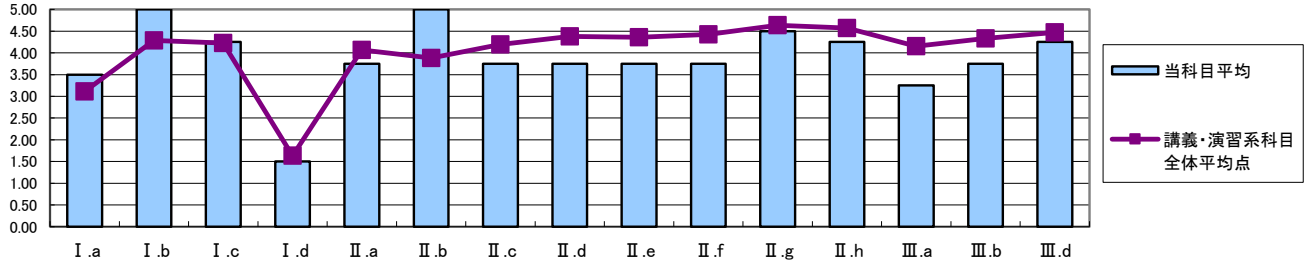
科目名	楽器の特性と機能(教職実践)
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.75	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.25	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.25	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.75	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 75.0 / 3: 25.0 / 2: 25.0 / 1: 0.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.25	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の専門の講師を招いて、演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。将来教員を目指す教職実践専攻の学生が対象なので、学ぶ意識が高く、中身の濃い授業になっている。各講師には、将来吹奏楽部指導を行うことを前提として、楽器解説に加えて、移調楽器、スコアリーディング等も交えながら授業を進めてもらった。学生のこの授業に対する満足度は高いと思われる。教職実践専攻以外の教職課程履修学生には、将来の吹奏楽部指導のため、単位は取得できないが聴講を勧めている。

●　問題点

アンケート結果を見る限り回答は4と5に集中しているため、学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。15名程の教員が関わるため、アンケート結果は担当教員に対するものではなく、授業全体の評価となる。　設問Ⅱ－aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。今年度休講はなかったが、設問Ⅲ－h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないので、評価はレポート100％となる。全ての楽器についてレポートを提出させるので、レポートの分量が必然的に多くなってしまう。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。研究員使用の許可を取り、担当講師が授業を出来ない場合は、担当講師から指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。実際の吹奏楽コンクールがどのようなものか理解させるため、コンクールの映像を見せたかったが、今年度は時間が取れなかった。

●　改善の方策

レポートをしっかり提出させるよう指導を徹底したい。各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

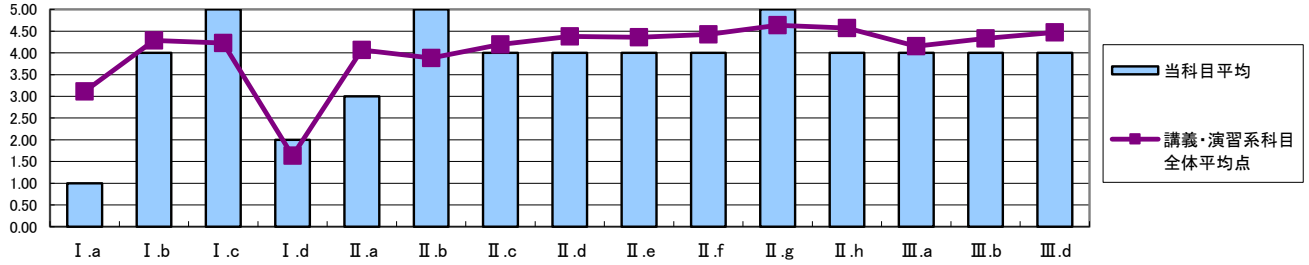
科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕a
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 100.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

木管楽器を専攻する学生を対象とした異種楽器による室内楽授業である。木管五重奏等、学生側でアンサンブルを編成しての履修も認めている。ファゴットとホルンは履修学生がいなかったため研究員と聴講生に依頼した。学生は欠席も少なく、楽しく授業に参加していた。今年度室内楽Ⅱを履修した学生は1名であった。専門性が高くなるので、副科の学生の履修はなかった。

●　問題点

グラフを見る限り、学年により受け止め方や授業に対する満足度が異なるようであるが、学生の意識、教員との信頼関係は良好と思われる。履修学生の専攻楽器にばらつきがあるので、グループ分けが困難である。今年度は履修学生が少なかったため、設問Ⅱ - ｆはやむを得ない結果である。木管楽器は3クラス（サックスの同族楽器アンサンブルを含む）、金管楽器は2クラス及び打楽器アンサンブルと弦楽アンサンブルの6クラスに分かれて授業を行っている関係上、グラフの結果は、本授業（室内楽Ⅱ木管a）だけに対する評価ではないため、アンケート結果の評価判断が難しい。　シラバス作成時には履修学生の把握ができないため、必ずしもシラバス通りには授業を進められない。期末に他の室内楽クラスと合同の発表会を学内のホールにて開催した。

●　改善の方策

グループ分けに工夫が必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

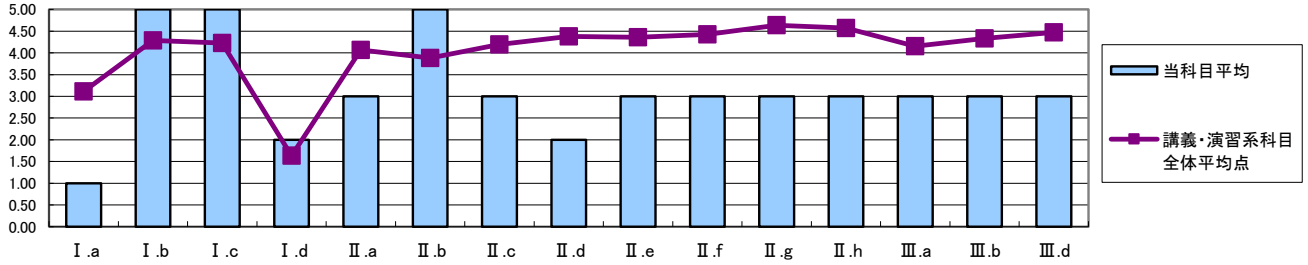
科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕a
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	2.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5 / 4 / 3 / 2 / 1	
			－ / － / － / － / －	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.00	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

木管楽器を専攻する学生を対象とした異種楽器による室内楽授業である。木管五重奏等、学生側でアンサンブルを編成しての履修も認めている。ファゴットとホルンは履修学生がいなかったため研究員と聴講生に依頼した。学生は欠席も少なく、楽しく授業に参加していた。今年度室内楽Ⅲを履修した学生は1名であった。専門性が高くなるので、副科の学生の履修はなかった。

●　問題点

グラフを見る限り、学年により受け止め方や授業に対する満足度が異なるようであるが、学生の意識、教員との信頼関係は良好と思われる。履修学生の専攻楽器にばらつきがあるので、グループ分けが困難である。今年度は履修学生が少なかったため、設問Ⅱ－ｆはやむを得ない結果である。木管楽器は3クラス（サックスの同族楽器アンサンブルを含む）、金管楽器は2クラス及び打楽器アンサンブルと弦楽アンサンブルの6クラスに分かれて授業を行っている関係上、グラフの結果は、本授業（室内楽Ⅲ木管a）だけに対する評価ではないため、アンケート結果の評価判断が難しい。　シラバス作成時には履修学生の把握ができないため、必ずしもシラバス通りには授業を進められない。期末に他の室内楽クラスと合同の発表会を学内のホールにて開催した。

●　改善の方策

グループ分けに工夫が必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

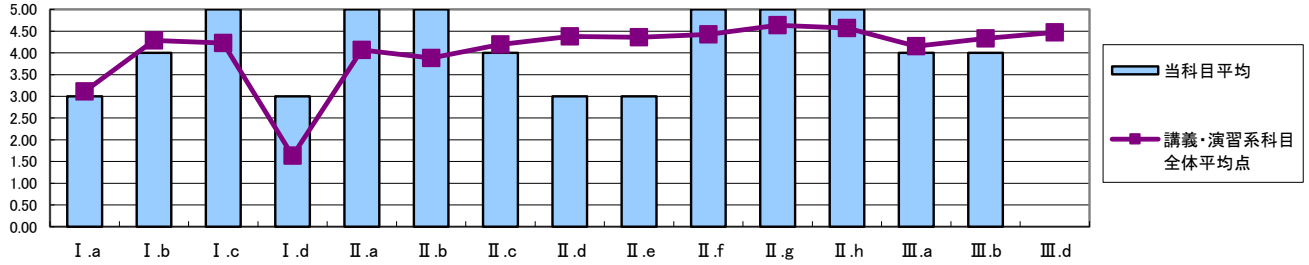
科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕a
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.0 / 4: 100.0 / 3: 0.0 / 2: 100.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

木管楽器を専攻する学生を対象とした異種楽器による室内楽授業である。木管五重奏等、学生側でアンサンブルを編成しての履修も認めている。ファゴットとホルンは履修学生がいなかったため研究員と聴講生に依頼した。学生は欠席も少なく、楽しく授業に参加していた。今年度室内楽Ⅳを履修した学生は1名であった。専門性が高くなるので、副科の学生の履修はなかった。

●　問題点

グラフを見る限り、学年により受け止め方や授業に対する満足度が異なるようであるが、学生の意識、教員との信頼関係は良好と思われる。履修学生の専攻楽器にばらつきがあるので、グループ分けが困難である。今年度は履修学生が少なかったため、設問Ⅱ－ｆはやむを得ない結果である。木管楽器は3クラス（サックスの同族楽器アンサンブルを含む）、金管楽器は2クラス及び打楽器アンサンブルと弦楽アンサンブルの6クラスに分かれて授業を行っている関係上、グラフの結果は、本授業（室内楽Ⅳ木管a）だけに対する評価ではないため、アンケート結果の評価判断が難しい。　シラバス作成時には履修学生の把握ができないため、必ずしもシラバス通りには授業を進められない。期末に他の室内楽クラスと合同の発表会を学内のホールにて開催した。

●　改善の方策

グループ分けに工夫が必要。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

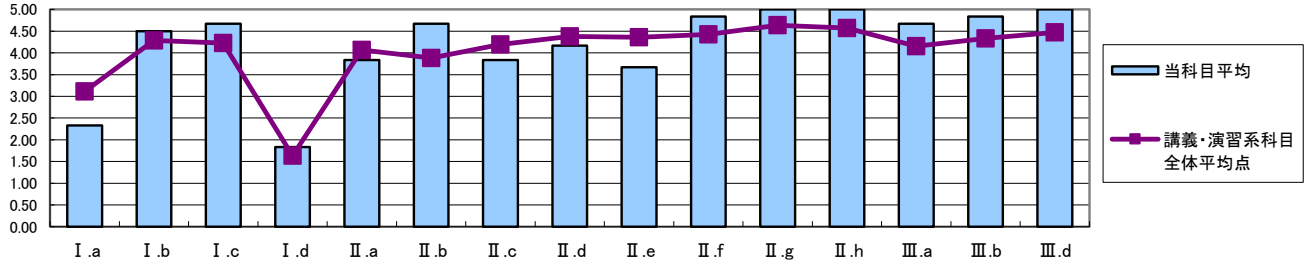
科目名	教材伴奏法ⅠBb
教員名	平田　紀子

職名	06. 専任講師

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.83	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.83	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.0 / 4: 40.0 / 3: 20.0 / 2: 40.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講姿勢は大変良好で、各自のピアノに合わせて皆が積極的に歌唱するスタイルが保たれている。また、コードネームを見ながら自分で伴奏を付ける授業では、得意分野として新たな自己の気づきができた学生もみられ、興味と関心を持って取り組んでいた。　アンケートの結果も、出席率良好（平均点4,28）、取り組み（同4,23）、到達達成（同4,33）、「意義のある授業」（同4,47）に示されている。また「教員の熱意や工夫」は4,57点を得られた。

●　問題点

「予習・復習に時間を取ったか」に関しては平均点が1,63と低いものだった。少人数の授業だったので、授業時に曲をさらう学生もいたと思われる。学生同士それぞれの課題に対して助け合う場面も見られ、試験結果も良好で、それ以外の問題点はみられなかった。

●　改善の方策

引き続き内容を充実していく。課題を明確に示し、予習・復習を促す。　コードネームの知識を身につけ自分で考えて伴奏する時間は、各自の技術にあわせながら次年度も充実させたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

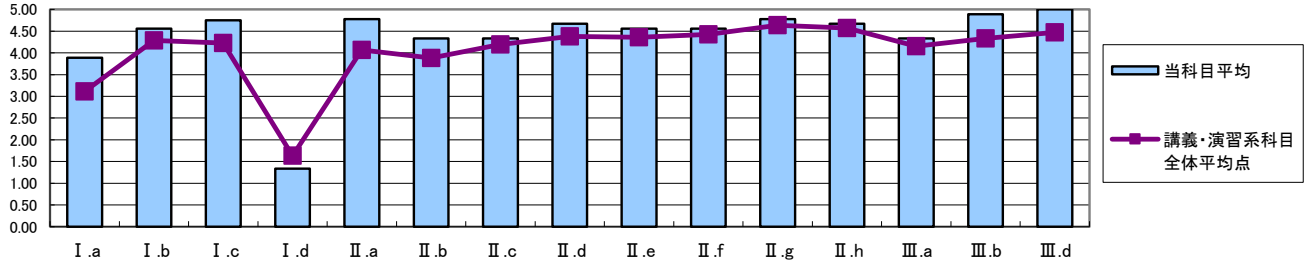
科目名	音楽療法的音楽論
教員名	平田　紀子

職名	06. 専任講師

履修者数	13
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.89	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.56	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.78	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.56	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.89	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.9	4: 44.4
			3: 66.7	2: 22.2
			1: 11.1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽療法専攻の必修科目(他専攻も受講可)で、今年度は専攻生に加え声楽専攻（社会人2名を含む）から受講があった。各専攻の演奏・創作や介護実習に活かせる内容なので、多くの学生に履修してもらうことは望ましい。アンケートの結果から「熱意を持って積極的に取り組んだ」（平均点4,23）の回答がみられた。授業内容に関しては「教科書や資料は効果的」（平均点4,38）、「授業に対する教員の熱意や工夫」（同4,57）、「学習意欲を刺激し興味深い」（同4,33）を得ることができた。「総合的に意義のある授業だった」に関しては4,47点で、学生の意識の高さと取り組みの姿勢を感じることができた。

●　問題点

受講姿勢は問題なく、年度末の試験も優良であった。今年度に関しては問題点はみられなかった。

●　改善の方策

引き続き内容を充実していく。他専攻にも実りのある授業を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

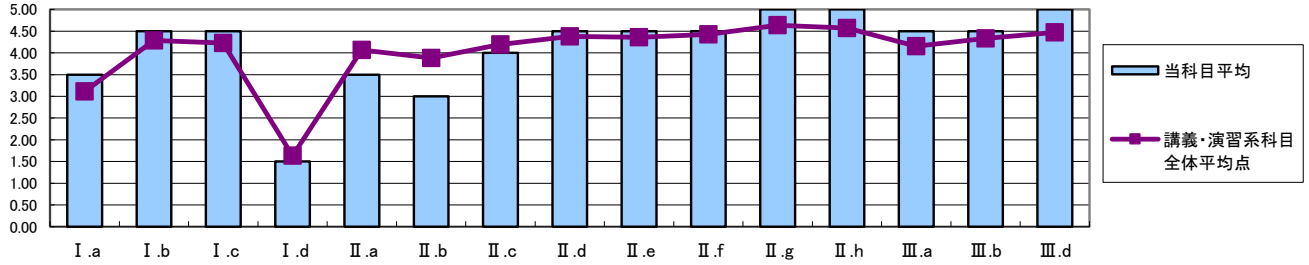
科目名	教材伴奏法ⅡB
教員名	小野瀬　照夫

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 50.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

学校現場に於いて、授業中の音楽の教師は歌唱であれ、器楽であれ、児童生徒の実技の伴奏をする。その際、教師はただ教科書などの楽譜に記載されたとおりの伴奏を弾くだけで良いか、児童生徒たちはその状態ですんなりと演奏できるかと言えば、答えはノーである。　児童生徒の年齢や、学習レベルに関係なく、教師が「演奏しやすい伴奏」を弾かないと演奏できないのが殆んどである。　では、どのような伴奏を弾けば児童生徒たちは演奏しやすいのだろうか…それをこの講座で取り組み、主たる内容として学べるようにしている。「教科伴奏法Ⅱ」であるので、Ⅰで履修した内容に更にレベルアップした内容を計画し、進めてきた。　講座の特性から、履修した学生は4人と少数であった。しかし、それを長所に捉え、毎回充実した内容のものになるよう計画し、実施したつもりである。前期は高校用の教科書から芸術歌曲という指定のもと一人1曲ずつ選択し、その学生の伴奏で残りの学生が歌い、それをもとにレクチュアする形態をとった。後期は義務教育の楽曲に範囲を定め、そこで取り上げられている曲を扱い、各曲「簡易伴奏」と「本来の伴奏」の両方を学生全員で互いに交代で弾き、歌ってみるようにした。また、教科書に伴奏譜が特に記載されてなく、コードネームのみの記載や特に伴奏譜のないものも扱い、それでも授業ができるようにするための実習もした。実際に学校現場で指導していると、そのような楽曲でも伴奏ができなければならない場面に必ず遭遇するはずだからである。この講座は水曜日の５限（17：40～19：10）という時間的にも、曜日的にも決して楽ではなかったと思われる。そのような状況の中、4人の学生（全員3年生で、うち3人はピアノ科で、一人は管楽器専攻）は、みな概ねよく努力し、目的意識をもって取り組んでいた。アンケート結果によると、難易度に関しては「やや難しい」に集中していたが、「教員の熱意や工夫が感じられた」にも集中していたので、教える側と教わる側の双方の努力が噛み合った状態で行うことができたのではないかと自負している。　アンケート最後には「新しい知識・技能」と「意義のあるものだった」にも集中していたので安堵はしているが、今後も更に実のある講座となれるよう努力したい。

●　問題点

この講座を持つのが初めてであったこともあり、シラバスの作成から模索状態で始めた。そのため、授業を進め学生たちと対話しながら方針の軌道修正をしつつ、取り組んでいた。アンケート結果では「シラバスに沿って行われていたか」に対して「そう思う」と「どちらともいえない」があった。1年間行ってみた経験をもとに、今後は修正の幅を最小限にして進められるようにしていきたい。

●　改善の方策

伴奏法Ⅱの講座は伴奏法Ⅰのあとに続くものなので、当然ながら伴奏法Ⅰのシラバスを把握したうえで計画をするべきである。また、Ⅱを履修する学生たちの現状・ニーズを踏まえて考え、進めていかなければならないと考える。目標はあくまでも教員採用試験に合格できること、そしてその前の教育実習における授業で良い伴奏が弾け、児童生徒たちに喜ばれ、指導教員に認められるようにすることであると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

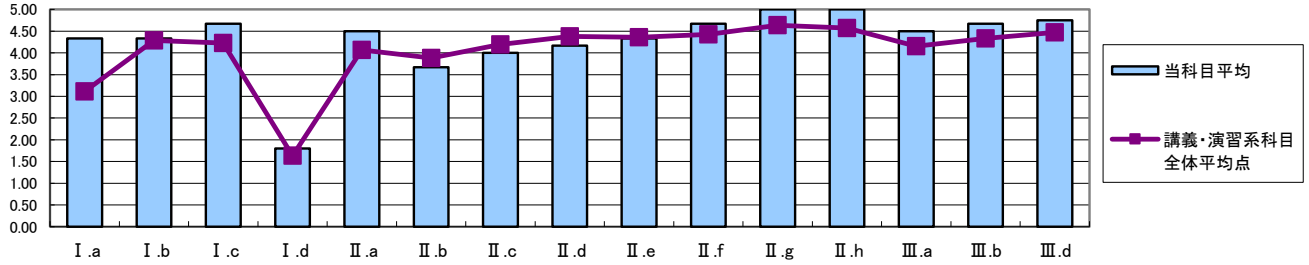
科目名	チェンバロ研究ＩＢ
教員名	梶山　希代

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.80	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.3	4: 50.0
			3: 100.0	2: 0.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度の履修者数は13名で、クラスサイズとしては適当。二年続きで設定されているこの授業の一年目では、主にチェンバロという楽器を多角的に取り上げることに重点を置き、実技面では奏法の導入程度にとどめる。2019年度は総じて履修者のレベルが高く、授業の到達目標もある程度達成できたと思う。また「シラバスを活用した」、「授業はシラバスに沿って行われた」という設問の回答が講義・演習系科目全体の平均を上回っているのも良い傾向。実技演習においても、授業回数を重ねる毎に履修者の積極性が増していったことが良い結果につながった。ムードメーカーとなる、意欲的な学生が履修者の中にいることも大きい。受け身の学生ばかりだと、授業の内容・雰囲気共に停滞する。

●　問題点

特に大きな問題はない。自由記述欄で「弾いていない時間をもう少し有効に使いたい」という記載があり、これについては工夫の必要があると感じた。10名前後のクラスであっても、毎回全員が楽器に触れることは難しい。むしろ人の演奏を聴いてあらためて気付くこともあり、率直に批評できる力をつけさせたい。

●　改善の方策

履修者の多くはチェンバロという楽器を弾いてみたい、という純粋な好奇心で授業を選択しているのだが、前述のように90分の授業内で一人が弾ける時間はかなり限られるし、一年目では実技に大きな重点を置いているわけではない。奏法の習熟を望む学生には「チェンバロ研究Ⅱ」を選択することを勧める。一年目では互いに批評し合う、ディスカッションすることでのコミュニケーション能力の重要性を理解させたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

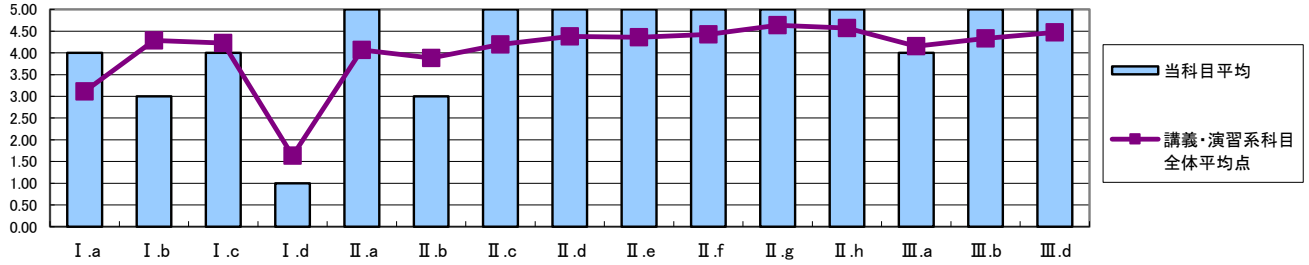
科目名	チェンバロ研究ⅡB
教員名	梶山　希代

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 100.0 / 3: 100.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度の履修者は一名だったため、ほぼ個人レッスン。二年目の授業では実技演習の比重が増し、奏法に関してもより実践的な内容となる。2019年度の履修者に限って言えば非常に優秀で、アンサンブル実習においても質の高い授業になった。授業内容についての設問も、概ね平均を上回る高評価となった。

●　問題点

現状では大きな問題は見受けられない。近年の傾向として学生全体数の減少と、この授業がピアノ専攻学生のみが履修できる選択科目であるため二年目のクラスはより受講者が少なく、受講者がいないため開講されない年もある。以前に比べて学生の質や意識も変化していて、少人数のクラスでは特に教員と学生の感覚のズレが大きくなると、授業の進め方や方向性も変更せざるを得ないとは感じている。

●　改善の方策

毎年、学生のレベルや意識に差があるため有効な改善策は難しく、授業の進捗に合わせて臨機応変に対応していくしかない。少人数クラスだからこそ、それが可能となる。自由記述欄には、今回も「ピアノ科以外にも履修できるようにすべきであると感じた」という記載があり、管・弦楽器専攻の履修者がいると、アンサンブル実習もより内容の幅が広がる。履修者の参加度にも左右されるが、少なくともピアノ専攻の学生だけよりは授業の質・内容共に活性化はするだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

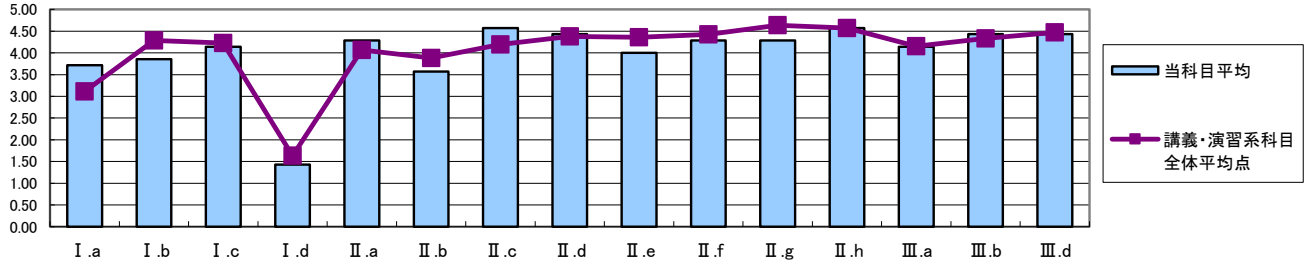
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.86	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.14	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.43	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.29	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.29	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 28.6
			3: 0.0	2: 28.6
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　2018年度に他の教員が担当していたソルフェージュ2bクラスの受講生をほぼそのまま引き継いだクラス。2018年度の授業内容の詳細は不明なため、2017年度に筆者が担当した同科目・同グレードのクラス（2016年度から筆者が二年間通して担当したクラス）の授業内容を参考にシラバスを作成して授業を進めた。ほとんどの受講生は筆者が2018年度の「音楽の基礎理論」で担当した受講生であり、その点でコミュニケーションは取り易かったと思うが、授業内容に関しては、おそらく2018年度に他の教員が担当していたソルフェージュ2bの授業からの一貫性やソルフェージュの授業としての計画性に欠け、充分な効果を上げられなかった面があると思う。集計結果の分析：　履修者8名という小クラスのため、否定的な回答をする受講生が1名でもいると評価が下がってしまう感があるが、前述の2017年度に筆者が担当し、ほぼ同じ内容で授業を進めた同科目・同グレードのクラス（2016年度から筆者が二年間通して担当したクラス）の評価に比べて全体的に低迷している。特に、設問Ⅰの領域に関して、出席率があまり良くなかったこと、設問Ⅱの領域に関して、授業内容の難易度を難しいと感じた受講生が半数いたこと、等に問題を感じる。設問Ⅲの領域に関しては、この授業でためになったこととして、新しい知識・技能を全員が挙げており、ほとんどの受講生が達成感や学習意欲も感じてくれたようであるので、授業の意義はあったのではないかと思う。

●　問題点

出席状況があまり良くなかった点と絡んで、授業に対する取り組みの積極性を充分に引き出せなかった点。全体的に見て、授業内容が受講生の理解度に適合していなかった点。

●　改善の方策

この科目で出席状況が悪くなるのは例年の傾向であり、担当教員個人の力量を超えた何らかの問題があるのではないかと思うが、今年度は中途落伍者が出なかったことが幸いである。出席不良者に対しては早めの対処を心掛けて行きたい。授業に対する取り組みの積極性を引き出すことや、授業内容を受講生の理解度に適合させていくこと等は、ソルフェージュのクラス授業を担当する教員にとっての宿命的な問題であると思う。本校のソルフェージュの授業体系から考えて、ソルフェージュも一人の教員が一つのクラスを二年間通して指導していく形（計画性・一貫性のある授業内容を、受講生の理解度・成長度合いに合わせて調整しながら授業を進める形）にすることが、これらの問題の改善につながって行くと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

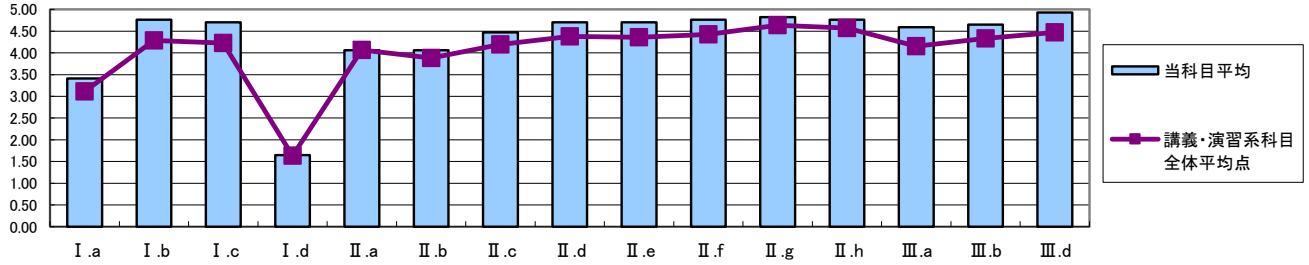
科目名	ソルフェージュ2b
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	19
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.41	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.76	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.65	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.06	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.06	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.47	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.76	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.76	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.59	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.65	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 82.4 / 4: 23.5 / 3: 41.2 / 2: 23.5 / 1: 5.9	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　年度初めのクラス分けテストで、点数の高い方からa.bの2クラスに分けた内のbクラス。ほとんどがソルフェージュを初めて学ぶ受講生であったため、特に前期の期間中は、基礎的な内容を丁寧に分かり易く解説しながら授業を進めることを心掛けた。後期には、前期aクラスからの移動者数名を加えたため、受講生の全体の理解度を測りながら、授業内容の難易度を広げることを考えつつ授業を進めた。素直で熱心な受講生が多く、授業の進め易いクラスであった。集計結果の分析：　ほぼ良好な回答を頂けていると思うが、設問Ⅱ-bに関して考慮すべき点があるように思う。また設問Ⅲ-cの回答に関しては、新しい知識・技能だけでなく問題発見・解決能力や関連分野の学習意欲を挙げた受講生も多く、積極的な学びの意識を持った受講生が多かったことを改めて感じた。

●　問題点

授業の難易度が、（大部分の受講生にとっては適切に感じられたようではあるが、）一部の受講生にとっては難しすぎたり、逆に易しすぎたりと、評価の開きが大きかった点。

●　改善の方策

設問Ⅲへの回答を見ると、ほとんどの受講生がこの授業に学習意欲を覚え、到達目標に達したと感じているようであり、上述の問題も大きなものではなかったようにも思うが、ソルフェージュは授業数も多く、扱う内容も幅広い科目であるので、受講生の理解度に応じて授業内容とその難易度を色々にフォーカスする工夫を、今後も続けて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

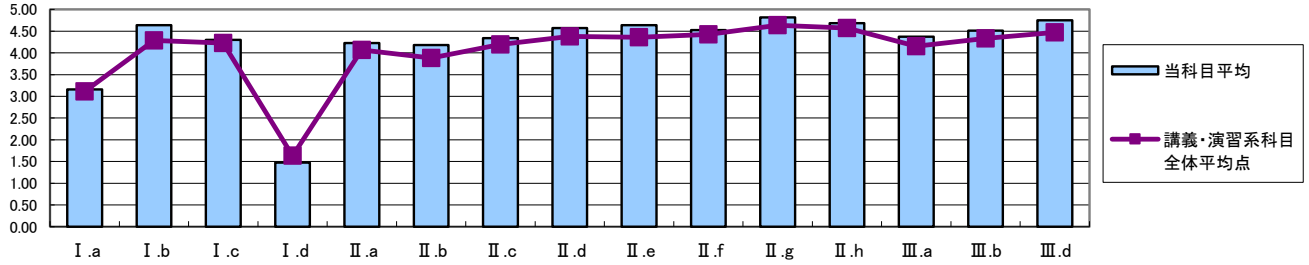
科目名	音楽の基礎理論Bb
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	48
回答者数	44

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.16	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.30	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.48	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.18	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.34	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.64	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.52	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.68	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.37	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.51	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.7	4: 16.3
			3: 30.2	2: 18.6
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　この科目は従来2つのグレードに分けて行われていたが、2019年度は日本人学生と留学生の2つのクラスに分けて行うこととなった。このBbクラスは日本人学生全員48名の受講生からなるクラス。受講人数が多いこと、受講生の理解度の幅が大きいこと、授業時間が短いこと（1コマ50分）等、色々な問題点への対処のため、授業内容や授業の進め方等、色々な工夫を必要とされる状況であった。一年間のカリキュラムを無事終えることができたのは、受講生達の協力的な受講態度のおかげも大きかったと思う。集計結果の分析：　全体的に、ほぼ良好な回答を頂けていると思う。やはり授業の難易度に対する回答に幅がある点に、受講生の理解度の幅が大きかったことが反映していると思う。設問Ⅲ-cに関しては、新しい知識・技能や問題発見・解決能力だけでなく、関連分野の学習意欲がもっと高まって欲しかったと思う。

●　問題点

①受講人数が多く、受講生の理解度の幅が大きい点。②授業時間が短い点。

●　改善の方策

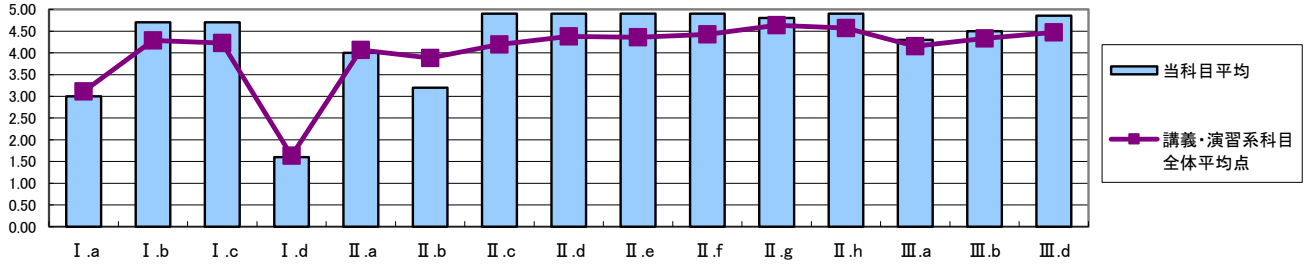
両方の問題とも事前に感知されたものであるが、問題点①に関しては、この科目では必ずしもマイナスに働く要因ではなかったように思われる。楽典の理解が進んでいる受講生達には、他の科目（ソルフェージュ・音楽史・和声学・楽式論等）とのリンクを示唆して楽典の広がりを知ってもらう方向で、また楽典の理解があまり進んでいない受講生達には楽典の基礎を固めてもらう方向で対処していくことで、授業の構造を複層的にすることは、どちらのグループの受講生にもプラスの要因として働く面はあったと思われるので、今後もこの方向で授業内容の改善を図っていきたいと思う。問題②に関しては、多くの受講生への対応を充分に行うために、できれば授業時間を通常の授業時間（1コマ90分）に拡張して頂けると有難いと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	和声学4a	職名	08. 講師	履修者数	11
教員名	加茂下　裕			回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.70	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.20	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.90	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.90	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.90	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 70.0	4: 20.0
			3: 30.0	2: 40.0
			1: 10.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：　前年度の和声学2aクラスの受講生をほぼそのまま持ち上げ、筆者が継続して担当したクラス。小人数でコミュニケーションも取り易く、前年度からの継続であるため、非常に授業が進め易いクラスであった。学習意欲があり、学習態度も良く、理解力の高い受講生が多かった。集計結果の分析：全体的に、ほぼ良好な回答を頂けていると思う。設問Ⅲ-cに関しては、新しい知識・技能だけでなく、問題発見・解決能力を挙げた受講生が比較的多いように思う。内容の難しい科目であることが影響しているものと思われるが、熱意を持って積極的に授業に取り組んでくれた受講生が多かったことに感謝したい。

●　問題点

授業の難易度を難しいと回答した受講生が多かった点。到達目標への達成度を5と回答した受講生の割合も充分とは言えず、検討が必要に思う。

●　改善の方策

例年の傾向として、和声学1・2に比べて和声学3・4を難しいと感じる受講生は多いと思う。授業内容の骨幹を変えることは難しいので、課題を取り組み易くする工夫と、学習意欲を高めて問題発見・解決能力の向上につなげる工夫を続けていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

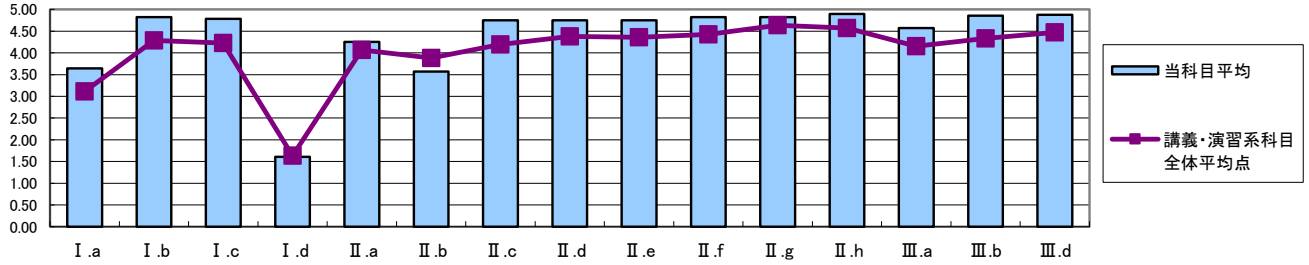
科目名	和声学2b
教員名	加茂下　裕

職名	08. 講師

履修者数	30
回答者数	28

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.64	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.82	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.79	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.61	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.57	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 96.4	4: 17.9
			3: 17.9	2: 17.9
			1: 3.6	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

受講者の状況：年度初めのクラス分けテストで、点数の高い方からa.bの2クラスに分けた内のbクラス。ほとんどの受講生が和声の初学者であったので、和声への関心と学習意欲を高めること、基礎的な内容の解説と基本的な課題の考え方の解説を丁寧に行うこと、等を心掛けて授業を進めた。集計結果の分析：ほとんどの受講生が、授業に積極的に取り組んでいたことが表れているように思う。設問Ⅲ-cで、新しい知識・技能だけでなく、新しいものの見方、関連分野の学習意欲、問題発見・解決能力等を挙げた受講生達は、特に意欲的に取り組んでいた受講生達であったと思う。このような受講生がもっと増えるよう、心掛けていかなければならないと思う。

●　問題点

授業の難易度が難しいと感じた受講生が多かった点。

●　改善の方策

ほとんどの受講生が到達目標に達したと回答していることから考えて、あまり深刻に考える必要はないかもしれないが、基礎課題として全員の提出を求めた課題を、部分的に見直すことを考えていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

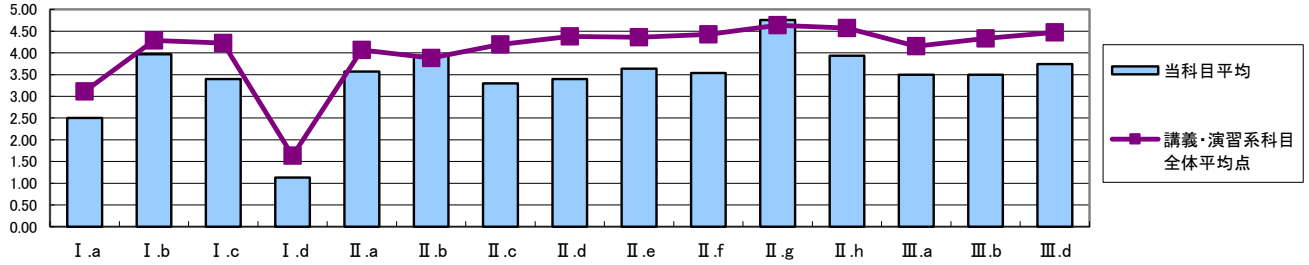
科目名	日本音楽史概説B
教員名	黒川　真理恵

職名	08. 講師

履修者数	45
回答者数	30

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.97	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.40	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.57	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.93	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.30	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.40	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.63	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.53	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.76	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.93	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 74.1 / 4: 14.8 / 3: 33.3 / 2: 3.7 / 1: 11.1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.74	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業の目的は、日本の伝統音楽についての基本的な知識を身に付けることである。具体的には、以下の４点を目標とした。（１）日本の伝統音楽の歴史を理解し、代表的な曲の音楽的特徴を説明することができる。（２）和楽器の楽器構造や材質、製作工程について説明することができる。（３）日本語の特徴と音楽との関りについて理解し、受講生各自の音楽表現に活用することができる。（４）この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。授業形態は講義である。履修者数は４５名だが、実際の受講者数は３７名だった。学年別の内訳は、１年生１９名、２年生１２名、３年生５名、４年生１名だった。１年生のうち、教職実践専攻は５名だった。前期から継続して履修した学生は５名いた。昨年度までと大きく変わる点は二点ある。第一に、開講曜日・時限が、昨年度までは水曜日の５限だったが、今年度は火曜日の１限に変更になったことである。１限になったことにより、交通機関の遅延等により、授業開始時間を過ぎてから入室する学生が多くみられた。毎回５名程度は遅刻していたように思われる。第二に、受講者数が大幅に増加したことである。昨年度の受講者は１４名だったのに対して、今年度は３７名と、２倍以上に増加した。なるべく前に詰めて着席するよう促したが、全員が揃うと満席に近かった。また、席によっては、端の板書が見にくい場所があったように思われる。昨年度までは少人数だったため、学生の理解度や反応を確認しながら進めていたが、今年度は大人数だったため、きめ細かい指導ができなかったのではと反省している。　なお、この授業は、教職実践専攻の学生は通年での必修と理解しているが、当該の学生は、前期・後期ともにどちらか片方しか履修していなかった。知識の定着を図るためにも、できれば通年での履修を周知していただきたい。

●　問題点

アンケートのＩｄ「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか」という設問は、大半の回答が１時間未満だった。歌舞伎の授業の際には、事前にプリントを配布して、あらすじや登場人物を調べたり、小テストを課して復習したりするよう促したが、毎回行うことはできなかった。日本の伝統音楽は、学生にとって普段なじみのないことが多いため、できるだけ理解を促し、親しみを持てるよう課題を工夫する必要がある。

●　改善の方策

冬休みの課題として、上記授業目的（２）の和楽器についてのレポートを課したところ、素晴らしいレポートを提出した学生がいた。国立劇場の文化デジタルライブラリー等、信頼できるインターネットサイトを紹介したことも、調べ学習に効果があったようである。毎回レポートを課すことは難しいが、調べ学習の回数を増やすことで、学習の成果を具体化し、学習意欲を向上させることができるようにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

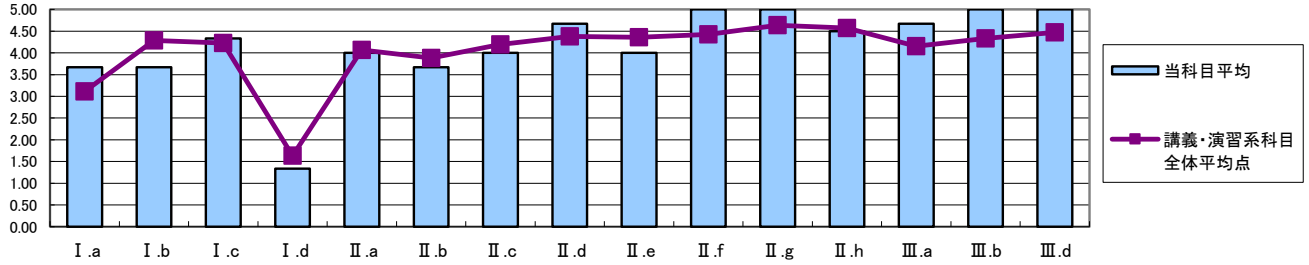
科目名	日本の伝統音楽概説
教員名	黒川　真理恵

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7	4: 33.3
			3: 100.0	2: 0.0
			1: 33.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業の目的は以下の通りである。（１）長唄三味線、箏のそれぞれの基本的な奏法と、実践的な指導法を習得することができる。（２）この授業で得た知識や経験を、教職実践における日本の伝統音楽の指導に活用することができる。授業形態は演習である。履修者は８名だが、実際の受講者は３名だった。学年別の内訳は、３年生２名、４年生１名である。前期の履修者は２０名だったが、前期から継続して履修したのは２名のみだった。　この授業は、中学校等の音楽授業における和楽器の授業を想定しており、箏のように音楽室に楽器がある種目と、そうでない種目の両方を体験することとした。実際に楽器がある種目は、箏を中心としつつ、前期では祭囃子、後期では長唄者三味線を体験した。箏と祭囃子は大学の楽器、長唄三味線は教員の個人所有の楽器を用いた。本物の楽器がない種目は、唱歌（しょうが）を歌ったり拍子をとったりすることでアンサンブルを体験した。前期では雅楽、後期では能の囃子を、唱歌や代用楽器で体験した。いずれも、受講者で合奏することができ、楽器の準備や後片付けなども協力して行うことができた。　箏については、前期は入門編、後期は応用編という位置づけで、一年間を通して発展的に学習できるようにした。前期では《さくらさくら》と《初夏の小川》を教材とした。箏の基本的な扱い方や調弦法を習得するとともに、右手のオクターヴの奏法を習得することを目的とした。後期では、地歌《竹生島》の冒頭と最後、《六段の調》の初段、《さくらさくら》の合奏を教材とした。地歌《竹生島》では、箏による弾き歌いを行い、伝統的な歌唱に挑戦した。《六段の調》の初段では、江戸時代初期から伝承されている古典曲の様式を体得し、右手の奏法に加えて、左手の各種奏法を習得した。《さくらさくら》では、中学校の音楽の教科書に掲載されている二重奏や、三味線との合奏を体験した。　アンケートのⅢd「この授業は総合的に判断して意義のあるものだったか」という設問の回答は５ポイントであり、教員・受講生ともに満足のいく授業だったと思われる。

●　問題点

アンケートのⅡb「この授業の難易度はどうだったか」という設問の回答は、「やや難しい」２名、「適切」１名だった。期末試験では、箏の個人演奏を課しており、前期は《さくらさくら》と《初夏の小川》、後期は《六段の調》初段を課題曲とした。特に前期は演奏に不慣れな学生が多かったため、学生にとってはハードルが高かったように思われる。

●　改善の方策

受講生の学年や演奏歴を踏まえながら課題曲を決定したいと思う。なお、指先の感覚や身体性、継続的な練習の習慣は、箏に限らず、すべての演奏実技に不可欠なものである。学生によってはなかなか体得しにくいこともあるかもしれないが、すべての演奏実技の向上に関わってくるため、根気強く指導することが求められる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

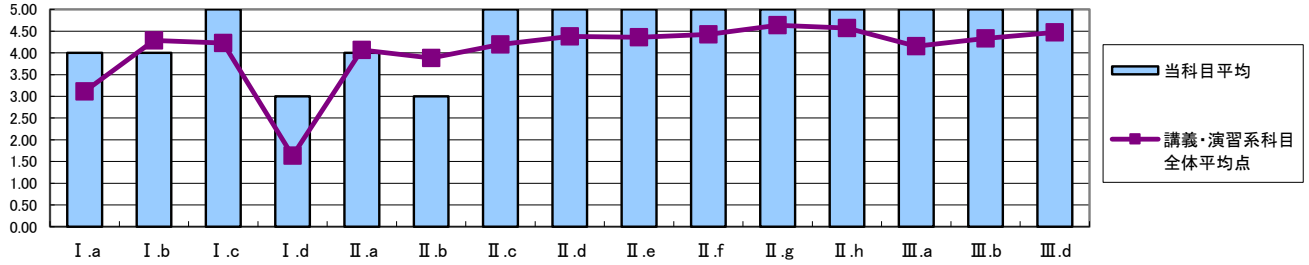
科目名	和声学(Konzertfach)2
教員名	白石　茂浩

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 100.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

和声学（ Konzertfach ）授業は１・２年生合同授業になっている。今年度の受講生は１年生2名（ピアノ）、２年生1名（打楽器）の合計3名であった。　この科目の目的は「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」という Konzertfach 学生にとっての最終目標に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることである。このため授業は講義形式を主体としながらも学んだ知識を確かなものにするために課題自習を伴うものとなっているが、前期に比べ後期の和声学（ Konzertfach ）２・４ではこの課題の比率が高くなっている。　１・２年生合同授業になっているために学生は同じ内容の和声学（ Konzertfach ）を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある一年生にとって初めてのウィーン研修までにある程度のところまで授業を進める必要があり授業の震度が早くなっている」という背景がある。進度の速い授業は学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性を理解しやすくなるが、深く学ぶことに関しては弱くなる。そこで同じ内容の授業を二度受講することになっているのだが、ここでは２年生に、１学年時に学んだ内容をより深く理解できるようになることが期待されている。　今年度の１年生は和声学習経験のある附属高校からの進学者2名で、しかも二人揃って和声学習に有利なピアノ科であり、授業への取り組み姿勢も良く、理解度、課題実習ともに通常１年生に期待している以上の結果を見せてくれた。一方、２年生は外部から進学してきた（和声学習未経験）の学生で、昨年度は熱心に学んできており、結果、今年度は１年生・２年生の双方にとって、難易度にさほど大きな差のない授業となっていたと思われる。

●　問題点

昨年度の問題点を踏まえ、今年度の授業では折に触れてシラバスを活用することを受講生に対して指示してきたが、学生に「シラバスの授業計画をよく読み、授業内容の流れを把握しておくことは授業内容をより深く理解することにつながる」という認識を持たせることができていなかったと思われる。

●　改善の方策

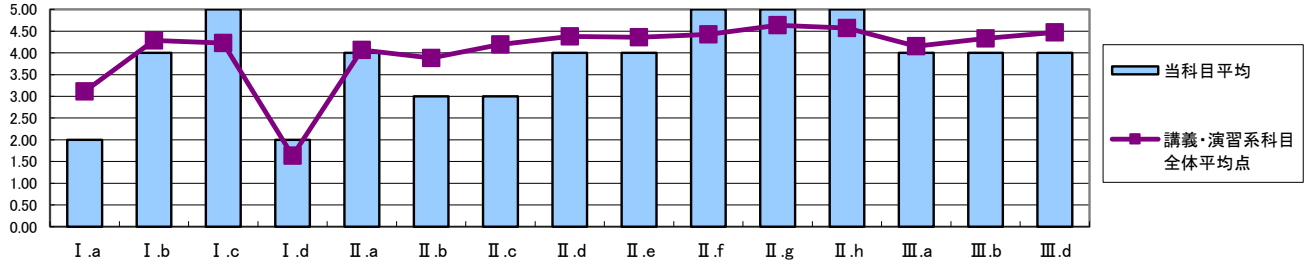
来年度は学生の予習・復習に資するために、テキストに加えて授業計画を簡単にまとめたものを渡すことにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	和声学(Konzertfach)4	職名	08. 講師	履修者数	1
教員名	白石　茂浩			回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 100.0
			3: 100.0	2: 0.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

和声学（ Konzertfach ）授業は１・２年生合同授業になっている。今年度の受講生は１年生2名（ピアノ）、２年生1名（打楽器）の合計3名であった。　この科目の目的は「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」という Konzertfach 学生にとっての最終目標に向けて、和声音楽と称される近代西洋音楽の骨子をなす機能的和声法の基礎知識を得ることである。このため授業は講義形式を主体としながらも学んだ知識を確かなものにするために課題自習を伴うものとなっているが、前期に比べ後期の和声学（ Konzertfach ）２・４ではこの課題の比率が高くなっている。　１・２年生合同授業になっているために学生は同じ内容の和声学（ Konzertfach ）を二度受講することになっているが、ここには「前期授業終了後にある一年生にとって初めてのウィーン研修までにある程度のところまで授業を進める必要があり授業の震度が早くなっている」という背景がある。進度の速い授業は学習内容全体の流れ・個々の事柄の関連性を理解しやすくなるが、深く学ぶことに関しては弱くなる。そこで同じ内容の授業を二度受講することになっているのだが、ここでは２年生に、１学年時に学んだ内容をより深く理解できるようになることが期待されている。　今年度の１年生は和声学習経験のある附属高校からの進学者2名で、しかも二人揃って和声学習に有利なピアノ科であり、授業への取り組み姿勢も良く、理解度、課題実習ともに通常１年生に期待している以上の結果を見せてくれた。一方、２年生は外部から進学してきた（和声学習未経験）の学生で、昨年度は熱心に学んできており、結果、今年度は１年生・２年生の双方にとって、難易度にさほど大きな差のない授業となっていたと思われる。

●　問題点

昨年度の問題点を踏まえ、今年度の授業では折に触れてシラバスを活用することを受講生に対して指示してきたが、学生に「シラバスの授業計画をよく読み、授業内容の流れを把握しておくことは授業内容をより深く理解することにつながる」という認識を持たせることができていなかったと思われる。

●　改善の方策

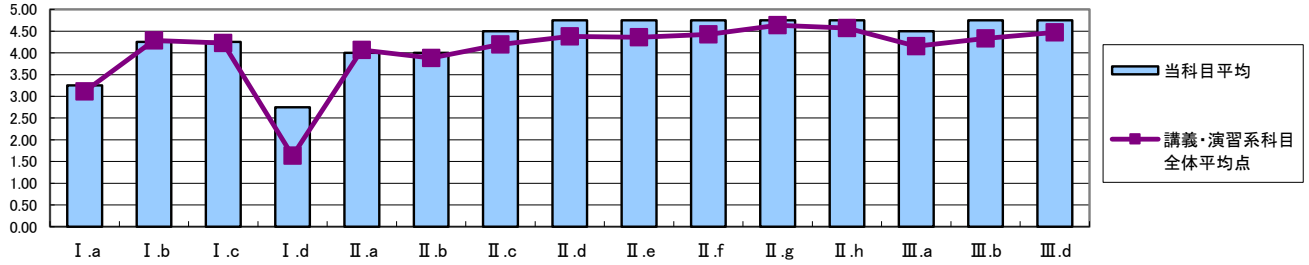
来年度は学生の予習・復習に資するために、テキストに加えて授業計画を簡単にまとめたものを渡すことにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	対位法(Konzertfach)B	職名	08. 講師	履修者数	4
教員名	白石　茂浩			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 50.0 / 3: 50.0 / 2: 50.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

対位法Bの授業形態は講義形式を主体としているが、前期の対位法Aよりも課題実習が多い内容のものとなっている。対位法Bの目的とするところは、対位法Aに同じく「対位法に関する知識の習得および既に学んだ機能的和声法と対位法の知識の統合」であるが、対位法Bでは「様々な分析課題を通してAで学んだ知識を確かなものにし、受講生一人一人が『自らの力で楽曲分析・解釈ができるようになる』という目標に歩を進めること」をも目的としている。　今年度の受講者数はピアノ科２名・声楽科１名・打楽器科１名の合計４名だった。　今年度も後期では学生の欠席（公欠含む）が多く、授業計画の変更を説明した上で補修授業を行なったが、これがアンケートの設問Ⅱａ「この授業はシラバスに沿って行われていた」の結果に反映されていると考える。

●　問題点

後期では、前期で学んだ内容を課題実習を通して確かなものにすることになっており、今回の授業計画の変更は、各課題で復習する内容を減らすことなく課題数を減らすことで実質、授業内容そのものは変更していなかったのだが、この説明が不十分であったと思われる。

●　改善の方策

Konzertfach学生は、３年になると演奏の機会が他専攻学生よりも目に見えて多くなる。今年度行なった変更（課題数を減らし、一課題についての学習時間を増やす）は有効であったと思われるので、来年度からはこれを参考にして授業計画を作成する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

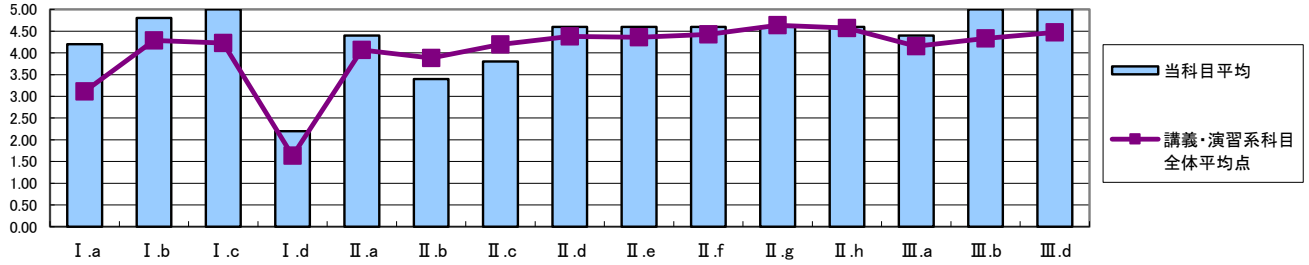
科目名	ピアノ伴奏法ⅡB
教員名	田中　梢

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.20	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 60.0 / 3: 60.0 / 2: 0.0 / 1: 20.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

木曜日２限に開講されている。参加人数は５名。毎年そうだがこの授業を選択する受講生はいづれも意識と能力が高い生徒が多い。よってシラバス通りに授業進める事が出来るし、課題曲も増やすこともできた。５名のうち２名は短大からの年配者。年配者の方が受講目的がはっきりしているので、意欲も高く授業の雰囲気を引き締めてくれる。少人数という事もあり又伴奏法という内容もあり、ピアノ二台を使って連弾あるいは8手連弾という形で、授業時間の間なるべくたくさんの時間弾くことを実践しながら学習するという方法で授業を進めた。後期はオペラ・オペレッタ・ミュージカルという課題であったのでDVDやCDなど音源を活用することも必要だった。最後の授業ではソリストの方をお願いして後期にやった演目の試演会を行った。

●　問題点

集計結果を見て課題曲は難しいと思っていたが学生はそう思っていなかった。優秀な学生だからだと思う。成績評価はシラバスにきちんと書いておいたがあまり見ていなかったのかもしれない。出席を重視する授業だったが生徒たちは熱心で休みも少なかった。音源を聴かせるにあたり図書館での資料貸し出しはとてもスムーズで便利だったが教室の機械が不備で聴けないことも多くもどかしかった。

●　改善の方策

来年度は学生たちの能力を見ながら課題曲をセレクトしていこうと思う。開講時に成績評価の基準を説明していこうと思う。学校側には部屋のCD再生がスムーズにできることを望む。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

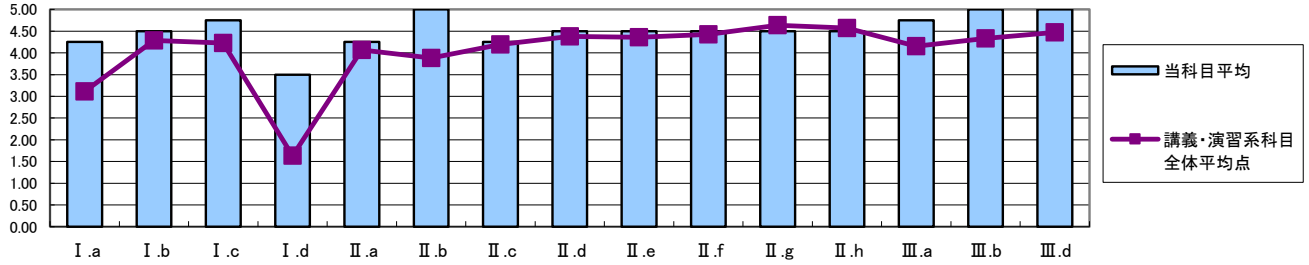
科目名	ピアノアンサンブルB
教員名	田中　梢

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 75.0
			3: 75.0	2: 0.0
			1: 25.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒数は5名。うち2名は短大からの年配者、1名はソリストコース、1名は留学生。短大からの年配者は短大でピアノアンサンブルを受講してきているので能力も意欲も高い。後期はフランス連弾曲と自由課題。連弾あるいは2台ピアノという事で5人という人数はやりにくい。又それぞれの能力の違いが譜読みの能力含めてあまりにもみな違うのでパートナー決めが大変だった。能力が高い生徒は私がパートナーすることもあった。自由課題はそれぞれが選ぶが能力以上のものを選んで大変な生徒もいた。少ない人数なのでそれぞれに毎回長い時間レッスンをする事が出来たのは嬉しかった。人数は少ないほど一組当たりのレッスン時間が取れるので嬉しい。最後の授業で試演会を行う。

●　問題点

後期なのでそれぞれの能力はわかっているのだが、同じぐらいの譜読みと技術を持つ生徒同士を組み合わせることがなかなかできない。能力のある生徒はもっと難しい課題を出したかったが本人は楽しんでいたように思う。人数が少ない分沢山の曲をレッスンすることができるので、予習が大変で難しかったと思われたのかもしれない。

●　改善の方策

パートナー作りの問題は本当に難しく本来は同じような能力の学生同士で組んでほしいのだが、毎年それが難しく様子を見ながら助言をしながらパートナー決め、曲決めを行いたいと思っている。出来れば受講にあたり、あらかじめパートナーを決めてセットで受講してくれると非常にやりやすい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

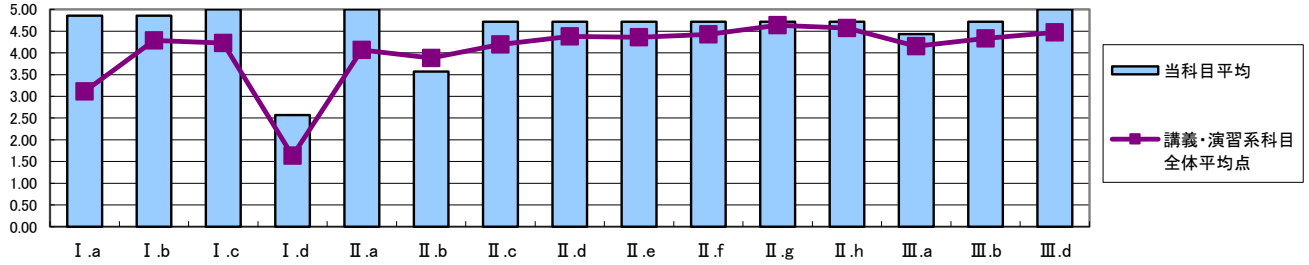
科目名	音楽心理学B
教員名	徳富　政樹

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.86	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.86	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.57	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 50.0 / 3: 50.0 / 2: 33.3 / 1: 16.7	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本講義は心理学の基本を抑えた上で、ややステップアップした内容としてプランが組まれている。ただし、初めて心理学を聞く人のためにも最初に基本事項の確認は必ずするようにした。履修者は13人で、概ね出席率はよかった。学生からのアンケート評価は良好なものが多かった。しかし、回答者が7人と少なめだった点には注意が必要である。

●　問題点

本講義は基本+αの内容として考えていたが、受講生にとってはやや難しい内容と感じた人も半数近くいた。「難しい」が2人、「やや難しい」が1人という内訳である。「適切」は4人であった。ということは、内容の難易度の調整が必要ということである。

●　改善の方策

難しいと思われる授業内容を改善するには、解説する量とポイントを調節する必要がある。「これくらいで理解できるだろう」から「理解できるまで解説する」というスタンスへの変更をしていく。皆が初めて聞く内容であるということを念頭に入れ、専門用語もひとつひとつ丁寧に解説していくことにする。授業の最後のフォローアップのまとめも充実させていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

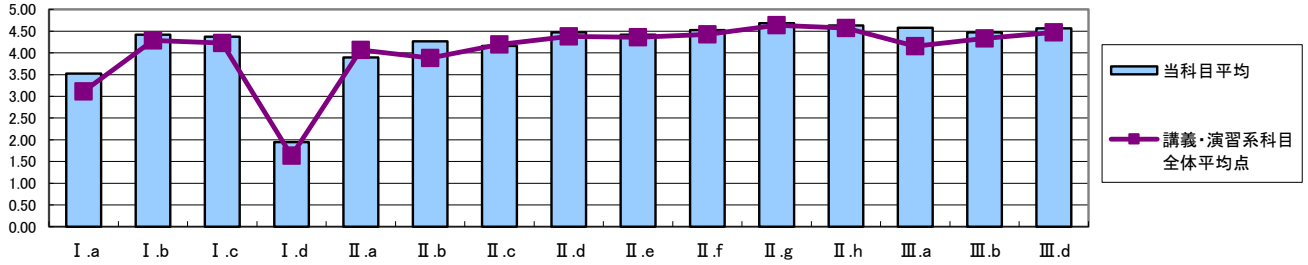
科目名	合唱ⅢBa歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む）
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	23
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.53	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.42	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.37	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.95	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.26	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.16	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.42	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.53	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.68	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.58	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.47	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.9	4: 47.4
			3: 42.1	2: 42.1
			1: 10.5	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は、合唱指導場面を想定し、表現の創意工夫に向けた指導方法について、模擬指導としての演習を通して身につけることを到達目標としていた。　授業内容としては、合唱指導での創意工夫に向けた具体的な方策について指導演習を通して学ぶことであり、期間を通して重点をおくのは、音楽科教員として身につけておくべき効果的な発問の仕方、音楽の諸要素及び歌詞の意味を視点とする創意工夫の方法、指導者の思い描く曲想づくりを視点とする指導方法についてであった。授業は水曜日第4限、履修者は23名。　学生は熱意をもって授業に臨み、個々人に与えられる課題としての合唱指導演習とピアノ伴奏のそれぞれに十分に応えていた。加えて、毎時間、学生に課していた授業記録（ワークシート）への記入状況も素晴らしく、なかには、かなり秀逸なものも見受けられた。そのような現状と学生アンケート結果との差は確認できず、当初掲げていた授業の目的と到達目標は概ね達成することができたものと考えている。

●　問題点

アンケート結果には表れてこないが15回授業を通して合唱指導演習を行うため、徐々に演習後に行われる意見交換の場での発言が低調になってきていたのは前年度を同様である。これは、意見が出尽くしたと学生が自覚をしてしまい重複感を恐れていたためと思われる。その重複そのものに意味があること、ひいては、その重複内容に焦点化した学修内容を即座に構成する等、シラバスに則り、軌道から外れない授業スタイルからは逸脱するが、学生の思いの及ばない次元に学びの次元を上げることが、やはり、教員の責任でもある。本授業では意見交換こそが学修内容を広く、そして深めるためにも重要であり、その活性化について次年度は改善したい。　教員に関わる点としてのⅡcについては全体平均点を下回る結果となっている。「あまりそう思わない」の1名も見られることから、当方からの説明不足といえる。要改善点である。

●　改善の方策

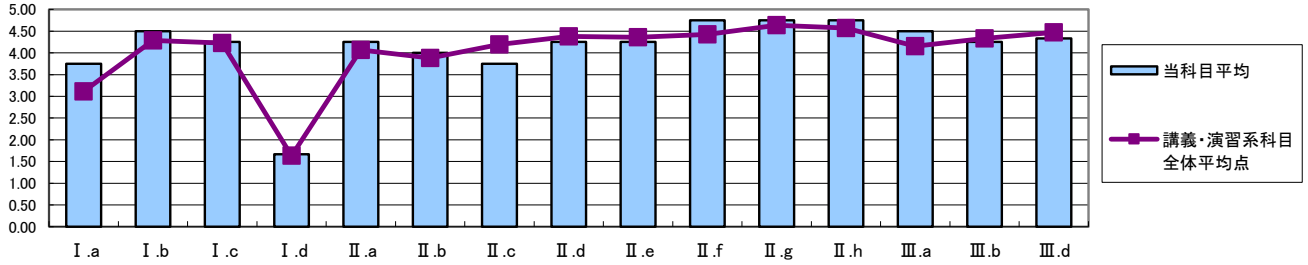
先に挙げたように、「言えない」のであるならば、「書く」ことにシフトし、その内容を授業内で教員が吟味し、学生に還元してディスカッションを行うことを考えている。　成績評価の方法については例年、年度初めの授業内配付資料には記載しているが、念入りに解説をするなど明確にしておきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	合唱ⅢBb歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む）	職名	08. 講師	履修者数	5
教員名	山崎　正彦			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.75	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.0 / 4: 25.0 / 3: 0.0 / 2: 50.0 / 1: 25.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は、合唱指導場面を想定し、表現の創意工夫に向けた指導方法について、模擬指導としての演習を通して身につけることを到達目標としていた。　授業内容としては、合唱指導での創意工夫に向けた具体的な方策について指導演習を通して学ぶことであり、期間を通して重点をおくのは、音楽科教員として身につけておくべき効果的な発問の仕方、音楽の諸要素及び歌詞の意味を視点とする創意工夫の方法、指導者の思い描く曲想づくりを視点とする指導方法についてであった。授業は水曜日第4限、履修者は5名。　学生は熱意をもって授業に臨み、個々人に与えられる課題としての合唱指導演習とピアノ伴奏のそれぞれに十分に応えていた。加えて、毎時間、学生に課していた授業記録（ワークシート）への記入状況も素晴らしく、なかには、かなり秀逸なものも見受けられた。そのような現状と学生アンケート結果との差は確認できず、当初掲げていた授業の目的と到達目標は概ね達成することができたものと考えている。

●　問題点

アンケート結果には表れてこないが15回授業を通して合唱指導演習を行うため、徐々に演習後に行われる意見交換の場での発言が低調になってきていたのは前年度を同様である。これは、意見が出尽くしたと学生が自覚をしてしまい重複感を恐れていたためと思われる。その重複そのものに意味があること、ひいては、その重複内容に焦点化した学修内容を即座に構成する等、シラバスに則り、軌道から外れない授業スタイルからは逸脱するが、学生の思いの及ばない次元に学びの次元を上げることが、やはり、教員の責任でもある。本授業では意見交換こそが学修内容を広く、そして深めるためにも重要であり、その活性化について次年度は改善したい。　教員に関わる点としてのⅡcde、Ⅲdについては全体平均点を下回る結果となっている。とりわけ、後者については本授業の意義に関わる点であり深刻に受け止めている。基本的には「ある程度そう思う」以上のものではあるものの、教育現場においては本科目の学修内容は大切であり、やはり、この授業の設定意義と、それに直結する学修内容の設定が不可欠と考える

●　改善の方策

先に挙げたように、「言えない」のであるならば、「書く」ことにシフトし、その内容を授業内で教員が吟味し、学生に還元してディスカッションを行うことを考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

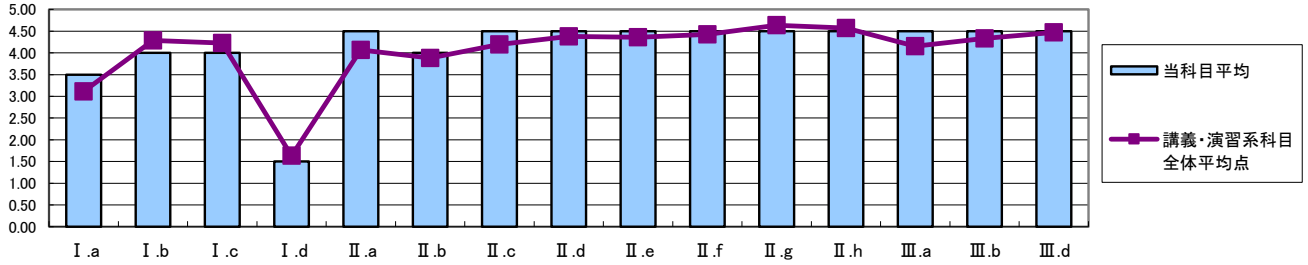
科目名	合唱ⅣBa
教員名	山﨑　正彦

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.0	4: 100.0
			3: 50.0	2: 50.0
			1: 50.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は、合唱指導場面を想定し、表現の創意工夫に向けた指導方法について、模擬指導としての演習を通して身につけることを到達目標としていた。　授業内容としては、合唱指導での創意工夫に向けた具体的な方策について指導演習を通して学ぶことであり、期間を通して重点をおくのは、音楽科教員として身につけておくべき効果的な発問の仕方、音楽の諸要素及び歌詞の意味を視点とする創意工夫の方法、指導者の思い描く曲想づくりを視点とする指導方法についてであった。授業は水曜日第4限、履修者は2名。　授業生2名は教育実習による公欠があったものの3年次で同授業（合唱ⅢB）を履修していることから全く問題なく、教育実習経験を3年次生に伝えるなど学修に貢献していた。

●　問題点

昨年度、4年次生のみで着席位置が固定し、それで年間を通してしまったことを問題点として挙げ、3年次生の間に入ることで、彼らへの刺激としたいとしたが、本学年では履修者が2名と極端に少なく、彼らのストレスとなっても逆効果となる可能性も考え、とりやめている。　両者ともに出席率が思わしくないく、問題点として残存している。

●　改善の方策

4年次生にとり、前年度の学修内容の重複となり、それが出席率の低下に結びついている可能性も否定的内ことから、次年度は、やはり、教育実習経験者としての3年次生への助言等、彼らがより多く学修効果の増大に貢献できる内容について検討をしている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

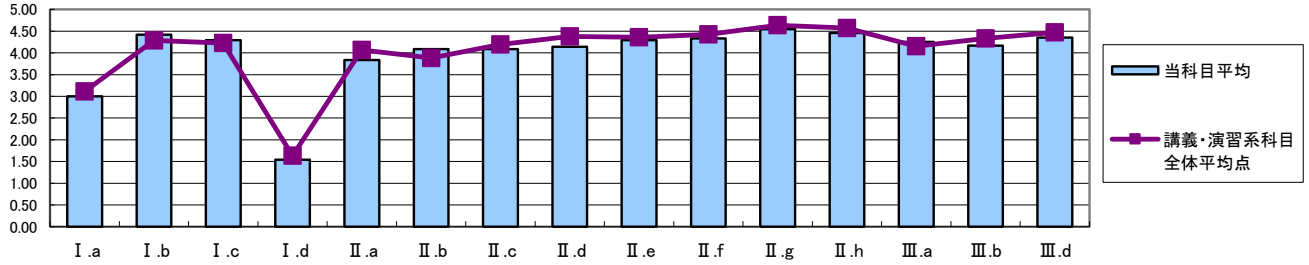
科目名	合奏B(和楽器を含む)
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	28
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.42	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.54	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.08	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.08	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.29	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.54	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.46	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 54.5	4: 31.8 / 3: 22.7 / 2: 27.3 / 1: 31.8
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.35	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業の目的は「ギターの構造や奏法を理解し、簡単な旋律奏を行う」「打楽器及び鍵盤打楽器の取扱い方と基本的な奏法を理解し、リコーダーやギターをまじえて簡単なアンサンブルを行う」こととしていた。グループ活動を基本としており、学生が主体的に活動を進め、教員が適宜、助言や指導を行う、いわゆるアクティヴ・ラーニングの方法による授業であった。開講曜日と時限は水曜日第5限。履修者数は28名、ウィーン短期留学による学生の公欠への配慮から、授業内容は変更を迫られている。加えて、学生の公欠時期により彼らの習熟度に微妙な差異が生じていたことは否めない。それは学修内容として重要なポイントとなる期間に約3分の１ずつの公欠が重なることに起因している。当然、公欠者が帰国した折に彼らを対象とする補いを実施するものの、それは全体としては既習内容となり重複感となる。それが学生個々人に若干のモチベーションの差をもたらすことにもなっている。特にギターに関しては、それに触れる時間量が技能習得等を左右し、そのモチベーションの差が技能面にも現れ、後のアンサンブル活動にも、それがそのまま影響することとなる。昨年度にもまして苦労した点である。昨年度指摘した問題点としての１グループがSAフロアで隊形による合奏練習を行う間、他の2グループがSA楽器庫等で楽器を手にしない活動となったことであるが、本学年では人数の関係で2グループとなったこともあり、少しは改善が見られたが、やはり、SA入口での活動では気の緩みが生じていたことが確認できた。
学生の評価について。厳しく受け止めている。全体平均に満たない項目が圧倒的に多く、本科目では、改善を要することが山積していることを意味している。

●　問題点

合奏では特に個々の担当楽器の違いが生じる。比較的短時間で自分の担当楽器への習熟が済む者と、そうでないものが混在する活動となり、それらで同時進行することに授業としての難しさがあることは変わらない。それは教師側の問題もあるが、同時に学生が将来教壇に立ち、器楽領域を扱う際に自ら弁えておかねばならないことでもある。その自覚に当方が十分につなげられなかったこと、ひいては、なぜ大学の授業で合奏指導法を学ぶのかに立ち返り、その意義を学生に伝え切れていなかったことが、今回のアンケート結果から明確に読み取れる。音大としては貴重な授業内容を活かしきるための意識づけが不足し、楽器に取り組めば夢中になり、合奏になれば、ホールに鳴り響く音楽が学生の思いを満たしてくれるはずとの甘い見込みが最大の問題点である。　自由記述にある「選曲」への学生の問題意識についても、次年度への検討課題としたい。

●　改善の方策

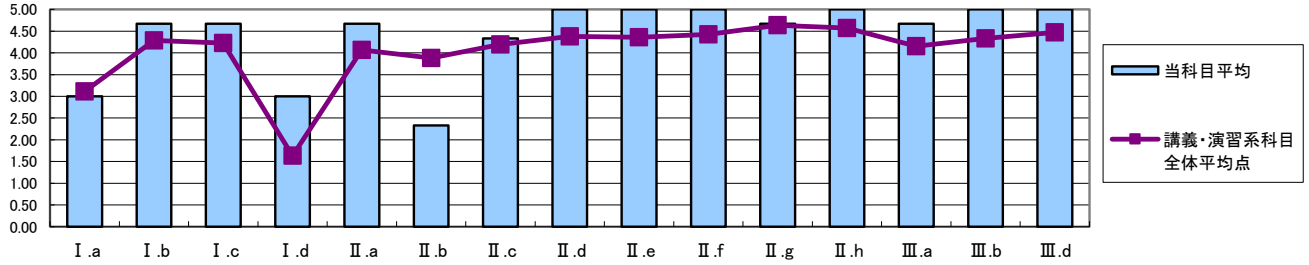
なぜ、この科目が大学の授業にあるのか。東邦音大で、あえてこの科目を設定していることの明確な理由づけ、これらを学修内容（ギター段階、アンサンブル段階）に応じて伝え続け、学生が「この授業は必要」と、その意義を感じられる内容へとつなげてゆきたい。授業内容自体、将来教壇に立つ際に、必須のものと考えるからである。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ソフトウェア演習ⅢB	職名	08. 講師	履修者数	3
教員名	湯浅　恭子			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7 / 4: 66.7 / 3: 100.0 / 2: 66.7 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　ソフトウェアを活用する演習の最終形として「自分がイメージするコンテンツを創作する、実現するには」に向けての企画立案から完成までを学ぶ。ソフトウェア活用を実践的に修得し、自らの創作表現活動の拡大を目標とする。　履修生自らが選択した制作テーマに必要なソフトウェアスキルの習得、進行スケジュール設計と管理力（タイムラインの明示・作業内容の具体化）を養う。＜内容＞　ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱで学んできたことの最終形として各自掘り下げたいテーマを絞り、作品にする。制作物の企画（立案・コンセプトの明示・スケジュールの設計）、及び修正を行い、制作を進める。中間発表・最終発表において、プレゼンテーションを行う。＜状況説明と分析＞　火曜日３時限、履修生は４年生１名と３年生２名の計３名であった。制作環境と制作内容は学生によってそれぞれ異なった。自身のMacbookで制作を行う学生が２名、残り１名が演習室のコンピュータで制作を行った。　制作物は「非楽音を用いたオーディオコレクティブ作品」「シンセサイザーを用いて音色を研究する」「自身の音楽活動に利用できるCD・PV制作」といった内容が挙げられた。開講当初の段階で企画立案とスケジュール作成を行った。各自が授業内外で楽曲制作・録音作業を進めた。録音作業は、個人で行うことも、お互いに協力をしながら行うこともあった。中間発表でプレゼンテーションを行い、自他双方から進行状況と内容の確認をし、必要に応じてスケジュール等の見直しを行う。企画段階で、制作内容がかなり明確になっている学生は進行がスムーズであったが、制作内容をなかなか絞り込めず、試行錯誤を繰り返す時間がとても長くなってしまった学生もいた。３人とも初めに企画した通りの進行は難しく、スケジュールの変更や内容の軌道修正がたびたび必要で、苦労が多かったと思うが、目標を具体的にして主体的に取り組むことができたと思う。また、お互いの制作物を聴いて意見交換をする場面も多く、アイディアを出したり聞いたり、学生同士で発見できることも多くあったのではないだろうか。

●　問題点

「１回の授業のために、どのくらい予習復習をしたか」　次回授業までの制作内容の、明確な指示をしなかったことが理由と思われる。「この授業の難易度はどうでしたか」　　「難易度が高い」ということがそのまま問題点となるわけではないと考えるが、自ら計画をして進め、問題点を発見して解決していく、というこの科目の内容から、難易度は高くなってしまうと思われる。

●　改善の方策

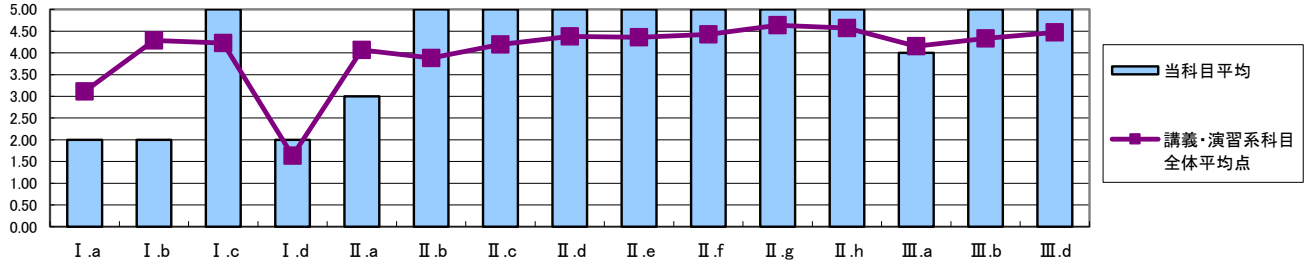
本講義では、自らが企画をして制作を進めるため、予習復習の内容も自らが考えコントロールすることになる。講義内でコミュニケーションを取って、できる限り進行状況の把握には努めたが、まだ足りない部分があったと考える。制作の流れの中に「作業報告」として、毎回の状況を教員と学生の双方で確認し、スムーズに進まない部分や遅れを解消していかれるよう努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ソフトウェア演習ＩＢ	職名	08. 講師	履修者数	1
教員名	湯浅　恭子			回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	2.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 100.0 / 3: 100.0 / 2: 100.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　本演習では、「時間軸と倍音」を作編曲の段階でどのように取り扱うのかを目的として、コンピュータとアプリケーションソフトウェアを用いた音楽制作を演習形式で進める。また、「既に知っている情報の位置づけの確認」と「それらの情報の応用について習得」を目的としながら、音楽の基本事項はソフトウェア上でどのような変数に置き換えられるのか」「ソフトウェアで作成した楽曲をどうやって実音化していくのか」を実践的に学ぶ。＜内容＞　コンピュータのOSの理解とアプリケーションソフトウェアの基本的な活用について習得。音楽制作ソフトウェアを用いて楽曲制作を行う。演習を通じて、コンピュータ内で情報を適切に管理する習慣付けをし、ソフトウェアの応用的実践活用につなげる。「時間軸」を取り扱う課題として「点」を用いた楽曲制作を行う。音階を使わず、音の時間操作のみを用いて制作する。モチーフの発展から楽曲へ、さらにパートを増やして最終形とする。MIDI音源を用いて制作したデータをオーディオ化し、最終形に沿ったファイル形式での書き出しを行い、楽曲制作の一連の流れを学ぶ。＜状況説明と分析＞　火曜日４時限、履修者数１名。ソフトウェア演習Ⅱの履修生と合同、計２名での講義であった。授業形態は演習形式と講義形式で行った。演習では履修生が自身のMacbookを持参、ソフトウェアはCubaseを使用して行った。本履修生はシラバスにある、コンピュータの基本的な活用については、前年に当教員の他講義にて行っていたため確認のみに留めた。音楽制作環境は、学生本人が今年から新たに導入したソフトウェアを使用。自宅での制作も同じ環境で行える。「自分の創り方を作る」という観点からは、その構築をし始めることができただろう。楽曲制作については音階を用いず、非常にシンプルな形での作曲を行ったが、期末に行ったプレゼンテーションで、本人から「音階を使わずに制作することで、音を置く位置、発音と音の減衰、休符についても意識することができた」といった発言があった。この課題の意図をきちんと理解できたと思われる。少し時間が足りず、目標の「音源のオーディオ化」を行うことができなかった。

●　問題点

「授業はシラバスに沿っておこなわれていた」　上記の通り、本学生の前年の他講義履修状況によって、内容を変更して進めた。「出席は良好であった」　前半に授業時間の変更があったため混乱をし、履修生が講義時間を間違えて出席することが数回あった。「１回の授業のために、どのくらい予習復習をしたか」　次回授業までの制作内容の、明確な指示をしなかったことが理由と思われる。

●　改善の方策

本講義での課題制作は１回　１回で完結するものではなく、履修者自身で予習復習の範囲の目安をつけることが難しいのではないかと思われる。複数回かけて制作するものについても、なるべく細かな段階で、教員と学生本人の双方で進行状況を確認しながら、予習・復習の内容を明確にしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

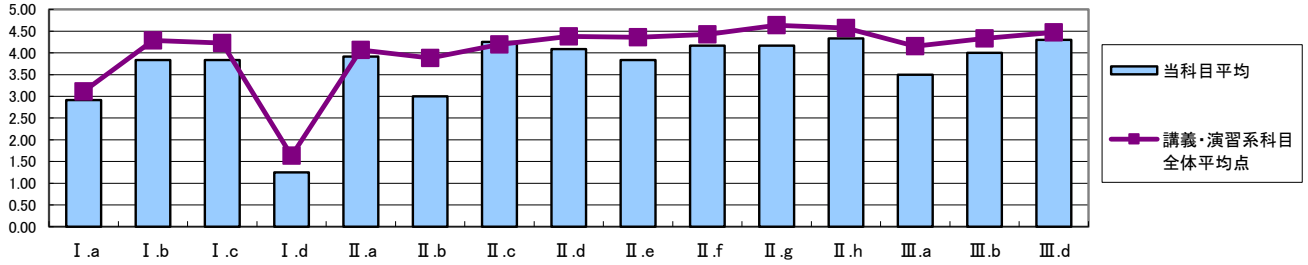
科目名	和声学4b
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.92	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.83	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.83	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.92	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.08	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.83	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.17	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.17	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.8	4: 45.5
			3: 9.1	2: 27.3
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.30	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

和声学の勉強の2年目である。２クラスのうちの下のクラス。テキストとプリントを使い、講義と和声課題の実習の組み合わせで進めている。和声学は前年度から内容が連続していて、前期・後期へと途切れなく続いていくため、理解が不十分なままにしておいたり、欠席によって空白が生じると、ダメージをずっと引きずったままになってしまうため、予習復習は欠かせない。間違えたところはどこか、どう直せば良いかをアドバイスし、努力を評価していくことを一年間やり通した。予習復習を熱心にしてきた学生は、着実に力を伸ばしていった。概ね、学生たちはよく頑張っていたと思う。授業前は、早く教室を開け、板書を済ませ、質問に来る学生に対処できるように心がけた。

●　問題点

欠席した学生のモチベーションが下がらぬよう、どう指導していくかが重要である。2つあるうちの下のクラスではあるが、１年次の勉強でとても力をつけている学生や、時間割りの都合でaのクラスからこちらのクラスに変わっている学生もいる。実力差は広い中で、どうやって全員に力をつけさせていくかが重要である。

●　改善の方策

予習・復習の重要性をもっと強調していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

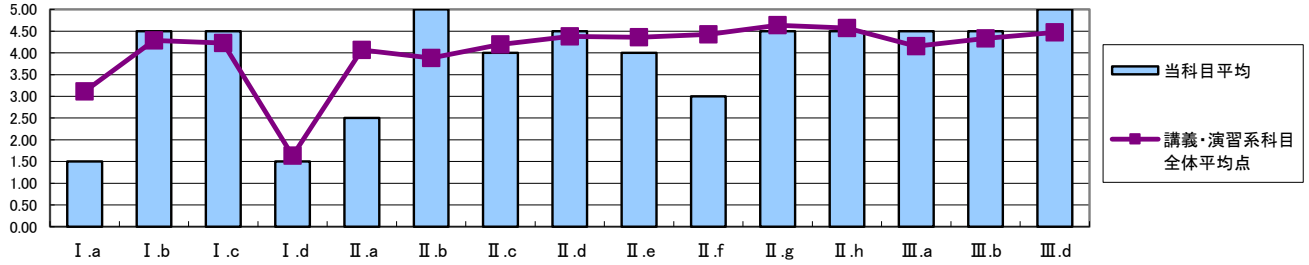
科目名	音楽の基礎理論(Konzertfach)B
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	2.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 100.0 / 3: 100.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

Konzert fachコースの2人の学生のための授業である。前期は知識を積み重ね、後期はそれらを駆使して楽曲分析を進めている。ユニークな解釈が学生から発表されることもあり、そういう完成を大事にしていきたいと思っている。年２回のウィーン留学を見据え、毎授業冒頭にイタリア語をドイツ語の音楽用語の小テストを実施している。毎年書いているが、５０分授業では短すぎる。もっと授業で取り上げたいことはたくさんあるのだが、どんなに早口でしゃべっても間に合わない。なんとか倍の時間が欲しい。

●　問題点

50分の中で同授業をまとめていくかが課題である。

●　改善の方策

５０分という短さの中で、いかに中身の授業を展開できるか、さらに工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

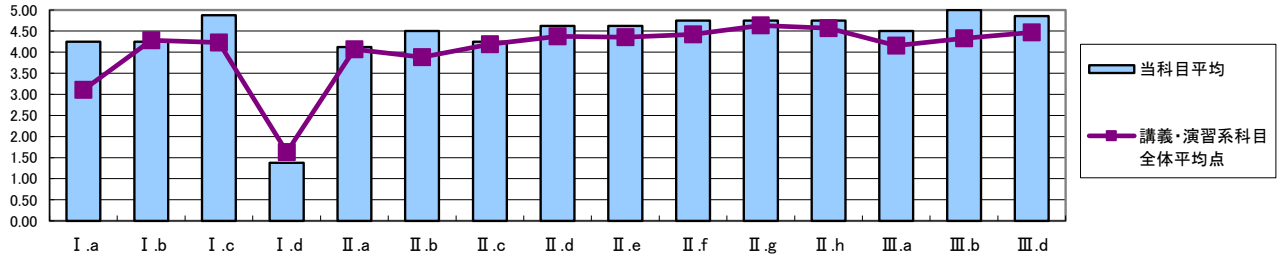
科目名	音楽文化論B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	10
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.88	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.13	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.50 / 4: 62.50 / 3: 100.00 / 2: 12.50 / 1: 12.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



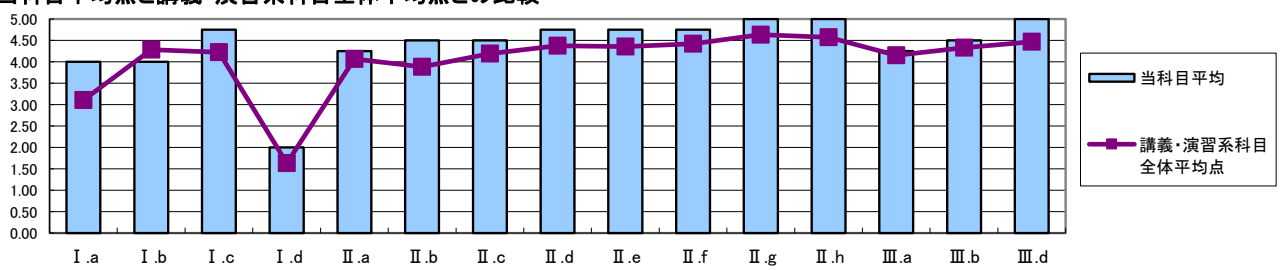
科目名	作品研究[鍵盤]Bb
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	9
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 25.00 / 3: 50.00 / 2: 25.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

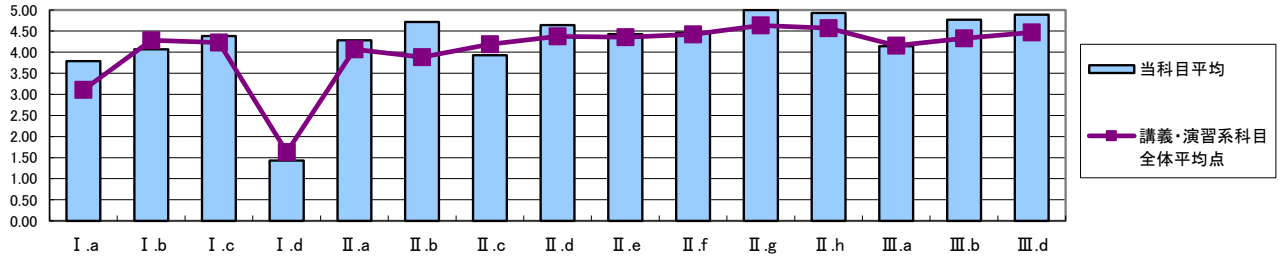
科目名	音楽史B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	31
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.79	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.07	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.93	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.64	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.46	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.77	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 15.38 / 3: 61.54 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



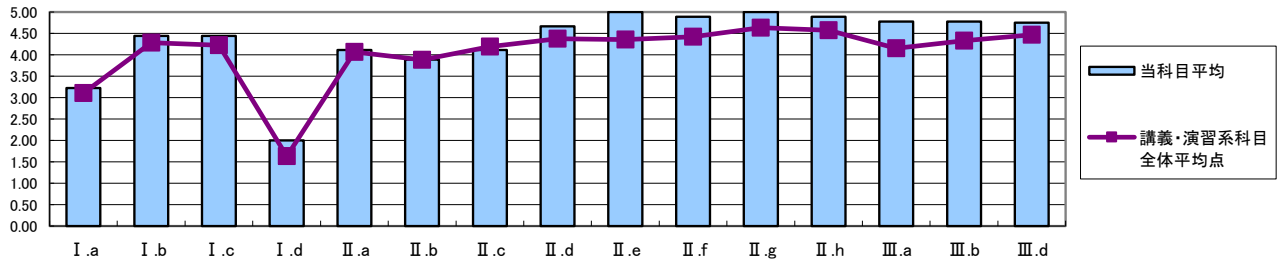
科目名	作品研究〔管弦楽〕B
教員名	遠山　菜穂美

職名	02. 教授

履修者数	12
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.22	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.44	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.44	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.11	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.11	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.78	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.78	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 66.67 / 3: 55.56 / 2: 22.22 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

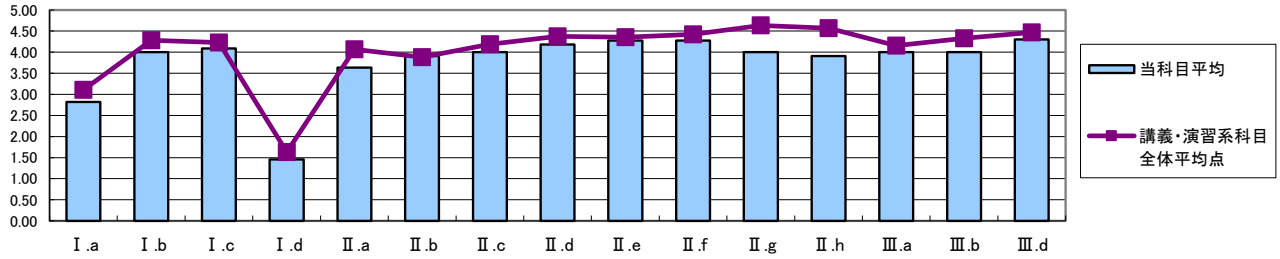
科目名	ﾎﾞﾋﾟｭﾗｰﾐｭｰｼﾞｯｸB〔作曲法・編曲法を含む〕
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	20
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.82	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.09	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.45	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.64	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.91	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.18	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.27	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.27	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.91	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 45.45 / 4: 27.27 / 3: 45.45 / 2: 18.18 / 1: 9.09	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.30	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



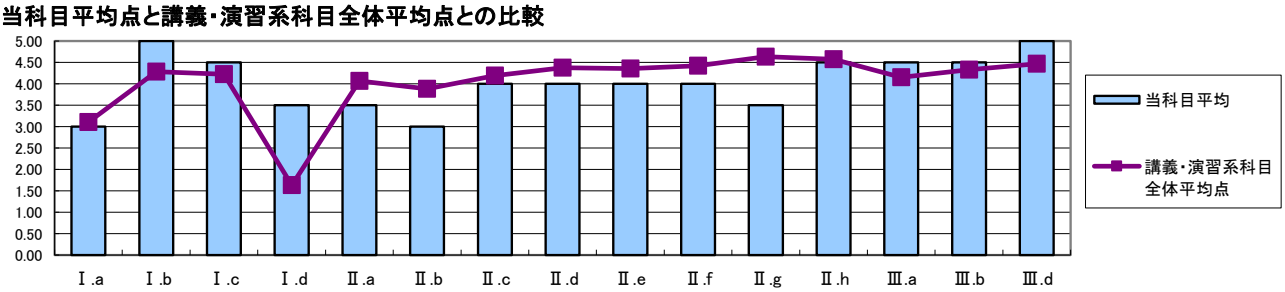
科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

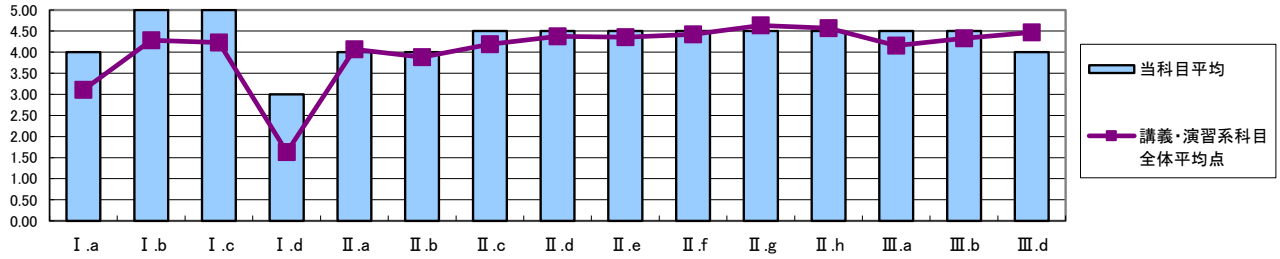
科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕c
教員名	佐々木　雄二

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



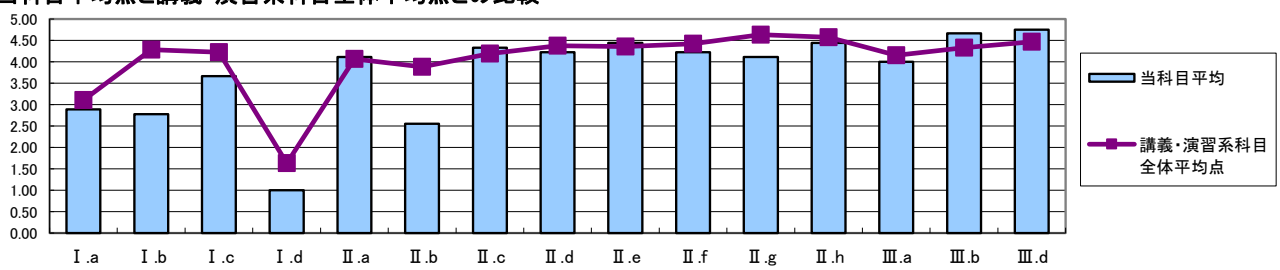
科目名	P.A.C.S.2
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	12
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.89	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	2.78	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.11	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.56	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.22	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.22	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.11	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.44	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 77.78 / 4: 100.00 / 3: 33.33 / 2: 11.11 / 1: 11.11	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

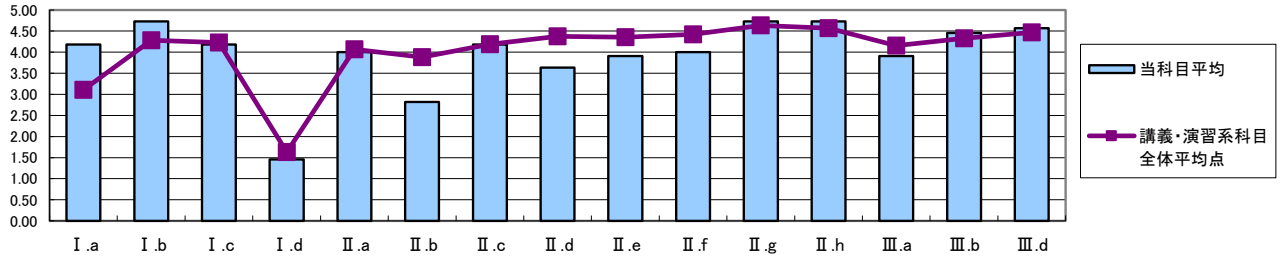
科目名	楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕a
教員名	田村　治美

職名	03. 特任教授

履修者数	17
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.18	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.73	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.18	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.45	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.82	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.18	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.64	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.91	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.91	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.45	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 36.36 / 4: 72.73 / 3: 45.45 / 2: 18.18 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.57	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



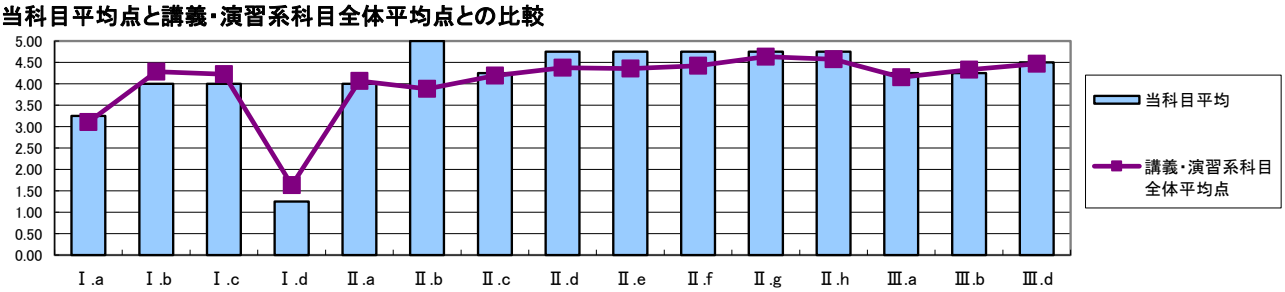
科目名	総合的な学習の時間の指導法
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 25.00 / 4: 50.00 / 3: 25.00 / 2: 25.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

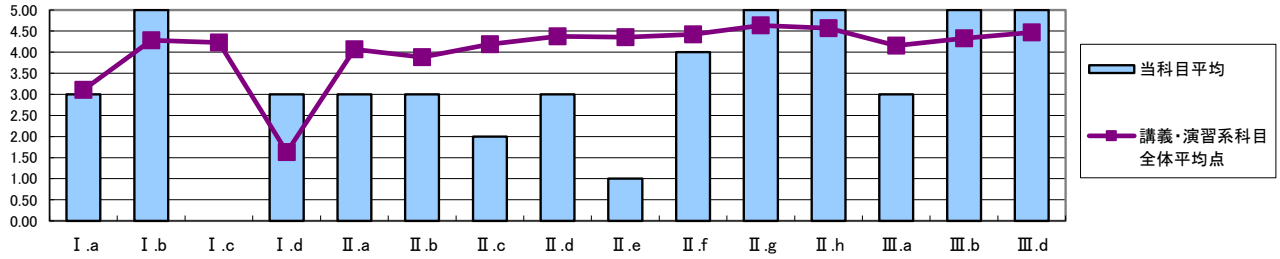
科目名	オーケストラＩＢ
教員名	上野　正博

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	－	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	1.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



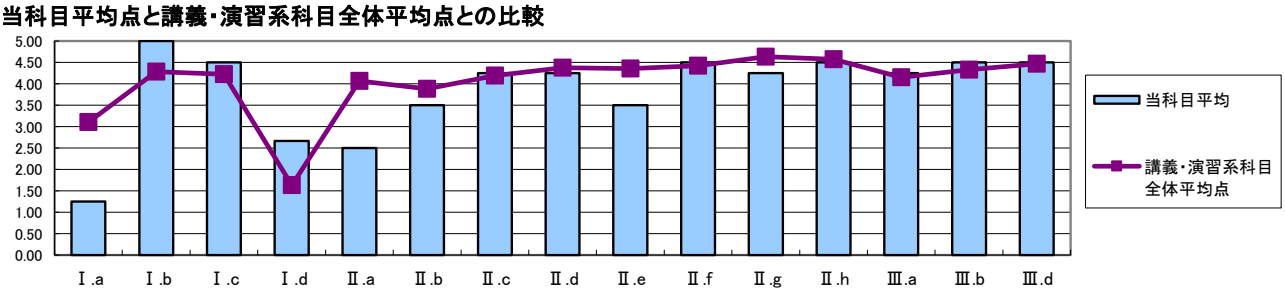
科目名	オーケストラⅡＢ
教員名	上野　正博

職名	05. 特任准教授

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.67	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	2.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.25	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 75.00 / 3: 75.00 / 2: 50.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

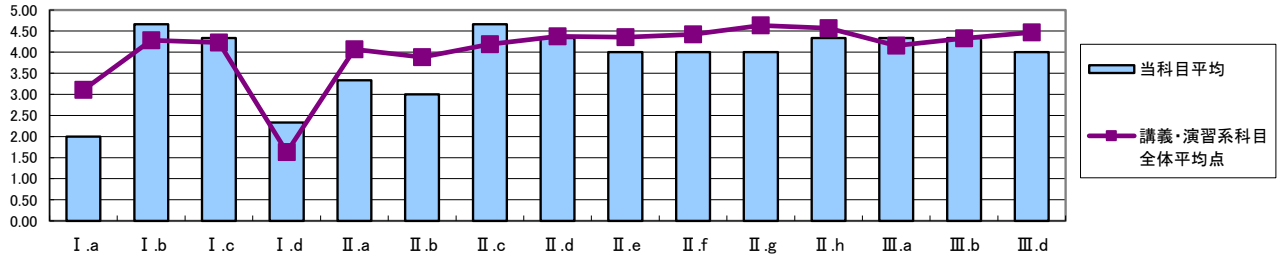
科目名	オーケストラⅢB
教員名	上野　正博

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 0.00 / 3: 0.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



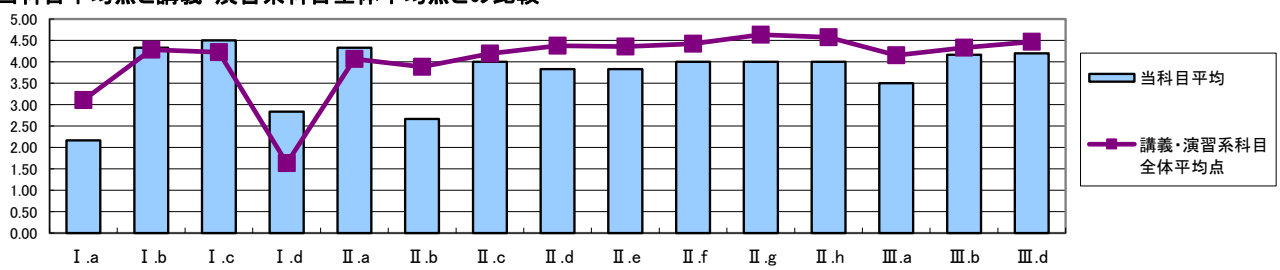
科目名	オーケストラⅣB
教員名	上野　正博

職名	05. 特任准教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.17	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.83	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.83	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.83	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.17	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 25.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

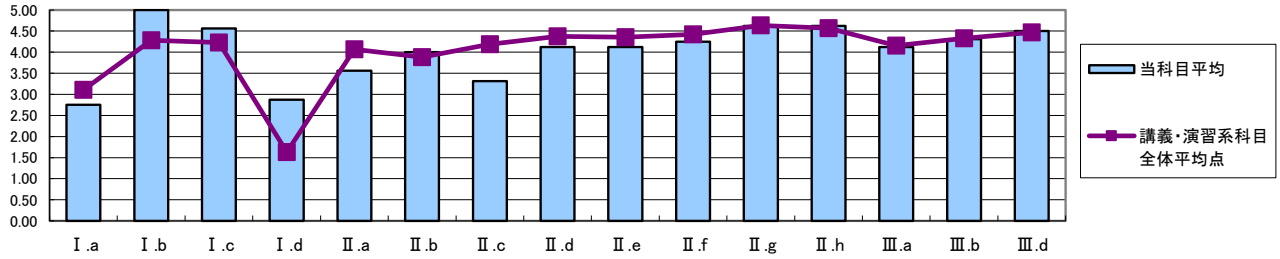
科目名	ウインドオーケストラＩＢ
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	20
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.56	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.88	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.56	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.31	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.13	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.13	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.25	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.63	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.63	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.13	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.31	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.50 / 4: 68.75 / 3: 43.75 / 2: 31.25 / 1: 37.50	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ウインドオーケストラⅡＢ
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	13
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.42	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.83	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.75	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.92	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.42	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.58	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.58	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.75	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.92	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.82 / 4: 54.55 / 3: 36.36 / 2: 45.45 / 1: 36.36	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

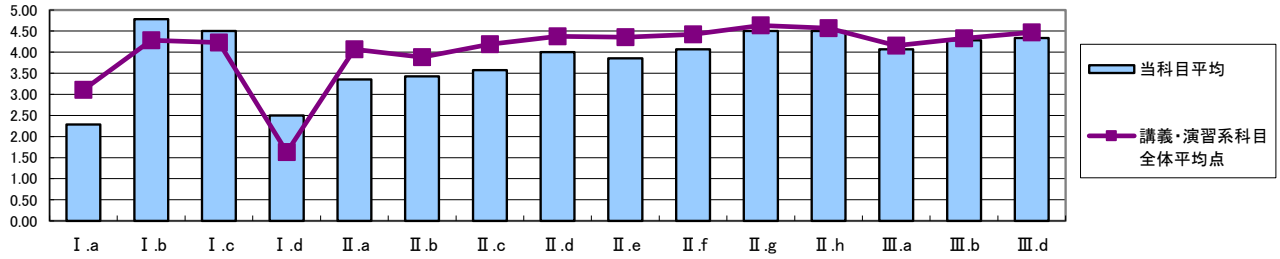
科目名	ウインドオーケストラⅢB
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	17
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.29	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.79	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.36	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.43	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.57	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.86	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.07	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.07	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 53.85 / 4: 46.15 / 3: 30.77 / 2: 30.77 / 1: 7.69	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



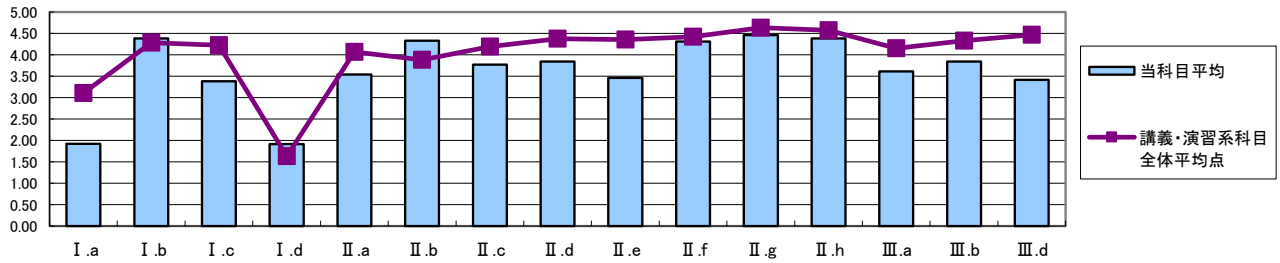
科目名	ウインドオーケストラⅣB
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	16
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.92	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.38	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.38	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.92	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.54	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.77	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.85	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.46	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.31	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.46	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.38	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.62	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.85	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 33.33 / 4: 77.78 / 3: 22.22 / 2: 44.44 / 1: 44.44	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.42	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

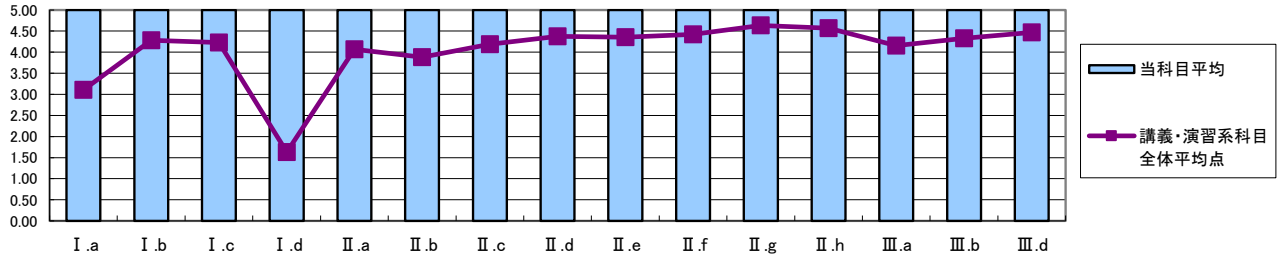
科目名	室内楽Ⅰ〔異種楽器〕b
教員名	松岡　裕雅

職名	05. 特任准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



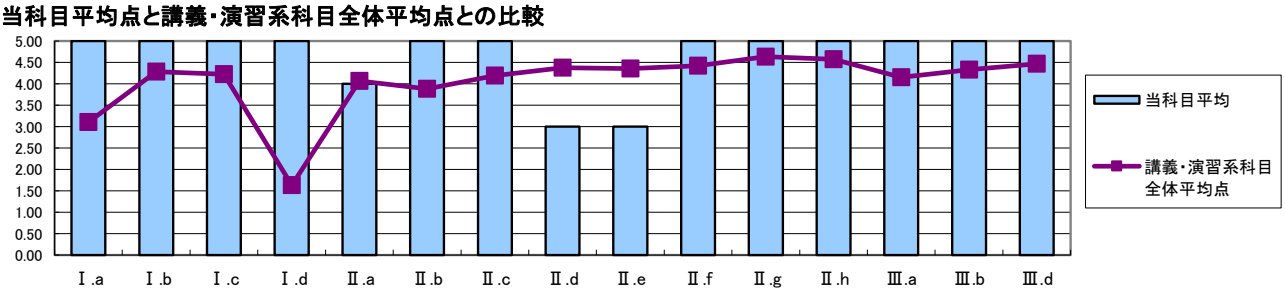
科目名	室内楽Ⅱ〔異種楽器〕b
教員名	松岡　裕雅

職名	05. 特任准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

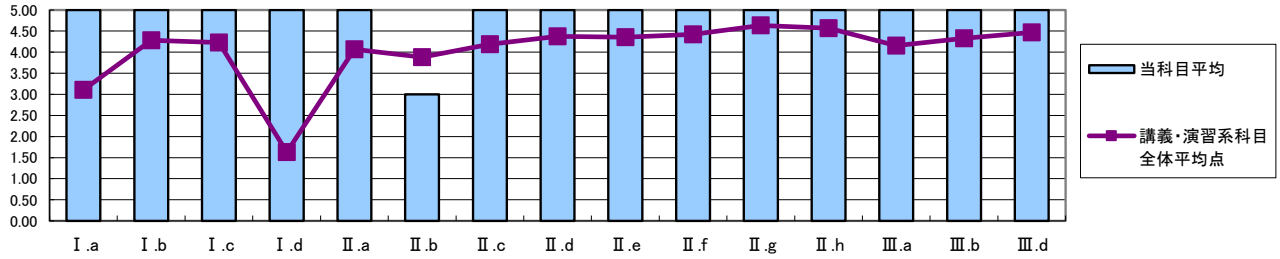
科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕b
教員名	松岡　裕雅

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



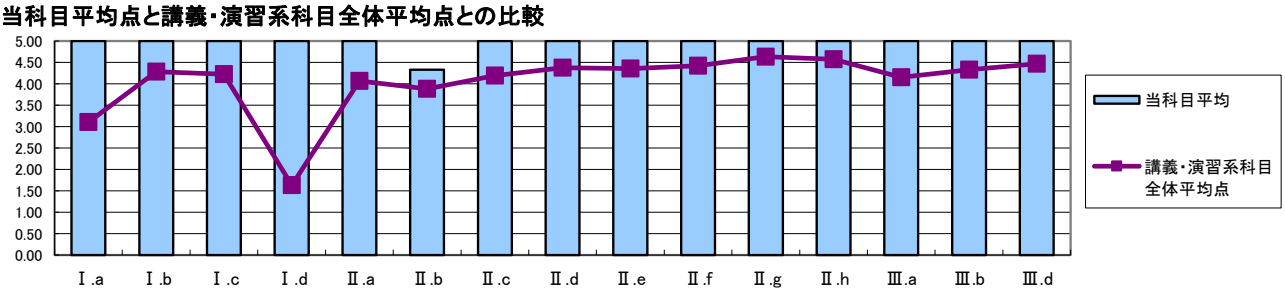
科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕e
教員名	松岡　裕雅

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

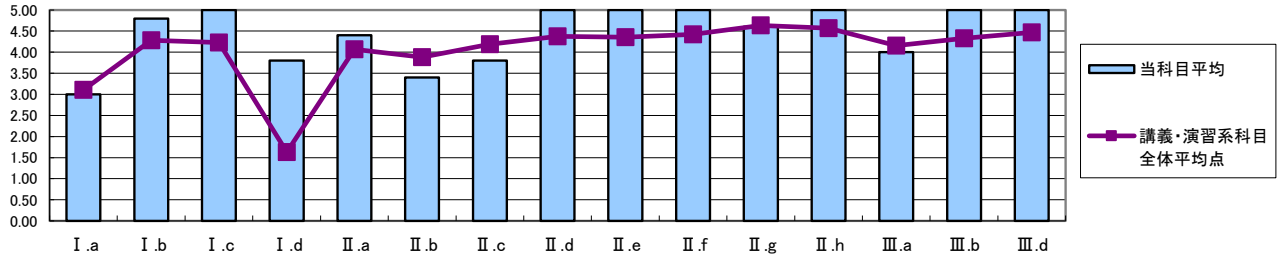
科目名	オペラ研究ＩＢ
教員名	松本　重孝

職名	05. 特任准教授

履修者数	9
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.80	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 60.00 / 3: 80.00 / 2: 20.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



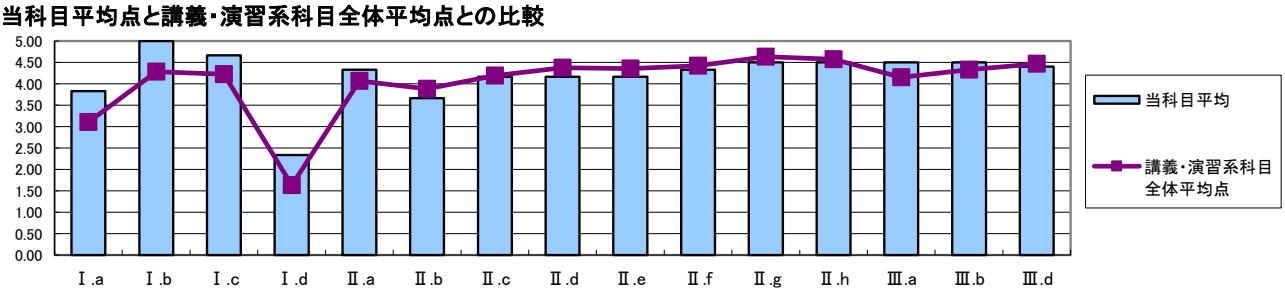
科目名	オペラ研究ⅡＢ
教員名	松本　重孝

職名	05. 特任准教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 66.67 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

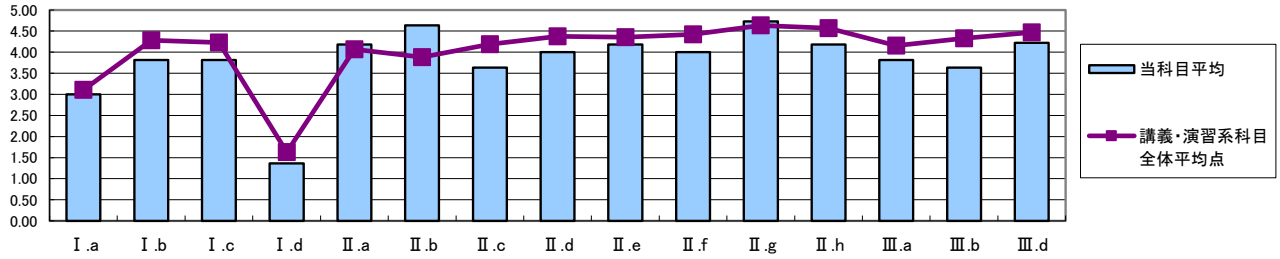
科目名	日本音楽史B
教員名	阿部　雅士

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.82	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.82	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.18	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.64	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.64	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.18	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.18	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.82	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.64	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 63.64 / 4: 27.27 / 3: 72.73 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.22	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



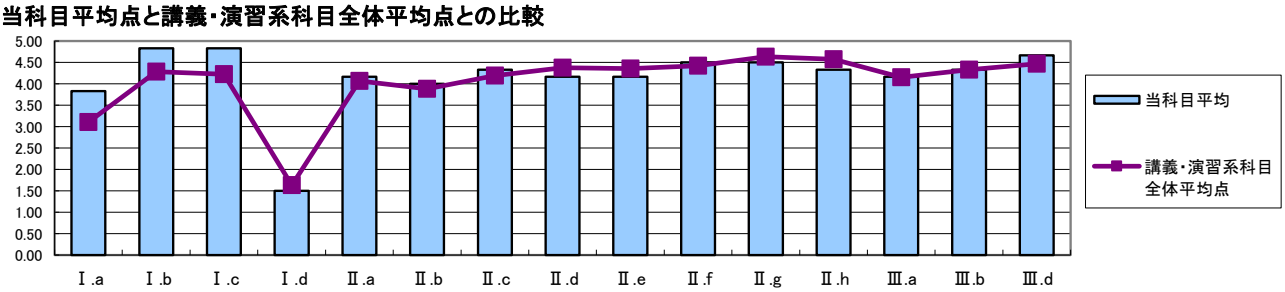
科目名	対位法B
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	9
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.83	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.83	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.83	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.17	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.67 / 4: 16.67 / 3: 50.00 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

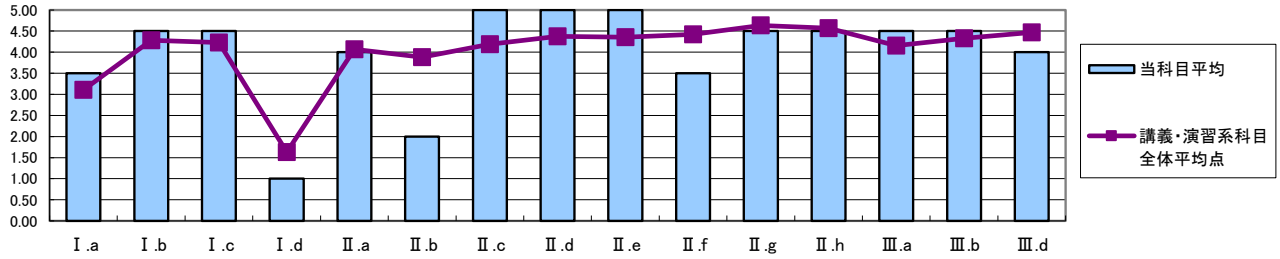
科目名	キーボードハーモニーB
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



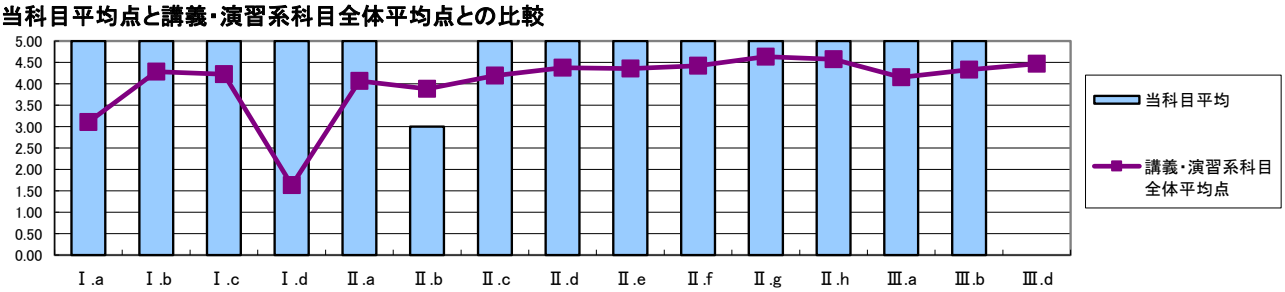
科目名	ソルフェージュ1
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: － / 4: － / 3: － / 2: － / 1: －	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

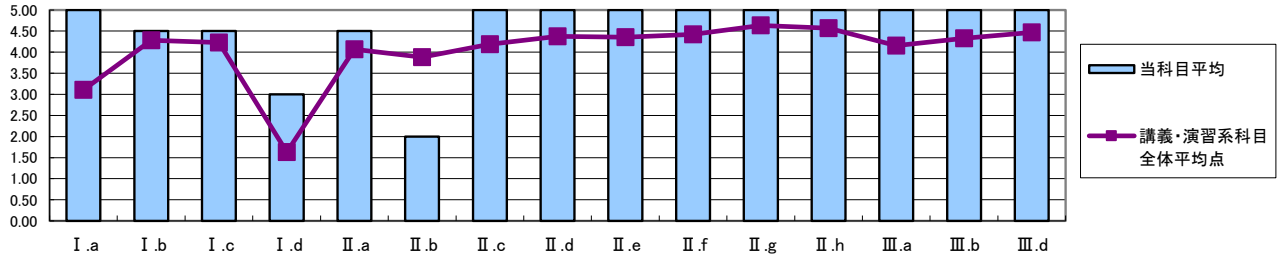
科目名	ソルフェージュ2c
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 100.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	作品研究〔歌曲〕B
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.83	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 33.33 / 3: 66.67 / 2: 33.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

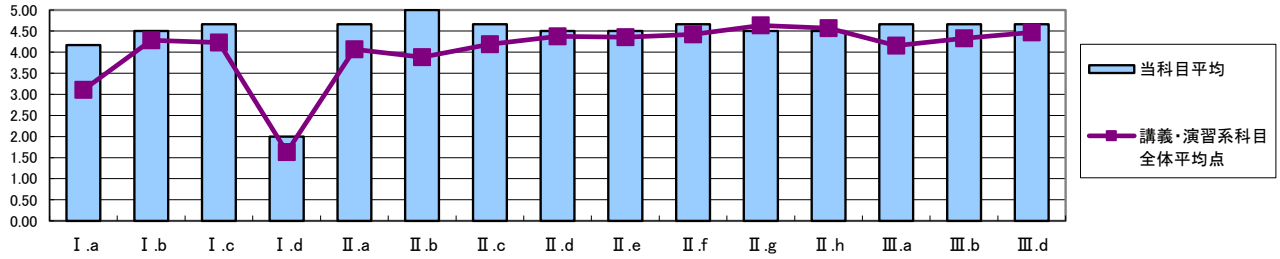
科目名	作品研究〔オペラ〕B
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.17	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 60.00 / 3: 40.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



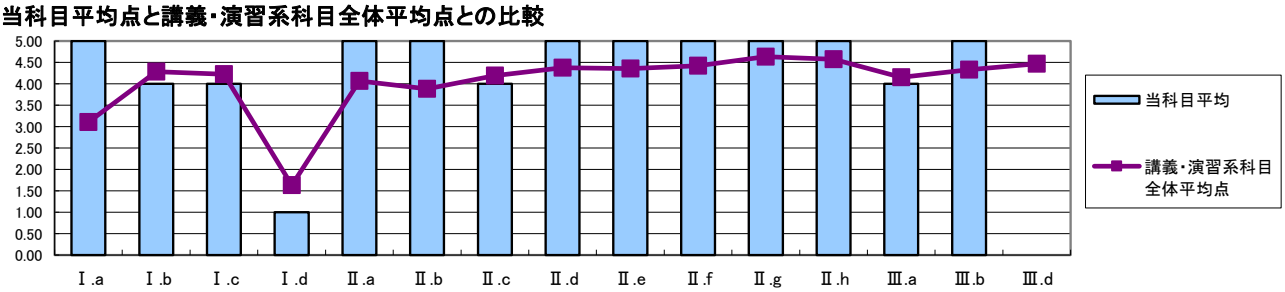
科目名	東洋音楽史B
教員名	櫻田　素子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

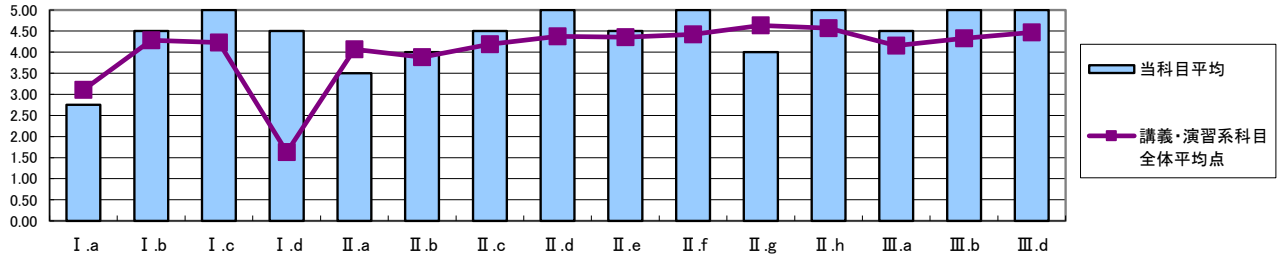
科目名	室内薬Ⅰ〔異種薬器〕f
教員名	河野　玲子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 50.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



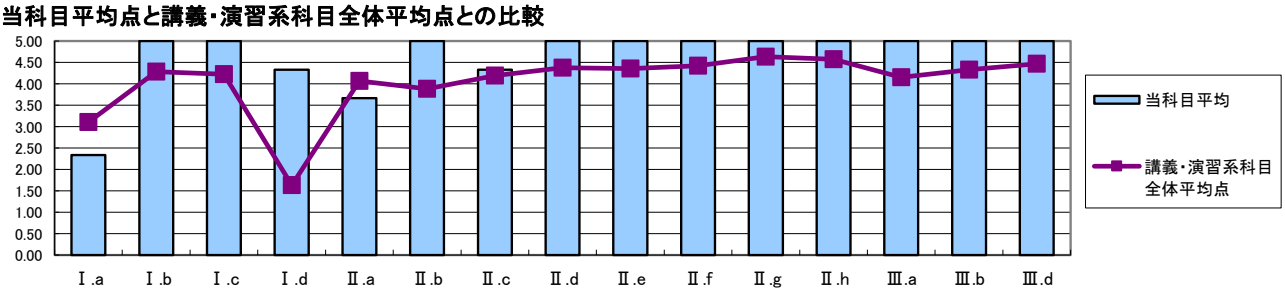
科目名	室内薬Ⅱ〔異種薬器〕f
教員名	河野　玲子

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 66.67 / 3: 66.67 / 2: 66.67 / 1: 66.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

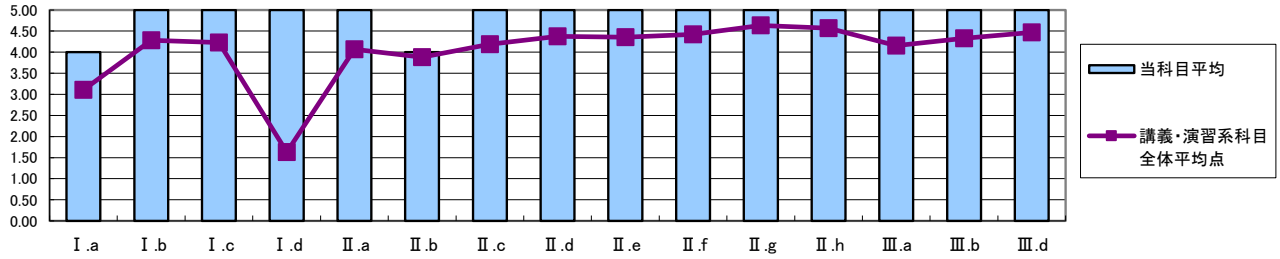
科目名	室内楽Ⅲ〔異種楽器〕f
教員名	河野　玲子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 50.00 / 3: 75.00 / 2: 50.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



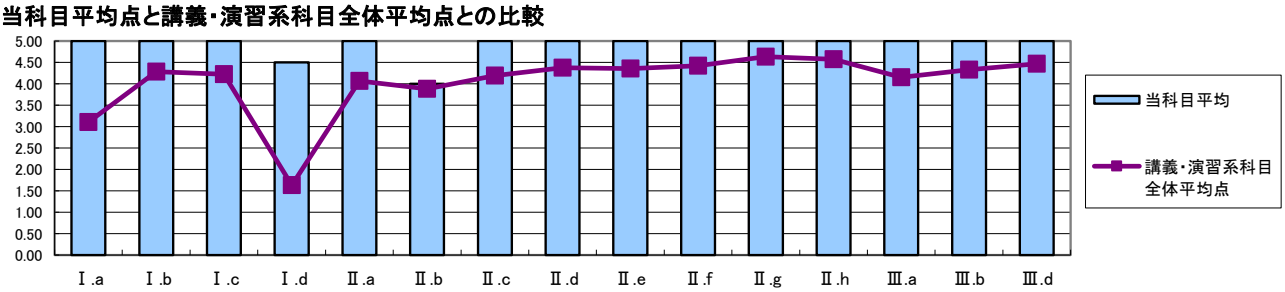
科目名	室内楽Ⅳ〔異種楽器〕f
教員名	河野　玲子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

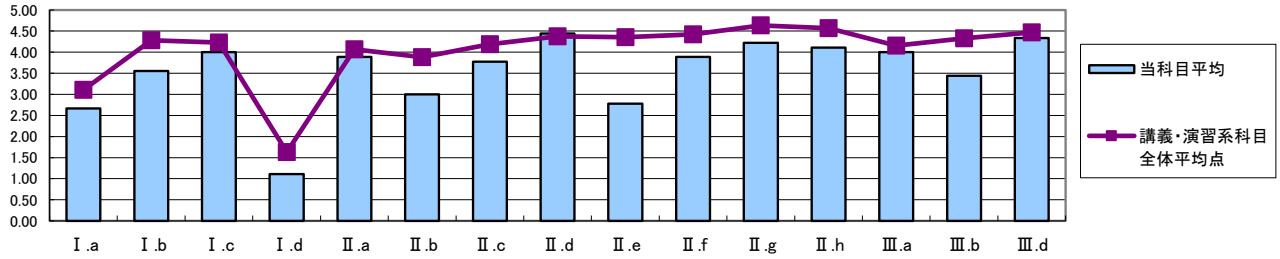
科目名	音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)
教員名	齋藤　順

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.56	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.89	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.78	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.44	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	2.78	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.89	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.22	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.11	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.44	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.89 / 4: 22.22 / 3: 44.44 / 2: 33.33 / 1: 22.22	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



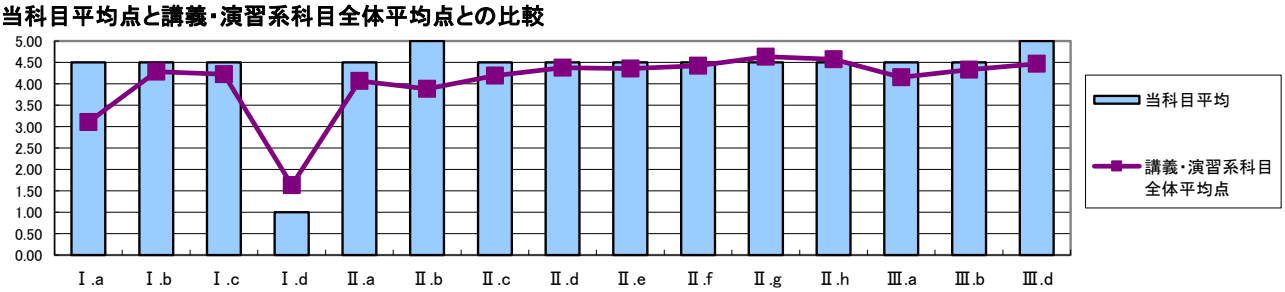
科目名	アジア音楽文化論
教員名	櫻田　素子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 50.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

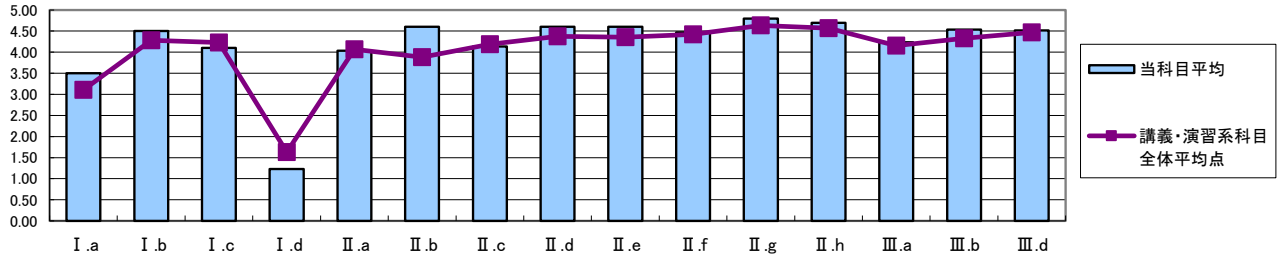
科目名	民族音楽学B
教員名	鈴木　良枝

職名	08. 講師

履修者数	35
回答者数	30

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.10	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.23	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.03	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.70	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.53	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 73.33 / 4: 40.00 / 3: 53.33 / 2: 3.33 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.52	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



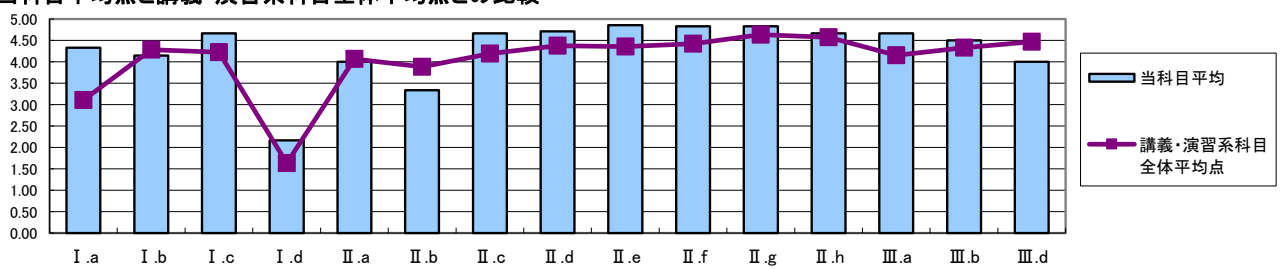
科目名	音楽の基礎理論Ba
教員名	田村　治美

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.14	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.17	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.67	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 25.00 / 4: 25.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

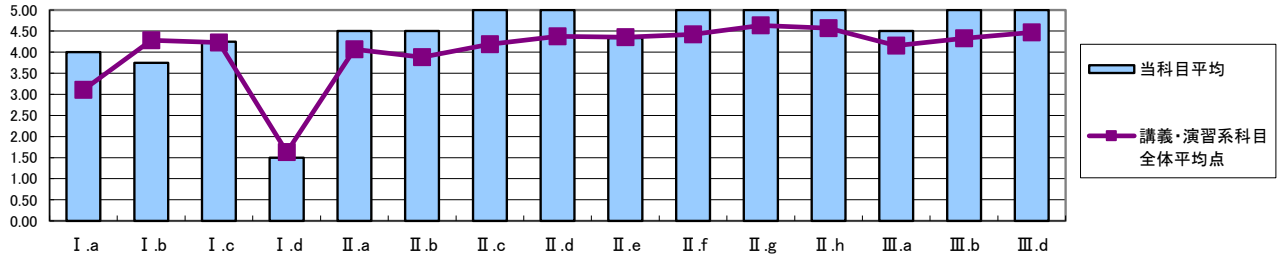
科目名	音楽音響メディア論B
教員名	難波　研

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.75	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 25.00 / 2: 75.00 / 1: 25.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



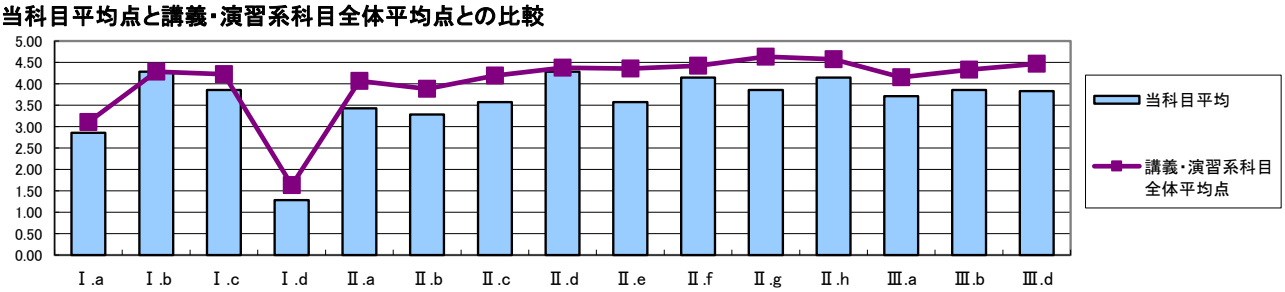
科目名	日本の伝統音楽概説B
教員名	馬場　信子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.86	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.86	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.43	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.57	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.57	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.14	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.86	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.14	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.71	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.86	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 28.57 / 3: 28.57 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.83	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

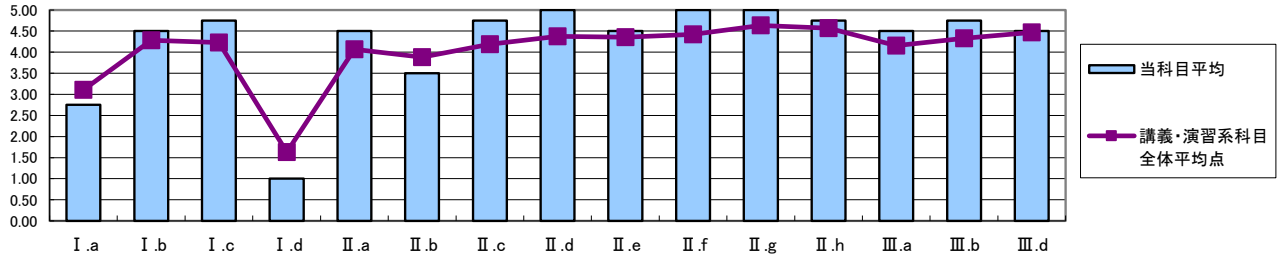
科目名	特別支援を必要とする生徒の理解
教員名	二俣　泉

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.75	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.00 / 4: 50.00 / 3: 75.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



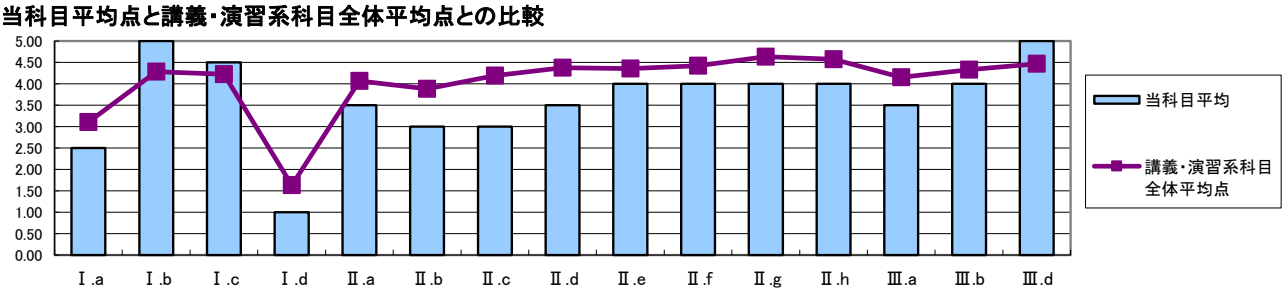
科目名	音楽療法の理論と技法B
教員名	二俣　泉

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



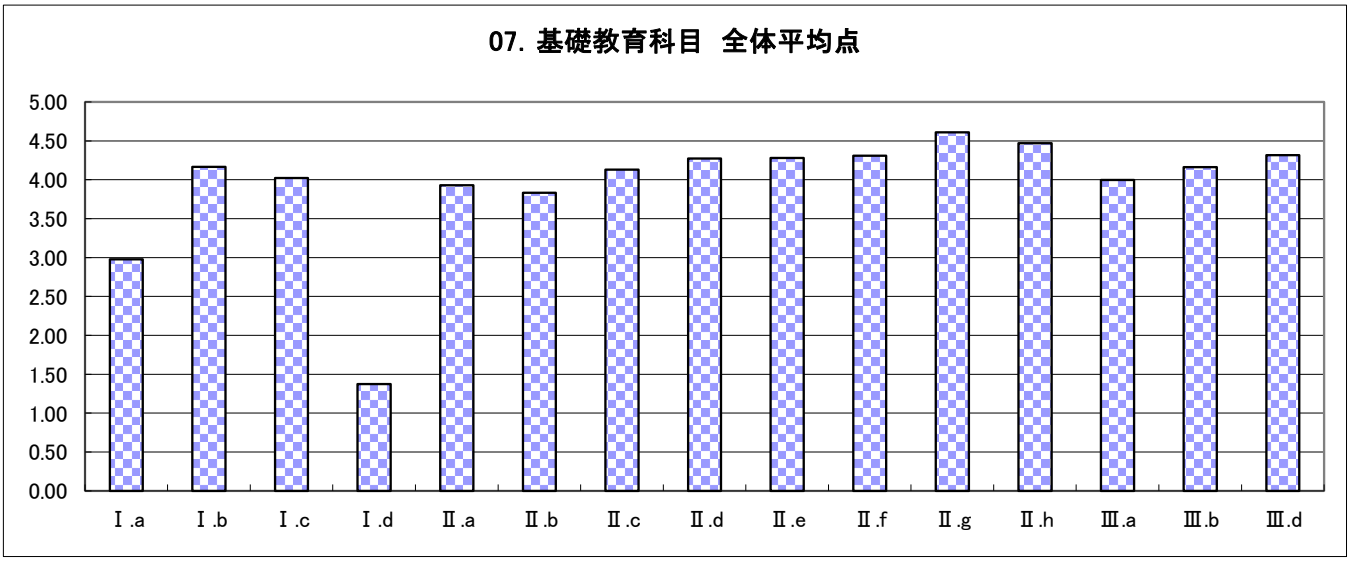
基礎教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	07. 基礎教育科目
科目数	50

履修者数	750
回答者数	575

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.98	95	118	168	60	131	572	3
				16.6	20.6	29.4	10.5	22.9		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.17	271	173	88	32	8	572	3
				47.4	30.2	15.4	5.6	1.4		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.02	222	196	113	27	14	572	3
				38.8	34.3	19.8	4.7	2.4		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.37	15	1	33	84	437	570	5
				2.6	0.2	5.8	14.7	76.7		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.93	219	139	184	9	19	570	5
				38.4	24.4	32.3	1.6	3.3		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.83	61	125	332	23	32	573	2
				10.6	21.8	57.9	4.0	5.6		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	263	164	117	13	15	572	3
				46.0	28.7	20.5	2.3	2.6		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.27	304	164	73	21	11	573	2
				53.1	28.6	12.7	3.7	1.9		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.28	317	137	88	18	11	571	4
				55.5	24.0	15.4	3.2	1.9		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.31	323	132	97	13	8	573	2
				56.4	23.0	16.9	2.3	1.4		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.61	419	100	42	9	3	573	2
				73.1	17.5	7.3	1.6	0.5		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.47	369	127	62	7	8	573	2
				64.4	22.2	10.8	1.2	1.4		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	212	184	147	14	13	570	5
				37.2	32.3	25.8	2.5	2.3		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.16	289	146	96	16	23	570	5
				50.7	25.6	16.8	2.8	4.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	365	166	184	65	172	534	41
				68.4	31.1	34.5	12.2	32.2		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.31	284	92	50	16	19	461	114
				61.6	20.0	10.8	3.5	4.1		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

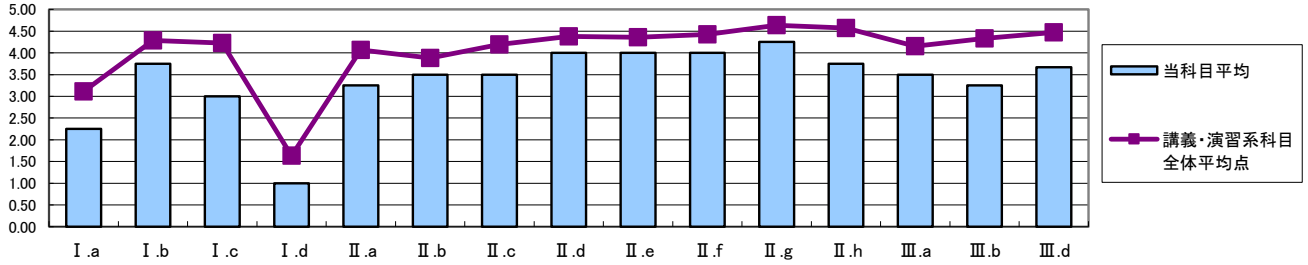
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	19
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.75	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.25	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.25	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.0	4: 25.0
			3: 0.0	2: 0.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は，教職課程の必修科目の１つでもあり，１限に実施しているためか，学生の履修態度は総じて熱心である。本科目では，法の基本的な概念について概説したうえで，私たちの生活に日本国憲法や私たちの生活に関連する法律の基本的な問題を対象としている。教職課程の必修科目の１つでもあり，法全般にわたる特徴について理解した上で，日本国憲法の基本的な問題点について、統治機構や基本的人権について考察し，理解するものである。講義にあたっては多くの関連資料を配布しできる限り具体的で身近な内容についての考察を心がけた。学生たちは多様な内容について取り扱ったために，非常に興味をもつことができたようである。

●　問題点

アンケートの結果から，学生個人が予習および復習にかける時間がやや不足気味であったように見受けられる。

●　改善の方策

予習，復習により，理解が容易になるだけではなく，今後の学生自身の生活にも有用なものとなることでもあるため、その重要性について更に喚起していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

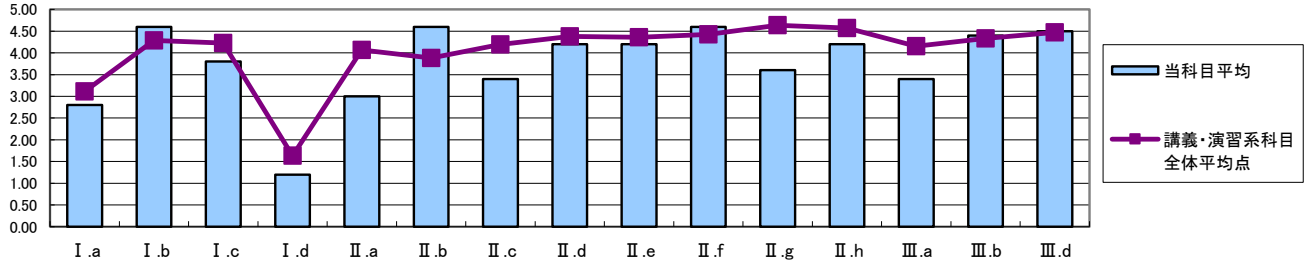
科目名	国際理解と交流B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	12
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.80	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.20	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.60	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.20	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.40	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.0 / 4: 20.0 / 3: 20.0 / 2: 0.0 / 1: 60.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は，国際交流のため，多様な考え方や文化，生活様式の違いを踏まえ，相手の立場について理解するために，文化，民族，生活様式のみならず，知的財産権や環境問題，人口問題について考察し，理解するためのものである。講義内容が広範で多岐にわたり，その切り口も多様なものであったが，学生たちは興味をもって授業に臨んでくれた。多くの配布資料や映像に触れながらの授業であったことや，多様な内容について取り扱ったために，学生たちが興味をもつことができたように考えられる。

●　問題点

アンケートの結果から，学生が予習および復習にかける時間がやや不足しているようにみられるところが残念である。

●　改善の方策

予習，復習によって，講義内容を理解することが十分なものとなるだけではなく，今後の学生自身の生活にも有用なものとなることでもあるため、更にその重要性について示していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

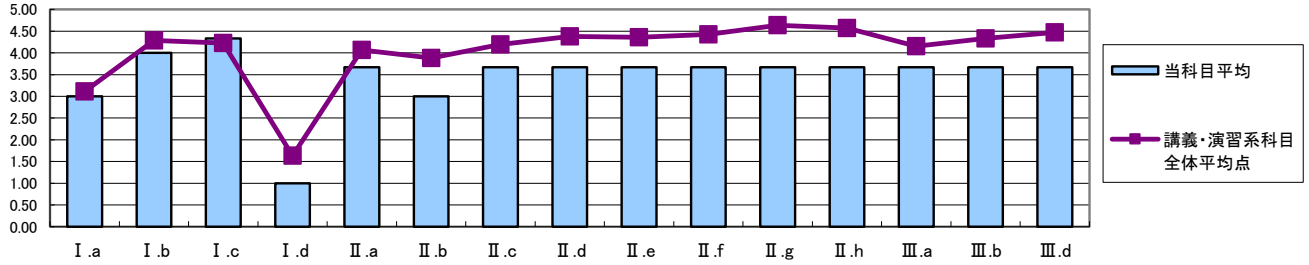
科目名	日本国憲法と生活B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 50.0 / 3: 50.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者は全員が授業の開始時点において準備をしているという非常に熱心な学生であった。本科目では，法の基本的な概念について概観したうえで，日本国憲法の基本的な内容や私たちの生活に関連する法律の内容について考察した。学生たちは目的意識がしっかりとしており，日本国憲法や各種の法に対する理解度が高かった。民法において規律されている事項について，討議や質問を通じて講義内容について十分に把握してくれた。特に著作権法などの知的財産権法や特定商取引法に関して興味をもって講義に臨んでいた。毎回の配布資料や映像に触れながらの授業であったことや，多様な憲法や各法律の内容について取り扱ったために，学生たちは様々な形で興味をもち十分に理解を深めたように考えられる。

●　問題点

アンケートの結果から，学生個人が予習および復習にかける時間が少し少なかったように見受けられるところが残念である。

●　改善の方策

予習，復習によって，更に理解が容易になるだけではなく，学生自身の今後の生活にも有用なものとなることでもあるため、その重要性について指摘していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

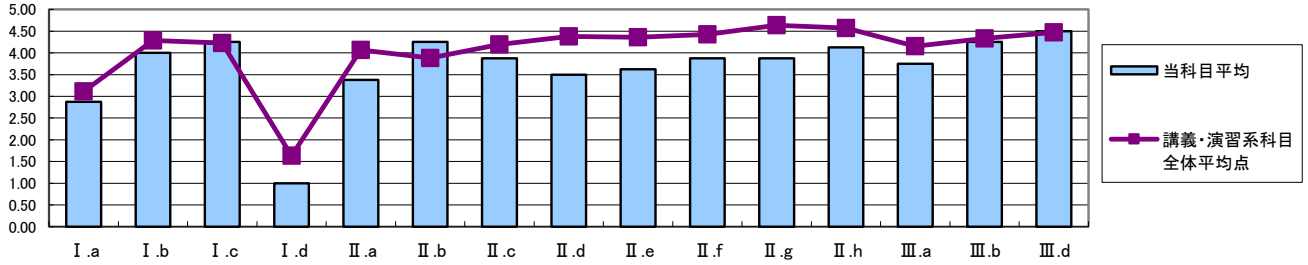
科目名	文化芸術論B
教員名	相良　憲昭

職名	03. 特任教授

履修者数	9
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.88	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.38	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.25	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.88	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.63	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.88	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.88	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.13	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.75	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.25	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.7 / 4: 42.9 / 3: 42.9 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

学生諸君の聴講態度が極めて真面目であり、学ぼうとする意欲を強く感じました。今後ともこの様な雰囲気の中で授業を行えれば、これに勝る喜びはありません。

●　問題点

特に問題とすべき点はありません。

●　改善の方策

特に改善の必要はありません。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

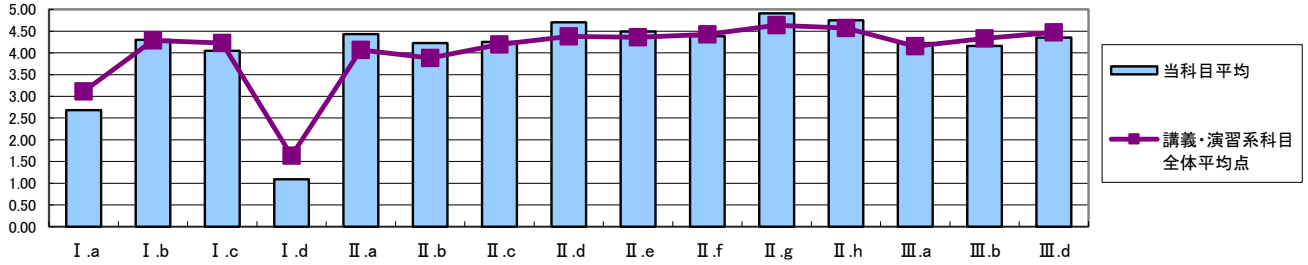
科目名	東邦スタンダードＩBa
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	49
回答者数	44

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.68	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.30	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.05	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.09	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.23	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.70	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.49	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.39	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.91	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.16	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 40.9	4: 50.0
			3: 4.5	2: 18.2
			1: 63.6	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.35	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本学を代表する科目である東邦スタンダードの授業であるが、今年度も昨年度同様大学１年の担任を務めた。履修者数４９名。うち４４名がアンケートに回答している。アンケートの集計結果を分析・考察すると、やはりシラバスの活用、予習・復習という部分で平均点が低いことがすぐにわかる。これら以外の設問については、いずれも4点台であり、大きな問題は無いと考える。また、過去の本授業のアンケート主計結果と比較すると、設問Ⅲ－ｄ「この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。」に対して、４．３５点と高く、喜ばしい結果であった。その他自由記述欄への回答数と内容を踏まえても、大変良好であり、シラバスに提示されている科目の目的は、概ね達成出来たということが今年度の現状からの考察である。

●　問題点

特に今年度は、アクティブラーニングに的を絞って取り組んでいた為、シラバスの活用法や予習・復習のポイントを丁寧に説明する時間が少なかったことが問題点である。

●　改善の方策

説明の時間を多く設定する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

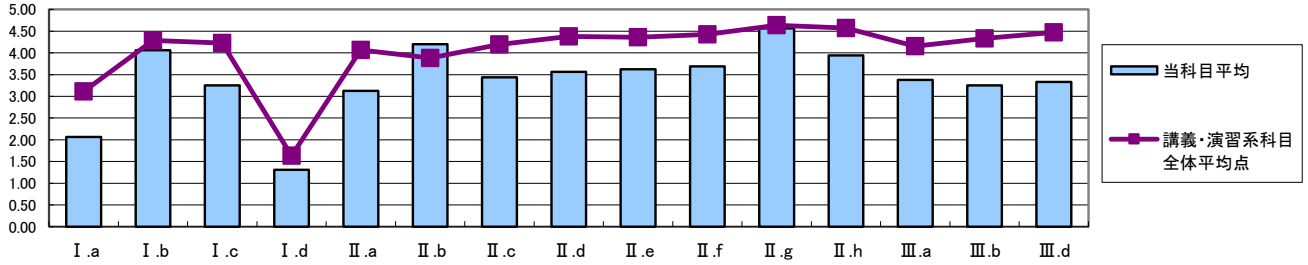
科目名	東邦スタンダードⅢBa
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	21
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.06	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.06	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.31	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.13	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.44	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.56	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.63	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.69	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.56	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.94	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.38	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.25	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 35.7	4: 21.4
			3: 14.3	2: 21.4
			1: 50.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

３年次生を２クラスに分けたBクラスで２１名が履修した。東邦スタンダードⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台にして、毎回のテーマに沿ったさまざまなワークを通じ、東邦音楽大学の学生として、日々の学修と学生生活を充実させ、それを将来社会でどう活かしていくかをより具体的に考え、必要なスキルを学ぶ授業である。７回の外部講師によるキャリアデザインの授業や各種講演会を含み、コミュニケーション能力を高めながら、物事の多角的な見方や考え方を実践し、問題解決能力を養うことを中心にして授業は進められた。学生は現時点での各自の将来像をより具体化・可視化するためにやるべきことは何かを理解しており、滞りなくこなすことが出来た。

●　問題点

シラバスの活用、開講時の成績評価の基準の明確性、授業内容の学習意欲への刺激および興味、に他の設問より低評価が付けられている。どちらかというと学生が受動的になるような項目に問題点が見られる。

●　改善の方策

当科目は必修であるため、シラバスを活用するに当たらないと、目を通さない学生もいたようである。事前にシラバスには目を通すよう、オリエンテーションなど授業開始前の期間に、機会があれば促すことが必要であろう。また、学習意欲を向上させるためには、本人に関連した身近に感じるようなエピソード等を多く提供し、有意義な授業展開を行うために協力を仰ぐことを喚起し、また要請したいと思う。学生の少数意見の中にもより良い授業展開をするためのヒントが隠れていることもある。少ない意見にもそれを真摯に受け止めて応えて行くように心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

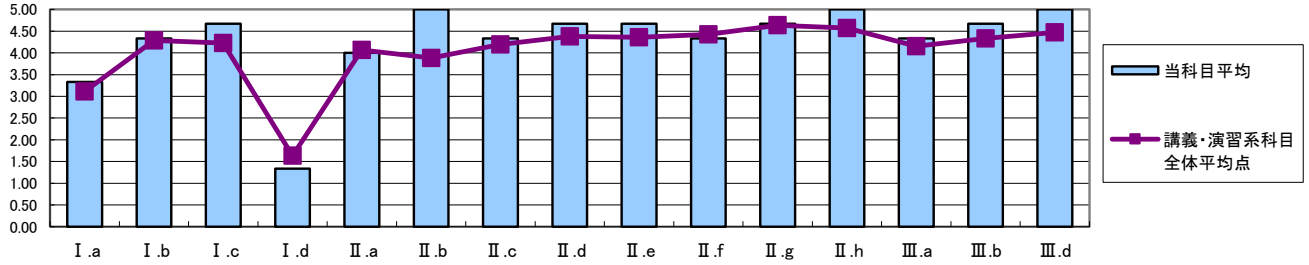
科目名	Career English ⅠB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 50.0 / 2: 50.0 / 1: 50.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目は令和元年度に新規開講された。その目的は、ビジネスコミュニケーションに必要な素養を学び、ビジネス英語特有の表現を活用できる能力の育成を目指すことである。到達目標は、①英語の基礎となる「聞く」「話す」「読む」「書く」の4機能を体系的に磨く、②必要な情報を取捨選択し、相手の意図を正しく汲みとることができること、③ビジネスマナーを踏まえ、英語でのフォーマルなコミュニケーションに対応できることである。ビジネスの場面で求められる英語は、これまでの英語の雰囲気と異なり、言葉遣い、マナーなど洗練させる必要がある。本専攻には、既に大学に在籍しながら仕事をしている学生もいることから、より実践ですぐに役立つ内容を検討した。開講曜日・時限は、毎週火曜日の1時限目であり、受講生は上記専攻の2年生2名、1年生1名（アンケート実施の令和元年12月時点）であった。彼らは、パフォーマンス総合芸術文化専攻の第1期生、2期生であり、将来への意欲と目標をしっかりと見据え、仕事と英語とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。とりわけ1期生は、学生間の英語の習熟度に差が大きく、英語に対する意欲も様々であった。意欲も習熟度も差が大きい中での授業であり、当初は大変心配していたが、個々人の意欲は感じられ、学生間のコミュニケーションも非常に円滑で、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。当科目が担う「ビジネスのための」というキーワードを意識し、授業は、講義と演習（ロールプレイやペアワーク活動など）の混合形式で実施し、ビジネスの場面で使えるための学修を行った。集計結果によると、当科目平均をやや下回るものとして以下に着眼した。「Ⅰd. 1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。」である。問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

ビジネス英語のための基礎をつくることを目的とした授業であったが、一年かけるには内容が不足していたかもしれない。それにより、学生自身の予習、復習への意欲がなかなか持継続させられなかったものと考える。学生にとって、授業時間内だけでどれだけ自分の英語運用能力を高められるかということは関心があると考えている。そのため、なるべく持ち帰り課題等の負担を軽減するよう努めた点も影響しているかもしれない。

●　改善の方策

全15回しかない授業であるが、履修してよかったと思っていただけるよう内容を検討している。次年度より、本科目は前期で完結させ、後期にはビジネスで直ちに活用できるITリテラシー演習の授業を実施する。ビジネスで英語を活用するためには、言葉遣い、マナーなど意識すべき点は多い。特に、プレゼンテーションは重要なスキルであり、そのための英語運用能力を高めると同時に、パソコン運用とあわせての能力の醸成を検討している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

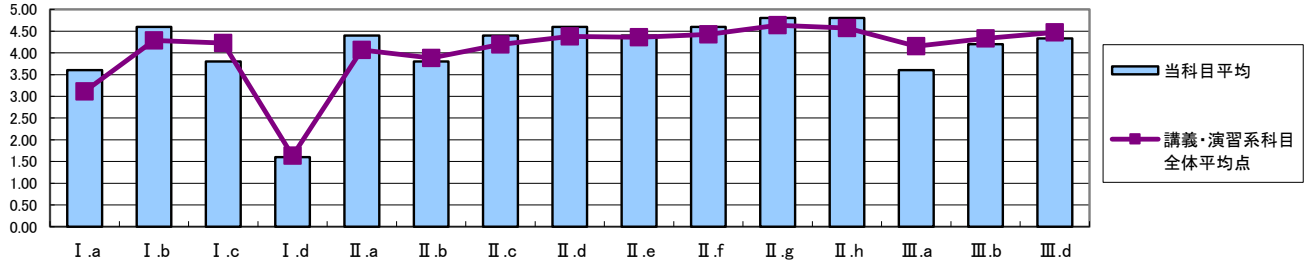
科目名	Communication Skills ⅡB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.60	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.60	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 33.3 / 4: 66.7 / 3: 0.0 / 2: 33.3 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目はCommunication SkillsⅠA/Bの発展版であり、その目的は、日常における様々な状況を想定し、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎を作ることである。到達目標は、①コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現（文法、語彙、発音など）を運用できること、②簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにすることである。東京オリンピックを次年度に控え、グローバル社会の一員であり、いざというときのひとことを助ける力を養うために、本年度は「海外生活」をキーワードに授業内容を検討した。開講曜日・時限は、毎週火曜日の2時限目であり、受講生は上記専攻の2年生4名、1年生1名（アンケート実施の令和元年12月時点）であった。彼らは、パフォーマンス総合芸術文化専攻の第1期生、2期生であり、将来への意欲と目標をしっかりと見据え、仕事と英語とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。とりわけ1期生は、学生間の英語の習熟度に差が大きく、英語に対する意欲も様々であった。意欲も習熟度も差が大きい中での授業であり、当初は大変心配していたが、個々人の意欲は感じられ、学生間のコミュニケーションも非常に円滑で、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。当科目が担う「コミュニケーションのための英語」というキーワードを意識し、授業は、講義と演習（ロールプレイやペアワーク活動など）の混合形式で実施し、年間を通して、円滑なコミュニケーションのための学修を行った。集計結果によると、当科目平均をやや下回るものとして以下2点に着眼した。一つ目は「Ⅲa.開講時に示された到達目標を十分に達成できた。」、二つ目は「Ⅲb.授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。」である。問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

大前提として、学生の習熟度の統制ができていない。とりわけこのクラスは、習熟度分けをしていない1期生が中心であったため、2期生の上位グループの学生が1名加わったところで上位クラスとして機能していなかったことが悔やまれる。そのため、習熟度が下位の学生には難しすぎることも多く、それにより必要以上に時間を割くことも多く、上位の学生にとっては意欲減退へとつながってしまったかもしれない。

●　改善の方策

改善策としては、年度当初に全員に習熟度によるクラス分けを実施する。これを今まで以上に厳密に行い、学生間の習熟度の差をなるべく排除することを検討している。また、留学を目的としている学生ではないこともあり、教科書の選定も改めて行う必要があると考えている。学生の興味・関心を考慮すると、音楽に関すること、また、日常生活においてすぐにでも活用できることが肝要と考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

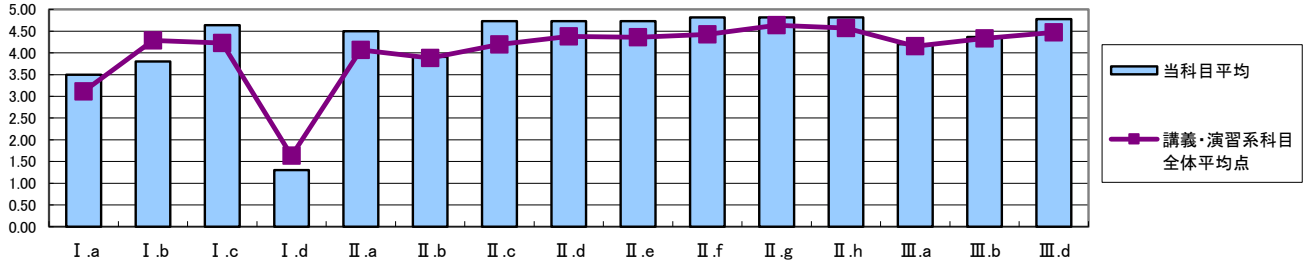
科目名	Basic English 2
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	11
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.80	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.64	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.30	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.91	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.73	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.73	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.82	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.36	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.9	4: 18.2
			3: 45.5	2: 27.3
			1: 45.5	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的に向上させることである。到達目標は、①ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにすること、②やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにすることである。開講曜日・時限は、毎週木曜日の2時限目であり、受講生はパフォーマンス総合芸術文化専攻の第2期生である1年生全11名（アンケート実施の令和元年12月時点）であった。彼らは、将来の目標として据える仕事とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。春学期の授業開講時には習熟度確認テストを実施の上、クラス編成を行っている。しかしながら、当該クラスにおける学生間の英語の習熟度の差は大きく、英語に対して、自分の実力以上に苦手意識を持つ学生も多数を占めていた。しかし、現状を打破したいという学習への意欲も強く感じるとともに、授業の雰囲気も良く、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。近年学生たちの英語への興味・関心は、会話重視の「コミュニケーション」に集中している。一方、文法を否定的に捉える傾向があり、本科目受講生も苦手意識を持っていた。しかし、英語で円滑なコミュニケーションを図るために基礎文法への理解は欠かせない。そこで、音楽に関心が高い者が、楽しく英語学習を進められるよう教材の選定にも努めた。文法への苦手意識を軽減させながら、冒頭で言及した4領域を体系的に向上させるため、教材として金星堂より出版された「Learn English through Jazz and Pops」を採用した。本書の中で、歌を聞いて歌詞の書き取り、歌詞を日英訳する作業は、シンガーソングライター志望の学生も多い中で大変評判がよかった。英語は自発的な学習が肝要であるため、演習との混合形式で実施し、英語を総合的に運用するための基礎を完成させた。集計結果より、当科目平均において「講義・演習系科目全体平均」を唯一下回ったものとして以下に着眼した。「Ⅰd.1回の授業のために、平均どのくらい学習、復習をしましたか。」である。問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

BasicEnglishでは、学生間の英語習熟度の差が大きいため、上位グループを中心に少し平易な課題であったかもしれない。また、主体的な学びをのぞんでいる教員側の思いに反して、学生自身が受け身であった。どの学生にとっても、英語を総合的に運用するための力を養えるよう工夫をしたものの、学生が主体的に学びたくなる工夫が十分ではなかったと考える。（設問Ⅰd）。

●　改善の方策

設問Ⅰdの改善策としては、授業をより演習形式にすることで学生の主体性を引き出せるようにする。習熟度差のある学生が集まっている中、その調整は容易ではない一方で、個々人の意欲を引き出すことが改善のために肝要である。それにより、予習・復習は欠かせないという認識も自然と養われるものと考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

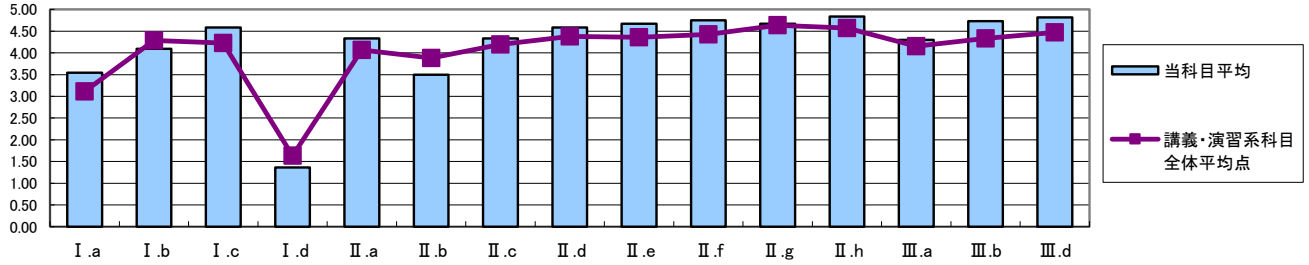
科目名	Communication Skills ⅠB
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	12
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.55	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.09	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.58	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.58	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.73	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.3	4: 25.0
			3: 50.0	2: 16.7
			1: 75.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、日常における様々な状況を想定し、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎を作ることである。到達目標は、①コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現（文法、語彙、発音など）を運用できること、②簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信をもてるようにすることである。東京オリンピックを次年度に控え、日本国内における外国人旅行者や居住者の数は年々増加の一途であるにもかかわらず、いざというときのひとことが出ない現状を改善するために、「おもてなし」をキーワードに授業内容を検討した。開講曜日・時限は、毎週木曜日の3時限目であり、受講生は上記専攻の1年生全12名（アンケート実施の令和元年12月時点）であった。彼らは、パフォーマンス総合芸術文化専攻の第2期生であり、将来への意欲と目標をしっかりと見据え、仕事と英語とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。当初より、学生間の英語の習熟度に差はあるが、英語に対して、自分の実力以上に苦手意識を感じる学生が多数を占めていた。しかし、現状を打破したいという学習への意欲も感じると同時に、学生間のコミュニケーションも非常に円滑で、雰囲気がよく、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。当科目が担う「コミュニケーションのための英語」というキーワードを意識し、授業は、講義と演習（ロールプレイやペアワーク活動など）の混合形式で実施し、年間を通して、円滑なコミュニケーションのための学修を行った。集計結果によると、当科目平均をやや下回るものとして以下2点に着眼した。一つ目は「Ⅰd. 1回の授業のために、平均どのくらい学習、復習をしましたか。」、二つ目は「Ⅱb. この授業の難易度はどうでしたか。」である。問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

当科目は、英語コミュニケーション能力の育成に主眼を置き、演習形式で行われた。英語に苦手意識を持つ学生も楽しく参画できるよう工夫した一方で、一部学生にとっては平易であったと考える。また、全体に、試験のための勉強という姿勢が目立ち、一部、理解と自信へと繋げるためには、課題が消化不良の傾向もみられた。習熟度差を埋めることは容易ではないが、そうした点が授業の予習・復習への意欲も減退させていたかもしれない。

●　改善の方策

当科目は、令和2年度も受講生の数や習熟度は同程度と予想される。語学授業として人数も多いことから、授業内での個別対応には十分に対応できないことが予想される。よって、受講生には年度初めにプレイスメントテストを受けてもらい、英語の習熟度毎にクラス編成を行う。令和元年度以上に機能させることで、一つのクラス内での受講生間の習熟度の差を減少させる。授業内でも理解に無理のない範囲の課題と課題量を心がける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

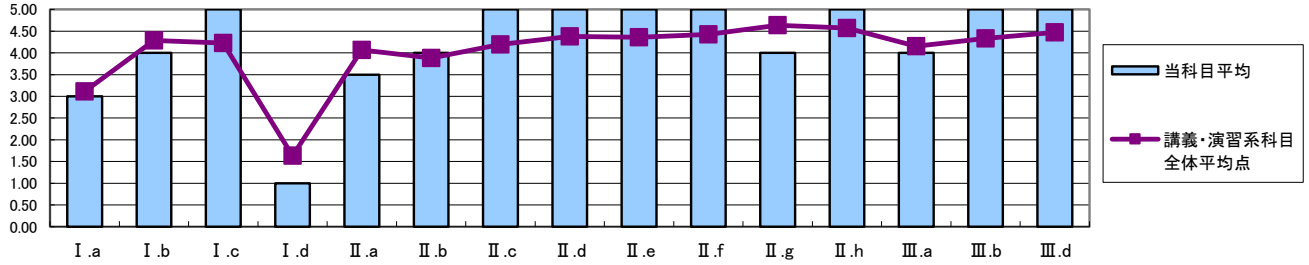
科目名	Advance English2
教員名	粕谷　麻里乃

職名	04. 准教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 100.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

当科目の目的は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的に向上させることである。到達目標は、①ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにすること、②やさしい英文を読んだり、簡単な文を書けるようにすることである。開講曜日・時限は、毎週火曜日の3時限目であり、受講生はパフォーマンス総合芸術文化専攻の第1期生である1年生全2名（アンケート実施の令和元年12月時点）であった。彼らは、将来の目標として据える仕事とのつながりを意識して授業にも積極的に臨んでいた。春学期の授業開講時には習熟度確認テストを実施の上、クラス編成を行っている。人数も少なく、元々基礎学力の高い学生たちであったため、現状を打破したいという学習への意欲も強く感じるとともに、授業の雰囲気も良く、科目担当者としてもやりがいを感じるものであった。近年学生たちの英語への興味・関心は、会話重視の「コミュニケーション」に集中している。また、音楽への興味・関心から本専攻へと進学してきた学生たちであったため、自身の発音にも非常に高い関心を示していた。そこで、音楽に興味・関心が高い者が、楽しく英語学習を進められるよう教材の選定にも努めた。冒頭で言及した4領域を体系的に向上させるため、教材として成美堂より出版された「ポップスで学ぶ総合英語－改訂新版:Englishwith Hit Songs New Edition」を採用した。本書の中で、歌を聞いて歌詞の書き取り、歌詞を日英訳する作業は、シンガーソングライター志望の学生も多い中で大変評判がよかった。特に、ポップスを扱う教材であったため、学生たちにとってもなじみある曲が多く、聞きながら口ずさんでしまうほど好評であった。英語は自発的な学習が肝要であるため、演習との混合形式で実施し、英語を総合的に運用するための基礎を完成させた。集計結果より、当科目平均において「講義・演習系科目全体平均」を下回ったものとして以下2点に着眼した。「Ⅰd.1回の授業のためにどのくらい予習、復習をしましたか。」と「Ⅱg.授業回数や時間は守られていた。」である。問題点と改善の方策について以下で考察する。

●　問題点

予習、復習は、学生の意欲とつながりがあると考える。基礎学力の高い学生たち2名であるにもかかわらず、主体性をもって取り組む姿勢へと導くことができなかったことは反省すべき点である。また、人数も少ないためコミュニケーションが円滑にはかれる点は非常に良かったが、授業時に話が発展することがあり、予想以上に授業進度にムラができてしまったことも問題であった。

●　改善の方策

教科書があることで、授業の進行が格段にしやすくなることは確かであるが、教科書の課題に取り組むことに傾いてしまったように思う。主体的な学びのためには、より徹底した演習形式をとることが肝要である。よって、当クラスは基礎学力の高い習熟度上位の学生たちで構成されており、英語だけで授業をする時間をとることや、発音など、大学受験のために勉強してこれなかった内容に重きを置いても良いだろう。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

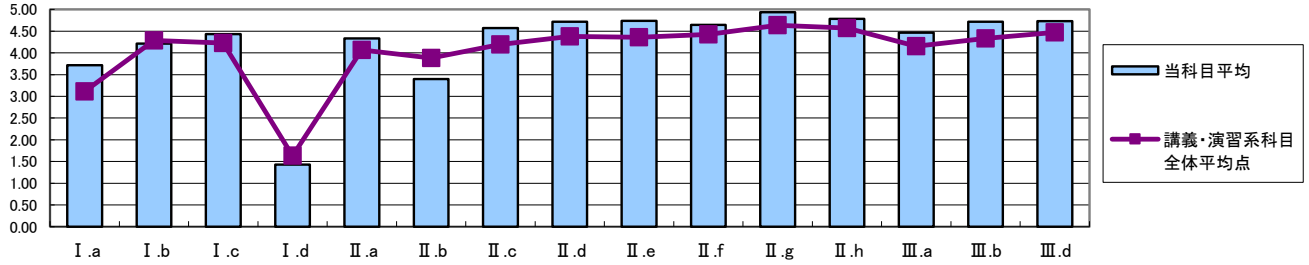
科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	23
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.21	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.43	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.73	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.64	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.93	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.47	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 61.5 / 4: 46.2 / 3: 46.2 / 2: 30.8 / 1: 15.4	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

①科目の目的：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。②授業の内容：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。③授業形態：授業は、後期前半に描画体験と描画法の解説、後期後半に事例検討と事例についてのグループ演習、を行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：23名。うち回答は15名。⑤受講者の状況：３年生・4年生が多いが、1年生と留学生が前年度と比べて多い。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、“0.5p以上低い値”の項目は、「1回の授業のために、平均どのくらい予習復習をしましたか【1.1h以下】」「この授業の難易度はどうでしたか【やや難しい】」「コミュニケーション能力の向上【低】」「新しい技能・知識【低】」の4項目である。このうち特に低い（1.0p）のは、「この授業の難易度はどうでしたか」の１項目である。

●　問題点

教員と学生の意識のズレ：授業の難易度が高めになっていることは、描画法の解釈を行う学習をしているので、「観る目」が育ってこないと「難しい」と感じる割合が高くなってしまうと思われる。ただ、自分1人だけではなく、他の受講生とグループで解釈を進める方式をとっているため、置き去りになっているわけではないと感じるのではないだろうか。一方でコミュニケーション能力の向上は、前期Ａの授業で取り上げて学習したので、後期Ｂは低めに現れていると思われる。とはいえ、難易度が高いため新しい知識や技能を習得するには時間不足だったと考えられる。

●　改善の方策

改善方策：今年度後期では留学生の受講が増えたので、日本人以上に難易度が高くなってしまったと考える。この傾向が続くのであれば、留学生に配慮した指導方法を考えている。例えば、口頭ではなくスライドを用いた解説、解釈例の配付（従前は配付していない）とそれを用いて分析する学習などがそれに当たる。日本人学生についても、ＬＤや発達障害による課題を持つ学生に配慮した学習を考えるべきだが、留学生への配慮を援用することで日本人学生へも対応ができると考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

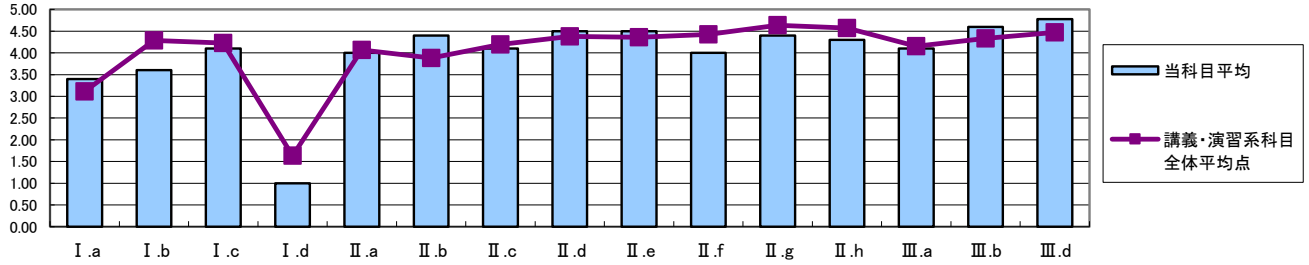
科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	12
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.10	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.40	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.10	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.30	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.10	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.0	4: 90.0 / 3: 20.0 / 2: 30.0 / 1: 50.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

①科目の目的：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。②授業の内容・目標：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。③授業形態：授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：12名在籍。回答者数は10名。⑤受講者の状況：PACS専攻1年生11名のほか、編入3年（留学生）1名の授業であったが、後期はたびたび欠席者が増えた。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「0.5pポイント以上低い値」の項目は、「この授業の出席は良好だった【どちらとも言えない】」「1回の授業のために、平均どのくらい予習復習したか【1.1h】」「授業内外における質問や相談の対応は適切【やや悪い】」「授業回数や時間は守られた【ある程度】」「授業に対する教員の熱意・工夫があった【ある程度】」「関連分野の学習意欲【やや低】」「新しい知識・技能【やや低】」の７項目である。このうち特に低い（1.0p）のは、「この授業の出席は良好だった」「平均どのくらい予習復習したか」「質問や相談の対応は適切」「関連分野の学習意欲」「新しい知識・技能」の５項目である。

●　問題点

教員と学生の意識のズレ： 全員が前期Ａからの受講生であり、前年度よりも人数が増えた分、コミュニケーション能力の向上や新しいものの見方が広がったのではないかと思われる。とはいえ、月曜日の5限にこれらを習得してもらうのは学生にも疲れや負担感が出るように思われる。その結果、出席状況が前期よりも大きく低下した学生や予習復習をしない学生の増加、という結果に表れたと推測する。

●　改善の方策

改善方策：PACSの学生は後期だけではなく、前期からの受講生がほとんどであるため、難易度で学習に困ることはないが、指導方法や形式に対して飽きが来ることが想像される。このため、できる限りグループで課題発見・課題解決する学習を行ったが、その時の学生の出席状況や科目への履修意欲に波があり、達成動機につながるような学習条件が乏しく、思うようには改善しなかったと反省するべきであった。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

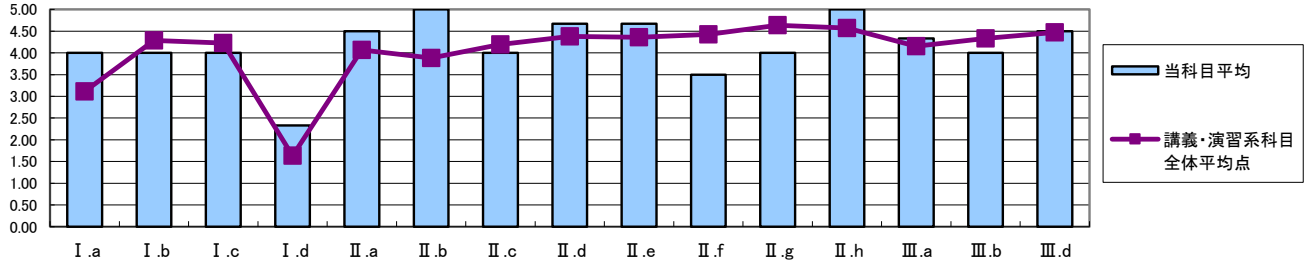
科目名	東邦スタンダードⅠBb
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	8
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7 / 4: 33.3 / 3: 0.0 / 2: 33.3 / 1: 66.7	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本年度 、 新設の「留学生クラス」は、東邦スタンダードワーキング チーム を務める留学生センター長、 日本語通訳としてＴＡ１名を配置し 、 教員２名ＴＡ１名の体制で、 ２０１８年度後期入学、２０１９年度４月入学 の 留学生（編入学生含む を対象とした クラス授業の形態で開講された。授業内容に関しては、留学生の ニーズに応じた内容で 実施し、 大学一年 共通部分においては 一般クラスと授業 内容 の 差が出ない様に 配慮 。 お互いを理解しようとする姿勢、教員との関係も友好的で、 協力的な 意見交換ができる クラス であった 。 日本語でのグループ討議、コミュニケーションの必要性や意義を理解し、その楽しさも体験し成果がみられ た 。すでに留学 というキャリアを有している事を 考慮 し、 シラバスの 「社会」を「国際社会」 とし 、 「世界で活躍 するための基礎力 」「将来につながる学生としての国際マナー」「専攻力」の 3 つの 視点から、具体的な 日本語力 （読む・ 書く ・話す）の拡充を重視 。文化習慣の違い含め、 違和感なく 東邦スタンダード 全体 が理解できるよう 、 学生生活全体、 東邦音楽 大学での学び の基盤となる 授業として 実施された。レポート・ポートフォリオ課題は、初歩的な日本語文章表現ではあるが、それぞれ自らの言葉で語ろうとする姿勢がみられた。 記述内容も 留学生ならではの学び方の視点、文化的な背景を基盤とした気づき、日本での学生生活の中で深く自分を見つめようとする姿勢 が具体的に反映され たものであった 。当アンケートの実施にあたっては、調査期間が 学生の 一時 帰国 の 時期 と 重なり 回答数 は 少ない が、同じ条件で実施。 設問の意味（日本語）が理解できない事もあり、補助的な説明を添えた形で実施 。尚、新設 クラス の ため 、アンケートを参考 とした 報告にとどめます 。

●　問題点

【語学力 】 積極的な発言や意見交換 時 は 母国語 も混じる ため、教員は直接彼らの意見に触れ 難い 。【通訳 】「東邦スタンダード」 体験者であり、 内容 表現や 専門用語 も 理解 していてスムーズであった。【シラバス 】 試行年度にあたり、スタンダード取り纏め方と連携 し ながら実施。【テキスト 】 スタンダードの視点が盛り込まれた日本語 表現が、留学生の 自修 理解 には 難し い 。【成績評価 】 レポート 、ポートフォリオ 課題に関しては 、授業内で２回の事前指導を実施した。

●　改善の方策

「日本の社会、社会人としての意識 」に関しては、現実的ではなかった。留学生の場合、東邦スタンダードでの「社会人基礎力」の 実際の 活用領域を 考え 、学生 のニーズに応えた形で導入する 必要が あるようである 。反対に「日本の文化 」 では 積極的に興味をもって取組む姿勢が見られ、 正統的な 「茶道」 の 様式美 の体験 を通じて 、 母国、日本、ヨーロッパの文化的背景を 比較し、大学での学びを 考え る 起点となっていたように見られる 。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

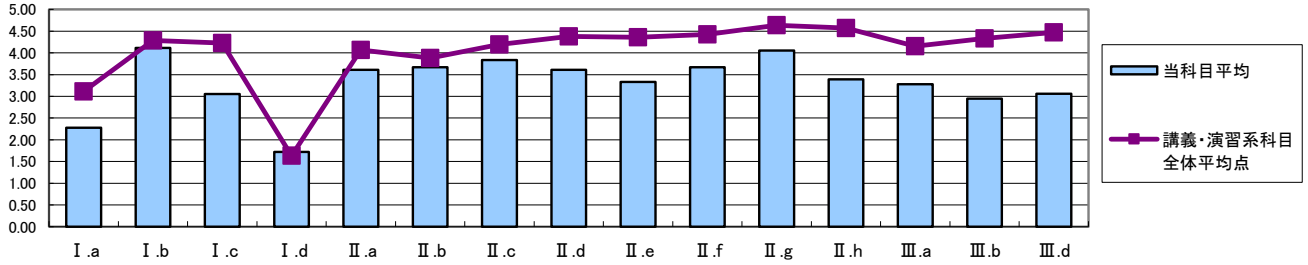
科目名	東邦スタンダードⅣBb
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	27
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.28	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.11	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.06	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.72	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.61	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.83	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.61	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.33	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.06	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.39	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.28	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	2.94	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 13.3	4: 26.7
			3: 20.0	2: 6.7
			1: 46.7	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.06	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学での学びをより深化させ、自らの音楽の学びを社会の中で生かしていくための方法論を幅広く扱う。「社会人基礎力」獲得を目標に、物事の多角的な見方、考え方、問題解決の手法などを実践する。 自分の学んだ専門分野に関わる研究レポートをまとめ、それをクラス全員に向けて発表することで、東邦スタンダードでこれまでに学んできた「プレゼンテーション能力」を社会で活用できるまでに高めることを目指とともに、4年間の学びを振り返り、学んだことを卒業後の仕事の中で活かす方法を考え、その技術を身に着けることを目指す。　就職活動や進学志望など、受講者27名の置かれていた状況はそれぞれに異なっていたが、毎週水曜日１時限目の講義の出席率は概ね良好であった。独創的な研究レポートも数多くみられ、最上級生としての自覚が随所に感じられれた。アンケートに対しては中庸な回答が最も多い結果となった。

●　問題点

授業計画においては他の学年とは異なり、限られた回数の授業開催であったため、一回一回の密度の濃い内容であった。意欲や新しいものの見方等については評価が低迷したものの、「自分のためになったこと」として多くの履修者がコミュニケーション能力向上を挙げた点から、本科目の目標に沿った一定の結果が得られたと考えられる。

●　改善の方策

最終学年としての東邦スタンダードの在り方としては、現在の授業展開手法は受講者にとって非常に有益であると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

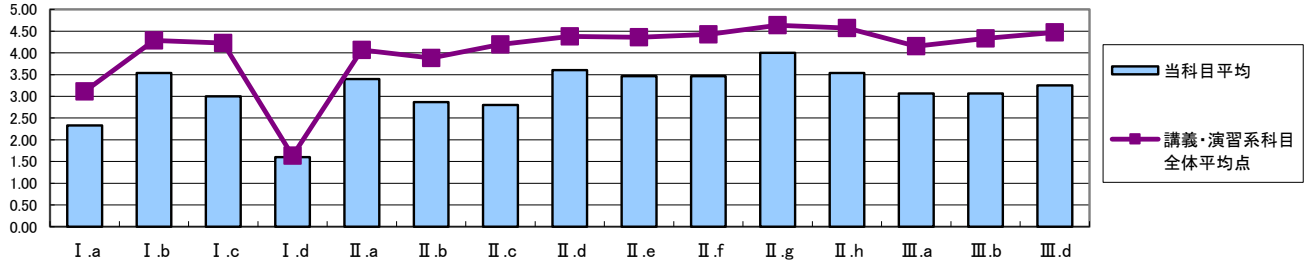
科目名	東邦スタンダードⅢBb
教員名	平田　紀子

職名	06. 専任講師

履修者数	23
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.53	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.40	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.87	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.80	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.60	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.47	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.47	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.53	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.07	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.07	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 40.0	4: 30.0 / 3: 10.0 / 2: 10.0 / 1: 50.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.25	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

アンケートの設問から、出席状況への回答は「良好」が「そうでない」を上回っていた。しかし「授業に当たってシラバスを活用した」に関して「全くそう思わない」との回答率が40%と最も多かった。「予習・復習をした」の問いには「1時間未満」の回答が80%にのぼった。授業内容については「説明・板書等は適切」「新しい知識・技能・コミュニケーション力・ものの考え方が得られた」への回答が高い回答率を示し、社会や仕事、就職に対し意識が向けられ、授業の意図について理解が得られていることが伺える。自由記述では未だに「1限にすることで来られない学生がいる、遅い時限にすべき」といった意見がある。その一方、毎回授業開始30分前に来ている学生もいることは事実である。また「合同授業が多く、クラス分けの意義が不明」との声があるが、これは外部講師によるキャリア授業が大半を占めることによると思われる。

●　問題点

出席率は向上がみられ私語も無いが、傾眠・内職など、授業への取り組みに個人差がある。　1限に関しては、朝そんなに起きられないのか、自己管理や生活リズムを整えることに意識を向ける指導が必要と感じる。　シラバスが活用されていない。

●　改善の方策

この授業の意図するところを、毎回くり返し明確にわかりやすく伝える。　初回の授業にシラバスを持参させ、読み合わせをする。　次回の授業に繋げるような課題を出すことで、予習・復習ができると思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

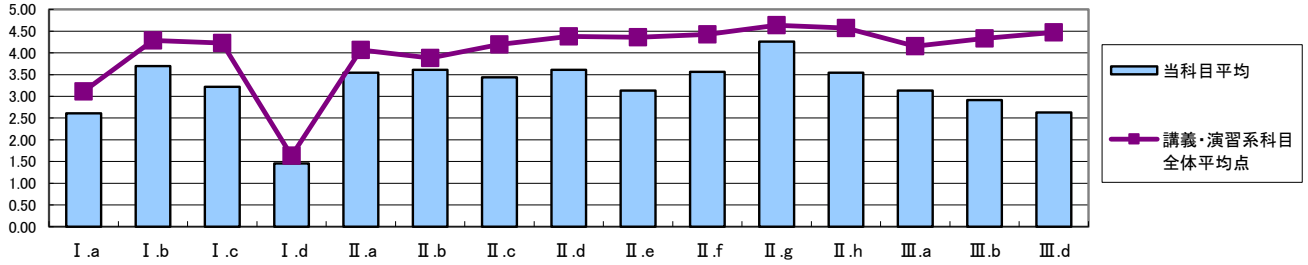
科目名	東邦スタンダードⅣBa
教員名	武藤　直美

職名	06. 専任講師

履修者数	28
回答者数	23

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.61	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.70	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.22	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.45	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.55	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.61	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.43	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.61	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.13	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.57	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.26	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.55	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.13	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	2.91	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 0.0 / 4: 26.7 / 3: 6.7 / 2: 6.7 / 1: 66.7	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	2.63	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今回は28名の履修者の内23名がアンケートに回答してくれました。設問Ⅰ－aに対する回答「3」「2」「1」が計17名と半数以上、履修にあたりほとんどの学生がシラバスを利用していないことがわかりました。また設問Ⅰ－ｃに対する回答数は「3」「4」「2」「5」「1」の順となりました。4年生の授業はこれまでの学びの集大成であり、受講生のプレゼンテーションが中心に行われました。その結果、設問Ⅲ-ｃコミュニケーション能力向上に対する回答率が高く、成果につながっていると思料いたします。

●　問題点

この授業を履修するにあたり、シラバスの活用や予習復習を行わない受講生が多く、また、学習意欲を刺激できる授業内容の工夫も必要であります。

●　改善の方策

すべての履修者が積極的に、興味や関心を持って授業に臨んでくれるよう、創意工夫しながら、新たな発想法をもって取り組んでいきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

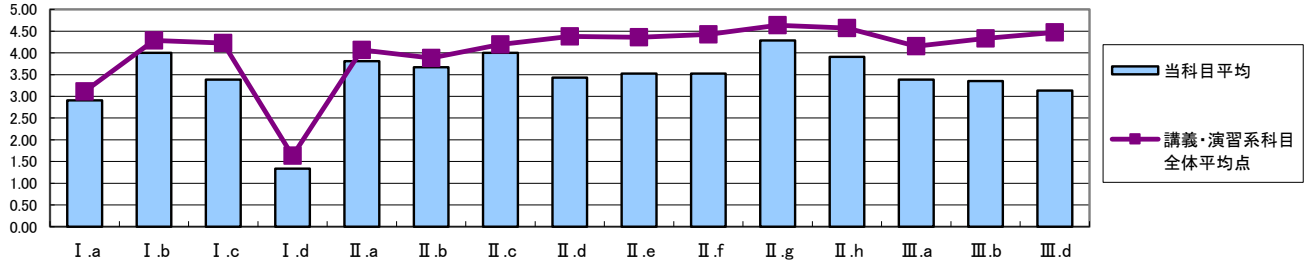
科目名	ウィーンの社会と文化Ba
教員名	荒木　洋育

職名	08. 講師

履修者数	28
回答者数	21

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.90	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.38	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.81	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.43	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.52	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.52	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.29	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.90	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.38	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.35	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7	4: 11.1
			3: 55.6	2: 5.6
			1: 5.6	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.13	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の午後の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。一昨年度からプロジェクター（Power Point)を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課す形をとっている。　そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であったが、私語をする学生が少数であったが見受けられた。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であった。　次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するⅠグループではdの数値が低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するⅡグループに関してはd, e, fの数値が特に低い。このことは講師側の授業の進め方全般に対して学生側の満足度が低いことを示すように思われる。先述のようにa, b両クラスでの教授内容は同一であるが、全体として数値面で比較的良好な結果であったbと比べて最も差がみられたのもこの部分である。またこの評価は授業全般に関する満足度に関係するⅢグループの数値全般の低さにもつながっているように思われる。この点については、（問題点）で指摘する事情で昨年度aクラスにおいて授業進行に問題が生じたことが背景の一つとしてあるように推測される。自由記述欄については、回答のあった学生に関しては比較的好意的な評価が得られた。上述アンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行うこととしたい。

●　問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにあるが、アンケートの結果をみると当クラスでは成果が十分に出たとは言い難い。原因の一つとして、特に昨年度は教室内機器の不具合が授業進行に影響を与えることが多かったことが考えられる。自由記述欄においては特に指摘はみられないが、その点がbと大きな結果の差が出た理由と考えられる。

●　改善の方策

昨年度の授業に対しては、自由記述欄において好意的な意見もみられた。教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価をより多角的に行うことは今後も追求すべき目標といえる。今年度は、上記問題点への反省を踏まえて、教室内機器の作動をよりスムーズにするよう工夫する、プロジェクター用内容の充実、口頭発表の充実をする（評価基準の可視化等）などの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

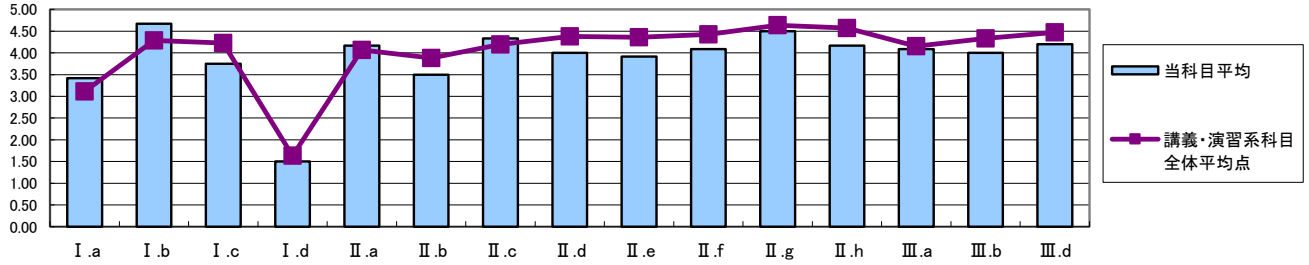
科目名	ウィーンの社会と文化Bb
教員名	荒木　洋育

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.42	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.92	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.08	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.17	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.08	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 63.6 / 4: 9.1 / 3: 54.5 / 2: 9.1 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.20	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は、3年時にウィーン研修を控えた2年生を対象とする必修の科目である。ウィーンおよびオーストリアに関する知識を研修の成果を最大限生かせる程度まで深めることが目標であるので、学生には授業の理解に支障がない程度の予習を求めている。水曜日の午後の授業であり、内容面ではa、bは原則同一のものである。必修科目であるが専門科目ではないという性格上、授業面では受講者側の負担感をできるだけ軽くし、なおかつ内容に対する受講者側の関心と理解を深めることが強く求められるであろう。一昨年から、プロジェクター（Power Point)を授業に利用し、評価に際しては口頭発表・期末レポートに加えて新たに小レポートを課する形をとっている。　そのうえで昨年度の授業に関し講師側の感想を述べたい。出席状況、授業中の受講者側の態度はおおむね良好であったが、私語をする学生が少数であったが見受けられた。口頭発表、学期末レポート、小レポートの内容については、個人差はあるものの学生の様々な工夫、授業内容への理解の深さと知見を示すものが多く、全体として満足のいく結果であった。　次にアンケートの結果分析を行う。学生側の自己評価に関係するⅠグループではdの数値が低いことが目立つ。これは受講者側が授業の予復習の重要性をまだ十分には認識していないことを示すと考えられる。授業の進行に関係するⅡグループに関してはd, e, fの各数値の低さが同一内容を教授するaクラスほどではなく、a, cに関しては比較的良好な数値が得られた。これはシラバスの内容とその実施については学生側が一定の評価を与える一方で、講師との意思疎通については学生側の満足度が低いことを示しているように思われる。授業全般の充実度・評価に関係するⅢグループに関しては、一昨年度と比較して数値全般に顕著な好転がみられ、特にdの数値の好転についてはaクラスのものと比較して顕著であった。自由記述欄で指摘された内容については（問題点）で改めて触れることとする。このアンケート結果の分析に基づいて以下、昨年度の授業に対して講師側が感じた問題点を提示し、その改善の方策に関して考察を行うこととしたい。

●　問題点

前述のような授業方式をとる目的は、教科内容への学生の関心を高めること、講師と学生との間の距離を縮めること、成績評価をより多角的に行うことにある。アンケートの結果をみると当クラスについてはある程度一昨年度と比較して効果が表れたといえるのではないか。aクラスと比べて良好な結果を得られた理由として、aクラスの項で触れた教室内機器の問題が当クラスではほとんど見られなかったことが挙げられる。ただし自由記述欄においては、口頭発表の評価基準を可視化するよう指摘する意見がみられた。

●　改善の方策

昨年度の授業に対しては、自由記述欄において、前述のような意見と同時に好意的な意見もみられた。教科内容への学生の関心を高め、講師と学生との間の距離を縮め、成績評価をより多角的に行うことは今後も追求すべき目標と考える。今年度は、上記問題点への反省を踏まえて、プロジェクター用内容の充実、口頭発表の充実（評価基準の可視化等）などの改善を改めて行いたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

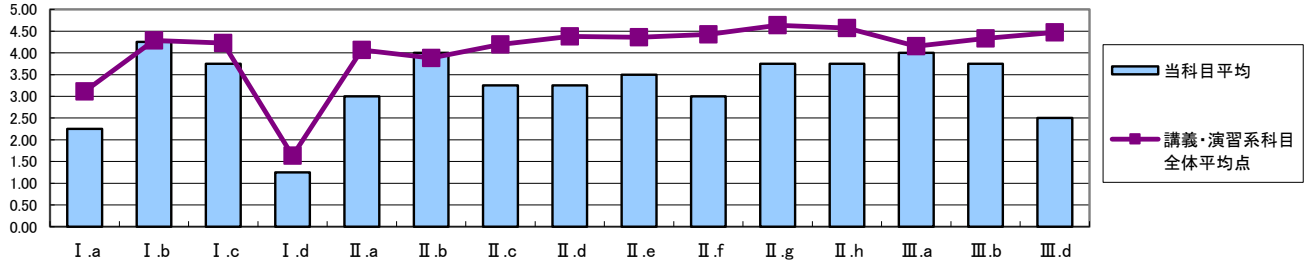
科目名	哲学B
教員名	桑原恒久

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.25	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.25	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	3.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.75	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.0 / 4: 25.0 / 3: 50.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	2.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

資料を中心に項目、テーマ別に解説を続けた。世界の三大宗教の理論について、資料を中心に、その特色、歴史、我々が生きる上でのヒント等を考え、理解することから始めた。資料を中心に、キリスト教の歴史、教義について解説、神の存在とは一体何を意味するものなのか、哲学的時限において捉え直し、我々のもつ常識や感覚から改めてその深意を解説した。つづいてイスラム教の歴史や教義、我々にとって参考えなる理念を解説し、さらには世界の現状において、なされる集団としての活動、政治的理念や、宗教的目的などについて考え、解説した。つづいて、我々日本人のパーソナリティ形成に、大いなる影響を及ぼした、仏教の歴史、その流れ、そこから捉えられる生きる知恵などについて解説した。又、この宗教と比較される、中国の思想たっていても、そのかかわり、相互の影響についても解説し、生きる知恵として東洋思想と仏教という観点に立って、各々の理念を解説した。以上の論考を総括した上で、各々を比較検討し、我々にとってどの宗教を、どう取り入れるべきか、自らの立場と考え方から、参照すべき部分や教義について、客観的に捉え直してみることを試みた。

●　問題点

解説や進行速度が、生徒の理解の速度と、バランス的に一致していたか、一方的なものになっていなかったか、反省し、次回への参考としたい。

●　改善の方策

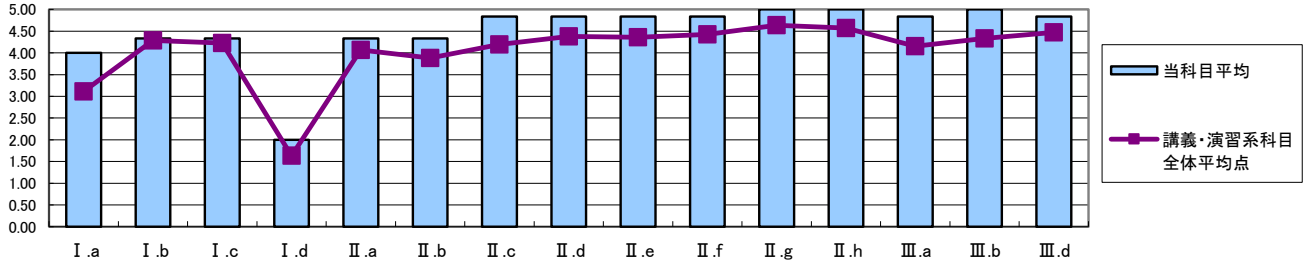
生徒に数回の授業終了後、率直に意見を聞き、改善する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	現代の心理学B(発達心理を含む)	職名	08. 講師	履修者数	13
教員名	徳富　政樹			回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.83	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.83	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.83	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 40.0
			3: 80.0	2: 40.0
			1: 40.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本講義は心理学初学者向けにデザインされた入門的内容である。履修者は13人だが、実際に出席していた学生は10人ほどで、出席率は概ね良好であった。出席者は各自工夫してノートをとり、適宜質問等もあって皆熱心に聞いていた。アンケート結果は好意的なものではあったが、回答者が6人と少ないこともあり、その評価はそのまま鵜呑みにしてはいけないものではないかと思われる。

●　問題点

本講義は入門的な内容を主としていたが、「この授業の難易度はどうでしたか」という設問において、やや難しいが2、適切が4という回答の内訳だった。ほぼ初めて学ぶであろう心理学において、親しみを感じてもらえるように心がけていたが「やや難しい」と感じられるということは、まだまだ改善の余地があるということだろう。

●　改善の方策

受講生の理解の促進、及び理解度チェックの必要性がある。そこで授業の終わりの「本日のまとめ」をより充実した内容にしていく。授業内で解説する専門用語はできるだけ少なく抑えているつもりでも、初学者にとっては多く感じられている可能性もある。特に聞き慣れない専門用語についてはフォローアップしていくことにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

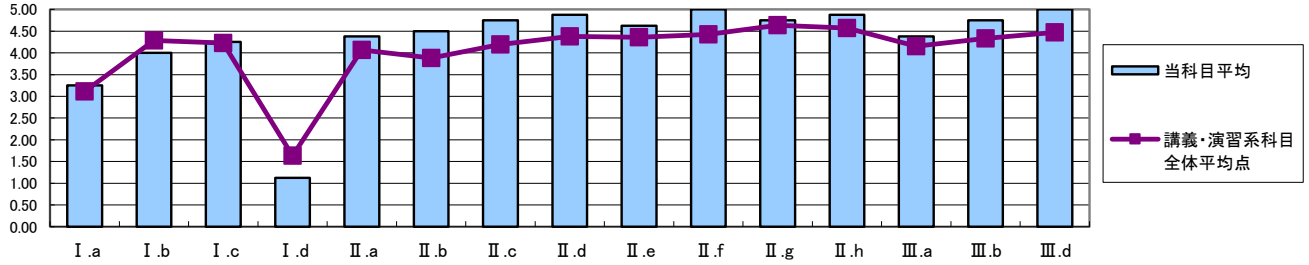
科目名	英語2a
教員名	増渕　千幸

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.13	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.88	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.38	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 62.5 / 4: 25.0 / 3: 62.5 / 2: 12.5 / 1: 25.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行ってきた。履修人数は多くなく、学生は非常に真面目で、順調に授業を進められた。学生間の力の差も少なく、理解度が高いクラスであった。一限ではあったが、ほとんどの学生がきちんと遅刻もせずに参加し、とても良く取り組んでくれていた。　アンケート設問Iの自己評価については、各自評価をもっと高めてよいと感じている。Idの予習復習の部分であるが、この授業では予習の必要がないことをここで述べる必要がある。しかし復習もあまりしていないのであれば、定着のためにもきちんとしてほしい。復習の仕方として、例えば少なくとも音読はしてみようなどと、声掛けを増やした方がよいと感じている。授業中も含め、語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

●　問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見えない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

●　改善の方策

毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。文法力の強化の必要性は、年ごとに増しているので工夫してゆきたい。自分自身の英語も、日々アップデートが必要と痛感している。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

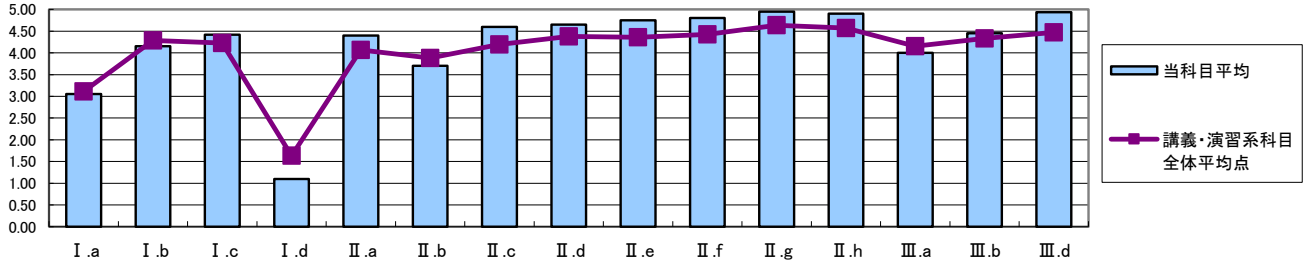
科目名	英語2b
教員名	増渕　千幸

職名	08. 講師

履修者数	25
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.05	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.15	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.42	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.10	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.70	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.65	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.95	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.45	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 78.9	4: 47.4
			3: 31.6	2: 5.3
			1: 21.1	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行って来た。英語Ⅰaのクラスと力の差があり、同じ内容でも理解度が低かった。内容についてくるのが難しい学生も数人見られる中、中国からの留学生との実力差が目立ち、内容に工夫が必要であった。けれども、それぞれがそれぞれの形で、学ぶことを見つける努力をしていた。良く取り組んでくれていたと思う。　アンケート設問Iの自己評価が低いが、謙遜ゆえと感じている。Idの予習復習に関しては、この授業では予習の必要がないことをここで述べなければならない。しかし復習もあまりしていないのであれば、定着のためにきちんとしてほしい。語学専門ではない学生ゆえ、勉強の仕方も今一歩わからない学生もいるため、例えば、復習には少なくとも音読はしてみようなどと、声掛けが必要であると感じている。語学をどのように習得してゆくかのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

●　問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんどない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。中国からの留学生向けの授業も必要なのではと、強く思わされる一年であった。

●　改善の方策

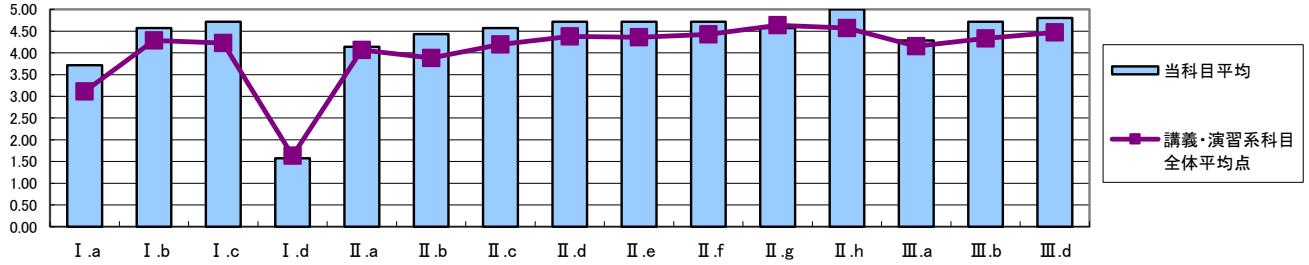
毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。基礎力のない学生が目立ってきているので、その対策が急務であると痛感している。自分自身の英語も、日々アップデートする必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	英語4	職名	08. 講師	履修者数	10
教員名	増渕　千幸			回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.71	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.57	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.14	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.7 / 4: 0.0 / 3: 28.6 / 2: 0.0 / 1: 28.6	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

講義・演習混合形式の授業で、中高六年間学んできたこと、英語1・2で学んできたことをもとに、リスニング・読解・作文を中心に行って来た。学生は非常に真面目に取り組んでいた。学生間の力の差は英語1・2の時につかんでいたため、授業で困ることはなかった。一限であるゆえか、遅刻や欠席が目立つ学生もいた。しかし、それぞれが良く学んでくれていた。　アンケート設問Idの予習復習に関しては、この授業では予習の必要がないことをここで述べなければならない。しかし復習もあまりしていないのであれば、定着のためにもきちんとしてほしい。ほとんどの学生は勉強の仕方もわかっていて、授業を離れても力をつけていってくれると思っている。これからさらに学びを深めるためのプロセスも、今まで以上に説明してゆきたい。

●　問題点

結果からは、学生と私の間の意識のずれはほとんど見えない。ただ、自己評価よりも学生は良く取り組んでいた。

●　改善の方策

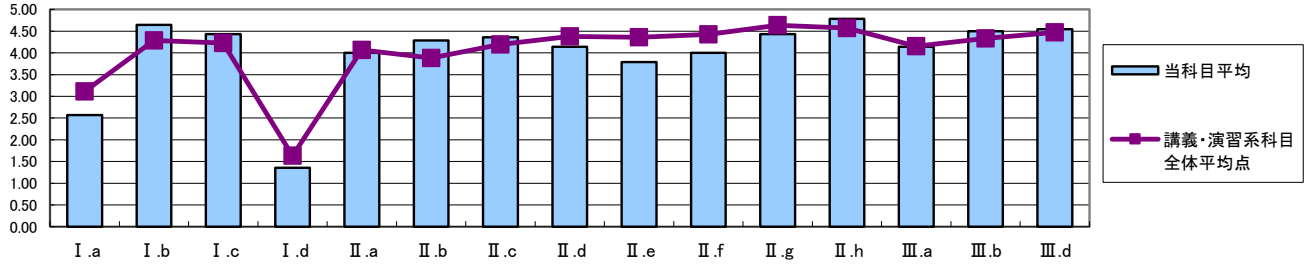
毎年同じだが、学生の表情や態度から毎回どうすべきかその場で改善し、変えるべき点を早めに変えてゆくことが大切であろう。自分自身の英語も日々アップデートする必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	スポーツ演習b	職名	08. 講師	履修者数	18
教員名	南　明恵美			回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.57	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.29	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.14	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.79	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.79	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 78.6	4: 50.0
			3: 21.4	2: 14.3
			1: 92.9	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.55	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

発達のピーク時を超え、身体の機能が徐々に老化し始める事を確認し、運動の重要性を認識する事から授業は始まる。苦手な運動であったり、出来なくなってきた運動を段階的な運動方法で運動量の確保、コーデネーション力の維持・向上を目指す。少人数での授業の為、集団の中でのコミュニケーション能力の向上の目的においては、効果が得られるか苦慮するところではある。・意義のある授業と感じる学生が多い。・教員の熱意・工夫を感じる学生が多かった。・内容の難易度を高く感じる学生が少なく、自分のためになった学生が多く、出席率が高かった。

●　問題点

予習・復習の意味を含め、授業の前に資料の確認、情報のまとめ等時間を設けたが、自己の予習、復習と考えない学生があったり、遠距離通学の学生の参加が困難であり、全員のための改善策とは言い難い点であった。用意した資料ナイトの理解に高い評価を得られなかった。シラバスを活用する学生が少ない様子が顕著である。

●　改善の方策

運動の意味、基本的な知人、共通な条件を整え、意識の向上に継続して力を入れる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

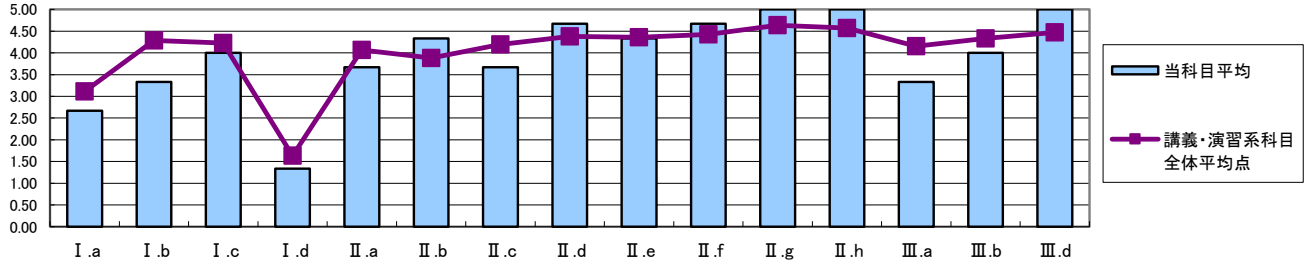
科目名	コンピューター演習Ba
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.67	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7 / 4: 0.0 / 3: 100.0 / 2: 33.3 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。この利用方法をコンピュータ上だけではなく、応用して日常生活の中で活用できるよう理解を深める。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術ついて基本的な知識を習得する。音楽の発信者としてこれらの情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。履修者の多くが教職課程履修者であることから、教育現場でのPC利用の可能性についても考察する。＜内容＞　コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。また、２０２０年度より小学校から順次プログラミング必修化となることをふまえ、その意義と教育現場で想定されるプログラミングソフトウエアを概観する。　PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウエアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。終期は、学生各自が、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。＜状況説明と分析＞　月曜日１時限、履修者数5名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて１人１台のPCを使用。履修者は全学年が対象、当クラスは１～４年生までの混合クラスであった。演習進度は学生によって速度に開きが生じてしまったが、履修者が少ないこともあり対応ができたのではないかと思う。「開講時に示された到達目標を充分に達成できた」という設問の点数が低いのは、個々の演習（ソフトウエア基本操作の習得）に対してか、応用活用に対してか、今後講義内でのコミュニケーションを通じて把握していく必要があると考える。

●　問題点

「開講時の到達目標を充分に達成できた」 PC操作に対する到達目標であるならば、授業中には質問しながらできるけれども、自分で初めからデータを作成することは難しい、という点が問題なのではないか。「授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった」 Microsoft Office系のソフトウエア、音楽に関するソフトウエア、いずれも学生によって進度に差がでることを考えて、提示する演習内容が平均的なものになってしまっている。

●　改善の方策

到達目標を各回明示して学生と共有し、「習得」に対して教員と学生双方で確認する。これまで毎回の確認テストのようなものは行っていないが、導入を検討する。演習内容・講義内容ともに、スマートフォンやタブレット端末など身近なコンピュータと連動をさせる機会を増やし、自らコンピュータを生活の中でどのように活用するか、意識できる機会を増やせる内容を取り扱っていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

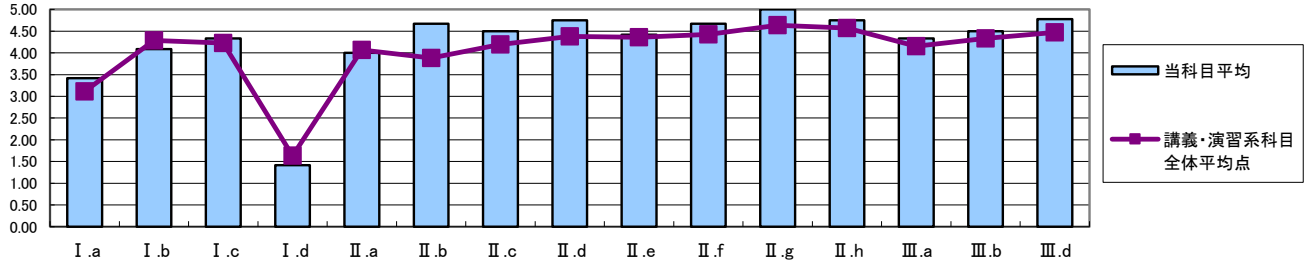
科目名	コンピューター演習Bb
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.42	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.08	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.42	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.67	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.42	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 91.7	4: 25.0
			3: 25.0	2: 16.7
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。この利用方法をコンピュータ上だけではなく、応用して日常生活の中で活用できるよう理解を深める。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術ついて基本的な知識を習得する。音楽の発信者としてこれらの情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。履修者の多くが教職課程履修者であることから、教育現場でのPC利用の可能性についても考察する。＜内容＞　コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。また、２０２０年度より小学校から順次プログラミング必修化となることをふまえ、その意義と教育現場で想定されるプログラミングソフトウエアを概観する。　PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウエアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。終期は、学生各自が、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。＜状況説明と分析＞　金曜日４時限、履修者数１５名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて１人１台のPCを使用。プレゼンテーションの際は２～４人のグループ演習とした。　履修者は１・２年生の混合クラスであった。コンピュータでの文書作成、グループワークともに意欲的に取り組める学生が多かった。自ら、演奏活動のためのデータや紙資料を作成し応用できる学生も見られた。終期に行った選択実習は、音楽活動に役立てるもの、教職やその他社会に出る時のために身につけておきたいものなど、それぞれが目標を明確にして演習を進めることができた。

●　問題点

「１回の授業のために、どのくらい予習、復習をしたか」　　できるだけ個人の学習環境に左右されない予習復習内容にしているが、やはり授業だけでの学習になってしまうようである。「教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であったか」　教科書は演習室のコンピュータ環境に合うものを使っているが、学生によっては自身のコンピュータ環境と違ってしまい、使いづらい学生がいる可能性がある。

●　改善の方策

教科書は次年度より、学生個々のコンピュータ環境に応じて教科書のバージョン（Officeのバージョン）を選択してもらうようにする。この状況を見て今後の適切な教科書を再考したい。予習、復習については教室と同じPC環境がなくても進められるものを準備し、各回の終わりに明確に提示していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

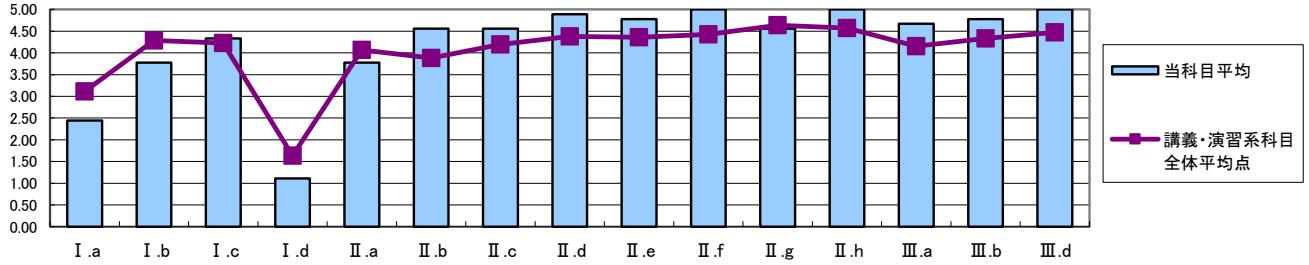
科目名	コンピューター演習Bc
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	16
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.44	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.78	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.78	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.56	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.89	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.56	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.78	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 0.0
			3: 33.3	2: 22.2
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　本科目では、文書作成・表作成などのソフトウエアを用いて操作に慣れ、データファイルの取り扱いやそれら情報の整理について学ぶ。この利用方法をコンピュータ上だけではなく、応用して日常生活の中で活用できるよう理解を深める。また情報セキュリティや、近年発達している情報技術ついて基本的な知識を習得する。音楽の発信者としてこれらの情報端末やインターネットをより効果的に使っていく方法を学び、自身の日常利用する端末やネットワークへの応用につなげる。履修者の多くが教職課程履修者であることから、教育現場でのPC利用の可能性についても考察する。＜内容＞　コンピュータの基本的な構造、ハードウエア・ソフトウエアについての知識の習得。インターネット上のSNSやクラウドコンピューティング等に関する現況の概観。Windowsマシンとタブレット端末を使ったコンピュータリテラシーの向上。また、２０２０年度より小学校から順次プログラミング必修化となることをふまえ、その意義と教育現場で想定されるプログラミングソフトウエアを概観する。　PCを使った演習ではWord・Excelを用いてビジネス文書の作成、写真画像などを利用した統合的な文書の作成を行う。またPowerPointを用いてグループでのプレゼンテーション演習を実施。楽譜作成ソフトウエアの基本操作の習得と編曲譜面の作成。音楽制作ソフトウエアを用いてMIDI入力・音声編集・動画と音楽を同期させる編集などを行う。終期は、学生各自が、より理解を深めたいソフトウエアを選択して学習の目標と計画を立て、演習を行った。＜状況説明と分析＞　土曜日１時限、履修者数１６名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータ演習室にて１人１台のPCを使用。プレゼンテーションの際は２～４人のグループ演習とした。　履修者は全学年が対象、当クラスは全員１年生のクラスであった。コンピュータでの文書作成、グループワークともに意欲的に取り組める学生が多かった。後半は公欠による進度のばらつきが多くなり、全体で同時進行できない回が複数回出てしまった。そのような状況ではあったが、終期の選択実習では、各自目標を立てて進めることができたと思う。

●　問題点

「履修するにあたってシラバスを活用した」　教職履修者必修科目のためこの回答になるものと考える。「１回の授業のために、どのくらい予習復習をしたか」　できるだけ個人の学習環境に左右されない予習復習内容にしてはいるが、やはり授業外の学習が少なくなってしまうようである。「授業はシラバスに沿っておこなわれていた」 後期土曜日は演奏会出演による公欠が多く、シラバス通りに進めるのが困難である。

●　改善の方策

シラバスは開講時に明示して、授業内容の共通理解に努めたい。予習、復習については教室と同じPC環境がなくても進められるものを準備し、各回の終わりに明確に提示していきたい。毎年の懸案事項であるが、土曜日は演奏会が多く、公欠者が多く出る状況となった。これまでは各回で完結することを多く考えていたが、場合によってはもう少し大きな枠組みで捉えるとズレを少なくできるのではないかと思う。提示方法を熟慮して進めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

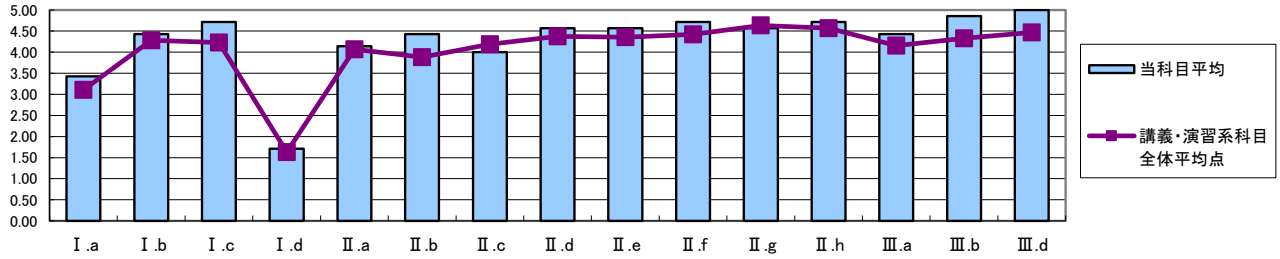
科目名	芸術文化とユネスコB
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.71	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.14	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.43	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 20.00 / 3: 80.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



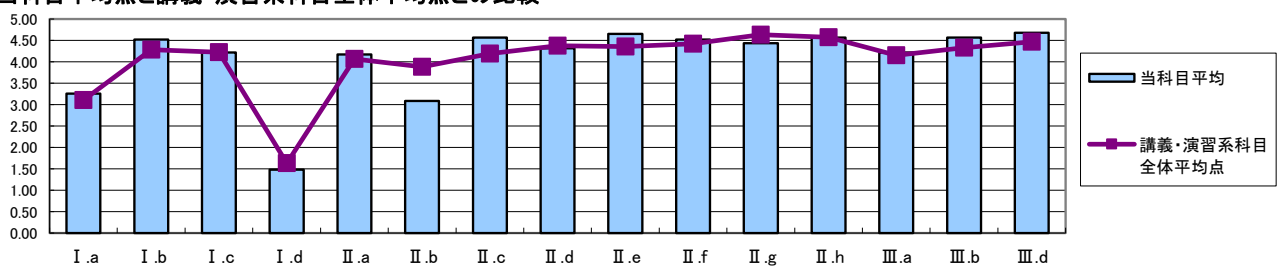
科目名	ドイツ語2a
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	25
回答者数	23

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.26	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.52	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.22	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.48	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.09	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.32	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.65	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.52	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.43	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.22	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 95.65 / 4: 13.04 / 3: 47.83 / 2: 8.70 / 1: 4.35	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.68	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

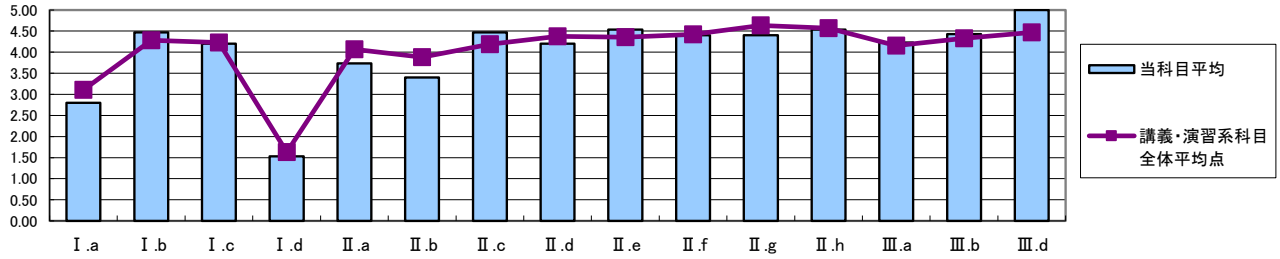
科目名	ドイツ語2b
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	18
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.80	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.47	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.53	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.73	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.47	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.20	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.53	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.53	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00	4: 13.33
			3: 33.33	2: 20.00
			1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



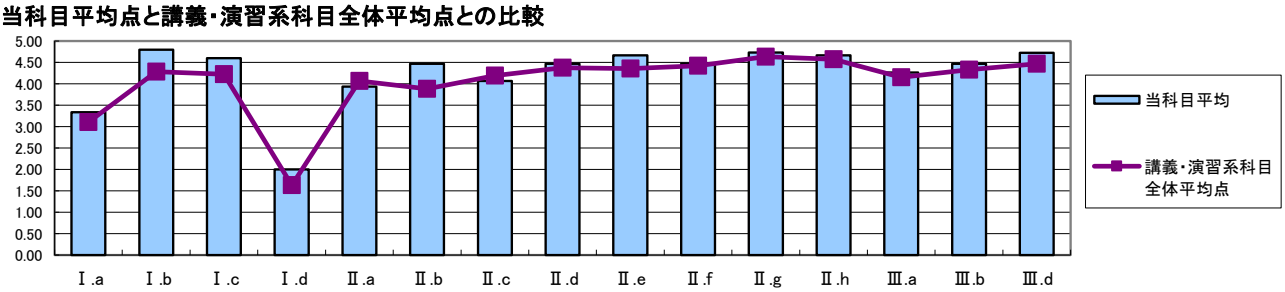
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2a
教員名	レンツ　I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	18
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.93	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.47	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.07	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.47	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.27	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.47	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 86.67	4: 46.67
			3: 46.67	2: 0.00
			1: 60.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.73	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2b
教員名	レンツ　I. K.

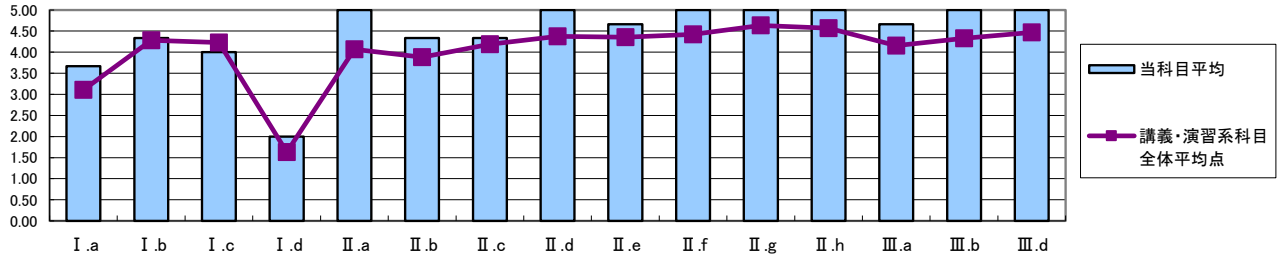
職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

回答率				
5	4	3	2	1
66.67	33.33	66.67	0.00	100.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	ドイツ語(Konzertfach)6
教員名	レンツ　I. K.

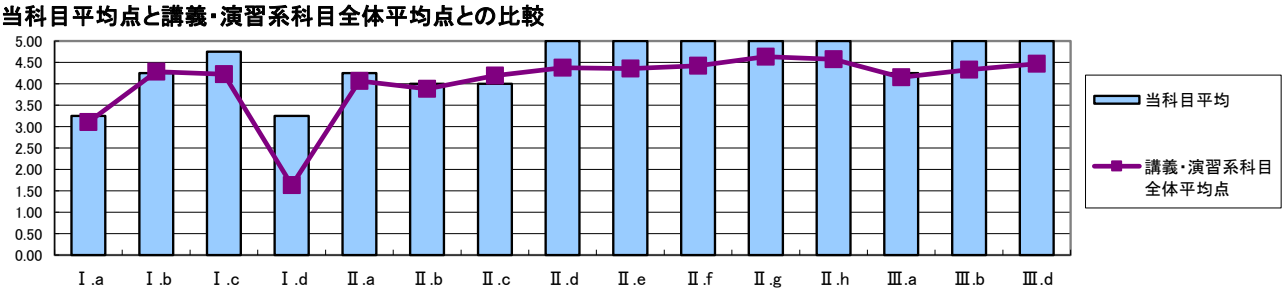
職名	04. 准教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.25	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

回答率				
5	4	3	2	1
100.00	50.00	75.00	0.00	75.00

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

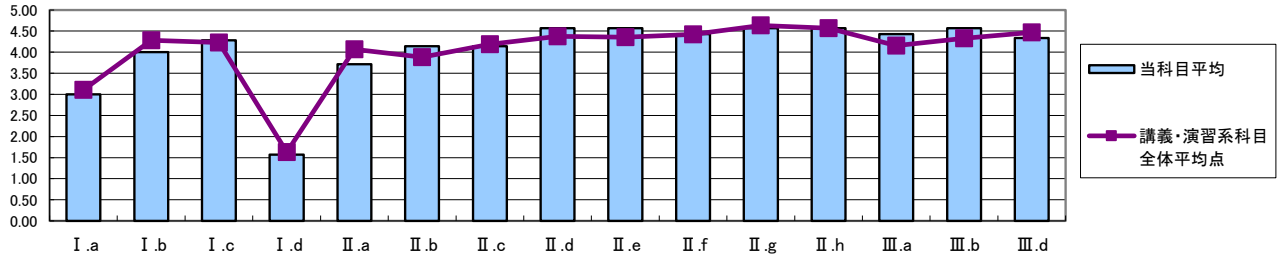
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション4
教員名	レンツ　I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.29	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.57	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.71	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.57	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 0.00 / 3: 57.14 / 2: 0.00 / 1: 42.86	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



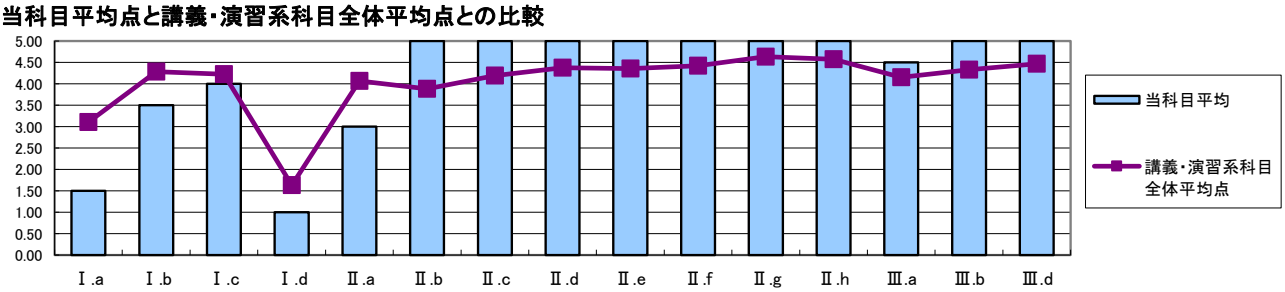
科目名	ドイツ語(Konzertfach)8
教員名	レンツ　I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

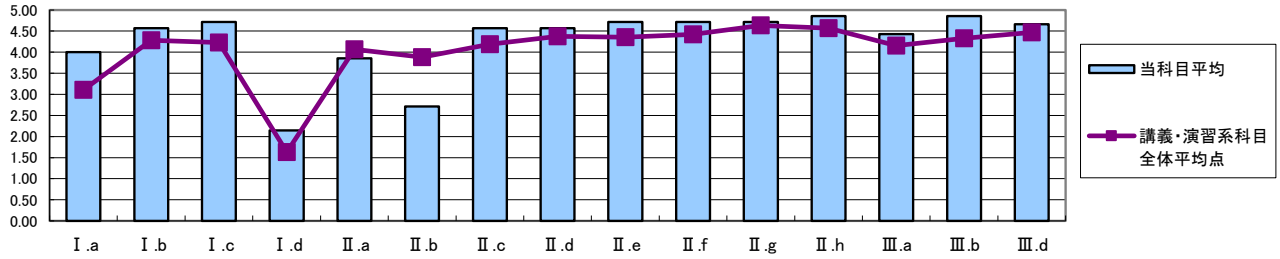
科目名	ドイツ語4
教員名	高橋　幸雄

職名	05. 特任准教授

履修者数	11
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.57	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.14	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.71	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.57	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.71	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.71	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.86	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.71 / 4: 14.29 / 3: 42.86 / 2: 0.00 / 1: 28.57	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	東邦スタンダードⅡB
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	29
回答者数	20

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.15	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.60	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.05	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.05	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.70	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.95	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.05	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.35	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.70	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.80	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 38.89 / 4: 72.22 / 3: 5.56 / 2: 16.67 / 1: 44.44	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.73	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

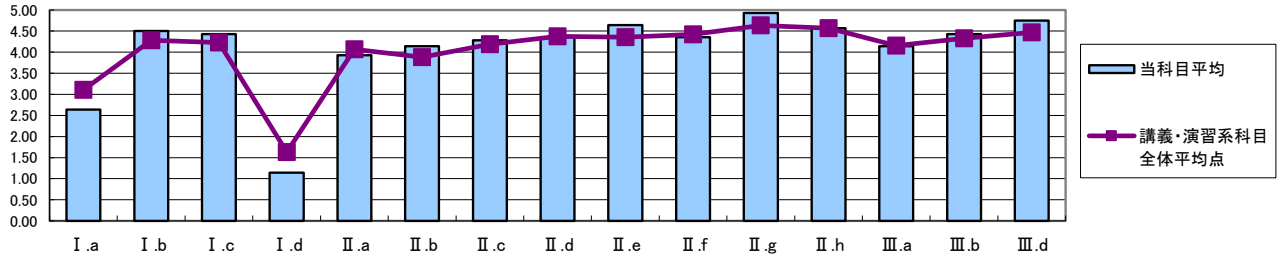
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2a
教員名	J.ダン

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.64	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.14	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.93	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.29	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.36	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.64	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.36	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.93	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.57	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 61.54 / 4: 7.69 / 3: 15.38 / 2: 7.69 / 1: 69.23	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



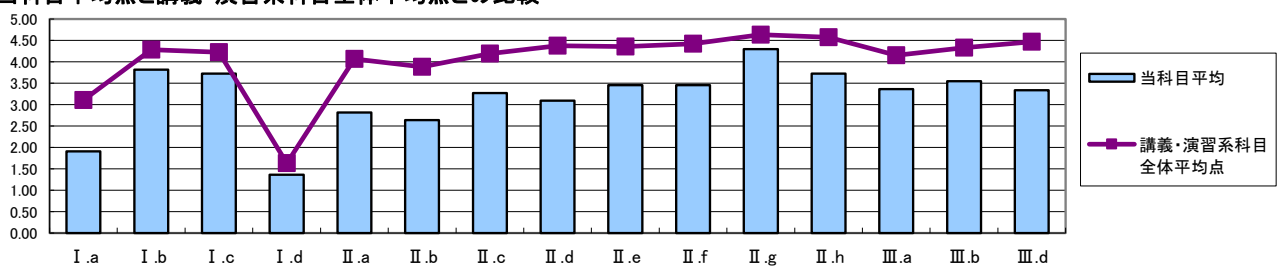
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2b
教員名	J.ダン

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.91	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.82	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.73	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.36	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	2.82	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.64	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.27	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.09	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.45	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.45	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.30	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.73	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.36	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.55	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 20.00 / 4: 20.00 / 3: 20.00 / 2: 0.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.33	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

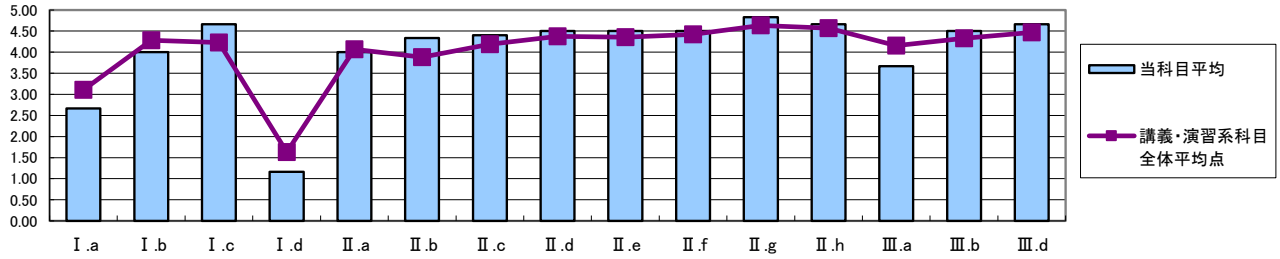
科目名	英語圏異文化コミュニケーション4a
教員名	J.ダン

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.17	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 16.67 / 3: 33.33 / 2: 0.00 / 1: 83.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



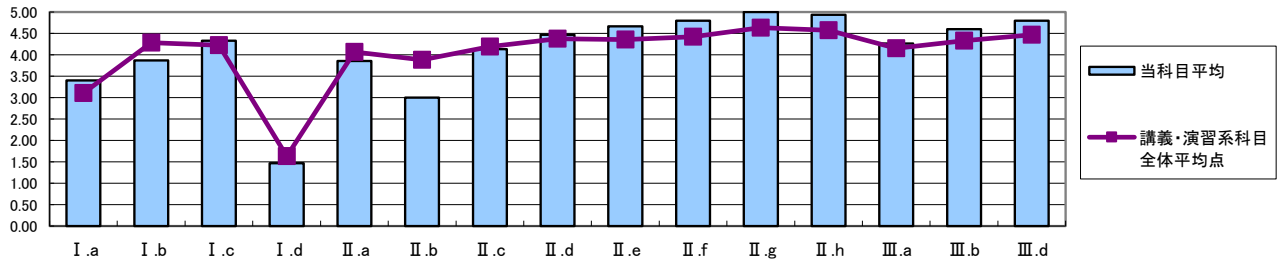
科目名	イタリア語2
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	21
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.87	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.47	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.86	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.47	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.27	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 26.67 / 3: 33.33 / 2: 26.67 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

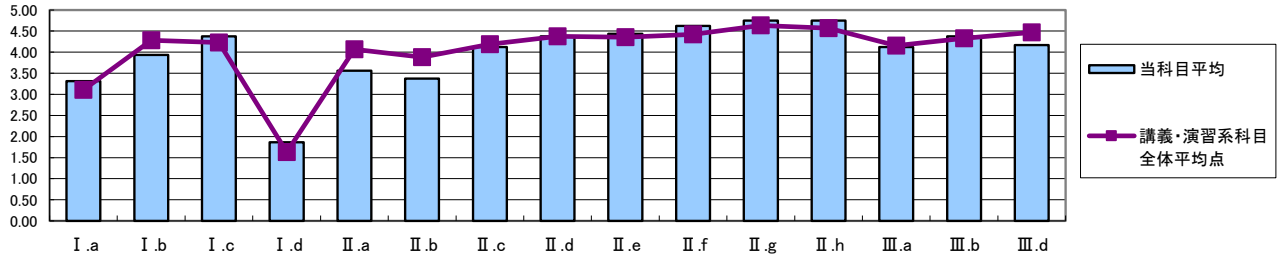
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	19
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.31	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.94	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.87	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.56	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.38	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.38	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.44	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.63	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.13	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.50 / 4: 18.75 / 3: 37.50 / 2: 0.00 / 1: 18.75	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.17	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



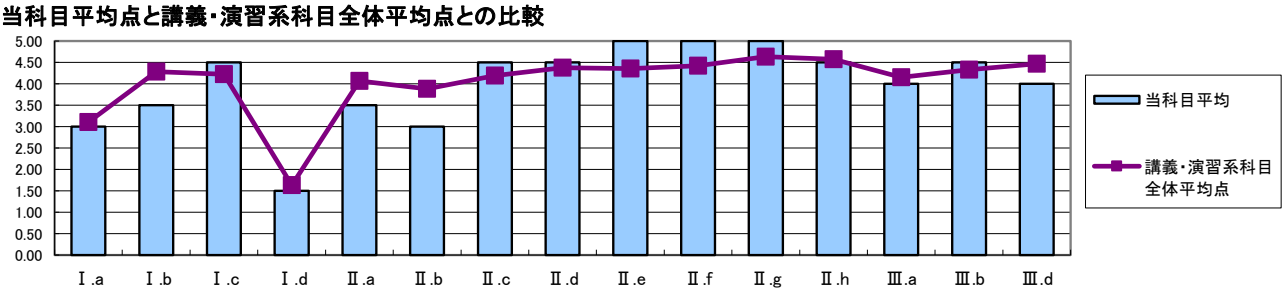
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション4
教員名	ヴェルゴラーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 50.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

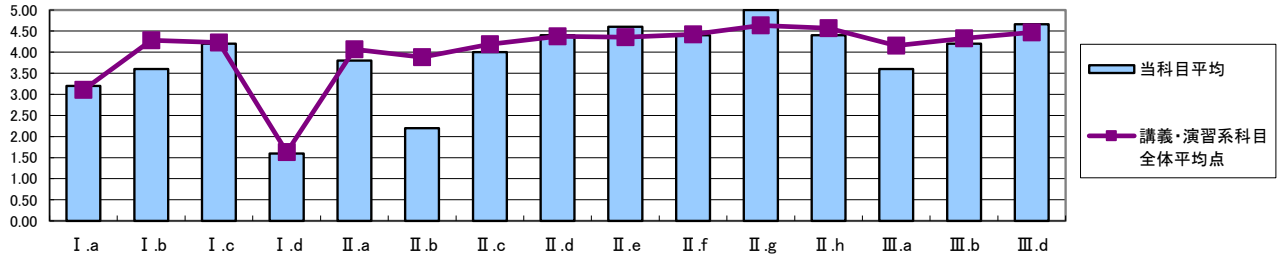
科目名	イタリア語4
教員名	ヴェルゴーニ　ミケーレ

職名	08. 講師

履修者数	6
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.20	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.80	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.20	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.40	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.60	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.00 / 4: 20.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 40.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



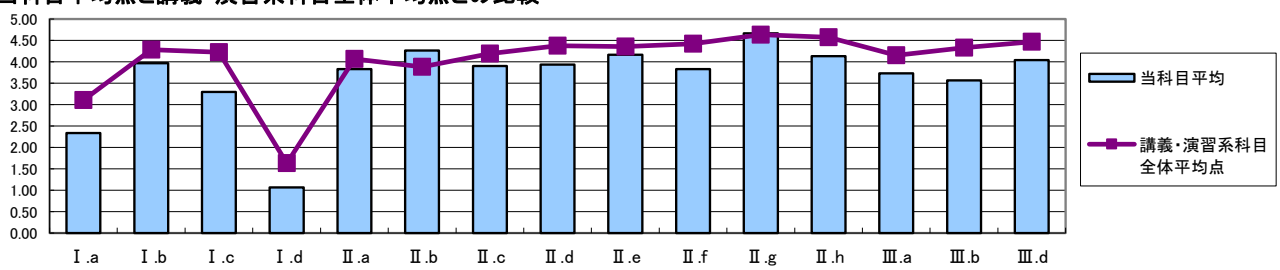
科目名	スポーツ文化論
教員名	江向　真理子

職名	08. 講師

履修者数	34
回答者数	30

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.97	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.30	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.83	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.27	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.90	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.93	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.17	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.83	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.13	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.73	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.57	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.48 / 4: 18.52 / 3: 22.22 / 2: 0.00 / 1: 3.70	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.04	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

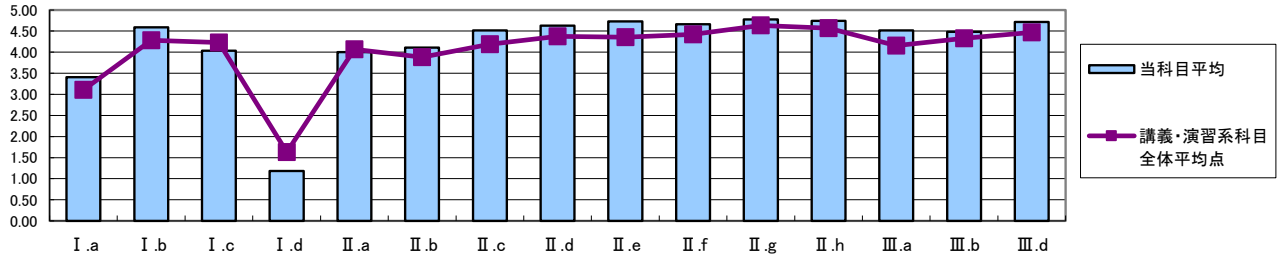
科目名	教育心理学
教員名	川久保　惇

職名	08. 講師

履修者数	35
回答者数	27

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.41	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.59	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.04	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.19	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.11	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.52	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.63	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.73	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.74	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.52	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.48	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 88.46 / 4: 34.62 / 3: 42.31 / 2: 15.38 / 1: 11.54	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.71	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



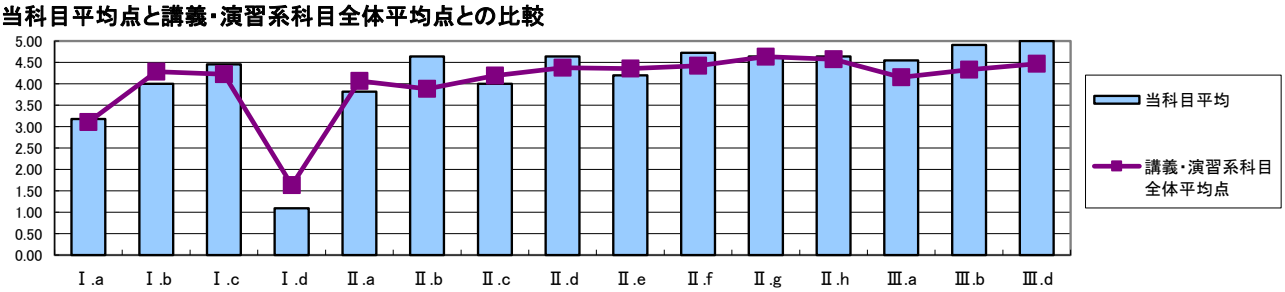
科目名	情報スキルB
教員名	佐久間　誠

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.18	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.45	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.09	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.82	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.64	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.64	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.20	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.73	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.64	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.55	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.91	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.91 / 4: 36.36 / 3: 72.73 / 2: 27.27 / 1: 9.09	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

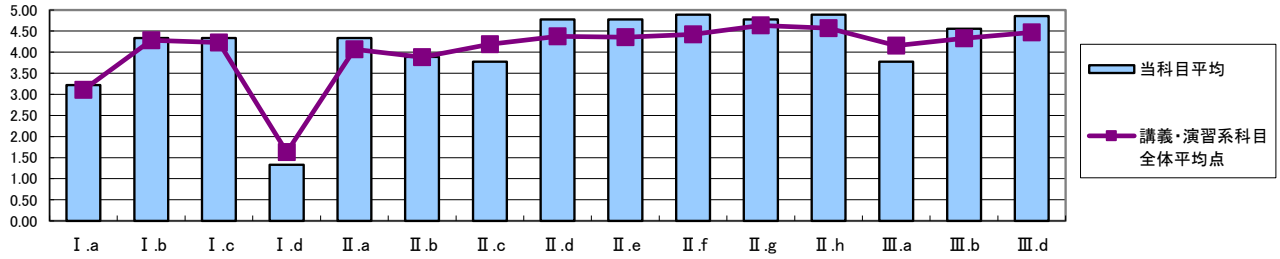
科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	高畑　敦子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.22	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.78	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.78	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.78	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.89	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.78	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.78	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.56	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 55.56 / 4: 66.67 / 3: 44.44 / 2: 11.11 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.86	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	文化芸術論B
教員名	山下　暁子

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.54	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.46	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.46	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.23	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.38	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.62	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.54	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.54	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.77	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.69	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.46	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.54	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 76.92 / 4: 46.15 / 3: 61.54 / 2: 15.38 / 1: 15.38	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



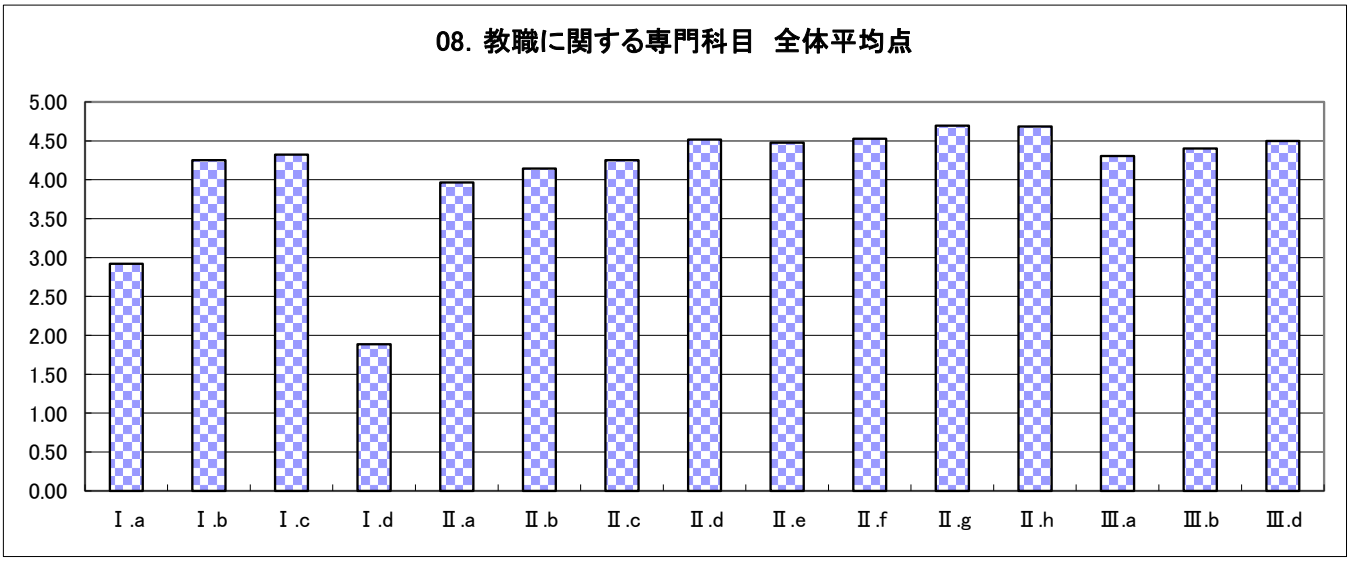
教職に関する専門科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	08. 教職に関する専門科目
科目数	8

履修者数	158
回答者数	112

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.92	21	20	29	13	29	112	0
				18.8	17.9	25.9	11.6	25.9		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	59	31	14	7	1	112	0
				52.7	27.7	12.5	6.3	0.9		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.32	52	46	13	0	1	112	0
				46.4	41.1	11.6	0.0	0.9		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.88	8	6	16	17	65	112	0
				7.1	5.4	14.3	15.2	58.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.96	44	27	37	1	3	112	0
				39.3	24.1	33.0	0.9	2.7		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	12	23	76	1	0	112	0
				10.7	20.5	67.9	0.9	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.25	58	26	26	2	0	112	0
				51.8	23.2	23.2	1.8	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.52	72	27	12	1	0	112	0
				64.3	24.1	10.7	0.9	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.48	70	26	14	0	1	111	1
				63.1	23.4	12.6	0.0	0.9		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.53	73	28	9	1	1	112	0
				65.2	25.0	8.0	0.9	0.9		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.70	89	12	11	0	0	112	0
				79.5	10.7	9.8	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.68	85	18	7	1	0	111	1
				76.6	16.2	6.3	0.9	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	51	44	17	0	0	112	0
				45.5	39.3	15.2	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	61	37	12	2	0	112	0
				54.5	33.0	10.7	1.8	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	76	62	32	28	24	110	2
				69.1	56.4	29.1	25.5	21.8		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	55	22	11	0	0	88	24
				62.5	25.0	12.5	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

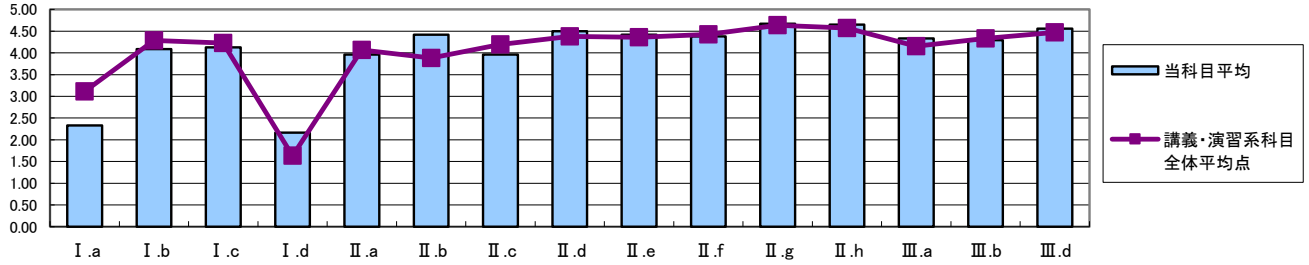
科目名	教職実践演習a
教員名	粕谷　宏美

職名	03. 特任教授

履修者数	29
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.08	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.13	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.17	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.96	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.42	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.96	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.42	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.65	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.29	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 69.6	4: 60.9
			3: 34.8	2: 26.1
			1: 34.8	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.56	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

科目の目的、内容　　教職実践演習は、教職課程の各科目の履修及び教育実習など、様々な活動を通して得た知識・技術をもとに、教員に求められる以下の４つの資質能力について、受講者が最終的に身に付けたかどうかを確認するために設定された科目である。① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項② 社会性や対人関係能力に関する事項③ 生徒理解や学級経営に関する事項④ 教科内容等の指導力に関する事項内容・授業形態　　授業では学生３名が１つのチームとなり、教科指導、生徒指導、教員の資質力量などの教育課題を取り上げて研究を進める。調査・研究したテーマを基に、教育現場で行われる教員研修会を想定して、研修を運営するための企画書を作成する。授業は、毎回担当する班が入れ替わり、各班が企画した研修テーマの現状と課題を説明し、その後はグループワークなど、アクティブラーニングを通して理解を深めていく。学生はひとり一人が主体的に取り組み、受講者同士が学びあい、対話を重ねながら高めあっていくものである。授業実施後も研修の振り返りや相互評価を目的に、担当するグループがリードして、研究協議会を行う。まとめとして担当教員が講評を述べて終了する。　　学生アンケート評価からは、「教育実習に行く前にこの授業を受けたかった」、「改めて多くのことを学び直せた」などのコメントがあり、充実した授業であると感じた学生が多かったようである。

●　問題点

9月から10月にかけては演奏旅行やウイーン研修があり、メンバーが集まりにくく、準備に支障をきたす班があったことが残念であった。研修の質を向上させていくために、事前準備への指導及び確認を徹底していきたい。

●　改善の方策

教員免許状取得のための最終的な履修科目である「教育実習事前・事後指導」を履修した後で「教育実習」、後期に「教職実践演習」という体系的な学びを、より効果的に行うために更なる工夫、改善に努めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

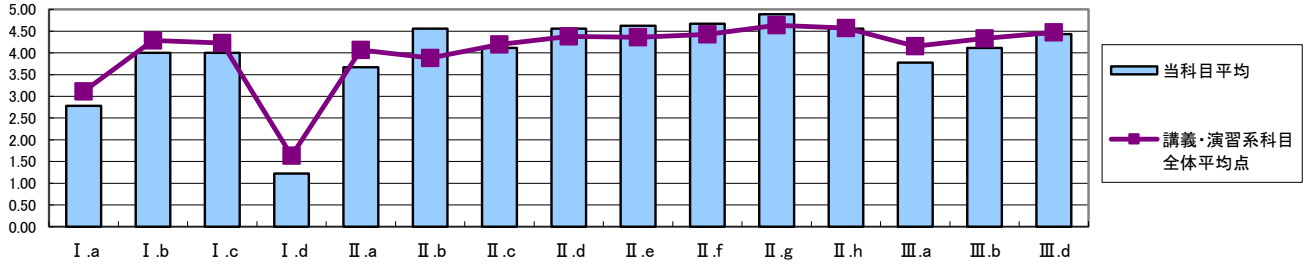
科目名	教育行政b
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	10
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.78	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.22	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.56	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.11	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.56	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.63	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.78	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.11	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7 / 4: 55.6 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 22.2	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

各授業とも、講義式と協調学習、グループ学習等の協働的な学修を織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。授業の合間には、各学習内容と音楽との関連に触れ、実際に合唱等をする時間をとった。アクティブ・ラーニングでは学生同士で活発な意見交換等が行われ、思考力や判断力、発表力を高め、知識の概念化が図られてきた。主体的・対話的で深い学びを行う上で、本授業は１０名という理想的なクラスサイズであり、クリティカル・シンキングにより自分の考えを見直し、メタ認知能力を高めることができた。授業内容は文部科学省、地方教育行政、学校教育行政、社会教育行政、家庭教育行政、安全教育等と広い分野に及び、これらを短期間で講義をしていくため、教育行政の概要を考察し理解することが主眼となる。この分野の知識がほとんどない学生が多くいることから、教育行政の概要を考察して体系的に理解する意義は大きいと考えている。　留意したことは次の３点である。　①　教育行政と学校運営との関係を具体的な事例に基づいて理解する。②　教育行政の変遷について概要をつかむ。③　現在の教育行政の現状と課題を整理する。この３点は授業全体で意識して取り組んできたところである。その中で特に教職課程の授業であることから、学校教育行政の変遷および新学習指導要領の方向性及び家庭、地域との協働については、具体的に踏み込んだ授業展開を試みた。今後の教育は産官学民が協働で歩調を合わせて進めていくことが求められている。この点については、特に強調したところである。

●　問題点

Ｉａ「履修するにあたって、シラバスを活用した。」という項目で「あまりそう思わない」に２人「全くそう思わない」に２人が回答している。授業は大方においてシラバスの項目に沿って進めてきたが、シラバスの活用について学生に周知する点において課題を残した。

●　改善の方策

シラバスについて、第１回目の授業で印刷して配布し、１５回の講義の見通しを持たせたい。さらに、毎時間の授業で学習内容とシラバスとの関連を説明する。学生がシラバスをあまり確認していない状況があるため、講義の中で丁寧なガイダンスを行う必要性を痛感した。また、予習、復習が計画的に行われるよう各時間に授業を振り返り、次の授業の内容を示す時間を確保して、予習、復習が習慣化するようにしていく。今後とも、主体的に学ぶ学生の育成に努めたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

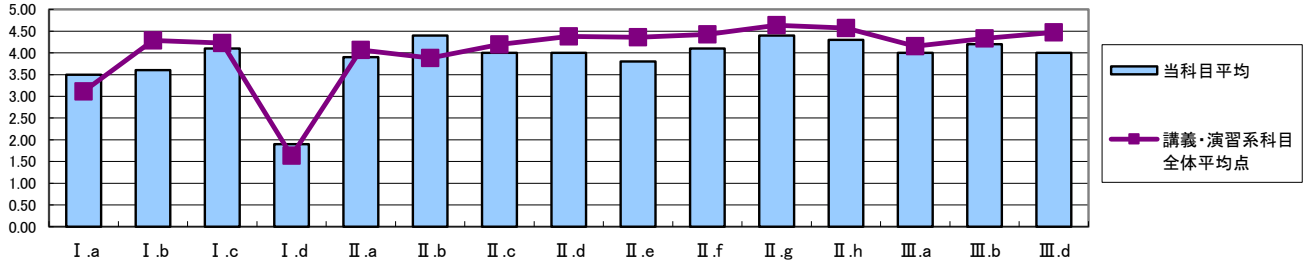
科目名	教育方法b
教員名	石橋　裕

職名	05. 特任准教授

履修者数	14
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.10	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.90	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.90	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.40	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.80	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.10	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.30	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.20	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 55.6	4: 33.3 / 3: 55.6 / 2: 22.2 / 1: 0.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

実際の授業で行われている多様な指導方法や学習形態を体験的にシュミレーションする授業を中心とした。特に協働による学びを重視し、協調学習、ディベート、ブレンストーミング、ランキング手法、グループ討議等について体験的に学修した。各授業とも、講義式、アクティブ・ラーニングを織り交ぜ、パワーポイント等により視覚的な教材を多く取り入れた。また、毎時間、シラバスに沿って資料を用意し、学生が復習しやすいよう配慮した。さらに各学生の学習状況を把握するため、「授業振り返りカード」を用意して毎時間、記述式で自己評価や感想を書いてもらい、必ずコメントを添えて返した。音楽大学という特質から、音楽教育と結びつけて実践的な内容としたため、学生間では活発な意見交換等が行われ一定の成果をあげたと考えている。主体的・対話的で深い学びを行う上で、本授業は１４名という理想的なクラスサイズであり、これからの教育に必要とされるイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシーを含めた資質・能力の育成について体験的に理解していった。３年生という特質から、各種演奏会出演、ウィーン短期留学、各週体験活動等から公欠が多く、継続的な学習という点で課題がある。出席が半数に満たない授業もあるため、学生の学修に極端な差がつかないよう復習に力点を置き、シラバスどおりに進まない現状があった。　留意したことは　①　ねらいを明確にして見通しを示し、学習の内容、成果や課題について振り返りのある授業をめざすこと　②　協調学習（ジグソー学習）等主体的・対話的で深い学びの指導方法、学習方法を理解すること　③　資質・能力の3つの柱を理念とした新学習指導要領の趣旨や概要を理解することである。この３点は授業全般で意識し、取り組んできたところである。また、家庭や地域社会との連携、協働、産官学民の協働の現状や求められる取組やＩＣＴ教育の意義と今後の課題についても取り上げた。

●　問題点

①　Ⅰａ「この授業を履修するにあたって、シラバスを活用した」という設問に対して２　あまりそう思わないに１人、１　全くそう思わないに１人の学生が回答している。履修するにあたってシラバスを読み込んでいる学生はすくない現状がある。また、Ⅱ　ｄ「この授業の進め方は丁寧で、説明、板書はわかりやすかったでは、４人の学生が「どちらとも言えない」と答えていることは課題である。

●　改善の方策

シラバスについて、第１回目の授業で印刷して配布し、きめ細かく説明し１５回の講義及び予習、復習の見通しを持たせたい。しかし公欠等での欠席者が多く、シラバスどおりに授業を進行できなかった面があり、それに併せて説明、板書もわかりにくい面があったと考えられる。今後は、原則としてシラバスにそって授業を進め、公欠等の学生にはプリント資料で補うなどの工夫をしていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

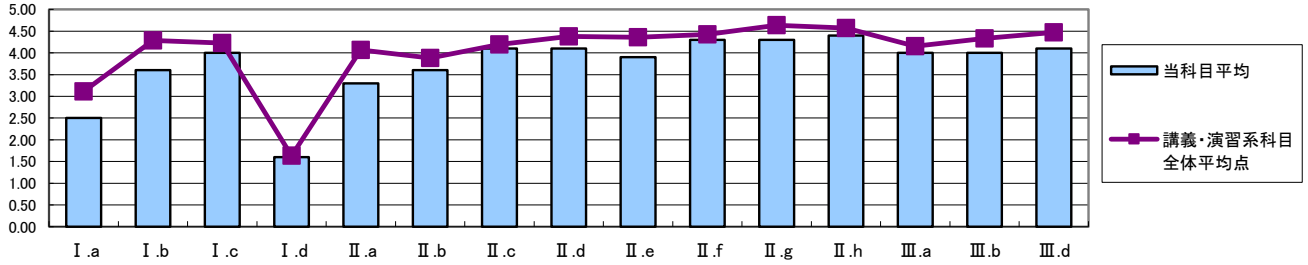
科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成a
教員名	五十嵐　由和

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.30	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.60	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.10	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.10	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.90	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.30	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.30	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.40	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.0	4: 70.0 / 3: 10.0 / 2: 20.0 / 1: 30.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.10	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒指導及び教育課程に関する基本的事項・理論の理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図るとともに、生徒指導及び教育課程の課題と展望を明確にし「実践知教育」を目指し、テーマを設定してきた。アンケートの結果からテーマ・進め方には概ね良好な受け止め方をしている。全体的に、中学校・高校の学校現場の身近な事例の教材・現代的な課題をもとに、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、事例研究を基本に講義、グループ討議を進めてきたが、概ね良好な受け止め方をしている。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。また、同一科目でも学生の興味・関心・意欲に差異がみられ、実態を十分に考慮する必要がある。

●　問題点

シラバスを活用した授業、予習・復習の具体的な内容を示すなど工夫が必要である。

●　改善の方策

１　シラバスを活用し、授業の充実及び予習・復習を充実するために、毎回の授業でシラバス・学習内容を意識させるとともに予習・復習の課題を具体的に示すなど工夫していく。２　学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、中学校・高校の学校現場に身近な事例・現代的な課題、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、実践研究、事例研究を基本に、主体的・対話的な学び（アクティブ・ラーニング）になるようにグループ討議など、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。　　同一科目でも、学生の興味・関心・意欲などの実態を踏まえ、常に実態に基づいて授業の進め方の改善が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

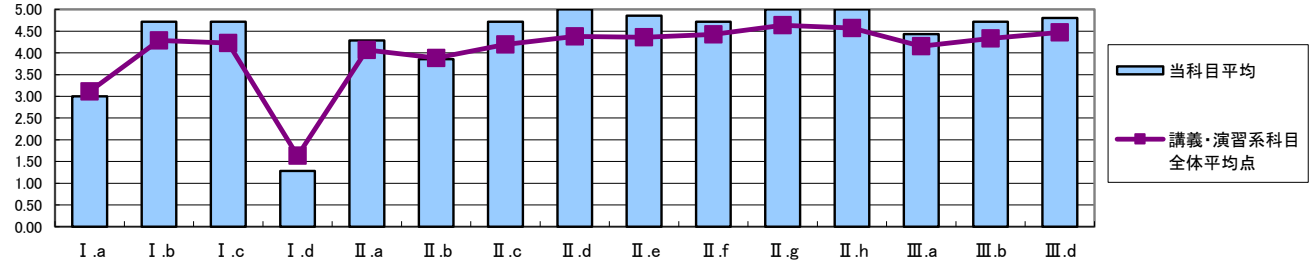
科目名	生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成b
教員名	五十嵐　由和

職名	08. 講師

履修者数	12
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.29	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.86	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.71	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.7	4: 85.7
			3: 42.9	2: 42.9
			1: 14.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

生徒指導及び教育課程に関する基本的事項・理論の理解を深め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図るとともに、生徒指導及び教育課程の課題と展望を明確にし「実践知教育」を目指し、テーマを設定してきた。アンケートの結果からテーマ・進め方には概ね良好な受け止め方をしている。全体的に、中学校・高校の学校現場の身近な事例の教材・現代的な課題をもとに、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、事例研究を基本に講義、グループ討議を進めてきたが、概ね良好な受け止め方をしている。シラバスを活用方法について説明したが、シラバスの活用や予習・復習に不十分な点が見られた。また、同一科目でも学生の興味・関心・意欲に差異がみられ、実態を十分に考慮する必要がある。

●　問題点

シラバスを活用した授業、予習・復習の具体的な内容を示すなど工夫が必要である。

●　改善の方策

１　シラバスを活用し、授業の充実及び予習・復習を充実するために、毎回の授業でシラバス・学習内容を意識させるとともに予習・復習の課題を具体的に示すなど工夫していく。２　学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、中学校・高校の学校現場に身近な事例・現代的な課題、文部科学省の基本的な考え方を踏まえた理論研究、実践研究、事例研究を基本に、主体的・対話的な学び（アクティブ・ラーニング）になるようにグループ討議など、学生が主体的に学んでいける授業をさらに進めていく。　　同一科目でも、受講する学生の興味・関心・意欲などの実態を踏まえ、常に実態に基づいて授業の進め方の改善が必要である。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

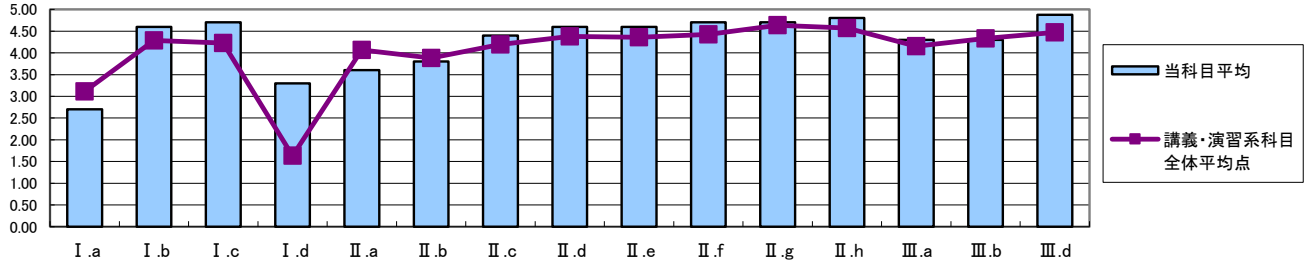
科目名	音楽科教育法Bb
教員名	西田　康子

職名	08. 講師

履修者数	15
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.70	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.30	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.60	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.80	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.70	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.30	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.0	4: 60.0 / 3: 20.0 / 2: 30.0 / 1: 40.0
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽科教育法の授業内容は、小学校、中学校高等学校の音楽教員を目指す者として必要とされる実践力を身につけるべき知識や技能を習得する科目である。　ここでは指導の根幹である学習指導要領の基礎的な理論や発達段階における学習の目的と指導内容を系統立てた指導方法を学ぶことが重要であると考えている。今年度は２０２１年に中学校新学習指導要領で全面実施されるので、ざっと、改訂の背景と基本的な考え方を理解させ、ポイントを理解させた→資質・能力の3つの視点として、（1）　生きて働く「知識・技能」・・・その授業学んだ知識・技能はその授業で終わりではなく、その後の学習や生活で生きて働くものだということ（2）　「思考力・判断力・表現力」・・・考える力・的確に判断する力を的確に相手に伝えていく力が音楽学習でも重要（3）　「学びに向かう力、人間性等」・・・関心・意欲・態度に該当する情意面や態度に関わるもの、音楽科の目標にある「音楽に対する感性」、「音楽に親しむ態度」も含まれる。※今までの学習指導要領は、この教材曲で「何を教えるか」が示されていたが、新学習指導要領では、子供たちにとって「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を表すものだということを理解していった。たとえば従来の学習指導要領での指導事項は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞すること」で示されていた。が、繰り返しになるが「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を基本として理解。テキストの（P140）図形を参照しながら進めた。また、一方的な講義形式にならないように、下記のように実施。① 教科書が変わるので⇒目次、曲目等に着目してグループごとにテーマに沿って話し合い、互いに考えを発表しあいまとめた。初期段階としてアクティブラーニング的な手法を取り入れての授業を行うことを目的として実施してきた。② 目的と指導内容、弾き歌い演奏会、グループ１５分模擬授業実践、個別３０分模擬授業実践、研究協議会形式の発表形式実施。２０２１年には完全実施で教育課程が実施されるので、この段階で育成を目指す資質や能力を整理して理解させた。また技能面での初歩段階をマスターするために、ソプラノ・アルトリコーダーの奏法、箏の初歩奏法、などを高校生との（附属高校、第二高校生）授業見学と併せて実施。③ デジタル教科書を活用した、生徒にとっても教師側にとっても楽しい授業づくりと効果的な進め方を実践した。リコーダーの練習では、楽譜と音の連動、運指の連動も示されて、子供一人一人を把握することができること、創作の時間では、動くコンテンツがあるので、画用紙や磁石等の教具づくりが省けることを理解させた。和楽器では期では、動画を簡単に呼び出して再生できるので、DVD等の準備時間確保といったサポート面でも利点があること。④ 授業のどのタイミングでデジタル教科書を活用すれば、子供たちの音楽学習が効果的になるのか心がけながら実施。⑤ 学生たちにとって、より豊かな表現づくり、広がりと深まりのある授業づくりにつながっていくように行った。

●　問題点

免許取得だけを目的としている学生が多いのが現状である。全体的に真面目で課題目的のためには努力しようとする雰囲気を感じた。２年次から教職を目指している学生と免許取得だけを目的としている学生の中で、課題に対する学習態度や学習意欲の差が多少感じられたこともある。学習意欲や資質・能力等や、学生同士の集合した間関係から生じることも若干影響なのかな？と感じることもあったどの学生も模擬授業に対する意気込みを感じ、アイデアが豊富で、すばらしい授業展開を考える学生が多かったので頼もしい限りである。２限、３限での人数の偏りはしかたがないのかな。A・Bの授業内容においても９０分授業の、導入→展開→まとめ→振り返りを工夫しながら実施していった。

●　改善の方策

上記にも述べたが、２０２１年には完全実施で教育課程が実施されるので、学習指導要領におけるこの段階で育成を目指す資質や能力を整理して理解させていくことがこの時間のキーワードだと感じる。デジタル教科書を活用した授業づくりは、これから広がっていくので未来の子供たちのために、学生たちもより豊かな表現づくり、広がりと深まりのある授業づくりにつながっていければと考えている。子供たちにとって、「授業が楽しい」「音楽の出会いでこれからの社会の中で幸せな人生が送っていけるように」が必須であり、このことをモットーに学生たちが、さまざまな指導方法を研究して、どのような工夫をしていけばよいのか、曲や演奏の楽しさやよさを見いだせるようにしたらよいかを探究していただきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

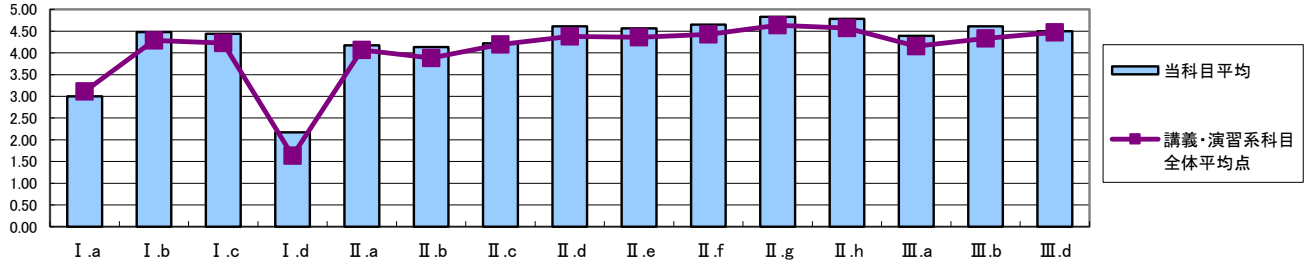
科目名	音楽科教材研究B
教員名	山崎　正彦

職名	08. 講師

履修者数	29
回答者数	23

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.48	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.17	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.13	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.22	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.61	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.65	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.83	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.78	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.39	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 56.5	4: 69.6
			3: 52.2	2: 47.8
			1: 8.7	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は、学習指導要領の教育目標、学習内容の理解に基づいて音楽科教育を通して身につく学力を理解し、そのうえで、表現及び鑑賞のそれぞれの指導事例を実践的、かつ理論的な見地から構成して模擬授業を行うことを到達目標としていた。授業内容は以下の２点であり、模擬授業を通して、その効果と課題を視点としてディスカッションを行い、音楽科授業の特有の課題とその改善の方法について学修。模擬授業の成果と課題について、教材・指導・学力の相互の関連をテーマとしてディスカッションを行い、音楽科授業における教材研究と授業実践との関係性について学修。授業は水曜日の第2限であり、受講生は32名である。ここに挙げた内容については概ね良好な結果がえられていた。とりわけ、模擬授業実践については質の高い指導力が見受けられ、それが他の受講生にも波及して相乗効果となり、総じて高次元の模擬授業となっていた。

●　問題点

シラバスの活用、予習・復習についての不足が挙げられる。とりわけ復習についてであるが、個々人が、それぞれ模擬授業を実施する連続となると、各授業がその個々人に任され、授業が終わるとその内容が完結したというような印象となりかねない。授業内で繰り返し述べていることであるが、各人が模擬授業において抱える問題、模擬授業後の検討会で指摘された授業内容や指導法に関する問題点は、そのまま誰もが共通するものであり、全員が共有すべきものであるという基本に常に立ち返り、学生に伝え続ける必要がある。

●　改善の方策

シラバスについては、やはり第１回目の授業で取り上げるべきであると考える。　予習については模擬授業当事者になれば十二分に行うこととなる。それが終了すれば心理的にも解放されて全く行わないことが容易に察せられる。　次年度、予習に関しては、教育時事等、学校教育に関する諸問題、話題、報道についての週間報告会を考えている。　復習に関しては授業終了後にそれが実施されるべきとも限らない。授業終了前に、当日の学修内容の確認と、次週までに忘れてはならない点についての確認を必ず行いたいと考えている。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

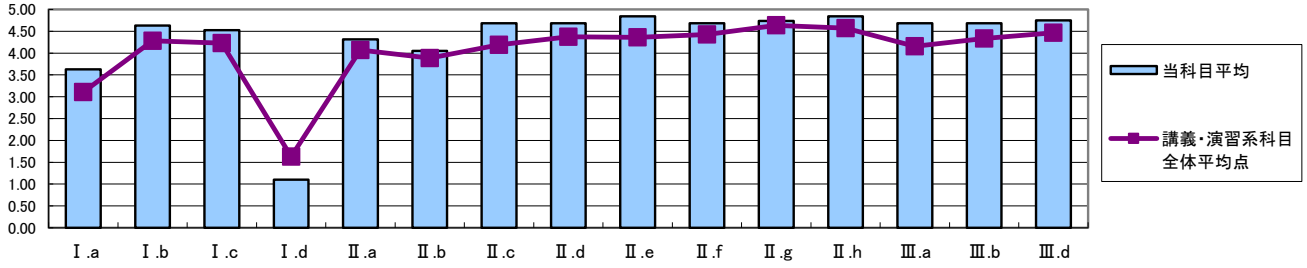
科目名	教育相談・進路指導
教員名	川久保　惇

職名	08. 講師

履修者数	36
回答者数	19

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.63	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.53	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.32	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.05	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.68	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.68	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.84	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.68	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.74	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.84	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.68	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.68	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 84.21	4: 26.32
			3: 5.26	2: 5.26
			1: 21.05	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



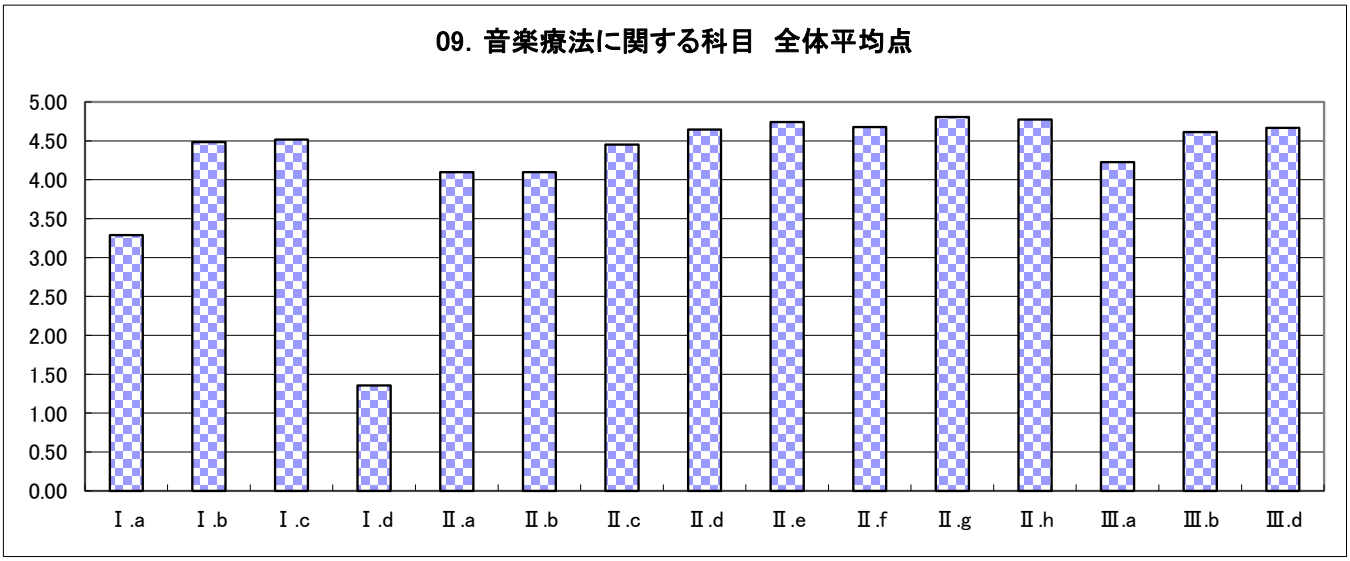
音楽療法に関する科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	09. 音楽療法に関する科目
科目数	5

履修者数	33
回答者数	31

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.29	5	9	11	2	4	31	0
				16.1	29.0	35.5	6.5	12.9		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.48	18	11	1	1	0	31	0
				58.1	35.5	3.2	3.2	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.52	16	15	0	0	0	31	0
				51.6	48.4	0.0	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.35	0	1	2	4	24	31	0
				0.0	3.2	6.5	12.9	77.4		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.10	9	18	3	0	1	31	0
				29.0	58.1	9.7	0.0	3.2		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.10	1	10	19	0	1	31	0
				3.2	32.3	61.3	0.0	3.2		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.45	16	13	2	0	0	31	0
				51.6	41.9	6.5	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.65	20	11	0	0	0	31	0
				64.5	35.5	0.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.74	23	8	0	0	0	31	0
				74.2	25.8	0.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.68	23	6	2	0	0	31	0
				74.2	19.4	6.5	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.81	25	6	0	0	0	31	0
				80.6	19.4	0.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.77	24	7	0	0	0	31	0
				77.4	22.6	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.23	9	20	2	0	0	31	0
				29.0	64.5	6.5	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.61	19	12	0	0	0	31	0
				61.3	38.7	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	25	25	14	10	3	31	0
				80.6	80.6	45.2	32.3	9.7		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	10	5	0	0	0	15	16
				66.7	33.3	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

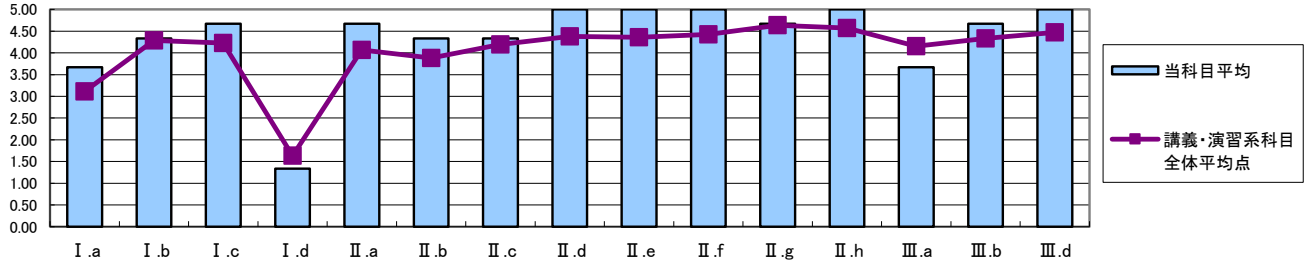
科目名	人間と医療ＩＢ
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 33.3
			3: 66.7	2: 33.3
			1: 33.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法の対象者の精神疾患、それに伴う症状や精神状態を学習することを通して、音楽療法実践に役立つ精神医学基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。＜内容＞　精神疾患の分類の理解、さまざまな精神疾患の症状や特徴の理解、検査や精神療法を理解する力を身につける。また、それら精神疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように工夫するか、などを言葉にする。＜授業形態＞　講義形式であったが、上記のように精神疾患の症状や精神疾患のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。＜受講者数＞　３名と少人数であったため、一人一人が自分の考えを発表する時間を確保できた。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ｂ、ｃより、学生が積極的にこの授業に取り組んだことが分かった。ただ、Ⅰ－ａ、ｄの結果より、「シラバスの活用」が低く、「予習・復習の時間」が少ないことが明らかになった。②担当教員は難しい精神医学の内容をカラー資料や図表で伝える工夫をしたが、Ⅱ－ａ～ｈの結果より、その意図が受講生に伝わったと感じた。具体的には、教科書のみでは理解が難しい脳のしくみなどを、別資料カラーで用意した。また、防衛機制についてなど、受講生の実体験を表にまとめるよう課題を出したところ、受講生は興味をもって取り組んでいるようであった。③Ⅲ－ａより、到達目標を十分に達成できたかについてはやや低い結果となった。ただ、Ⅲ－ｄで、「この授業が意義のあるものであった」について、全員が「強く思っている」と回答していた。また、Ⅲ－ｃで「この授業を履修して自分のためになったこと」として、「関連分野の学習意欲」や「新しい知識・技能」が顕著に高い結果であった。

●　問題点

上記結果①③より：　①予習・復習の内容については、シラバスには記載したものの、授業ごとにシラバスを一緒に確認することはしなかった。そのことが結果に影響しているように感じた。また、③到達目標の達成度の低さについては、音楽療法士資格取得のため精神疾患の基礎を１年間という短期間で概観しなくてはならず、学習量の多さも影響しているように感じた。

●　改善の方策

①③について：予習復習を充実させて到達目標の達成感を味わうためには、シラバスの活用が必要であると感じた。各授業時に、次回の内容の予告をしていたが、シラバスと照らし合わせることはしなかったので、シラバス活用の観点からも毎授業時にシラバスを一緒に確認し、予習・復習の内容を明確に伝えていきたい。また、１年間で精神医学を全て理解出来なくとも、今後も学び続けることの重要性を伝えていくことも必要だと考える。　②について：引き続き、理解しやすい資料を呈示しながら授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

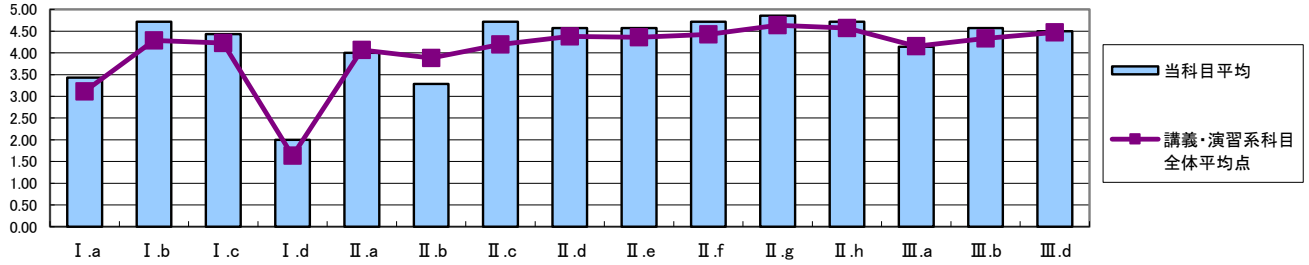
科目名	学内実習発表(音楽療法)
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.57	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.57	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.14	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.57	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.4	4: 100.0
			3: 14.3	2: 71.4
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法における「研究とは何か」について多面的に学ぶ。また、研究をする上で必要な学術的思考や学術的情報収集能力、そして自分の考えを適切かつ客観的な言葉にして他者に伝えることのできる言語表現力を身につける。＜内容＞　音楽療法の領域において、自分の興味のあるテーマを見つけだし、それに対して科学的なリサーチを行うための手法を学ぶ。そして、研究としてまとめるための学術的思考や言語能力を身につける。最終的には、実際に専攻内の全学年学生と教員の前で学術発表を行う。＜授業形態＞　講義形式と、自分のテーマをみんなの前でプレゼンテーションしディスカッションすることを、およそ半々の割合で行った。＜受講者数＞　７名であったため、一人一人がプレゼンする回数を３回ずつ設けられた。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ｂ、ｃより、学生が積極的にこの授業に取り組み、出席も良好であることが分かった。また、Ⅰ－ｄの結果より、若干ではあるものの全体平均よりも当科目の予習復習時間が多いことが明らかになった。これは、この授業が自分でテーマを決め、授業外の時間でそのテーマについて論文を読んだり自分の論文を執筆する作業があることが要因と推察された。②Ⅱ－ｂの結果より、授業の難易度について、全体平均よりも高い数値、つまり学生が「難しい」と感じていることが分かった。また、Ⅱ－d～ｈについては平均より若干高い数値であることが分かった。つまり、授業についてはある程度分かりやすいものであったにも関わらず、学生は「難しい」と捉えていることが明らかになった。これについては、自分でテーマを決め、自分で論文を作り上げていく、というある意味「正解のない作業」であることが影響しているように感じられた。③Ⅲ－ｃの結果より、この授業では「問題発見・解決能力」と「新しいものの見方」が自分のためになったと学生の多くが捉えていることが分かった。今まで学生が経験してきた＜小論文＞は、テーマを与えられて自分の意見を述べるものであったが、＜論文＞はテーマ自体を自分で決め、研究方法についても自分で立案する、という明確な違いがある。この授業において論文の書き方を学んだことが、上記の結果に繋がっているように思えた。また、Ⅲ－ｃでは、「コミュニケーション能力向上」の回答率が０であった。

●　問題点

上記結果③より：Ⅲ－ｃ「コミュニケーション能力向上」の回答が０について　担当教員は、プレゼンテーションにおいて、他者の考えについて質問したり意見や感想を述べたりする時に、「相手の気持ちや考えを尊重しつつ、客観的かつ建設的な質問をする」「ディスカッションの際は、相手の意見を最後まで聞いてから返答する」「反対意見を述べる際も、相手の出来ている部分をまず認めて称賛してから、自分の意見を述べる」など、コミュニケーションの基本的なことを伝えてきたが、今回の結果より学生がそれを実感していないことが分かった。

●　改善の方策

今後については、まずディスカッションの際のポイントを伝える時に、「学術発表でのディスカッションのルールは、社会におけるコミュニケーションと同じである」ことも同時に伝えていく。また、それが学生の普段の生活にも良い方向に作用することを伝えていこうと思っている。そして、良いディスカッションの見本を、質疑応答の仕方などから呈示していこうと考えている。そのために、これらの点についてもシラバスに明記する必要があると感じた。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

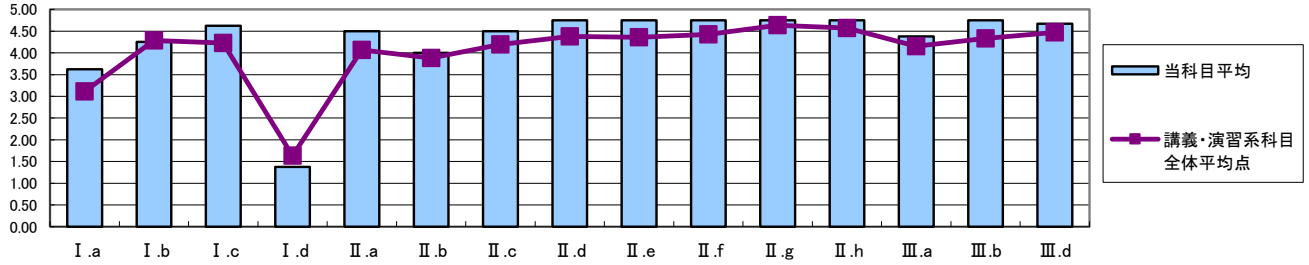
科目名	人間と医療ⅡB
教員名	木下　容子

職名	04. 准教授

履修者数	8
回答者数	8

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.63	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.25	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.38	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.75	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.38	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 87.5 / 4: 75.0 / 3: 50.0 / 2: 12.5 / 1: 12.5	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜当科目の目的＞音楽療法実践に役立つ基礎・身体医学（主に神経学）の基礎知識を得て、対象者理解を深めることである。＜内容＞　基礎医学・身体医学の中で、音楽療法の対象者理解に必要な神経学（入門程度）を理解する力を身につける。また、それらの様々な疾患のある方々へ自分が音楽療法士として接する時に、自分ならどのように工夫するか、などを言語化できるようにする。＜授業形態＞　講義形式であったが、上記のように身体疾患の症状のある方々に対して、またその方々への音楽療法実践に対する自分の意見を述べる場面を適宜設けた。＜受講者数＞　８名であったため、一人一人が自分の考えを発表する時間を確保できた。＜アンケート結果より＞①Ⅰ－ｂ、ｃより、学生が積極的にこの授業に取り組んだことが分かった。ただ、Ⅰ－ａ、ｄの結果より、「予習・復習の時間」が少ないことが明らかになった。②担当教員は、難しい身体医学の内容をカラー資料や図表で伝える工夫をしたが、Ⅱ－ａ～ｈの結果と自由記述の結果より、その意図が受講生に伝わったと感じた。具体的には、脳の器質的疾患や聴覚のしくみなどを、全てカラー資料で用意した。また、図表をPPTでも映し出し、当該部位を指し示しながら説明した。加えて、検査方法などは学生たちに実践してもらったが、受講生は興味をもって取り組んでいるようであった。③Ⅲ－ａ～ｄより、この授業の到達目標を十分に達成し、興味深く学習したことが分かった。Ⅲ－ｃ〔この授業を履修して自分のためになったこと〕については、「新しいものの見方」「新しい知識・技能」の回答率が顕著に高かった。これに関しては、今まで学習する機会のなかった基礎・身体医学に触れることで、音楽療法実習で出会う対象者の状態を新たな視点から理解・評価できることに繋がっていると感じた。

●　問題点

上記結果①より：　①予習復習の内容については、シラバスには記載したものの、授業ごとにシラバスを一緒に確認することはしなかった。そのことが結果に影響しているように感じた。

●　改善の方策

①について：予習復習を充実させて到達目標の達成感を味わうためには、シラバスの活用が必要であると感じた。各授業時に、次回の内容の予告をしていたが、シラバスと照らし合わせることはしなかったので、シラバス活用の観点からも毎授業時にシラバスを一緒に確認し、予習・復習の内容を明確に伝えていきたい。また、１年間で精神医学を全て理解出来なくとも、今後も学び続けることの重要性を伝えていくことも必要だと考える。　②について：引き続き、理解しやすい資料を呈示しながら授業を展開していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

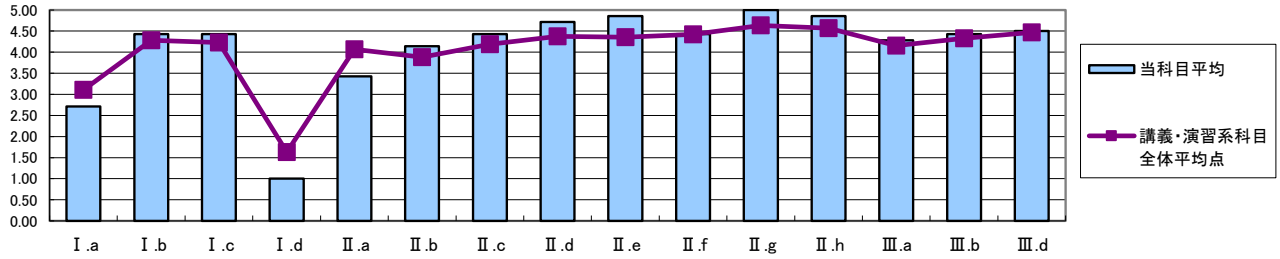
科目名	臨床心理学ＩＢ
教員名	植松　芳信

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.71	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.43	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.43	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.29	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.43	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.43 / 4: 100.00 / 3: 42.86 / 2: 28.57 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



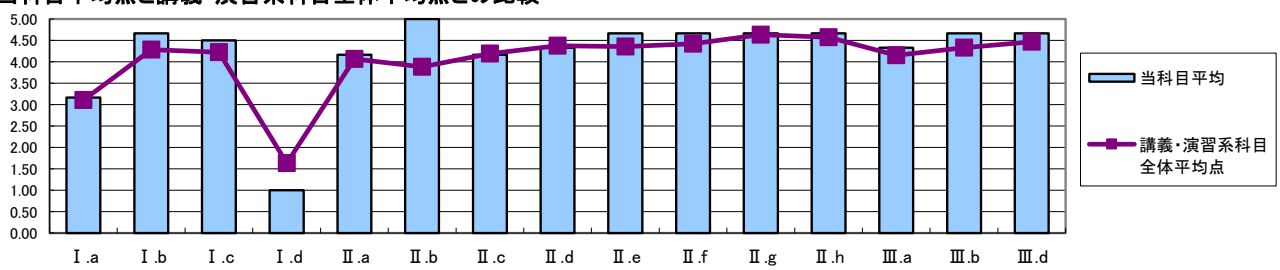
科目名	障害学B
教員名	高畑　敦子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.17	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.17	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.67	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 83.33 / 4: 66.67 / 3: 66.67 / 2: 16.67 / 1: 16.67	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



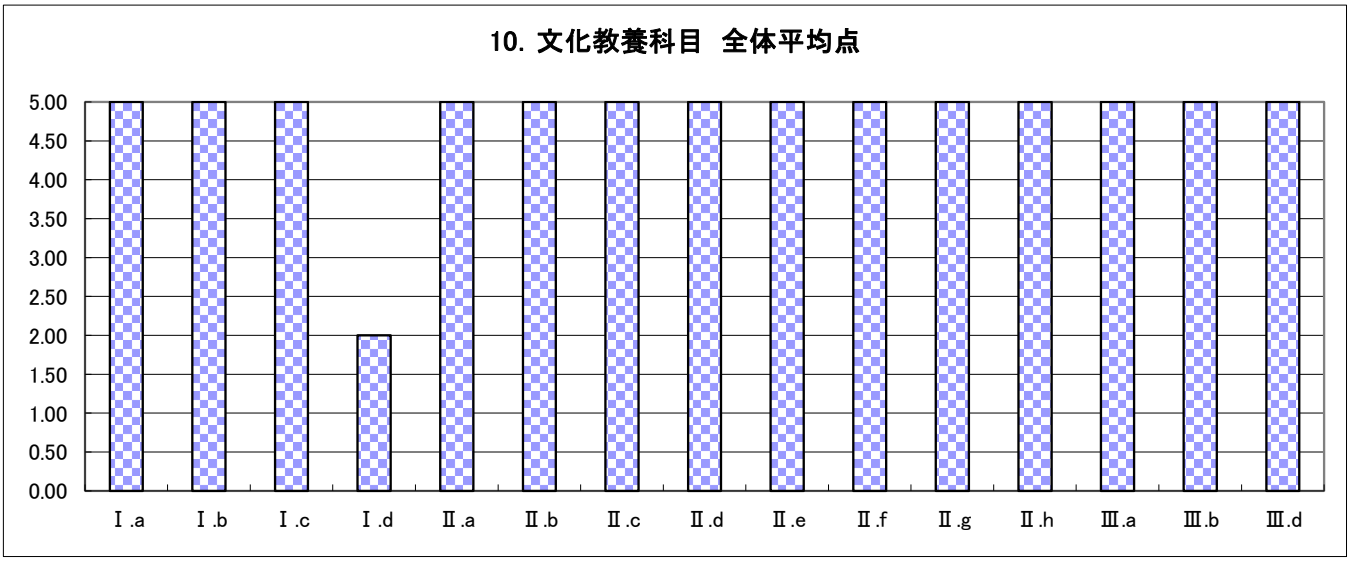
文化教養科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	10. 文化教養科目
科目数	2

履修者数	2
回答者数	2

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	0	0	1	0	1	2	0
				0.0	0.0	50.0	0.0	50.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	0	0	2	0	0	2	0
				0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	2	1	1	0	0	2	0
				100.0	50.0	50.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	2	0	0	0	0	2	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

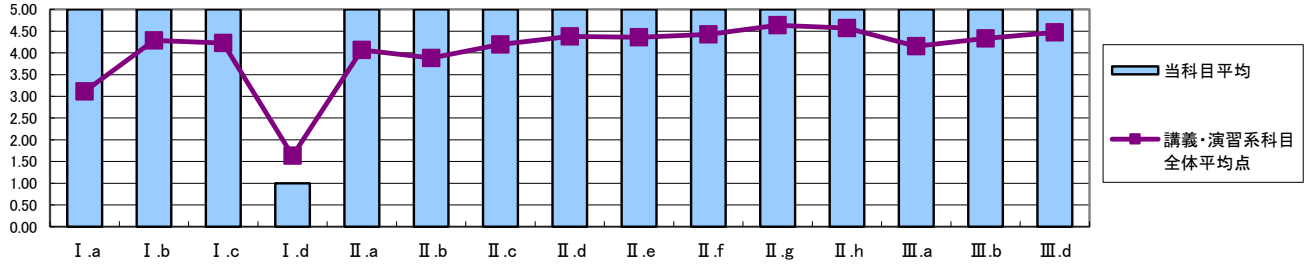
科目名	コンピュータミュージック演習ＩＢ
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　音楽創造専攻以外の専攻生を対象として、コンピュータを利用しながら音楽制作をする。演奏する立場ではなく、音楽を創る立場になることで音楽に対する視点を増やし、自己表現の拡張に繋げる。音楽制作をコンピュータで行うことで、楽曲の組み立て・音色・テンポなどを客観的情報で観察するとともに、コンピュータでできること、できないことを理解し、音楽においての有効的な活用を考える。コンピュータを活用することで「情報を整理する」「考え方を身につける」を学ぶ。＜内容＞　Macintoshコンピュータの基本操作の習得。OSやアプリケーションソフトウエアなど、コンピュータの基本的な構造についての知識の習得。音楽制作ソフトウエアはDigital Performerを使用する。基本操作を習得しながら、ポピュラーミュージックにおけるリズムの構成について知る。モチーフ作成、その発展の手法を学び、基本的な楽曲の形式で作曲する。＜状況説明と分析＞　金曜日１時限、履修者数１名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータミュージック演習室にてMac PCを使用。履修生はピアノ専攻３年生で、これまで作曲は行ったことがないが、「作曲」「コンピュータ」どちらもに興味を持って履修した、とのことであった。日常的にコンピュータを使う機会はほとんどないとのことだったため、基本操作習得に少し多く時間をかけた。とても意欲的に取り組めていて、１時限であったものの、一度の遅刻欠席もなく学習できた。講義中、わからないところはきちんと質問をし、理解に努めていた。講義を進めながら、ポピュラーミュージックの要素（リズムや和音）にも興味があるようだったため、コードネームとそれに対する音の選択について説明し、譜面を書いて作成、それをコンピュータへ入力して音にして、楽曲制作の元とした。期末課題制作では、あらかじめ決められたコード進行に沿って制作を行った。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか」履修生自身のコンピュータに音楽制作をできる環境がなく、持ち帰っての学習は難しかったが、プリント課題や譜面で書いてくるといった予習復習課題はきちんと行えていた。

●　改善の方策

予習・復習において参考音源などの提示を多く行い、楽曲制作に繋げられるような分析・考察を促していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

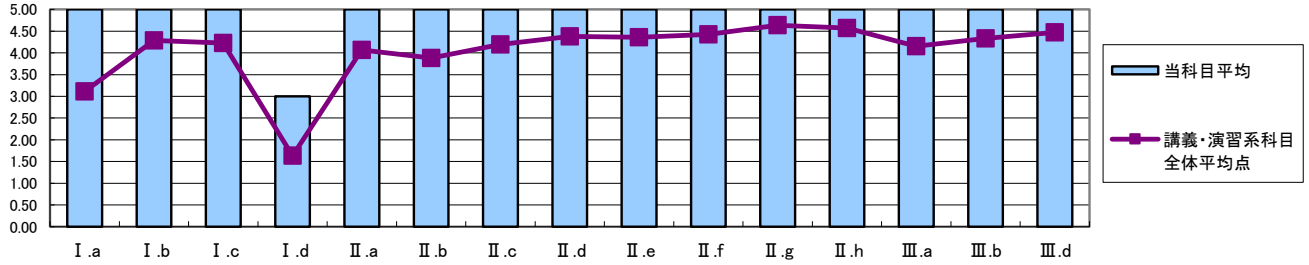
科目名	コンピュータミュージック演習ⅡB
教員名	湯浅　恭子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 100.0
			3: 100.0	2: 0.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

＜科目の目的＞　コンピュータミュージック演習Ⅰを通じて習得した「音楽を観る視点」をさらに広げる。楽器・楽音以外の「音」を取り扱うこと、また「画像」「映像」など他のメディアと音楽の関わりについて考察し、それを自身の楽曲へ取り込む。自身が表現したいテーマを明確にして、それをどのような「音」に変換して表現するのか、どうしたら伝わるのかを探求する。「制作の計画を立てる→実行する→確認する→修正する」を繰り返し、企画の進め方の基本について学ぶ。＜内容＞　演習Ⅰで扱ったMIDIデータに加えてAudioデータを扱う。普段見ている映像において、「音」「音楽」はどのような役割を持っているか、また、音楽制作ソフトウェアでの音声編集と効果について学び、映像・音楽作品から観察する。演習では無音の映像データを用いて、楽音ではない「音」での表現を行う。状況に応じて、自分の持っている録音機器を使って音の採集をし、利用する。最終段階として、必要な場所には楽音、メロディを加え、作品として仕上げる。＜状況説明と分析＞　金曜日３時限、履修者数１名。授業形態は演習形式と講義形式で行った。コンピュータミュージック演習室にてMac PCを使用。前年に演習Ⅰを履修した学生がそのまま持ち上がりで履修した。前年の状況から、自分の中でメロディは鳴っているものの、それを的確にアウトプットできていない様子だったため、開講当初は２音間の音程を歌って確認しながら、さまざまな音程を用いてモチーフやメロディを作成した。歌うとインターバルがはっきりして、少しアウトプットがしやすくなったのではないかと思う。Audioデータを扱うことに対しては意欲を持って取り組めた。最終課題ではメロディの追加は難しかったが、イメージに合う楽曲を探して自分でトランスクライブし、加える形となった。どの作業も進めるのが難しかったと思うが、最後まで諦めずに制作した。この学生はゲーム音楽が好きで電子音を幼い頃から聞いてきているのだが、その音の特性から、本人の中で鳴っている音が通常の方法ではアウトプットしづらくなっている可能性がある。この状況に対応する指導方法を教員側がより多く提示できていたら、もう少しアウトプットが容易になっていたのかもしれない。

●　問題点

「１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか」 履修生が自宅で使用している音楽制作環境と演習室の環境は違うものだったが、持ち帰ってシュミレーションをして計画をすることはできたようだ。

●　改善の方策

予習・復習において参考音源などの提示を多く行い、楽曲制作に繋げられるような分析・考察を促していきたい。

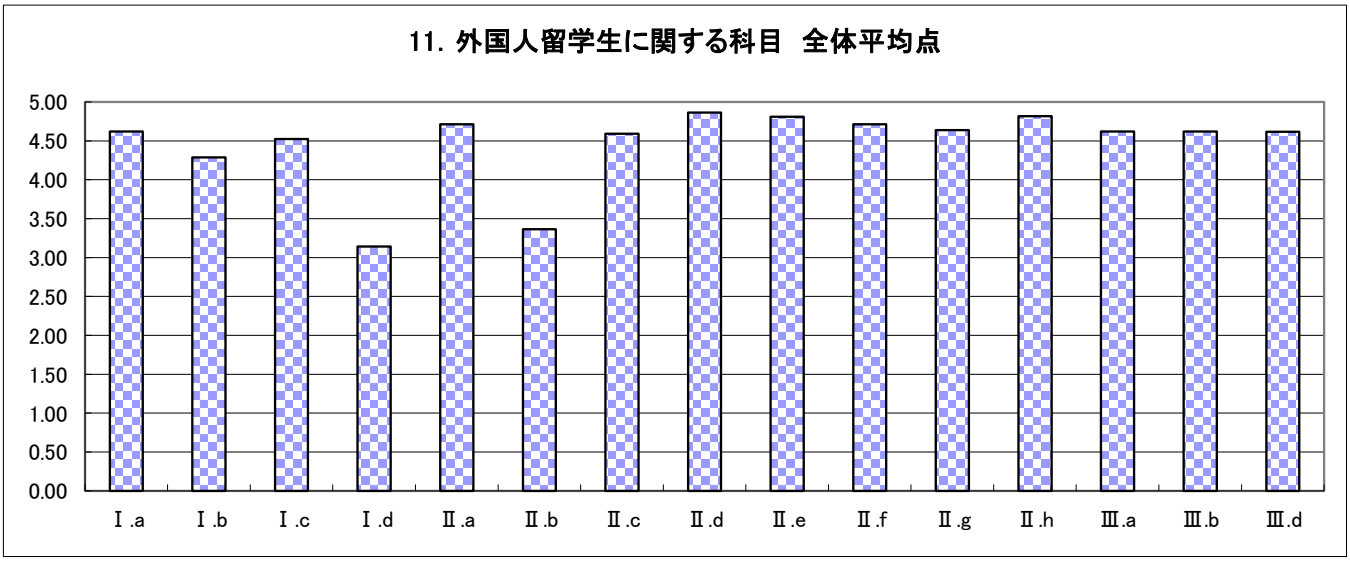
外国人留学生に関する科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	11. 外国人留学生に関する科目
科目数	8

履修者数	27
回答者数	22

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.62	15	4	2	0	0	21	1
				71.4	19.0	9.5	0.0	0.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.29	10	7	4	0	0	21	1
				47.6	33.3	19.0	0.0	0.0		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.52	13	6	2	0	0	21	1
				61.9	28.6	9.5	0.0	0.0		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.14	6	1	8	2	4	21	1
				28.6	4.8	38.1	9.5	19.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.71	16	4	1	0	0	21	1
				76.2	19.0	4.8	0.0	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.36	8	1	12	1	0	22	0
				36.4	4.5	54.5	4.5	0.0		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.59	15	5	2	0	0	22	0
				68.2	22.7	9.1	0.0	0.0		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	19	3	0	0	0	22	0
				86.4	13.6	0.0	0.0	0.0		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.81	17	4	0	0	0	21	1
				81.0	19.0	0.0	0.0	0.0		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	16	4	1	0	0	21	1
				76.2	19.0	4.8	0.0	0.0		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.64	15	6	1	0	0	22	0
				68.2	27.3	4.5	0.0	0.0		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.82	18	4	0	0	0	22	0
				81.8	18.2	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.62	13	8	0	0	0	21	1
				61.9	38.1	0.0	0.0	0.0		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.62	13	8	0	0	0	21	1
				61.9	38.1	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	13	6	3	3	6	17	5
				76.5	35.3	17.6	17.6	35.3		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.62	8	5	0	0	0	13	9
				61.5	38.5	0.0	0.0	0.0		

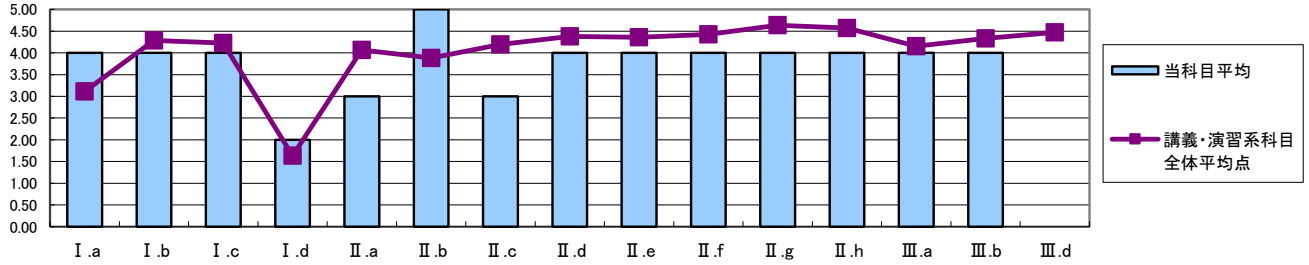


授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本語4	職名	08. 講師	履修者数	2
教員名	一林　久美子			回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 100.0 / 3: 0.0 / 2: 100.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

このクラスは、水曜日の３時限目に川越キャンパスの図書館３階で行なわれた。受講者は、９月入学の中国からの留学生１年生１名（日本語１）、４月入学の１年生２名（日本語２）、２年生１名（日本語４）、４年生１名（日本語４）の中国からの留学生である。日本語能力に多少ばらつきがあるため、既習の語彙や文法で読み取れるN2レベルの読解で復習を兼ね、能力の高い学生に向けてN1レベルの語彙・文法を授業で教えるようにした。＊日本語１：すでにN2レベルの語彙・文法の知識があり学習態度も良い。授業態度について言えば、未習の単語を調べ、授業に積極的に参加し、分からないことを質問していた。学習の成果は充分にあったと思われる。他の学生も見習ってほしい。＊日本語２：１名はN1レベルの語彙・文法の知識があるが、遅刻が多かった。他の１名は、知識があるように見せ、授業に真摯に参加する様子が見られなかった。日本語レベルが不明。＊日本語４：２年生の学生のコミュニケーション能力はあるが、難しい学習項目に対して学習意欲が低い。４年生の学生は、大学のイベント参加などで実質的に欠席が多かった。

●　問題点

アンケートでは、積極的に授業参加している学生にとって問題はないが、授業がやや難しいと感じられた学生もいたようだ。授業に参加する意欲の問題もあると思われる。

●　改善の方策

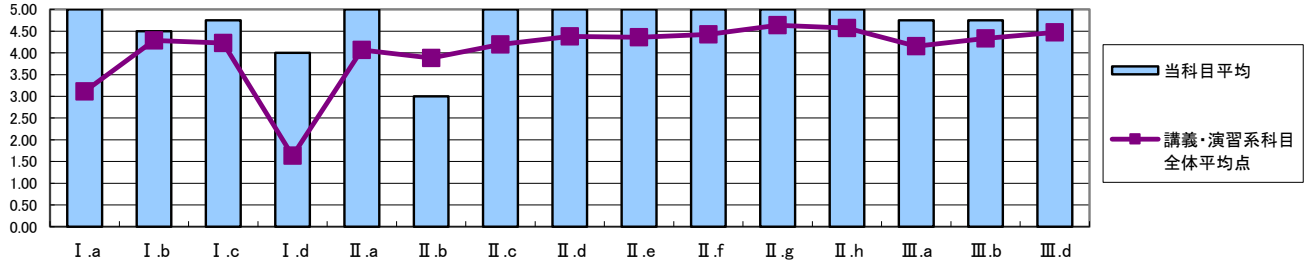
来期は、適正なレベル編成を行ないたい。自分で語彙を探すような活動の時間を取り、学生の積極的な授業参加を促していきたい。国際交流基金が示している日本語レベルの資格を取得できるように目標を定め、読解や聴解も行なって、積極的な学習ができるように授業を行なっていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本語6	職名	08. 講師	履修者数	4
教員名	一林　久美子			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	4.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.75	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.75	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7 / 4: 0.0 / 3: 0.0 / 2: 33.3 / 1: 33.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

　このクラスは、水曜日の２時限目に川越キャンパスの図書館３階で行なわれた。受講者は、台湾と中国からの留学生３年生４名である。内２名は短大からの編入生で日本語能力のレベルは、国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が行う認定試験のN2以上で基本的な文法・語彙は習得済みである。後の２名はN4レベル程度で、文法・語彙の使用範囲は限られている。読み書きよりも、聞いて話すことが得意のように見受けられる。　この二組の学生を一つのクラスで授業することは困難を極めた。編入生の２人は、自習の習慣もあり１年間の学習の成果はあったと思われる。N1レベルの問題を授業で扱ったが、同じクラスで授業をしている２名に時間を取られて説明が不十分だったところもあったと思われる。一方のN4レベルの２名は毎回遅刻してくるため、予定した項目を消化していない。１年次から遅刻欠席が多く、今期の最後の試験の結果を見ても、予習復習についてもそれほどしているとは思えない。

●　問題点

　アンケート結果のⅡb授業の難易度が「難しい」と「適切」の２つに別れているのは、上記の事情が反映していると思われる。N2レベルの学生には興味の持てる授業ができたか確認が取れなかった。N4レベルの学生は、文法や語彙が不十分であるので、大学の授業を完全に理解できているのか危惧される。

●　改善の方策

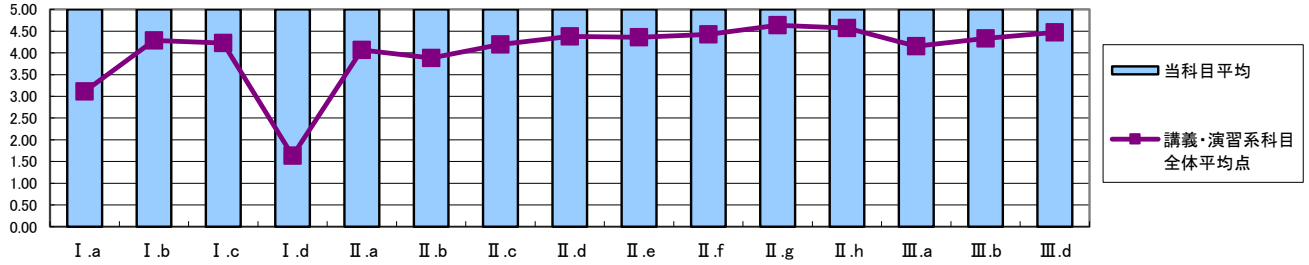
　留学生を大学に受け入れる場合は、N3レベルの語彙・文法を修了し、留学試験に合格した学生を受け入れることを切に望む。加えて、日本語レベルでクラス分けをしてほしい。来年度の授業の内容については、興味の持てる話題を提供するように心がける。自分で語彙を探すような活動も組み入れていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本語1	職名	08. 講師	履修者数	1
教員名	一林　久美子			回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

このクラスは、水曜日の３時限目に川越キャンパスの図書館３階で行なわれた。受講者は、９月入学の中国からの留学生１年生１名（日本語１）、４月入学の１年生２名（日本語２）、２年生１名（日本語４）、４年生１名（日本語４）の中国からの留学生である。日本語能力に多少ばらつきがあるため、既習の語彙や文法で読み取れるN2レベルの読解で復習を兼ね、能力の高い学生に向けてN1レベルの語彙・文法を授業で教えるようにした。＊日本語１：すでにN2レベルの語彙・文法の知識があり学習態度も良い。授業態度について言えば、未習の単語を調べ、授業に積極的に参加し、分からないことを質問していた。学習の成果は充分にあったと思われる。他の学生も見習ってほしい。＊日本語２：１名はN1レベルの語彙・文法の知識があるが、遅刻が多かった。他の１名は、知識があるように見せ、授業に真摯に参加する様子が見られなかった。日本語レベルが不明。＊日本語４：２年生の学生のコミュニケーション能力はあるが、難しい学習項目に対して学習意欲が低い。４年生の学生は、大学のイベント参加などで実質的に欠席が多かった。

●　問題点

アンケートでは、積極的に授業参加している学生にとって問題はないが、授業がやや難しいと感じられた学生もいたようだ。授業に参加する意欲の問題もあると思われる。

●　改善の方策

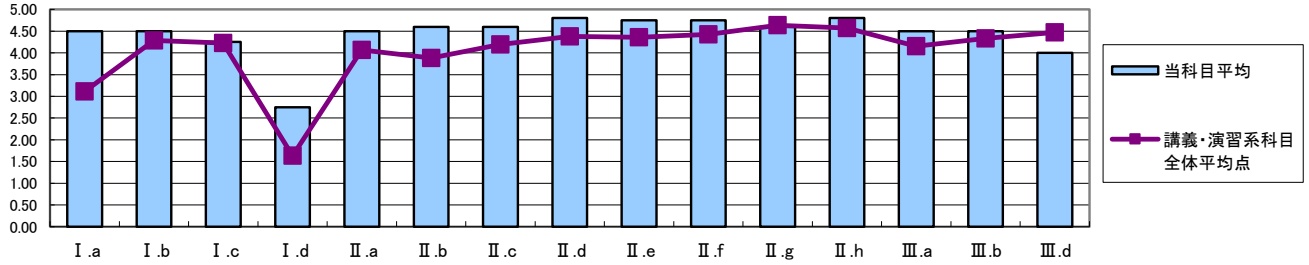
来期は、適正なレベル編成を行ないたい。自分で語彙を探すような活動の時間を取り、学生の積極的な授業参加を促していきたい。国際交流基金が示している日本語レベルの資格を取得できるように目標を定め、読解や聴解も行なって、積極的な学習ができるように授業を行なっていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本語2	職名	08. 講師	履修者数	6
教員名	一林　久美子			回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.25	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.75	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.60	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.80	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 66.7	4: 66.7
			3: 66.7	2: 33.3
			1: 33.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

このクラスは、水曜日の３時限目に川越キャンパスの図書館３階で行なわれた。受講者は、９月入学の中国からの留学生１年生１名（日本語１）、４月入学の１年生２名（日本語２）、２年生１名（日本語４）、４年生１名（日本語４）の中国からの留学生である。日本語能力に多少ばらつきがあるため、既習の語彙や文法で読み取れるN2レベルの読解で復習を兼ね、能力の高い学生に向けてN1レベルの語彙・文法を授業で教えるようにした。＊日本語１：すでにN2レベルの語彙・文法の知識があり学習態度も良い。授業態度について言えば、未習の単語を調べ、授業に積極的に参加し、分からないことを質問していた。学習の成果は充分にあったと思われる。他の学生も見習ってほしい。＊日本語２：１名はN1レベルの語彙・文法の知識があるが、遅刻が多かった。他の１名は、知識があるように見せ、授業に真摯に参加する様子が見られなかった。日本語レベルが不明。＊日本語４：２年生の学生のコミュニケーション能力はあるが、難しい学習項目に対して学習意欲が低い。４年生の学生は、大学のイベント参加などで実質的に欠席が多かった。

●　問題点

アンケートでは、積極的に授業参加している学生にとって問題はないが、授業がやや難しいと感じられた学生もいたようだ。授業に参加する意欲の問題もあると思われる。

●　改善の方策

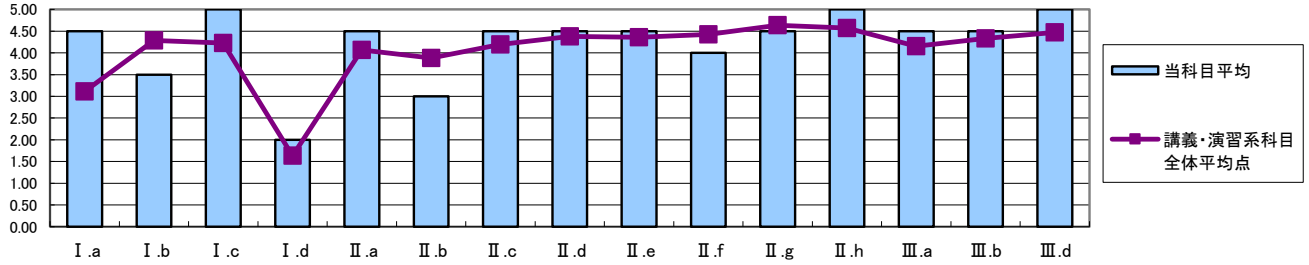
来期は、適正なレベル編成を行ないたい。自分で語彙を探すような活動の時間を取り、学生の積極的な授業参加を促していきたい。国際交流基金が示している日本語レベルの資格を取得できるように目標を定め、読解や聴解も行なって、積極的な学習ができるように授業を行なっていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	日本語3	職名	08. 講師	履修者数	2
教員名	一林　久美子			回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 0.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 50.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

このクラスは、水曜日の４時限目に川越キャンパスの図書館３階で行なわれた。受講者は、今年度４月入学の１年生２名、編入の３年生（日本語２）と、前年度９月入学の２年生１名（日本語３）である。２年生は日本語３であるが、一時帰国していたこともあり他の３名と同程度で、クラス全体の日本語能力レベルはまとまっていた。クラスメンバーは仲が良く、分からないところを教え合うなどして、協働学習が進められた。　日本語のレベルとしてはN4だが、N5の語彙・文法も定着していない部分があり、日本での生活に支障のないように授業は既習と思われる語彙・文法を中心に復習し定着することを中心に行なった。クラス全体として欠席が多く、既習のレベルを合わせようとしたために予定より進まなかった。

●　問題点

レベルの低い方の学生にとっては、授業がやや難しいと感じられたようだ。また、欠席者がいると新しい項目を学習できないので休まないようにしてほしい。

●　改善の方策

留学生を大学に受け入れる場合は、N3レベルの語彙・文法を修了し、留学試験に合格した学生を受け入れることを切に望む。来年度は、国際交流基金が示している日本語レベルの資格を取得できるように目標を定めたい。授業の内容については、興味の持てる話題を提供するように心がける。自分で語彙を探すような活動も組み入れていこうと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

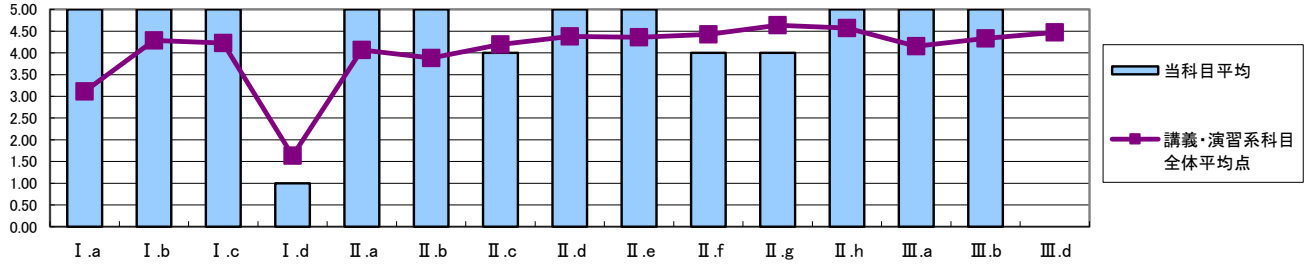
科目名	日本事情ⅣB
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	5.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 100.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	－	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

【科目の目的と内容】日本語能力中上級レベルの学生を対象として、日本語の運用能力を高め、日本社会への理解を深めることを目的とする科目で、日本語の背景としての日本の文化、現代の日本社会と日本人の実態を幅広く紹介し、自国と比較しながら日本についての理解を得るものである。【授業形態と授業者数】７名履修テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式でさらに深く考えさせ、教材によっては作文やレポートを課す【授業の実態とアンケート結果から】音楽大学での日本語教育ということもあって音楽系の授業に支障がないように、実際はその時々で２，３時間目合わせて自由に授業に参加できるように工夫しています。他の授業との関係やコンクール前の練習等で時間割通りに出席できないこともあります。日本語能力に格差があり、性差、年齢差、興味関心が異なること等で、出席者によって、シラバス通りにいかないこともあります。従って、前もっていくつか教材を準備しておいて、出席者に合わせて本人の興味関心に添った教材で授業をするようにしています。日本語で表現する機会をできるだけ増やすように心がけて授業しています。アンケート結果から、シラバス通りでなくても、臨機応変にその場でこのように個別に対応しているので、学生の満足度は概して高いように思いました。しかし、一人一人の個性が強いので、時々教材によってはそれぞれの興味関心と教材が合わない時もあります。少ない人数でも３年間連続して履修している学生と２年連続、はじめて履修する学生がいるので、同じ教材を使用しないように留意しています。そのため教材の種類が多くなっています。また、楽器の練習や音楽系の授業の課題に日々追われているようなので、日本語関係の課題はできるだけ出さないようにしています。欠席者には宿題にしていますが、なるべく授業の中で作文を書かせるようにしています。作文を書き終えた者からその場で添削して書き直させることができるのが少人数授業のメリットです。中には、安易にネットからコピーしている学生もいますが、そういう場合は全て書き直させています。しかし、ほとんどの学生は日本語能力の格差にかかわらず基礎学力があり、思考力もあるので、辞書を引きながら熱心に書いています。

●　問題点

２限目の授業ということで、１限目の授業を受けている学生は、始業時間前にきて準備していますが、そうでない本授業のみの学生は気持ちが緩むのか朝起きれなくて遅刻気味で全員揃って授業を始めることができない日もあるので、より厳しい生活面の指導も必要かと思います。しかし、昨年度より厳しくしたためか、遅刻者や欠席者は少なくなったのですが、今年度はじめて出席不良で失格の学生を出してしまったことが残念です。

●　改善の方策

書けた者からその場で読んで、添削して書き直させることができるという少人数の利点を生かして、表現面で特に作文を重点的に指導したいと思っています。作文は回数を重ねることによって上達するので、授業中の作文の回数を今年度より多くして、作文から授業をはじめて１時間で打ち切り、遅刻して時間内に書けなかった学生には続きを宿題にして書かせるようにすると遅刻対策にもなるのではないかと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

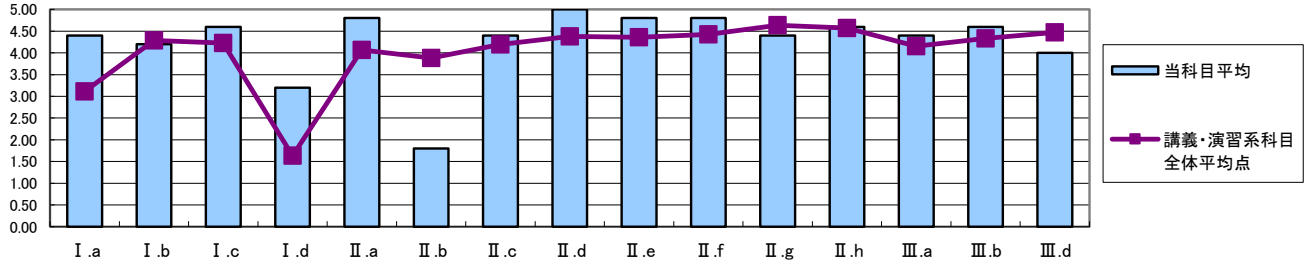
科目名	日本事情ＩＢ
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.40	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.20	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.80	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.80	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.80	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.40	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 75.0 / 4: 50.0 / 3: 0.0 / 2: 0.0 / 1: 50.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

【科目の目的と内容】日本語能力初中級レベルの学生を対象として、日本語の知識、運用能力を養いながら日本社会への理解を深めることを目的とする科目で、日本語の背景としての日本の社会や文化を紹介し、日本についての理解を得るものである。【授業形態と授業者数】７名履修テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、教材を読んで皆で考える。教材によっては作文やレポートを課す【授業の実態とアンケート結果から】日本事情２限目と同様に音楽大学での日本語教育ということもあって音楽系の授業に支障がないように、実際はその時々で２，３時間目どちらでも自由に授業に参加できるように工夫しています。他授業との関係やコンクール前の練習等で時間割通りに出席できないこともあります。２限目に比して３限目は出席者が多いのですが、多くなると日本語能力の格差がさらに広がり、ほとんど日本語が理解できない学生から母語話者並みにできる者までいます。また、２年３年連続して履修する学生とはじめて履修する学生との混在、性差、年齢差、それぞれの興味関心が異なること等で、出席者によって、シラバス通りにいかないこともあります。従って、前もっていくつかの教材を準備しておいて、出席者に合わせて本人の興味関心に添った教材をその場で選んで授業をするようにしています。全体的には日本語で表現する機会をできるだけ増やすように心がけて授業しています。できる者は、授業の中では通訳の役割になることが多いので、退屈しないように内容面で興味のありそうな教材を選んでいます。アンケート結果から、難しいと感じている学生が多いということがわかりましたが、日本語能力の無理な調整結果が表れているのではないかと思いました。また、予習復習をする者が少ないという件に関しては、楽器の練習や音楽系の授業の課題に日々追われているようなので、日本語関係の課題は敢えて出さないようにしていました。欠席者には宿題にしていますが、なるべく授業の中で作文を書かせるようにしています。また、中国や日本での生活面の話に関しては聴き役に徹して、日本語で表現する機会をできるだけ多く与えるように心がけて授業しています。このように個別に対応しているので満足度は高いように思いました。

●　問題点

日本語能力に格差のある学生集団の指導方法が課題です。できる学生に頼って通訳してもらって参加しているのが現状です。教材の難易度は中級前半程度ですが、できない学生も漢字圏なので見れば内容はわかるようですが、思ったことを日本語で表現できないことと、質問の意味がわからないようで、できる学生に頼って通訳してもらって参加しているのが現状です。教材の難易度を落とさないで、格差是正を図るのが課題です。

●　改善の方策

時間割の使い方はこれまでどおりでよいと思っていますが、日本語能力に格差があるので、来年度はこれを埋めるために日本語能力の低い学生には予習として特別課題を出すことを考えています。長期の休みになって帰国すると、日本語能力は元に戻りますので、その際の対策として特別に宿題を出すことを考えています。できない学生用の課題と宿題に関しては、年度はじめに履修の条件として提示したいと考えています。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

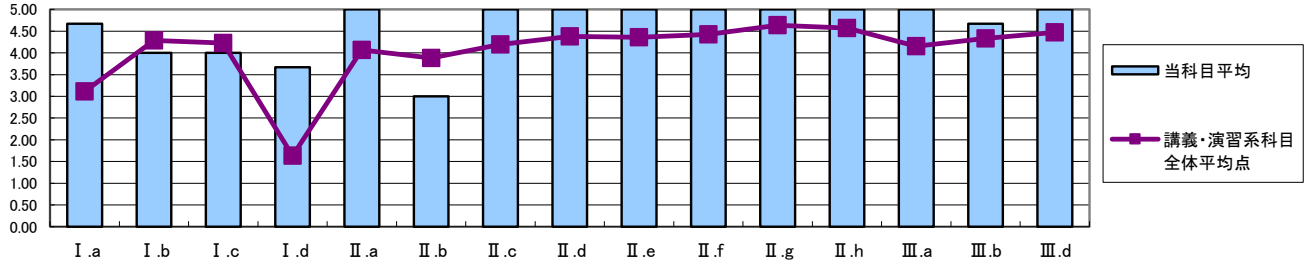
科目名	日本事情ⅢB
教員名	高岸　美代子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.67	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.0 / 4: 0.0 / 3: 50.0 / 2: 0.0 / 1: 50.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

【科目の目的と内容】日本語能力初中級レベルの学生を対象として、日本語の知識、運用能力を養いながら日本社会への理解を深めることを目的とする科目で、日本語の背景としての日本の社会や文化を紹介し、日本についての理解を得るものである。【授業形態と授業者数】７名履修テキストや資料を読み合わせながら、語彙、文法指導をした後、教材を読んで皆で考える。教材によっては作文やレポートを課す【授業の実態とアンケート結果から】日本事情２限目と同様に音楽大学での日本語教育ということもあって音楽系の授業に支障がないように、実際はその時々で２，３時間目どちらでも自由に授業に参加できるように工夫しています。他授業との関係やコンクール前の練習等で時間割通りに出席できないこともあります。２限目に比して３限目は出席者が多いのですが、多くなると日本語能力の格差がさらに広がり、ほとんど日本語が理解できない学生から母語話者並みにできる者までいます。また、２年３年連続して履修する学生とはじめて履修する学生との混在、性差、年齢差、それぞれの興味関心が異なること等で、出席者によって、シラバス通りにいかないこともあります。従って、前もっていくつかの教材を準備しておいて、出席者に合わせて本人の興味関心に添った教材をその場で選んで授業をするようにしています。全体的には日本語で表現する機会をできるだけ増やすように心がけて授業しています。できる者は、授業の中では通訳の役割になることが多いので、退屈しないように内容面で興味のありそうな教材を選んでいます。アンケート結果から、難しいと感じている学生が多いということがわかりましたが、日本語能力の無理な調整結果が表れているのではないかと思いました。また、予習復習をする者が少ないという件に関しては、楽器の練習や音楽系の授業の課題に日々追われているようなので、日本語関係の課題は敢えて出さないようにしていました。欠席者には宿題にしていますが、なるべく授業の中で作文を書かせるようにしています。また、中国や日本での生活面の話に関しては聴き役に徹して、日本語で表現する機会をできるだけ多く与えるように心がけて授業しています。このように個別に対応しているので満足度は高いように思いました。

●　問題点

日本語能力に格差のある学生集団の指導方法が課題です。できる学生に頼って通訳してもらって参加しているのが現状です。教材の難易度は中級前半程度ですが、できない学生も漢字圏なので見れば内容はわかるようですが、思ったことを日本語で表現できないことと、質問の意味がわからないようで、できる学生に頼って通訳してもらって参加しているのが現状です。教材の難易度を落とさないで、格差是正を図るのが課題です。

●　改善の方策

時間割の使い方はこれまでどおりでよいと思っていますが、日本語能力に格差があるので、来年度はこれを埋めるために日本語能力の低い学生には予習として特別課題を出すことを考えています。長期の休みになって帰国すると、日本語能力は元に戻りますので、その際の対策として特別に宿題を出すことを考えています。できない学生用の課題と宿題に関しては、年度はじめに履修の条件として提示したいと考えています。

東 邦 音 楽 短 期 大 学

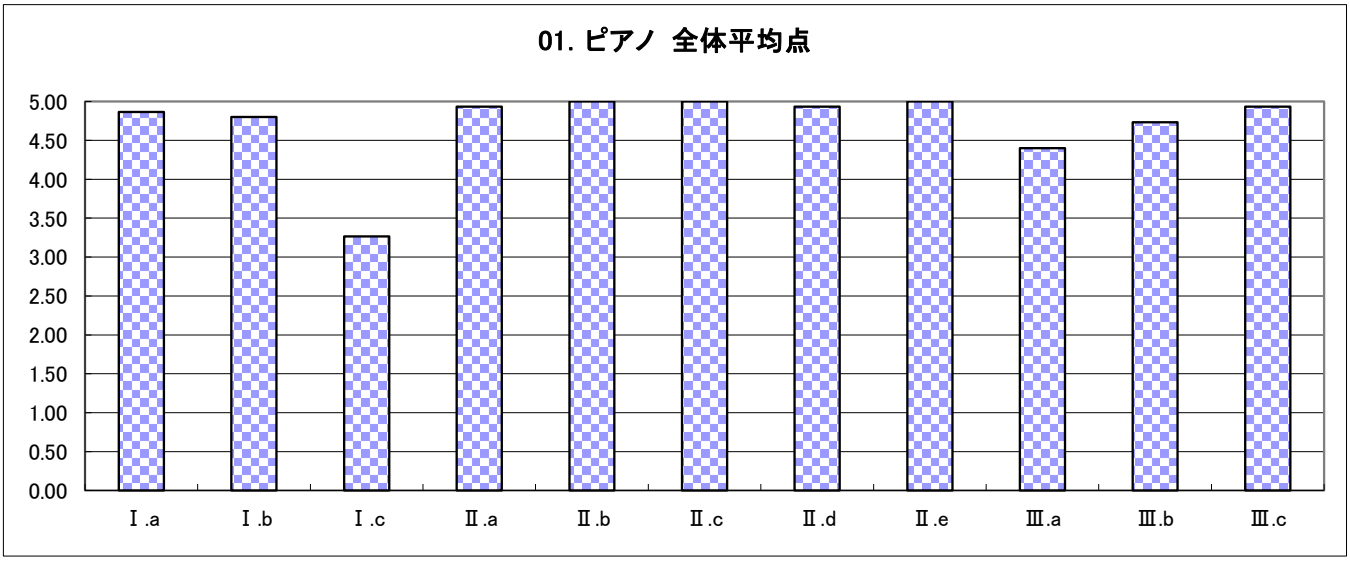
ピ ア ノ

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	01. ピアノ
科目数	8

履修者数	20
回答者数	15

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.87	13	2	0	0	0	15	0
				86.7	13.3	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	12	3	0	0	0	15	0
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.27	5	2	2	4	2	15	0
				33.3	13.3	13.3	26.7	13.3		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.93	14	1	0	0	0	15	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	15	0	0	0	0	15	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	15	0	0	0	0	15	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.93	14	1	0	0	0	15	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	15	0	0	0	0	15	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	8	5	2	0	0	15	0
				53.3	33.3	13.3	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.73	11	4	0	0	0	15	0
				73.3	26.7	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	14	1	0	0	0	15	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

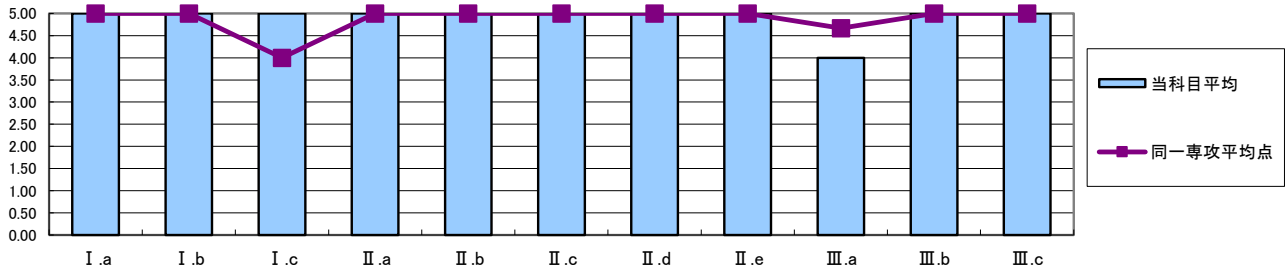
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.67
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

1年生1名、2年生2名の計3名のうち、体調不良による欠席者1名、芸能活動による欠席者1名の計2名を除く1名より回答を得ました。この学生は無遅刻無欠席でレッスンに対する姿勢も申し分のなくも模範的とも言える学生でした。自由記述欄には、「毎回のレッスンがとても楽しい」と書かれていました。

●　問題点

回答を寄せた学生については、何も問題はありません。

●　改善の方策

着実に努力をし力をつけた学生に対しては、レパートリーを拡大するためのチャレンジを積極的に勧めていきたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

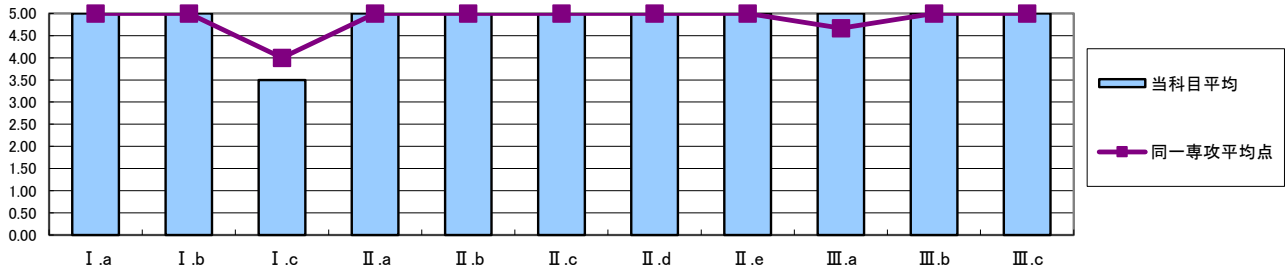
科目名	器楽専攻ピアノコース
教員名	中島　剛

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	5.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	5.00
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.50	4.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.67
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度短大ピアノ科2名を担当しました。1名は2年から僕のところに来ました。2人とも毎回 のレッスンを真剣に取り組んでくれてとても熱心に臨んでいました。印象に残ってる事は朝から夜 まで本当によく練習室で練習していた事です。

●　問題点

1人は基礎的な部分を中心に(打鍵の抜き方)、耳から聴いて弾く事が多かったので、なるべく譜 面から読み取る力も み身につけさせました。 もう1人は熱心にレッスンに臨んでいました。ペダルや歌い回しもお互いに話しながら作っていき ました。

●　改善の方策

おさらい会、試験へのモチベーションがとても高く感じました。目標を持つことによって毎回の レッスンの中身も充実したものになると感じました。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

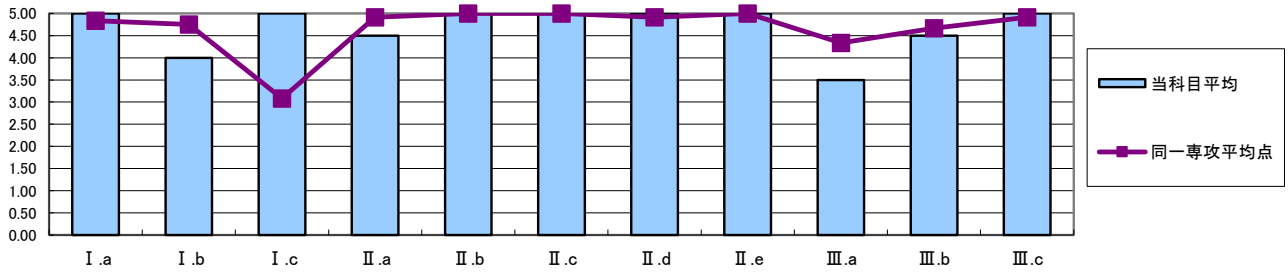
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	太田　幸子

職名	03. 特任教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.08
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.92
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２０１９年度、副科生３名中２名より回答を得る。この２名は、設問ＩCから理解できるように、真面目に、意欲的に取り組んでいる。練習時間５時間以上を確保していることを知り、大変うれしく思います。その反面、十分な練習時間を確保していながら、試験に於いて実力が発揮出来ず大変残念です。メンタル面の弱さを感じますが、コミュニケーションの中で、自信と、よりやる気が喚気出来るように、いろいろな場面、又音楽常識を取り入れながら、アドバイスを続けております。

●　問題点

設問Ⅲaが低いのは、３名共新入生で、レベル等がわからず様子を見ながら進め、目標をたてていなかったためと思う。今年度は計画をたて指導にあたりたいと思います。

●　改善の方策

練習した実力が、自信を持って十分発揮出来るように、温かく見守り、励ましながら、指導を続けて行きたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

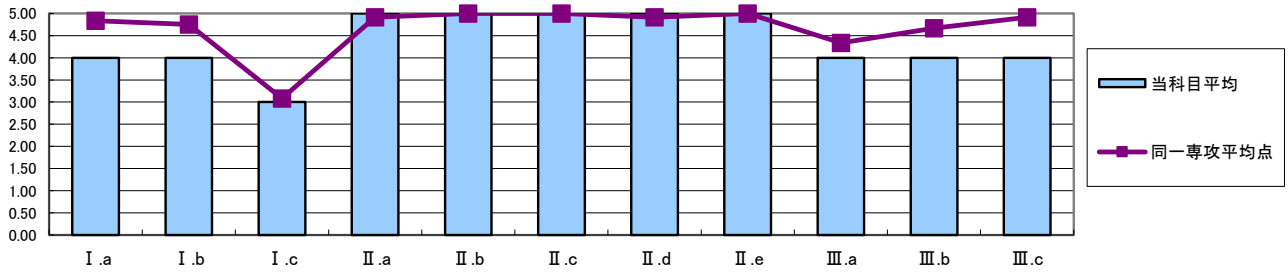
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.08
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

　レッスンの現状としては概ね順調な展開であり、履修者は自分の課題に対して真摯に取り組んでいる。社会人学生ならではの熱意と努力により、着実な進歩を遂げている。

●　問題点

　ご家族などの状況により登校できない日があるなど、通学面でやや大変な場合もあったが、学習進度へのマイナスの影響は無かった。

●　改善の方策

　喜びをもって学び続けることが、より意義深い学生生活の実現に繋がっていくと思われる。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

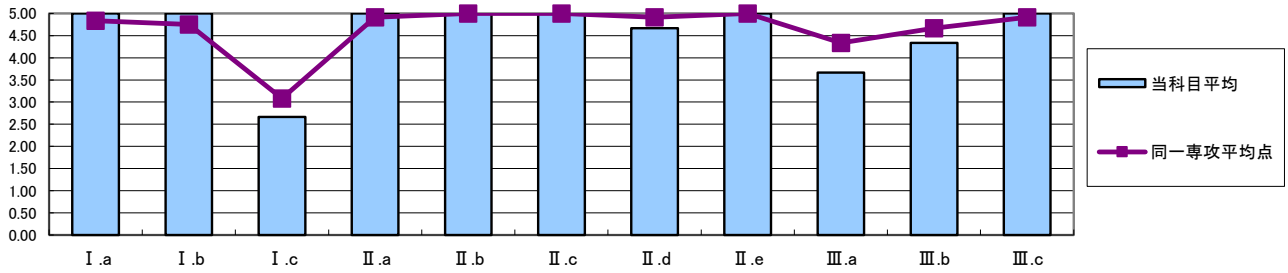
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.67	3.08
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.67	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.33	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養１年1名、副科１年2名、２年1名　 アドバンス1名大学は、専門が１年2名、３年2名、４年2名。副科は１年8名、２年1名　 3年2名　 4年3名短大の1年音楽教養の学生は、音楽全般に渡ってこれから一つ一つ学んでいく状態であり、本人に合わせてゆっくりなペースで行った。専門の出席は概ね良かったが、学科においては殆ど落としている。同級生達との間は良好であるが、今後が心配な学生である。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く大変熱心である。副科の３名の出席も良好で、能力の差はあるが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生6名は、出席も良好で皆一生懸命に取り組んだ。１年の学生にコミュニケーションが苦手で授業についてけず途中在学が危ぶまれた。が、本来真面目な学生であり学校のサポートもあって再起し乗り切った。もう１人の１年は転専攻した学生であるが対応に苦慮した。ウィーン研修や学内演奏に携わった3年の2人は、その都度よく健闘しそれによって力がついてきた。４年の２名は最終学年の年であり今まで以上に頑張った。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

今年は入学してきた１年生達はそれぞれに真面目で出席もよいのだが、意外なところで様々な問題を抱えていた。また転専攻を希望していた留学生は国民性ゆえか、言動が一致せず大いに混乱した。多種多様な学生がいる中で、どのように対応していくかを考えさせられた。

●　改善の方策

多様な学生とのコミュニケーションをきめ細かくとりながら、彼らが苦手なことや問題点を聞き出し理解できるように根気よく指導を行うことに努めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

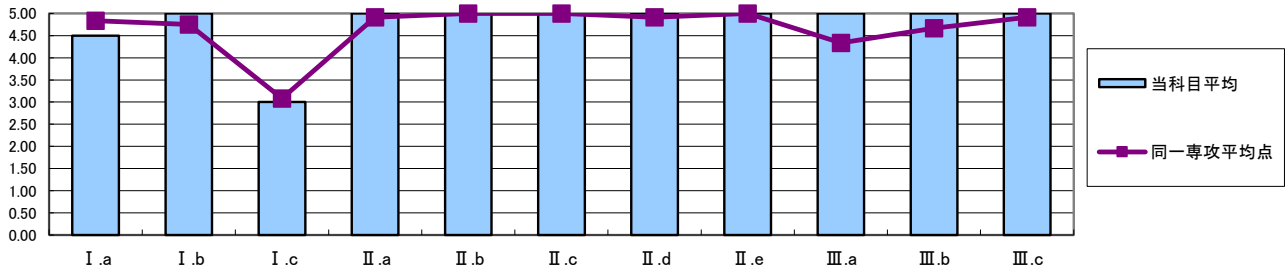
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.08
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2名ともきちんと時間を守り、積極的にレッスンに向かっていた。[分析]Ⅰ.a「このレッスンの出席は良好であった。」特に問題なし。Ⅰ.b「熱意を持って積極的に取り組んだ。」2名とも積極的に取り組んでいた。Ⅰ.c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。」想像以上にやや少ない。Ⅱ.a「このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。」特に問題なし。Ⅱ.b「このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。」特に問題なし。Ⅱ.c「教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。」特に問題なし。Ⅱ.e「このレッスン回数や時間は守られていた。」問題特になし。Ⅲ.a「開講時に示された到達目標を充分に達成できた。」特に問題なし。Ⅲ.b「このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。」特に問題なし。Ⅲ.c「このレッスンは総合的に判断して、意義のある物でしたか。」特に問題なし。

●　問題点

全体的に学生とのズレは余りないと思う。

●　改善の方策

練習時間の確保は副科だとなかなか難しいのかもしれないが、一歩踏み込んでアドバイスしていきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

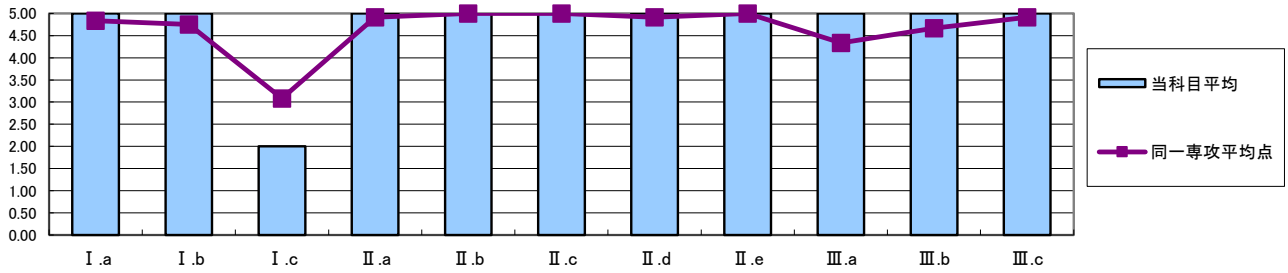
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.08
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は新一年生１名と、休学から復学した二年生１名の計２名から回答を得た。二年生は前期に欠席が目立ち、事務局と相談・提携しての卒業に向けた働きかけの甲斐があり、後期は出席も問題なかった。学生自身の意欲はあるが、限られた時間での取り組みだったので、楽曲の質よりも演奏レベルを維持する為のレッスンだったように思う。一年生は基礎技術もあり、非常に熱心かつ意欲的な学生で副科実技に対する関心も高く、課題を良く理解し謙虚に学んでいた。レッスンでも様々な年代・様式の曲を幅広く紹介でき、年間計画が立てやすかった。アンケートでは練習時間以外は全体的に５の回答が占めており、学生自身の手応えや充足感が伺えた。規則を大切にしながらも、各々の個性や性質の幅を狭めないよう留意し、柔軟な対応を心掛けた年であった。

●　問題点

Ｉａの平均練習時間の低さ。１の回答については学生自身が申告していたので、レッスンでのアドバイスにも効果が薄かったのが分かる。

●　改善の方策

学生自身の環境や状況を鑑みながら、自主性を尊重し、できる範囲で練習の取り組みへのアドバイスを続けること。講師自身にとっても、今後の為に多様性を持つ学生へのアドバイスや指導の方策について、多方面のアプローチや工夫するよう模索する価値がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

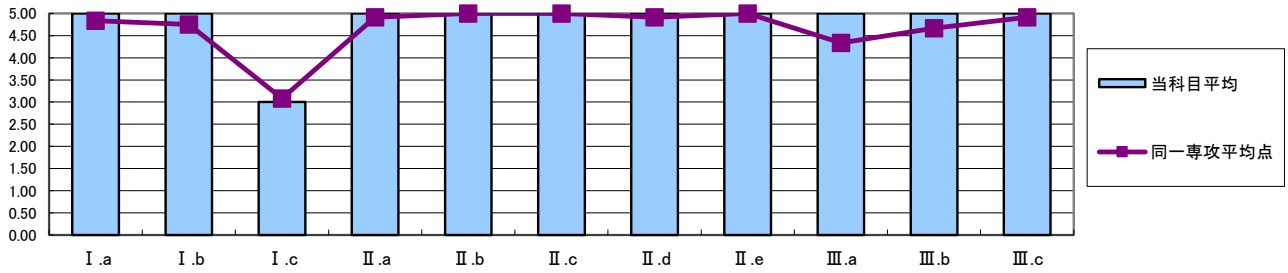
科目名	副科実技(ピアノ)
教員名	中島　剛

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.83
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.08
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.92
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.67
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度4名の副科ピアノを担当しました。好きな曲を選曲するのですが本当にみんなとても熱 心で副科生なのに朝一から練習室を借りて譜読みも譜面が真っ黒になるくらい書き込みをして来 て僕がびっくりしました。

●　問題点

特に見受けられなかったです。

●　改善の方策

特に見受けられなかったです。

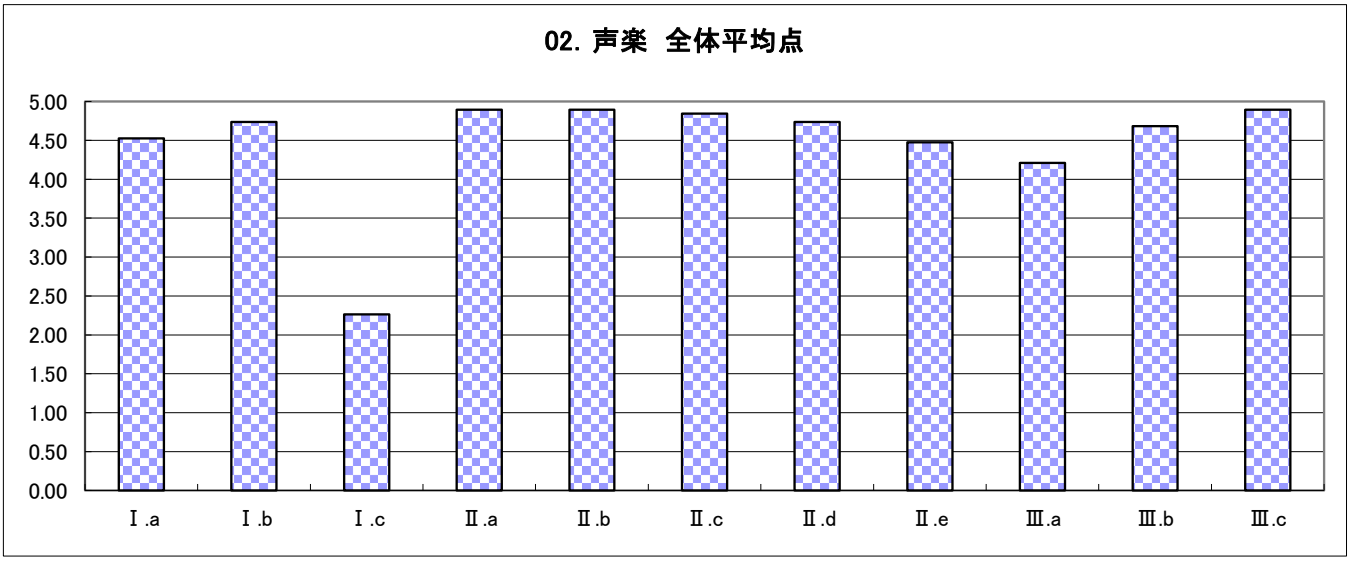
声　楽

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	02. 声楽
科目数	8

履修者数	21
回答者数	19

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.53	13	4	1	1	0	19	0
				68.4	21.1	5.3	5.3	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.74	14	5	0	0	0	19	0
				73.7	26.3	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.26	3	1	1	7	7	19	0
				15.8	5.3	5.3	36.8	36.8		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.89	18	0	1	0	0	19	0
				94.7	0.0	5.3	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.89	18	0	1	0	0	19	0
				94.7	0.0	5.3	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.84	17	1	1	0	0	19	0
				89.5	5.3	5.3	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.74	16	1	2	0	0	19	0
				84.2	5.3	10.5	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.47	12	6	0	0	1	19	0
				63.2	31.6	0.0	0.0	5.3		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.21	8	7	4	0	0	19	0
				42.1	36.8	21.1	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.68	14	4	1	0	0	19	0
				73.7	21.1	5.3	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.89	18	0	1	0	0	19	0
				94.7	0.0	5.3	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

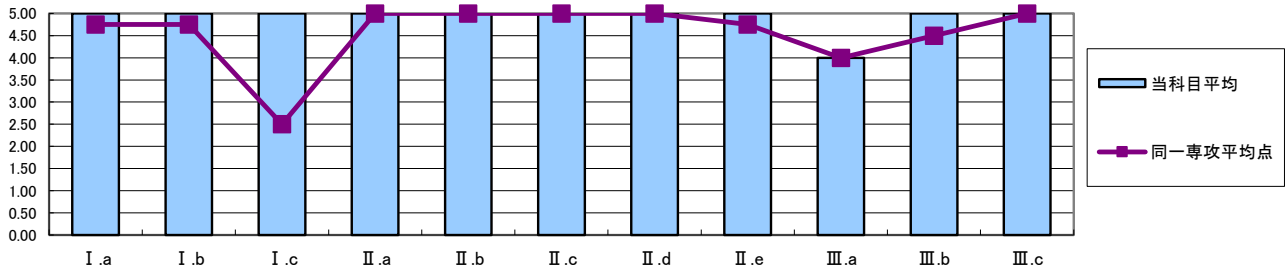
科目名	声楽
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	2.50
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.50
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

短大において専攻声楽の学生1人を担当している。アンケートはその1名からのものである。声楽実技は個人レッスンの形式で行われ、必要に応じて、伴奏者が同伴されるという形式で進められる。専攻声楽におけるレッスン目的は、１．声楽技術の習得…呼吸法、レガート唱法の習得、滑らかな声区転換などの技術の追求、読譜能力を高めるなど。２．更にそれらを向上させること。３．言葉への十分な取り組みを行うこと。…語学としての基礎知識を習得することは勿論、正確で美しい発音、内容を正しく把握する、想像力を持って表現するなどである。４．曲の背景を理解すること…作曲家について、その時代背景、音楽背景、ほかの作品との比較、またテキストとなっている詩への深い理解、詩人のことなどである。また、オペラ、歌曲、宗教曲などのそれぞれの分野の基礎となるレパートリーの学習を2年間に学んでいくことを柱としている。実技は個人個人の特性があり、その特性をいかに伸ばし、充実させていくかが要となる。前期、後期それぞれに実技試験があり、試験はそれぞれ課題が設けられている。レッスン時間は、学生との打ち合わせを年度初めに行い、それぞれ他の授業に差しさわりのない時間を確保する。1年生1名、を担当している。アンケートは、本人の受講についての設問３項目、教員の授業の進め方についての設問５項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、「開港時示された到達目標を十分に達成できた」が消極的肯定　４であり、そのほかの項目については5点であった。

●　問題点

このアンケートから、教員と学生の信頼関係が結ばれていることが確認できたことは喜ばしい。回答者１名のアンケートであることを考慮に入れつつ問題点を抽出してみると、到達度に対してまだ足りていないと少しながら感じている点であろうか。

●　改善の方策

自由記述では、「やるべきこと、練習を具体的に教えてくださったことが良かったです。」とある。実技の到達度は目標を納得いく形で実感することは難しい。達成度を感じながらもまだもっとできるはず、もっと頑張らなければという向上心の表れと思われる。これからもしっかりサポートしつつ指導をしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

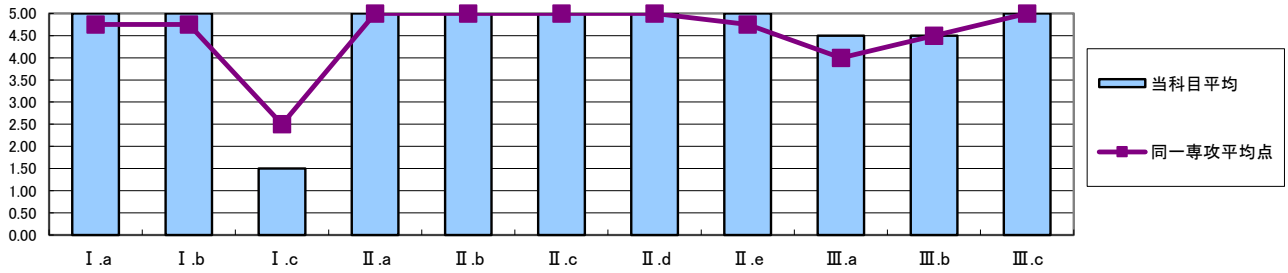
科目名	声楽
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.75
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.50	2.50
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.50
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

短大の声楽は２名担当した。・１名は２年生　・１名は２年生だが社会人で両名ともソプラノ

●　問題点

Ⅰ-eが平均点よりかなりひくいので、気にはなるが、私の周りの学生は、皆Ⅰ-Cは時間数でそのまま回答していたのか概ね全体に低い。しかし例年の学生を比べても特に勉強不足の様子は見られないので今後は様子を注視する。

●　改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

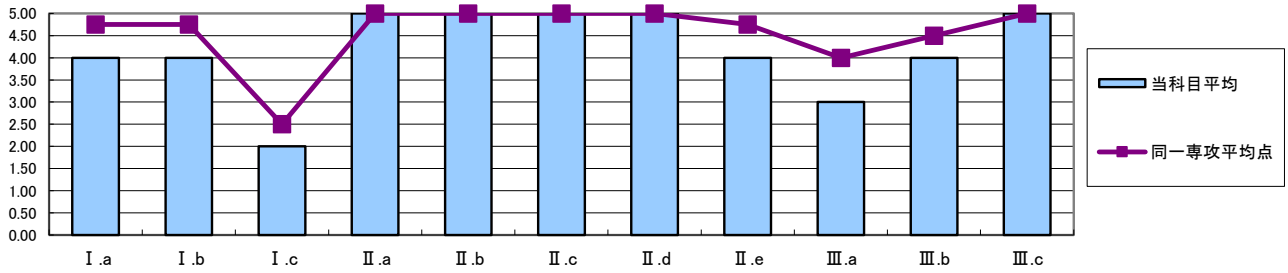
科目名	声楽
教員名	武藤　直美

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.75
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.75
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.50
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.75
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.00
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.50
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

主専攻声楽１名の受講生に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。受講生は初年度ということもあり、声楽に必要な身体の使い方を理解することに時間が必要であつた。しかし、呼吸法や発声法を学ぶにつれ、身体の使い方が少しずつ分かってきたようで、それからは、質問も積極的になり、曲の意味を音楽として表現しようとする意欲が出てきたと思料いたします。

●　問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。設問Ⅰ-Ｃの回答が２という結果より、受講生自身がより意欲的に練習できるための方策が必要であると思料いたします。

●　改善の方策

次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、受講生のレベルにあわせ、より意欲的に練習に励めるよう計画し、指導を心がける所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

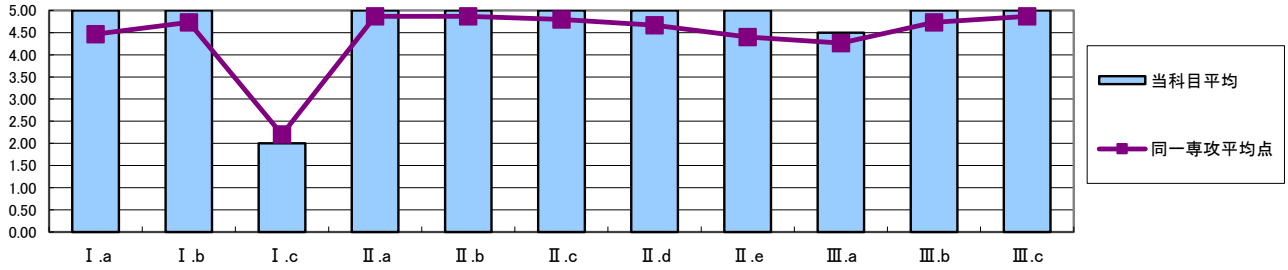
科目名	副科実技(声楽)
教員名	武藤　直美

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.47
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.20
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.87
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.67
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.40
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

副科声楽受講生はコンポージングアーティスト専攻１名、バイオリン専攻1名で一人20分の個人レッスンを行いました。声楽は身体が楽器であるという認識のもとに、個々が専攻で必要とする教材を用いてレッスンを行いました。どの受講生もレッスンを受けるごとに成果が上がってきたものと思料します。

●　問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。

●　改善の方策

２人の受講生は２年目に入り、初年度よりも積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでくれておりました。今後も受講生個々のレベルや目標に沿ったレッスンを行っていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

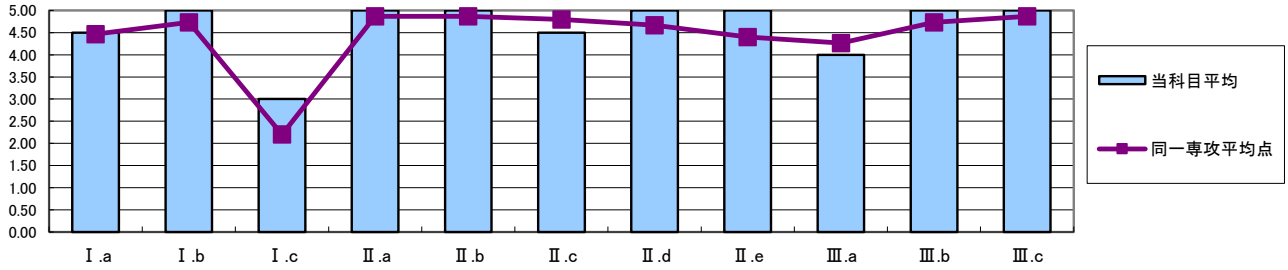
科目名	副科実技(声楽)
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.50	4.47
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	2.20
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.87
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.67
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.40
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度は短大副科生2名。1年生1名、2年生1名文京校舎で水曜日のレッスンとなりました。　1-cについてレッスンに向けて1名は5時間以上、1名は1時間未満の取り組みで有ったと記されていました

●　問題点

練習時間、1時間未満と言う学生については推測ですが、2年生。前期に就職が決まった事も有り、勉学を重ねて向上しようと言う感じは有りませんでしたが、レッスンを休む事は無くいつも元気に来ておりました。

●　改善の方策

いつも明るく元気に挨拶をして教室に入り、受講態度が悪い訳でもなく歌う事が好きと言う学生で、レッスンを楽しみに来ており、自分の仕事の道もすでに決めてありましたので、彼女の気持ちを受け止めながらこれからも何かの折に音楽に寄り添える様になって欲しいとレッスンを進めました。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

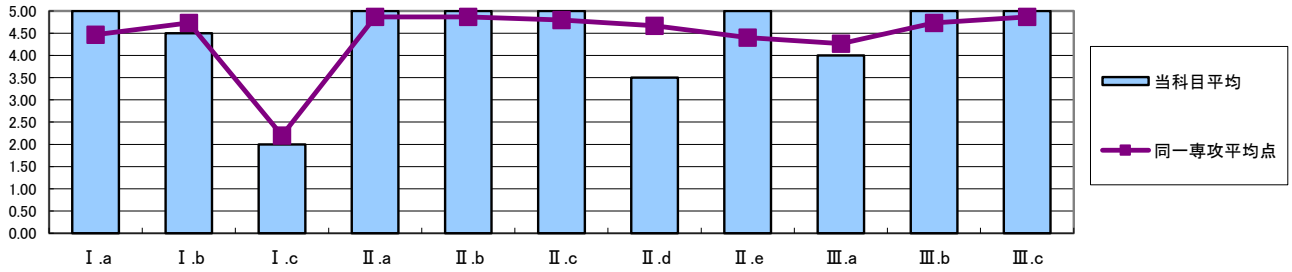
科目名	副科実技(声楽)
教員名	佐藤　泰弘

職名	02. 教授

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.47
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.20
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.87
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	3.50	4.67
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.40
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



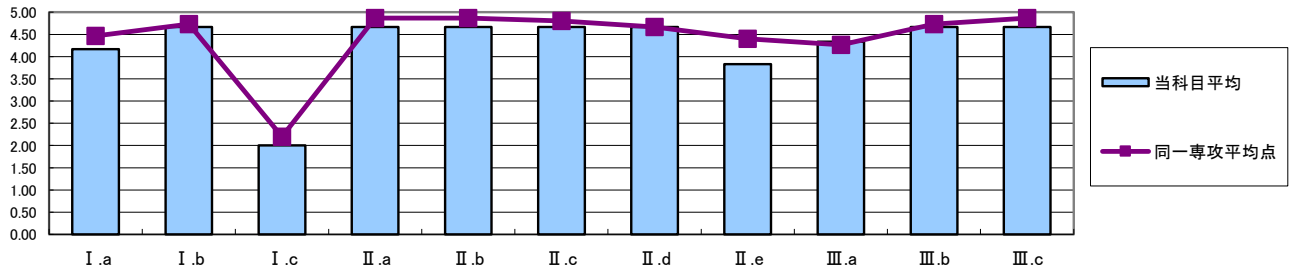
科目名	副科実技(声楽)
教員名	勝部　太

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.17	4.47
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	2.20
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.67	4.87
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.87
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.67	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.67	4.67
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	3.83	4.40
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.67	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

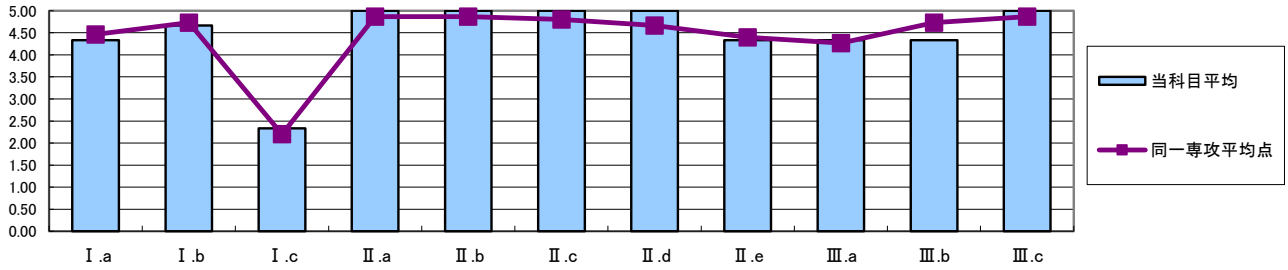
科目名	副科実技(声楽)
教員名	岩見　真佐子

職名	06. 専任講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.33	4.47
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.73
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.33	2.20
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.87
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.87
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.80
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.67
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.33	4.40
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.33	4.73
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.87

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



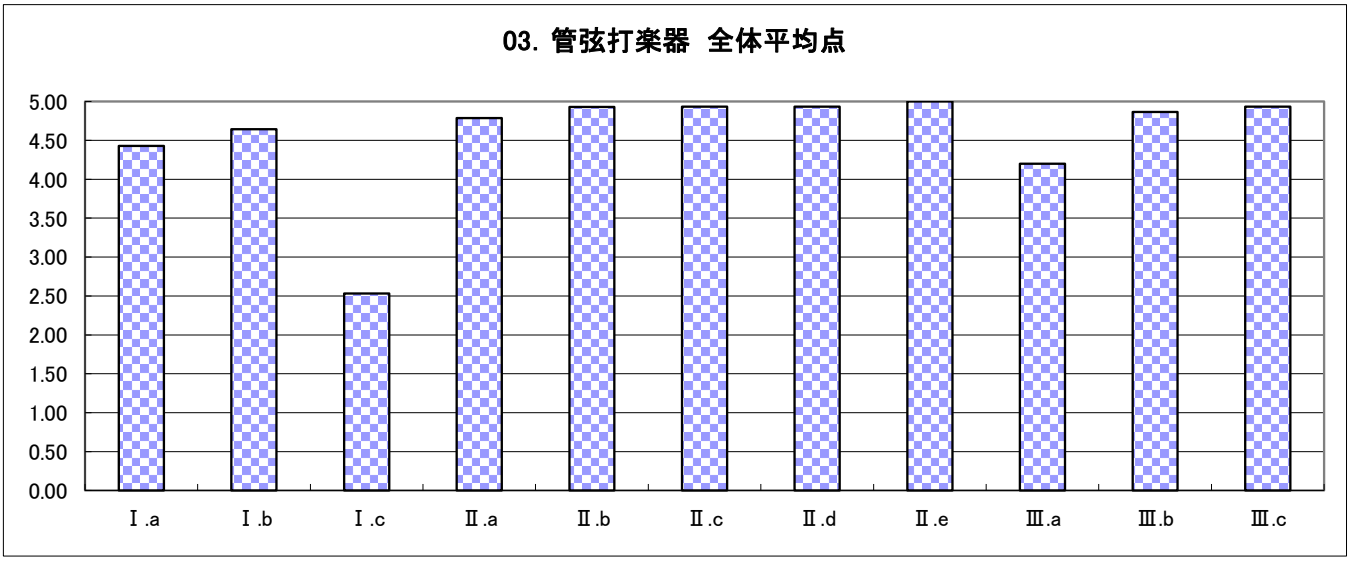
管弦打楽器

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	03. 管弦打楽器
科目数	8

履修者数	15
回答者数	15

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.43	11	0	1	2	0	14	1
				78.6	0.0	7.1	14.3	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.64	10	3	1	0	0	14	1
				71.4	21.4	7.1	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.53	4	0	2	3	6	15	0
				26.7	0.0	13.3	20.0	40.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.79	11	3	0	0	0	14	1
				78.6	21.4	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.93	13	1	0	0	0	14	1
				92.9	7.1	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.93	14	1	0	0	0	15	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.93	14	1	0	0	0	15	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	15	0	0	0	0	15	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	7	4	4	0	0	15	0
				46.7	26.7	26.7	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.87	13	2	0	0	0	15	0
				86.7	13.3	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.93	14	1	0	0	0	15	0
				93.3	6.7	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

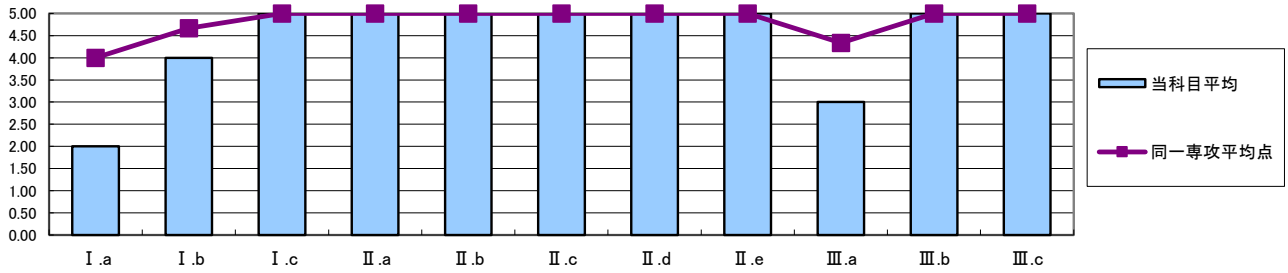
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	2.00	4.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

アンケート結果を見る限りでは、回答は5に集中していて担当学生との関係、レッスンに対する理解度は概ね良好と思われる。今年度の学生はレベルが高くやる気もあり、毎週良く準備をして来る。社会人の生徒のやる気もかなり高い。将来の目標を立てて学んでいる学生もいる。今年度は人間関係で悩んでしまった学生がいたが、学生部長、教務部長、教務学生担当、カウンセラー室とも連携して対応し、無事に卒業した。

●　問題点

積極的にレッスンを受ける学生が増えてきたが、音楽的な知識が不足している為、楽典や和声等フルート以外の事もレッスン中に説明する必要がある。

●　改善の方策

進度の著しく遅い学生に対し、昨年度から実行している、子どもに教えるような指導法を継続しているため、質問等、学生が言葉を発する事が多くなりコミュニケーションをとりやすくなった。学生の日々の変化に気を配るよう心掛ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

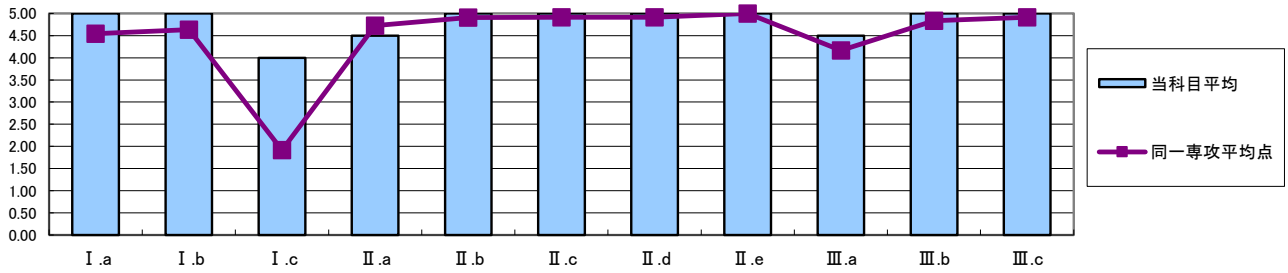
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	白井　英治

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.64
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	1.92
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.91
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.92
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.17
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

設問に対して、特に問題はありませんでした。

●　問題点

特に問題はありません。しいて言えば、予習復習の時間をより確保して頂く事です。

●　改善の方策

特に問題はありませんが、基礎をしっかり身につけて欲しいです。姿勢や楽器の持ち方、右手のボーイングや左手の押さえ方、ポジションの取り方等、確認をしながらレッスンをする事で、ご自分の進展状態を知って頂き、より意欲を持ってレッスンに望んで頂けるよう務めたいと思います。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

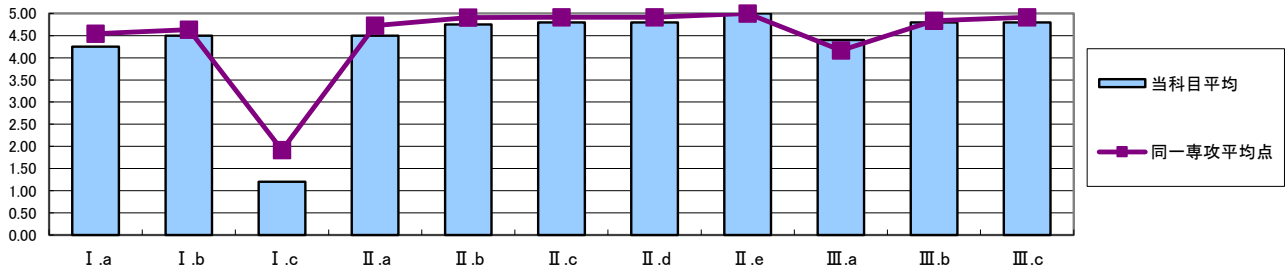
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.25	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.64
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.20	1.92
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.50	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.91
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.80	4.92
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.80	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.17
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.80	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

専攻学生同様、各学生のレベルに合った指導をしている。副科であるため高いレベルの演奏技術を求めるのではなく、楽しくフルートを吹いてもらうレッスンを心掛けている。回答はほぼ5に集中しているため、信頼関係も上手く築けている様である。実際に上手く吹けるようになり、試験の成績が上がり喜んでいる学生もいる。来年度フルートの室内楽を希望する学生も出た。音楽療法専攻学生は将来現場でフルートを使用することが想定されるので、演奏技術を身につけさせることは重要と考える。今年度は経験者が多くレベルの高いレッスンであった。

●　問題点

今年度は学生の準備不足もなく概ね良好であった。

●　改善の方策

レッスン担当教員として、個人のレベルに合わせたレッスンをさらに心掛けなくてはならないと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

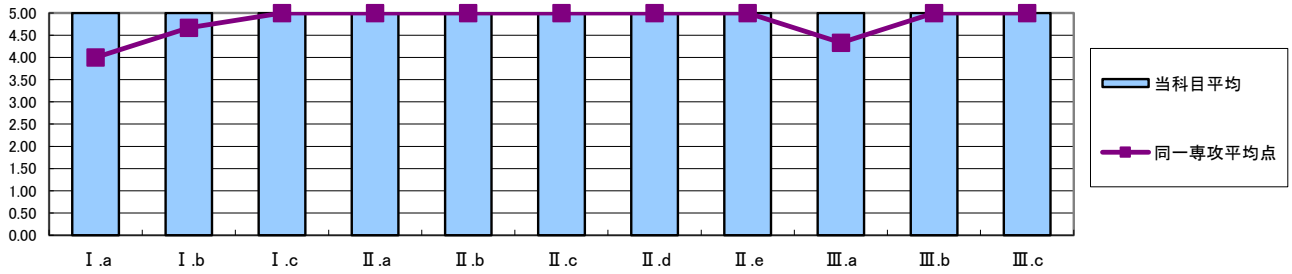
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



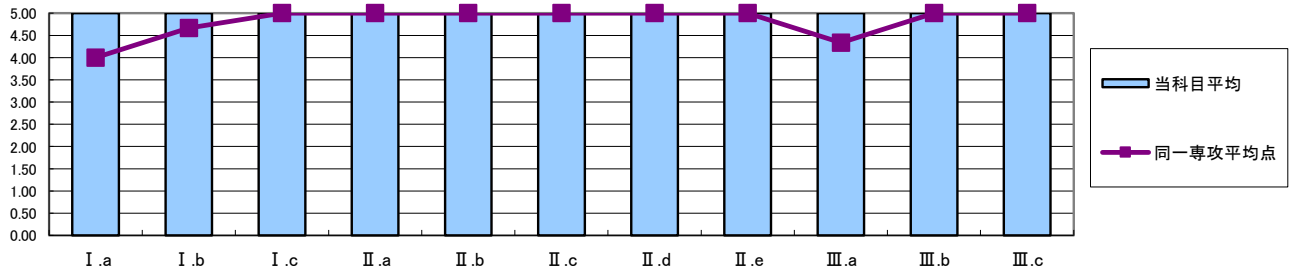
科目名	器楽専攻管弦打楽器コース
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.00
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.67
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	5.00
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	5.00
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.33
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

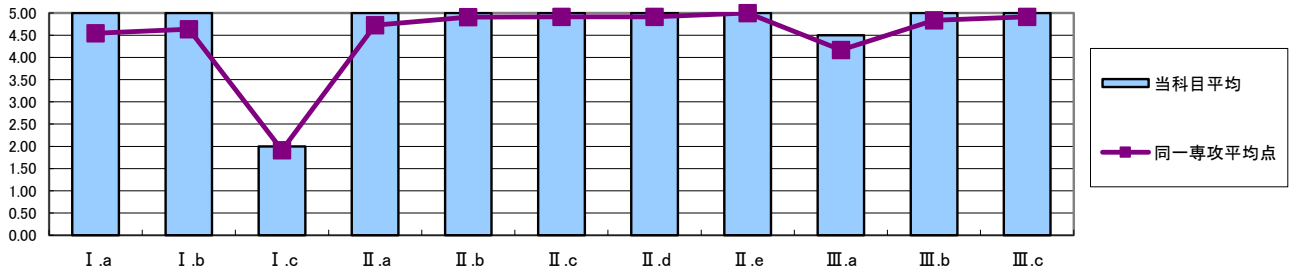
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	益田　善太

職名	06. 専任講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.64
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.92
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.91
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.92
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.17
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



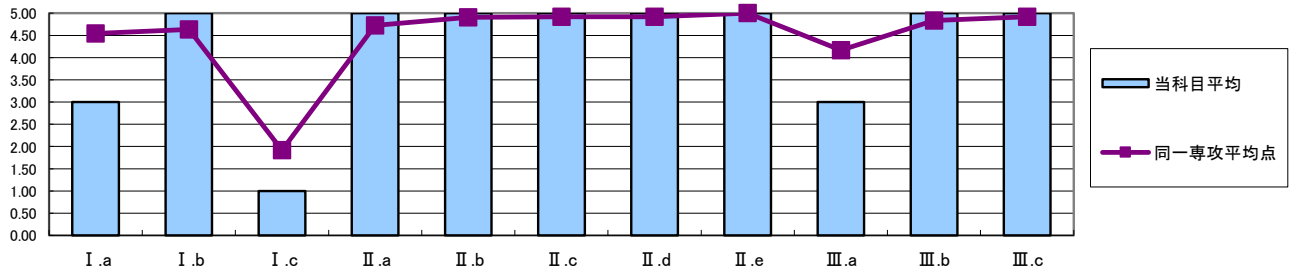
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	3.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.64
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	1.00	1.92
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.91
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.92
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.17
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

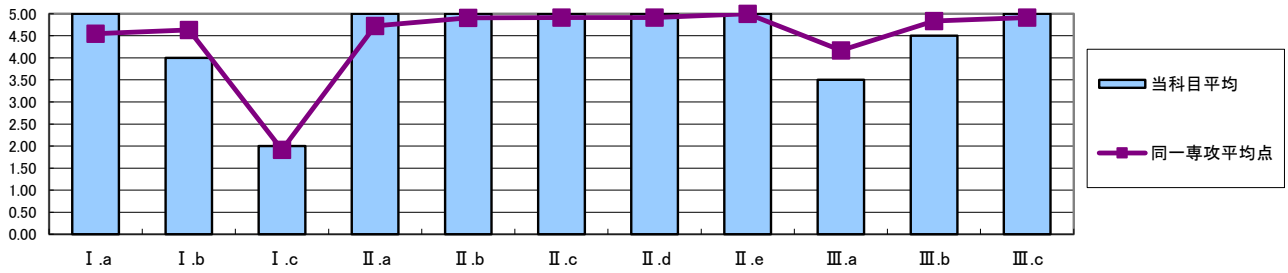
科目名	副科実技(管弦打)
教員名	村越　麻希子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.64
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	1.92
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.73
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.91
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.92
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.92
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	5.00
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.17
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.50	4.83
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.92

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



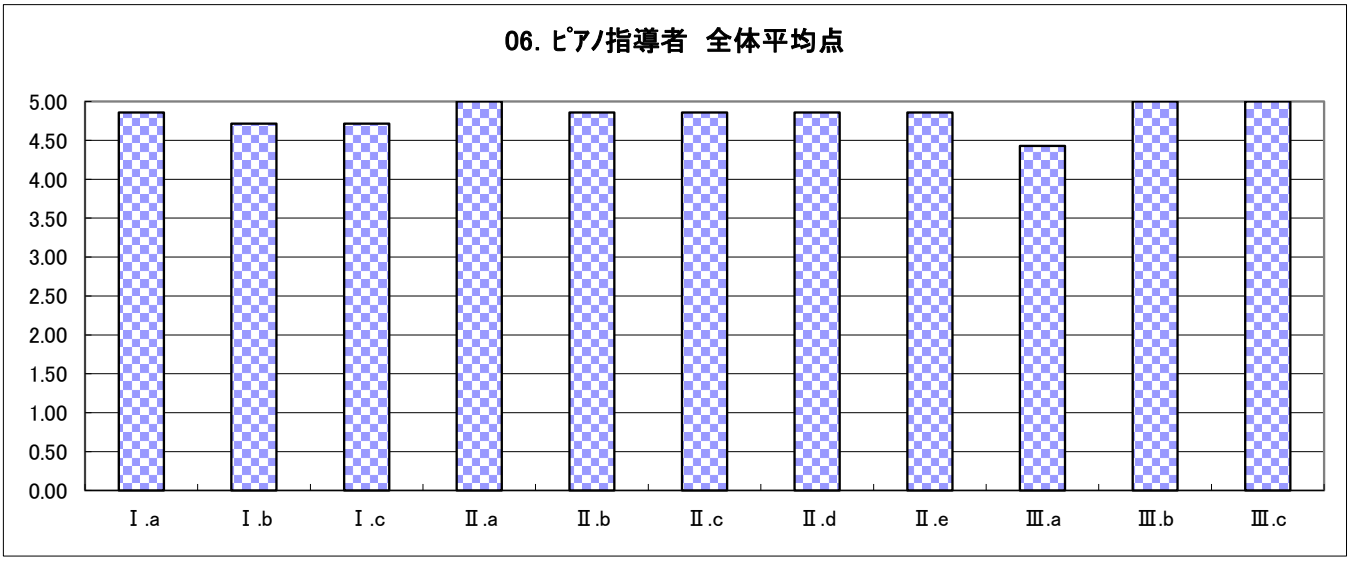
ピアノ指導者

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	06. ピアノ指導者
科目数	4

履修者数	7
回答者数	7

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.71	6	0	1	0	0	7	0
				85.7	0.0	14.3	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.71	5	2	0	0	0	7	0
				71.4	28.6	0.0	0.0	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.86	6	1	0	0	0	7	0
				85.7	14.3	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.43	3	4	0	0	0	7	0
				42.9	57.1	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	7	0	0	0	0	7	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

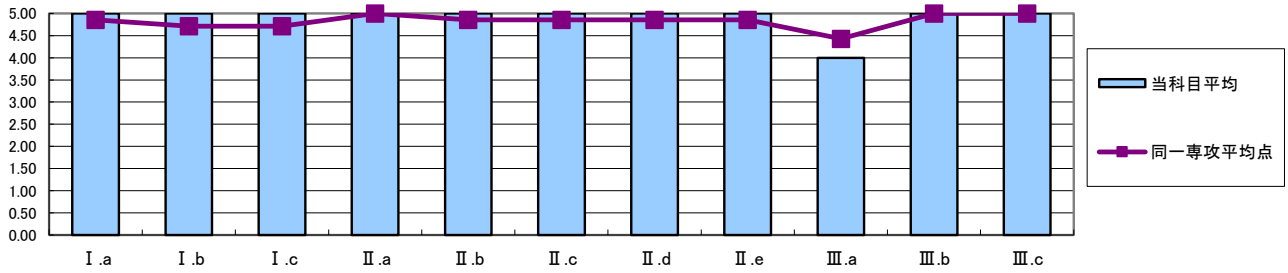
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	大場　文惠

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.71
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.71
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者1年生1名より回答がありました。この学生は遅刻欠席が年間を通して一度もなく、一回一回のレッスンに全力で取り組んでいる申し分のない学生です。Ⅲa.「開講時に示された到達目標を充分に達成できたか」だけが「ある程度そう思う」となっていますが、少し謙遜したのではないかと思われます。よく努力しました。。また自由記述欄には「丁寧にレッスンをして下さり、とても充実したレッスンが受けられた」と書かれていました。

●　問題点

試験曲だけでなく、練習曲やバッハの作品も数多く学修しましたので、曲数も特にありません。

●　改善の方策

2年生では視野を広げ、レパートリーを増やしていけるよう指導します。さらに成長することを期待しています。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

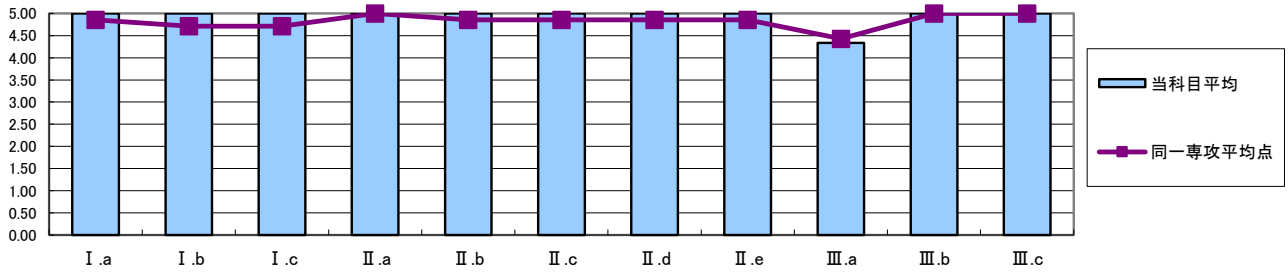
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.71
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	4.71
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2019年度の器楽専攻ピアノ指導者コースは、1年次生1名、2年次生1名、長期履修社会人学生1名のピアノ実技レッスンを担当した。それぞれ状況の異なる3名であるが、ピアノ指導法を学ぶことに対する興味と関心の高さは共通しており、順調に知識と技能を向上させることができた。多様な学生に対する指導について考えることは、私自身の指導スキル向上のための機会ともなっている。

●　問題点

今年度については、特に大きな問題は見られない。

●　改善の方策

引き続き、多様な学生へのきめ細かな対応を心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

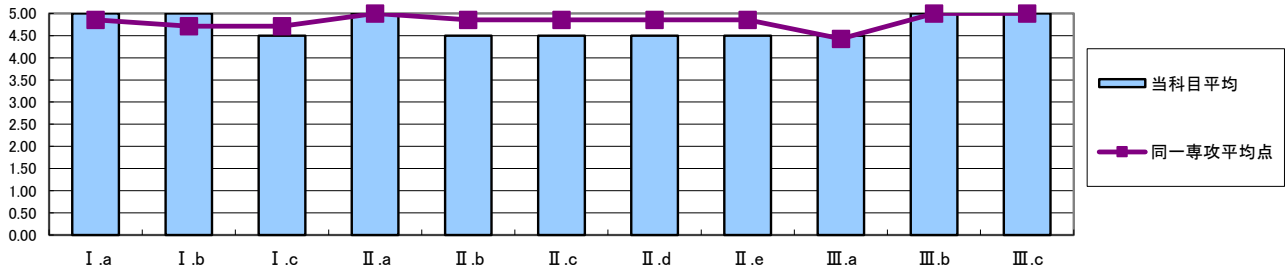
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.86
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.71
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.50	4.71
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.50	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	4.50	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.50	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.50	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度、ピアノ指導者コース2年次生2名の専攻実技を担当した。2名共に無遅刻無欠席。実に真面目な学生であった。その内1名は就職活動も行いながらの学生生活であったので、前期は学びのペースを維持するのが大変な様子でもあった。しかし、何とか両立を保ち、良くやっていたと思う。アンケートの結果においても、学生たちのある程度の満足感・達成感が見受けられる。努力を惜しまない学生たちではあったが、自分がこうありたいという理想と、現実の状況に隔たりを感じ、悩む場面にも幾度となく遭遇した。その多くが技術の問題である。ここが、特にピアノという楽器の難しいところであり、技術の長い時間をかけての蓄積が必要とされているが故にそれが大きな壁となり、また簡単には解決できない問題となる為、どの様に指導していくのがより良いのか、実に考えさせられる。

●　問題点

それぞれの学生の実情を冷静に読みとれない場合がある。

●　改善の方策

期初において学習の目標・計画を立てる際、学生とよく話し合う。より良い指導の方向を多面的に考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

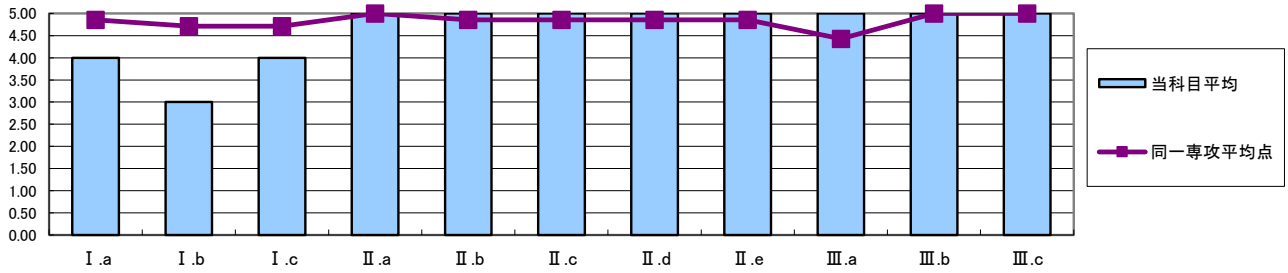
科目名	器楽専攻ピアノ指導者コース
教員名	浦川　玲子

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.86
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.00	4.71
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	4.71
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	5.00
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.86
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	4.86
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.86
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.86
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.43
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	5.00
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	5.00

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

レッスンの現状としては概ね順調な展開であり、履修者は自分の課題に対して真摯に取り組んでいる。卒業後の進路選択を見越し、基礎力育成の充実を目指している。

●　問題点

卒業後に目指すべき目標が見つけられらないなど、進路指導には若年特有の難しさを伴う。

●　改善の方策

信頼関係を確固たるものとし、コミュニケーションを欠かさ図に、今後も見守りを継続していきたい。

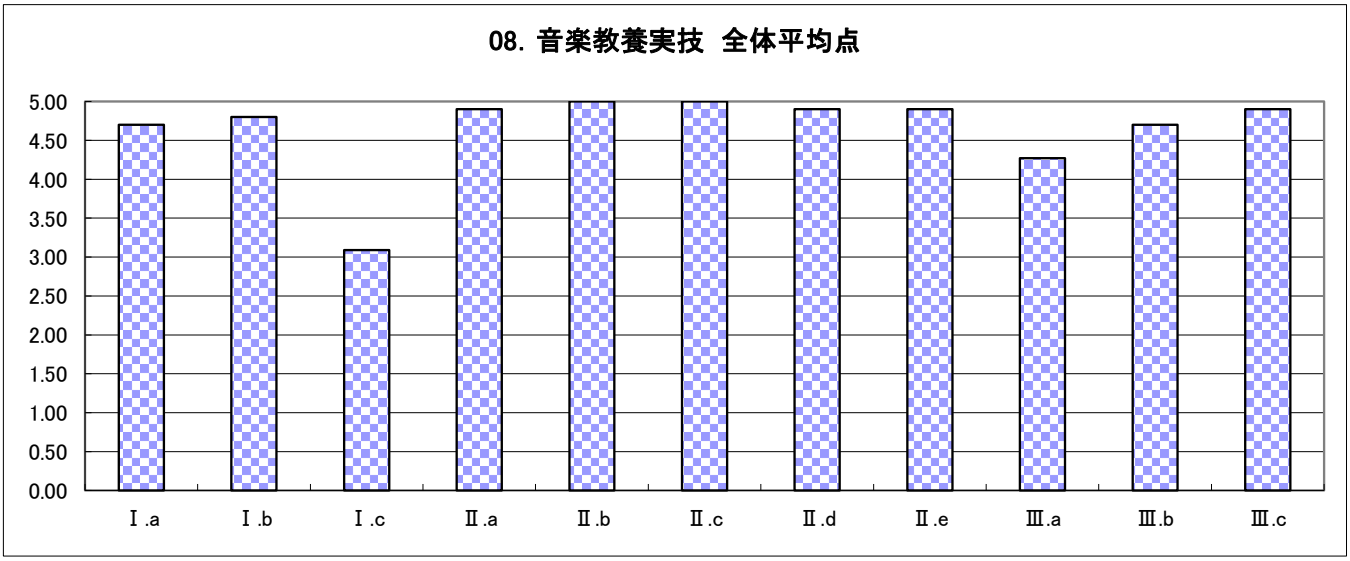
音楽教養実技

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

専攻	08. 音楽教養実技
科目数	10

履修者数	12
回答者数	11

設問		項目	平均点	回答数（人）／回答率（%）					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.70	7	3	0	0	0	10	1
				70.0	30.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	8	2	0	0	0	10	1
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.09	2	2	2	5	0	11	0
				18.2	18.2	18.2	45.5	0.0		
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.90	9	1	0	0	0	10	1
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	10	0	0	0	0	10	1
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	10	0	0	0	0	10	1
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.90	9	1	0	0	0	10	1
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.90	9	1	0	0	0	10	1
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.27	4	6	1	0	0	11	0
				36.4	54.5	9.1	0.0	0.0		
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.70	7	3	0	0	0	10	1
				70.0	30.0	0.0	0.0	0.0		
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.90	9	1	0	0	0	10	1
				90.0	10.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

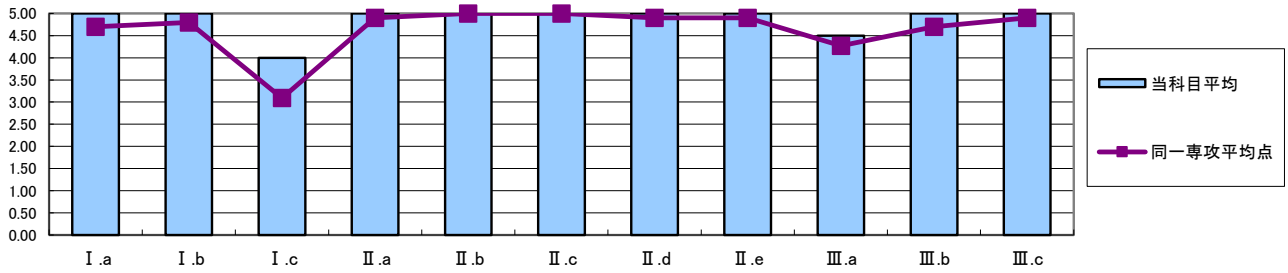
科目名	音楽教養実技
教員名	大場　文惠

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

履修者1年生2名は、共に社会人の学生です。それぞれ人生経験が豊かで、ピアノへの向き合い方にも反映されています。2名とも、初めのうちは久しぶりの学生生活で戸惑っているようにも感じられましたが、夏休み明け頃からは実技試験という目標に向かってよく努力をし、試験ではその成果を発揮することができました。Ⅰc.「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習しましたか」の「3時間」という回答は、設問の意味を取り違えたのではないかと思われます。もっと練習時間は多かったと推測します。自由記述欄には「ピアノにしっかり向き合い、時間を掛けて取り組むことができました。」「知識も増えて、常に寄り添ってアドバイスをして下さる先生に、とても感謝しています。」と書かれていました。

●　問題点

基礎的なことに時間を充分にかけたため、レッスンで取り上げた曲数が少なくなりました。

●　改善の方策

1年生でしたので基礎に時間を掛けましたが、2年生はレパートリーを増やすことも念頭に置いて、課題を選びたいと思います。それぞれの演奏力や音楽の方向性を踏まえて、年度初めに年間計画をしっかり立てていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

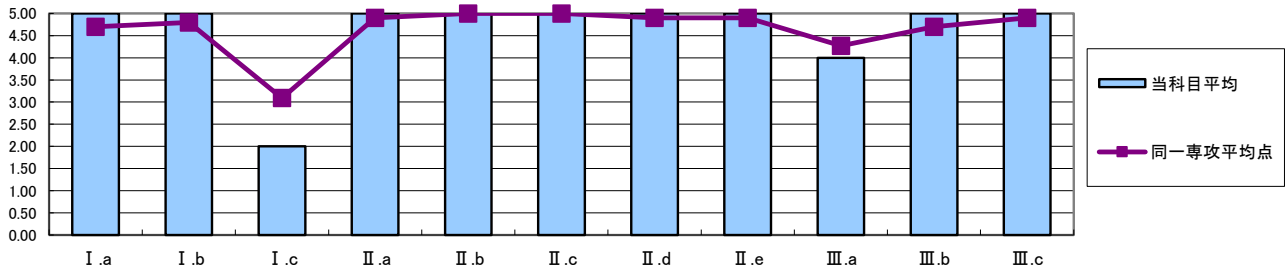
科目名	音楽教養実技
教員名	伊藤　和広

職名	04. 准教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

今年度は２名を担当し、アンケートへは、１名が社会人の長期履修者である為、現役生１名のみが回答している。この１名が、人格・学習状況共に優秀であったことも踏まえ、アンケートの結果を考察すると、大きな学習成果が得られたことがわかる。喜ばしい結果である。

● **問題点**

● **改善の方策**

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

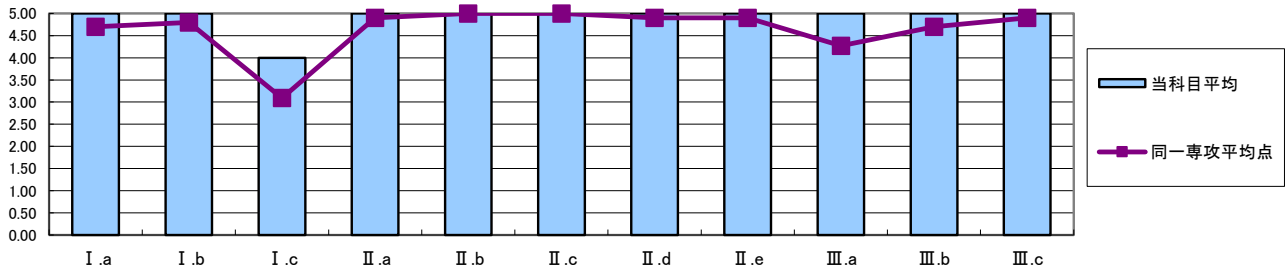
科目名	音楽教養実技
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度は社会人が1名。アンケート結果を見る限りでは、回答は4～5に集中していて担当学生との関係、レッスンに対する理解度は概ね良好と思われる。なかなか音が安定せずまた、テクニックやリズム感の習得にも苦労したが、やる気はかなり高い。

●　問題点

フルートの基本をしっかり教えているが、長年吹いてきた癖がなかなか修正できず、進みが遅く、難しい。

●　改善の方策

地道に基本を教え続ける。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

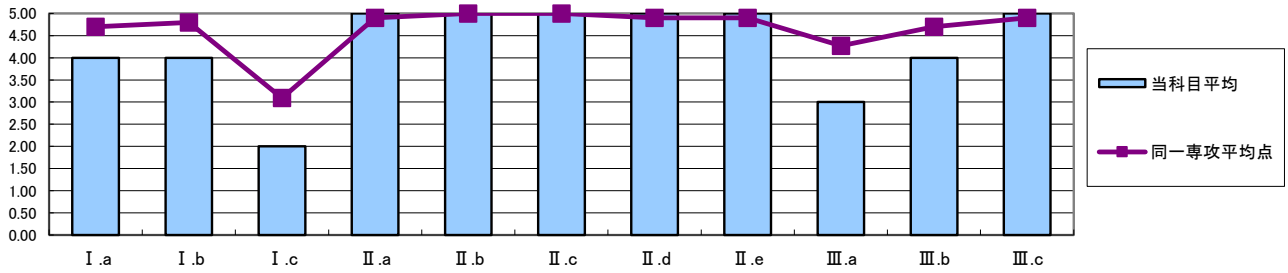
科目名	音楽教養実技
教員名	野田　説子

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度の受け持ちの内訳は、 短大が、音楽教養１年1名、副科１年2名、２年1名　 アドバンス1名大学は、専門が１年2名、３年2名、４年2名。副科は１年8名、２年1名　 3年2名　 4年3名短大の1年音楽教養の学生は、音楽全般に渡ってこれから一つ一つ学んでいく状態であり、本人に合わせてゆっくりなペースで行った。専門の出席は概ね良かったが、学科においては殆ど落としている。同級生達との間は良好であるが、今後が心配な学生である。社会人のアドバンス生は毎回のレッスンで質問も多く大変熱心である。副科の３名の出席も良好で、能力の差はあるが真面目に取り組んだ。大学の専門の学生6名は、出席も良好で皆一生懸命に取り組んだ。１年の学生にコミュニケーションが苦手で授業についてけず途中在学が危ぶまれた。が、本来真面目な学生であり学校のサポートもあって再起し乗り切った。もう１人の１年は転専攻した学生であるが対応に苦慮した。ウィーン研修や学内演奏に携わった3年の2人は、その都度よく健闘しそれによって力がついてきた。４年の２名は最終学年の年であり今まで以上に頑張った。大学の副科の学生達の殆どは、出席良好であった。演奏会が多く日常的に忙しい彼らはピアノの練習がなかなか取れないようである。

●　問題点

今年は入学してきた１年生達はそれぞれに真面目で出席もよいのだが、意外なところで様々な問題を抱えていた。また転専攻を希望していた留学生は国民性ゆえか、言動が一致せず大いに混乱した。多種多様な学生がいる中で、どのように対応していくかを考えさせられた。

●　改善の方策

多様な学生とのコミュニケーションをきめ細かくとりながら、彼らが苦手なことや問題点を聞き出し理解できるように根気よく指導を行うことに努めていく。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

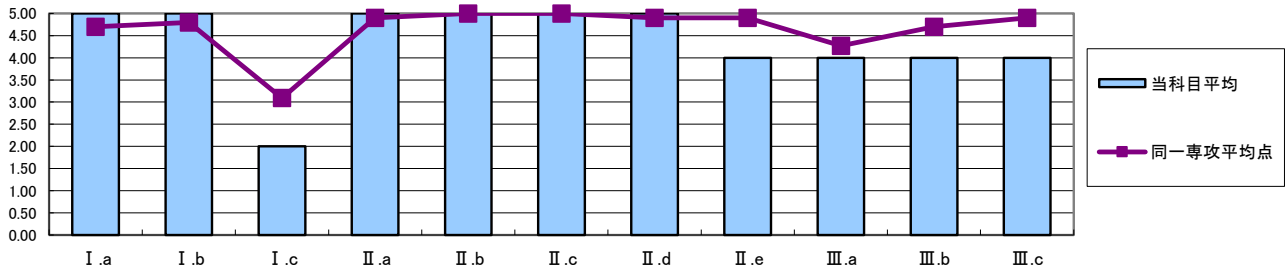
科目名	音楽教養実技
教員名	武藤　直美

職名	06. 専任講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	4.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽教養声楽受講生は１名で30分の個人レッスンを行いました。次年度より声楽専攻に転科を目標としており、この受講生にし対してはシラバスに沿ったレッスンに加え、イタリア歌曲のみならず、ドイツ歌曲の教材も用いて指導を行いました。

●　問題点

今回の結果から判断しますと、指導方法については特に問題点はないと思われます。

●　改善の方策

受講生が積極的に興味や関心を持ってレッスンに臨んでくれていたことから、今後も個々のレベルや目標に沿ったレッスンを行っていきます。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

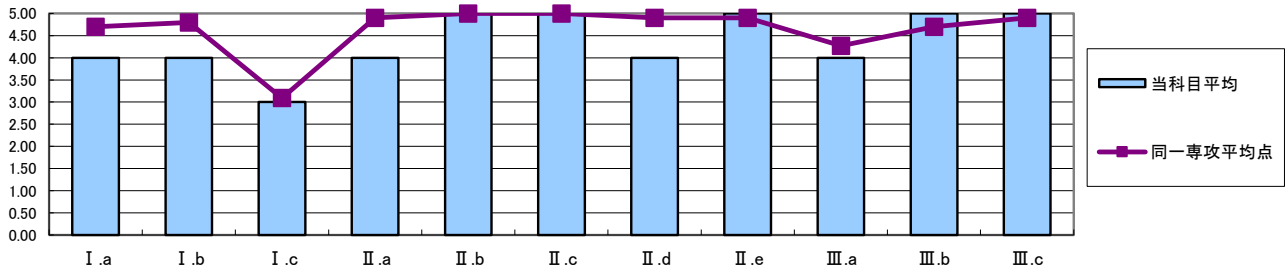
科目名	音楽教養実技
教員名	浅野　和子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	3.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	4.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	4.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

出席状況は連絡はあるものの、やや休みがちであった。練習もやや足りない状況。しかし遅刻はなく積極的ではないが、素直にレッスンを受講していた。[分析]Ⅰ.a「このレッスンの出席は良好であった。」自己評価よりも現状は欠席が多かったと思う。Ⅰ.b「熱意を持って積極的に取り組んだ。」積極的ではないが真面目に取り組んでいた。Ⅰ.c「1回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。」想像通りでやや少ない。Ⅱ.a「このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。」特に問題なし。Ⅱ.b「このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。」特に問題なし。Ⅱ.c「教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。」特に問題なし。Ⅱ.e「このレッスン回数や時間は守られていた。」問題特になし。Ⅲ.a「開講時に示された到達目標を充分に達成できた。」ある程度達成できたと思う。Ⅲ.b「このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。」特に問題なし。Ⅲ.c「このレッスンは総合的に判断して、意義のある物でしたか。」特に問題なし。

●　問題点

全体的に学生とのズレは余りないと思う。

●　改善の方策

音楽に親しみを持って接するように、技術的な事以外の作曲者や曲に関する考察などを一緒に深めていきたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

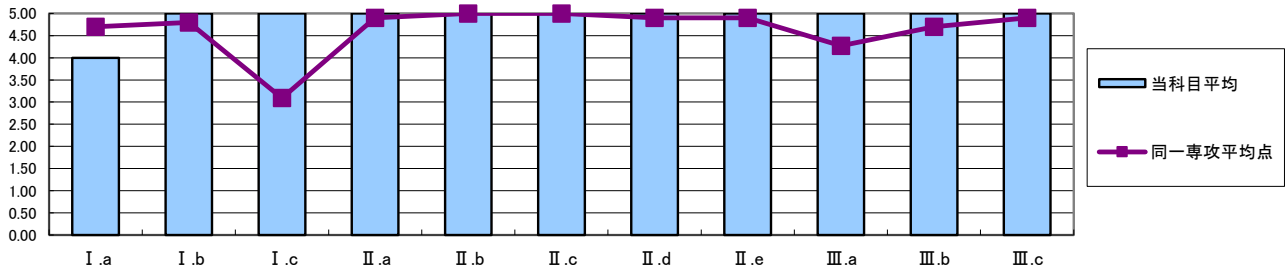
科目名	音楽教養実技
教員名	亀山　久美子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	4.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	5.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

昨年度、音楽教養科に転科し、今年度二年次を迎えた学生１名から回答を得た。基礎と実践を交えたレッスンをメインに、自己ペースを乱さず地道に取り組んでいる熱心な学生である。今年度は前期・後期共に目標を自ら設定し、難曲にも果敢に挑戦し、意欲的に励みながら努力を怠らなかった。学生にとって手応えを感じていたようで、専門実技への熱意は非常に喜ばしく思う。やり遂げる意志の強さに感心し、講師自身大いに刺激になった。レッスンでのコミュニケーションを密にし、不安や疑問点を細かく確認し合えたことは学生自身の意欲を促すことに繋がったのではと考えている。アンケートでも特に問題点は見当たらない。

●　問題点

Ⅰａの出席についての設問に４の回答があるが、体調不良によるやむを得ない欠席が２回ほどあったのみで、出席は良好であり、全く問題はなかった。他は特になし。

●　改善の方策

特になし

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

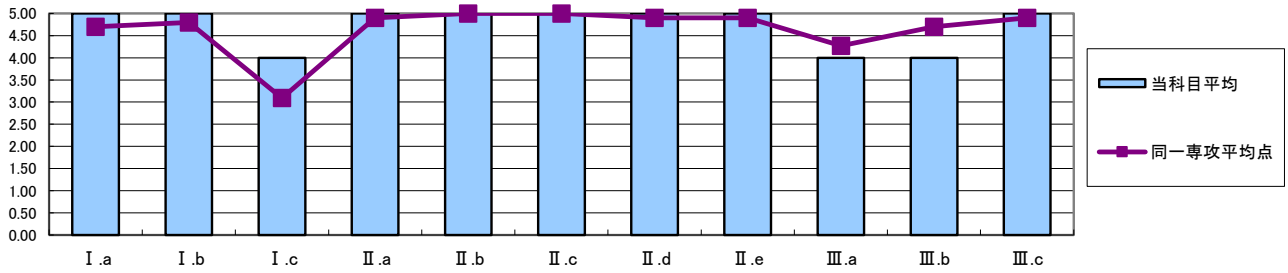
科目名	音楽教養実技
教員名	中村　明子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	4.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	4.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

昨年度、短大では音楽教養１名（長期履修３年目）の学生を担当しました。

●　問題点

音楽教養の学生の演奏能力は一人一人大きく異なりますが、該当の学生はほどほどの能力を持ち合わせ、さらに練習熱心だった為、３０分のレッスンでは物足りない様子でした。

●　改善の方策

４年の長期履修を踏まえて、基礎練習・練習曲・応用の曲、と３０分を細分化して計画的に対応しています。

授業改善のための学生アンケート集計結果　実技（個人レッスン）

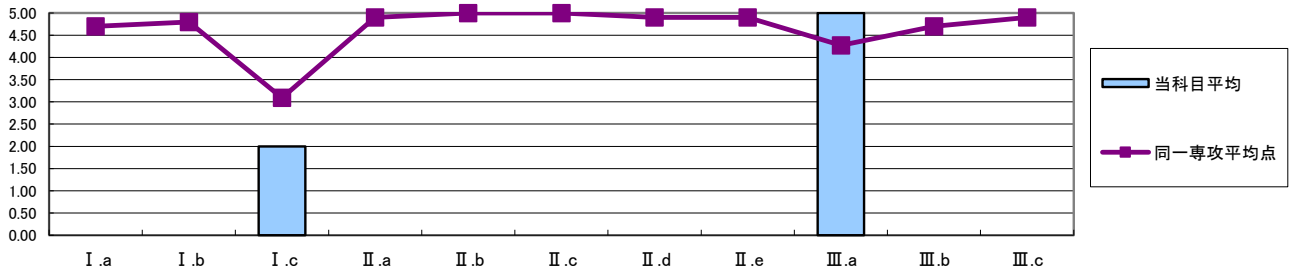
科目名	音楽教養実技
教員名	佐藤　泰弘

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	-	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	-	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	-	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	-	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	-	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	-	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	-	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	-	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	-	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



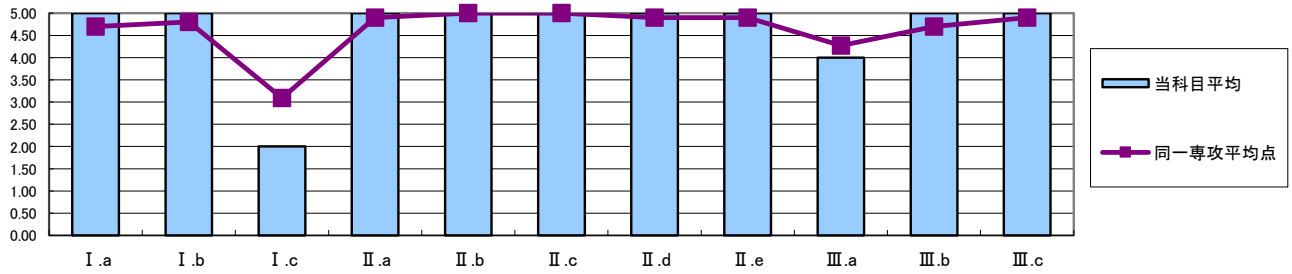
科目名	音楽教養実技
教員名	村越　麻希子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	このレッスンの出席は良好であった。	5.00	4.70
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.80
	c	１回のレッスンのために、平均どのくらい練習をしましたか。	2.00	3.09
Ⅱ	a	このレッスンの進め方は、技術や理解度に合わせ適切に行われていた。	5.00	4.90
	b	このレッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	5.00
	c	教員の説明やアドバイスは具体的で適切であった。	5.00	5.00
	d	レッスン内外における質問や相談への対応は適切であった。	5.00	4.90
	e	このレッスンの回数や時間は守られていた。	5.00	4.90
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.27
	b	このレッスンから新しい知識や技術を獲得し、音楽的視野が広がった。	5.00	4.70
	c	このレッスンは総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.90

当科目平均点と同一専攻平均点との比較



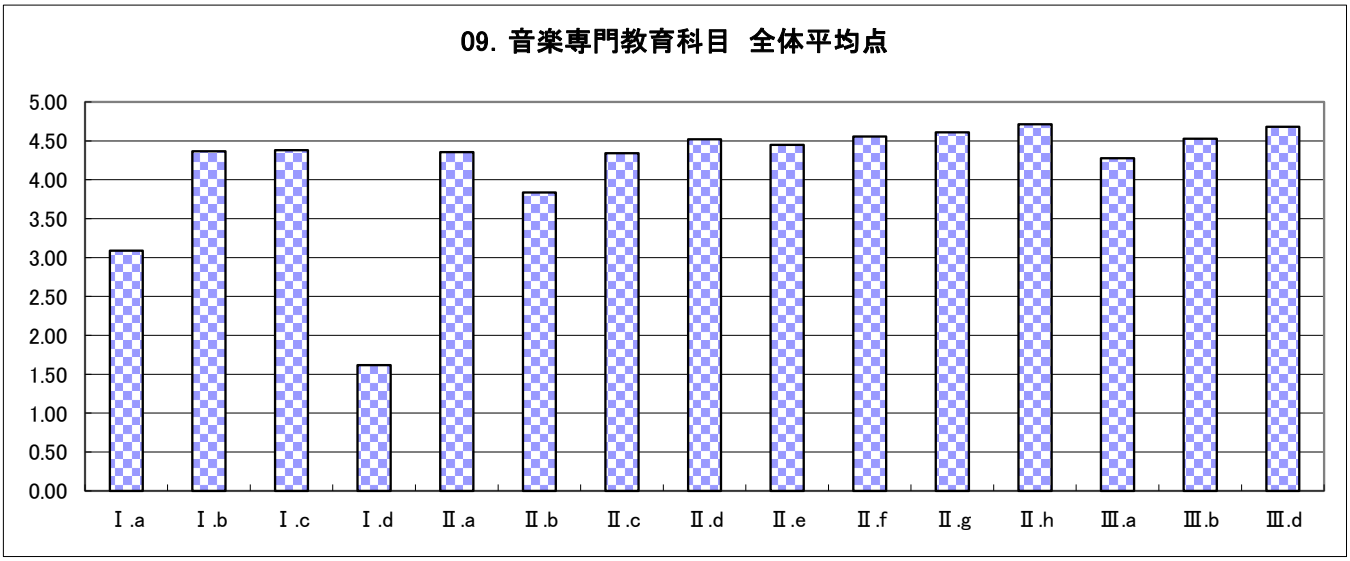
音楽専門教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	09. 音楽専門教育科目
科目数	27

履修者数	284
回答者数	242

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.09	49	58	56	17	59	239	3
				20.5	24.3	23.4	7.1	24.7		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.37	152	44	29	10	5	240	2
				63.3	18.3	12.1	4.2	2.1		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	136	72	26	3	4	241	1
				56.4	29.9	10.8	1.2	1.7		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.62	15	4	21	32	165	237	5
				6.3	1.7	8.9	13.5	69.6		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.36	142	41	50	1	2	236	6
				60.2	17.4	21.2	0.4	0.8		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.84	34	37	147	8	13	239	3
				14.2	15.5	61.5	3.3	5.4		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.34	147	38	49	5	2	241	1
				61.0	15.8	20.3	2.1	0.8		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.52	165	47	21	5	3	241	1
				68.5	19.5	8.7	2.1	1.2		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.45	160	43	26	3	7	239	3
				66.9	18.0	10.9	1.3	2.9		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.55	174	32	30	1	3	240	2
				72.5	13.3	12.5	0.4	1.3		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.61	183	36	13	4	5	241	1
				75.9	14.9	5.4	1.7	2.1		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	196	32	7	1	5	241	1
				81.3	13.3	2.9	0.4	2.1		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.28	128	62	42	4	4	240	2
				53.3	25.8	17.5	1.7	1.7		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.53	162	52	22	2	3	241	1
				67.2	21.6	9.1	0.8	1.2		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	-	177	103	92	40	18	237	5
				74.7	43.5	38.8	16.9	7.6		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.68	134	32	6	0	3	175	67
				76.6	18.3	3.4	0.0	1.7		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

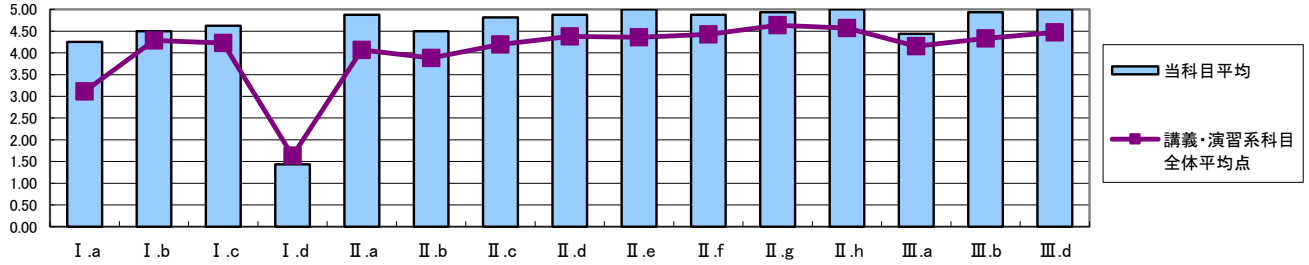
科目名	ピアノ指導者教材研究B
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	16
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.63	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.44	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.88	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.81	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.88	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.88	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.94	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.44	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.94	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.3	4: 87.5
			3: 50.0	2: 31.3
			1: 6.3	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目となっており、おもにピアノ指導者を目指す学生を対象としているが、専攻にかかわらず音楽を通じた社会貢献に関心のある学生にもシラバスにて履修を呼びかけている。2019年度は2年次配当科目であり16名が履修した。この２年間の特徴としては、社会人学生がほぼ半数を占めたことがあげられる。主に卒業後にピアノ指導者を目指すための技能と知識を身に付けるための授業であるが、シラバスに基づく授業内容は堅守しつつ幅広い年齢と専攻に受け入れやすい授業運営を心掛けた。全体に高い評価をいただいたことで、この方針は概ね支持されたと感じている。

●　問題点

これまでのアンケートで予習・復習の項目が比較的低評価であったことから、次回講義までに考えてくることについてシラバスに明示し、講義内で指示する等の工夫をしたが、他項目と比較すると依然として低めの評価である。

●　改善の方策

すべての回にシラバスにて予習・復習の項目を明示している。学生が講義に対してさらに能動的に取り組めるよう、予習や復習の課題を授業内でもより具体的に提示する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

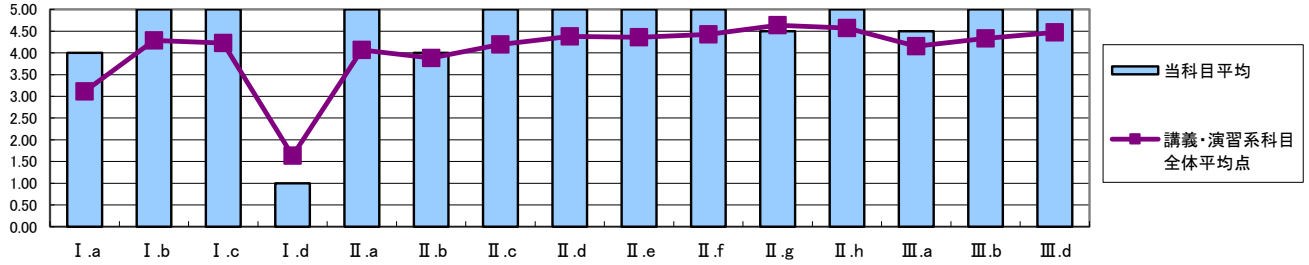
科目名	ピアノ指導法2
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.50	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 100.0 / 3: 50.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。２０19年度の履修者は２名であった。ピアノ指導者を目指すための科目であり、一方的な座学ではなく実践やディスカッションを積極的に取り入れた。アンケートの結果からは、この授業形態を学生たちが肯定的にとらえていると考えてよいと思う。年度末のレポートにおいても、履修者が講義内容を十分に理解し、到達目標を達成していることを確認できた。

●　問題点

専門的な知識と技能の修得のために、時間をかけて予習・復習をすることが重要な科目であるが、その項目の数値が想像以上に低かった。課題の提示方法と量を再考する必要がある。

●　改善の方策

事前学習および復習の具体的な課題について、その量も含めて検討する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

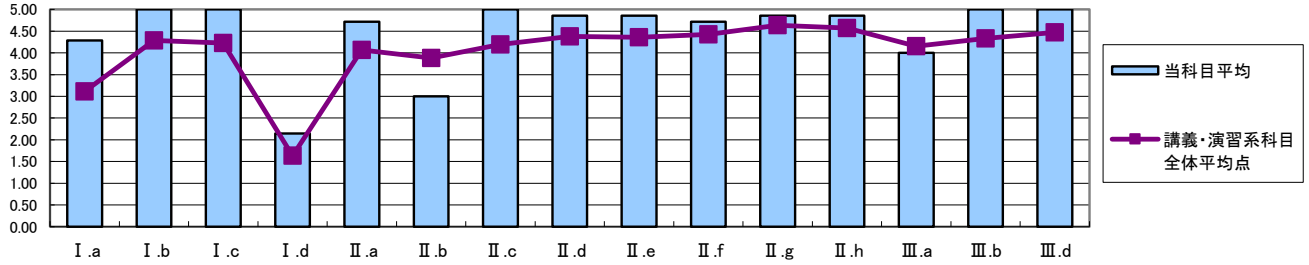
科目名	ピアノ指導法4
教員名	國谷　尊之

職名	02. 教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.29	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.14	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.71	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.86	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.86	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0 / 4: 71.4 / 3: 71.4 / 2: 71.4 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この科目はピアノ指導者コース必修科目であり、かつピアノ指導者コースのみ履修可能な科目である。2019年度履修者は７名。ピアノ指導者を目指すための科目であり、一方的な座学ではなく実践やディスカッションを取り入れ、ピアノ指導法4においては、幼児～小学生のモデル生徒に対して2回のレッスン実習を行っている。ピアノ指導法4の履修者は、こうした講義形式の意義を十分に理解し授業に取り組んでいた。アンケートの結果からも、この授業形態を学生が生かしてくれたと感じている。

●　問題点

授業の難易度をやや難しいと感じた学生が多い。これは、講義を進めていた中での私の印象とも合致している。特に、ピアノ音楽史と和声学の面で、基本的な知識を持っていない学生が多く、講義を進める上で大変難しい面があった。一方で、予習・復習に充てる時間は充分とは言えない。

●　改善の方策

基本的な知識について、授業に必要な事前学習課題を提示し、授業内容の理解が進むようにする。これにより全ての学生が授業の到達目標を達成できるようにして行く。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

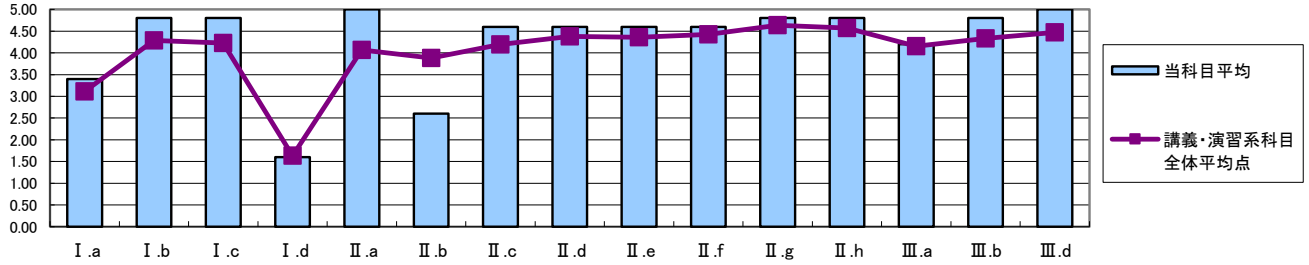
科目名	ソルフェージュ4b
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.80	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.60	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.60	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.60	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.80	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.0 / 4: 0.0 / 3: 60.0 / 2: 0.0 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２年次生の選択授業で第１回目の授業で履修者に聴音を行い、a、bの2クラスに分けた下位のほうのクラスである。授業時間は金曜日３～４限の２コマ分の９０分である。履修者数は５名である。聴音、弾き歌い、新曲視唱（3b）、リズム打ち（4b）を中心に授業を進めた。成績評価の試験も上記項目に準拠した。選択授業のせいか履修者は少ないが、概ね履修者は意欲的であった。クラスのサイズは理想的ではあるが個々のレベルの差はあまりに大きく、全員を上達に導くには足並みが揃わない。また、近年のソルフェージュのレベル低下は著しく、小さい頃からの訓練が不足していて、中には入学してから初めてソルフェージュを習う学生もいる。授業で最低限必要な音楽的な力や気力を、短期間で養うのは困難である。

●　問題点

基礎力の不足が将来に音楽を続ける事への疑問となりモチベーションの維持が出来にくくなっている。少人数とはいえその能力の差は非常に大きく、理解度の向上や習得のための訓練を個人的に分けてやらざるを得ず、万人に効く特効薬が無いのと同じに個々の処方箋が必要であり、それを行うにはクラス授業では限界がある。また、入試前にソルフェージュの基礎訓練を経て来ないのも一因がある。

●　改善の方策

授業の時間的な制約もあり、個々の弱いところに時間をかけて対応するには限界があるが、下位クラスになればなるほどきめの細かい指導が必要である。よって、各人にあった適切なアドバイスが出来るように、表面的ではないもう一歩踏み込んだコミュニケーションを基に、効果的な訓練のプログラムを行うよう心がけたい。日々の積み重ねが必要であるため、授業以外でも訓練を継続するようなアドバイスや方法の工夫を出来るだけ分かりやすく紹介し、そして促したい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

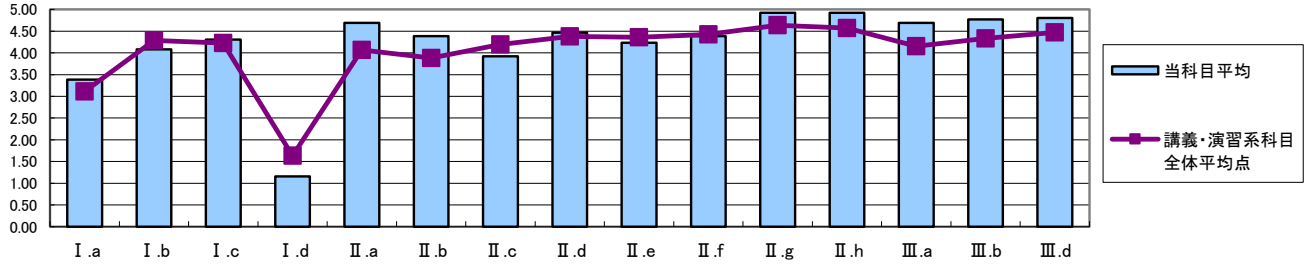
科目名	楽曲の楽しみ方Ⅰ
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	16
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.38	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.08	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.31	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.15	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.69	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.38	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.92	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.46	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.23	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.38	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.92	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.92	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.69	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.77	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 53.8	4: 84.6
			3: 38.5	2: 7.7
			1: 7.7	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.80	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

音楽教養専攻の選択授業ではあるが、学部の学生も受講しており、履修者は16名。９月からの半期設定で１コマ50分の授業である。内容は音楽鑑賞を主として、時代、社会文化等を知り、楽曲解説、逸話等を織り交ぜ、楽曲の聴きどころ、聴かせどころを知り、音楽鑑賞能力を高めるものである。音楽教養専攻生に多い社会人への対応を基として、社会人の興味に応えられるように進めた。今回は鍵盤楽器を主に扱った。

●　問題点

音響、機器のインフラが今ひとつ完備されておらず、音のニュアンスやバランスがその影響を少なからず受けていると思われる。受講生の年代の幅も広くまた興味や知りたいことへの要求も多様であり、また受講生の中には実演や音源を多く聴いてまた知識も豊富な、所謂、耳の肥えている者もおり、音楽の教育機関としての音質は物足りていない。また短い授業時間でインフラ以外の多様な要求を全て網羅するのは困難である。今回もインターネット上から資料となる音源や映像を使用したが、音質や映像の鮮明度に関する整備の必要性が益々高まるであろう。特に音楽では聴覚・視覚的環境は重要であり、出来る限り生演奏に近くなくては、いくら良い素材であっても良さが伝わらず、その分を言葉で補うのでは音楽への興味がマイナスになってしまう。

●　改善の方策

教材や資料が適切では無いというのは、音源や映像等のソフトの少なさと授業時間が短いため、取り扱う曲を全曲聞かせることが出来ず、鑑賞より解説で補ってしまい十分に曲の特徴や良さを伝えきれずに端折ってしまうことにあると思うので、万人受けをする進め方は難しいが、意見や批判はそれが発せられる何らかの要因があったものと受け止め、真摯に対応したいと思う。準備に多く時間をかけて学生にとってさらに良い授業となるよう心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

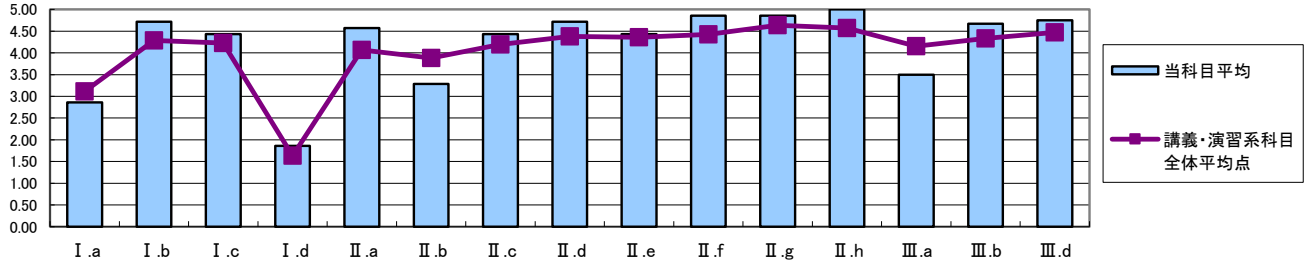
科目名	ソルフェージュ2b
教員名	井上　淳司

職名	04. 准教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.86	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.71	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.43	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.86	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.57	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.29	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.43	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.71	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.43	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.86	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.4 / 4: 57.1 / 3: 28.6 / 2: 42.9 / 1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

教養専攻生を除いた１年次生と教養専攻２年次生を対象にオリエンテーション期間に聴音によるクラス分けを行い、２クラスに分けた、下位のクラスである。授業時間は金曜日５限の週１回連続２コマ計９０分である。履修者数は７名である。授業は聴音、コールユーブンゲン、暗譜唱、新曲視唱（1b）、リズム打ち（2b）を中心に行い成績評価の試験もそれに準拠した。クラスサイズは数字的には理想的ではあるが、下位のクラスはいつもそうであるように、個々の能力の開きに照らし合わせると、決してそうとは言えない。

●　問題点

楽典の知識に乏しく音符の種類さえ不確かな者、耳では理解出来るが音符に置き換えられない者等、基礎的な部分が不十分等の能力の差が大きいため個々に合わせての適切な課題を実施することが出来ず、機能しないことが多かった。学生たちは熱心に取り組んでくれていたが、ソルフェージュが出来るようになったという実感が持てなかったのではないか。

●　改善の方策

本校の教育の基本方針であるOne to Oneは、数値的人数ではなく、出来うる限り似通った個々の能力に合わせた懇切丁寧な指導を少人数ですることである。学生のモチベーションを上げ、学生のスキルの向上とより良い音楽作りのためにも、同じような能力である事がお互いの切磋琢磨を招き、集中力を高め向上を早めることになるだろう。特に下位のクラスにはそれが必要で、それには出来うる限りクラスをOne to Oneに近づけることである。音楽の習得は日々の努力とその積み重ねであり、効率の良い基礎訓練を学生の意識を集中して行わなければならない。向上のため個人的なアドバイスを細かく出来る環境を作ることを前提として、学生には授業以外でも訓練を怠らないよう、その方法等の丁寧な指導をして行くことを日々心がけたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

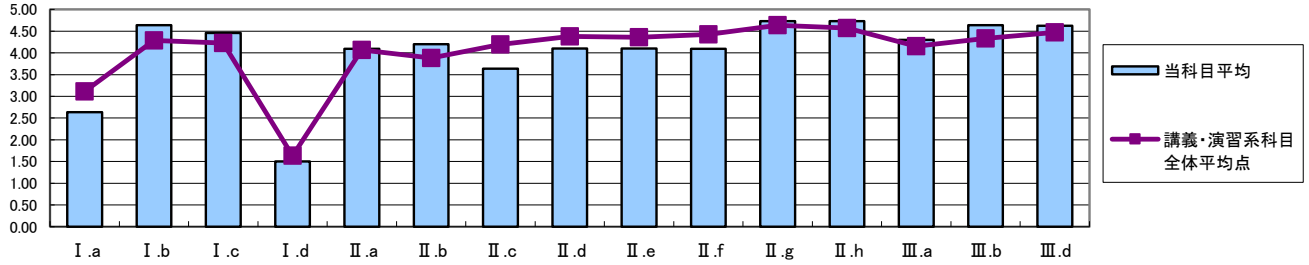
科目名	楽器の特性と機能B
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	13
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.64	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.45	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.09	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.64	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.10	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.10	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.09	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.30	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.64	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 60.0	4: 60.0
			3: 70.0	2: 0.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は鍵盤楽器を含む、全ての楽器について学習する授業である。この授業の特色は担当教員が一人で全ての楽器について解説するのではなく、毎週、各楽器の講師を招いて演奏を交えながら講義を行う。学生は毎週教員が代わるので飽きる事なく授業に参加している。

●　問題点

アンケート結果を見る限り学生の評価は良いものと考えられる。授業の進め方、成績の出し方等にも問題はないと思われる。今期は11名程の教員が関わっているため、アンケート結果は授業全体の評価となる。　設問Ⅱ－aに関しては、シラバスにも明記してあるが、シラバス作成時点で各教員のスケジュール調整が出来ないため、必ずしもシラバスに掲載した楽器順には授業が進められない。にもかかわらず、４と５を合わせて63.7%となっている。今年度休講はなかったが、設問Ⅲ－h、補講に関して、授業の特性上、実施するのが困難であるため、担当教員が学校業務で授業が出来ない場合は、担当講師に授業を任せる事がある。担当教員が授業毎に代わるため試験を実施出来ないので、評価はレポート100%となる。全ての楽器についてレポートを提出させるためレポートの分量が多く、毎年、提出期限に間に合わない学生や、提出出来ない学生も出てしまう。今年度は月が終わる毎にレポートの整理をするよう指導を徹底した。各教員のスケジュール調整が困難である。非常勤教員に授業を依頼しているため、オーケストラ等のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出てしまう。演奏研究員使用の許可を取り、担当講師が授業を出来ない場合は、担当講師に指導を受けた演奏研究員に授業を担当させた。自由記述欄を見る限りは、学生の満足度は高いと思われる。

●　改善の方策

レポートをしっかり提出させるよう指導を徹底したい。各教員のスケジュール調整はなるべく早い時期に行うよう努力する。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

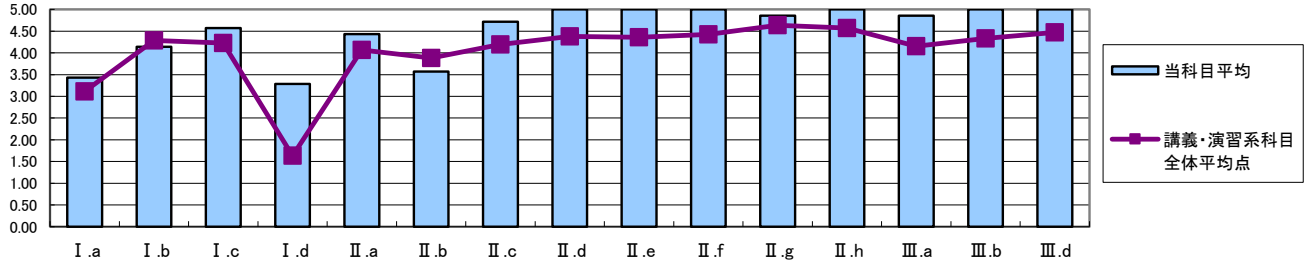
科目名	アンサンブル(ピアノ)ⅡB
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	7
回答者数	7

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.43	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.14	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.57	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.29	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.43	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.71	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.86	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.86	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 85.7	4: 28.6
			3: 57.1	2: 28.6
			1: 28.6	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度、アンサンブルⅡBは7名が受講した。内訳はピアノコース4名、打楽器専攻、ソングライティング専攻、音楽教養専攻が各1名であった。全員がアンサンブルⅠの経験者である為、アンサンブルそのものにかなり馴染んでおり、授業展開は大変スムーズであった。「好きこそものの上手なれ」の言葉通り、受講者皆自ら次から次へと課題をこなしていく様を見ながら”上達すること”の本質を再確認した次第である。授業では2台ピアノを行った。アンサンブルⅠの授業と同様に課題の曲を選曲し、学期末に行う録音に向けて練習を重ねた。2台ピアノの作品は、結構難易度の高い独奏曲とほぼレヴェルとしては同等である。その為、各受講者の練習に必要な時間はかなりのものとなるが、各自十分な自覚の下、練習の時間を確保していたことが、アンケートのⅡ-bの項目において証明されている。2台ピアノによる演奏は、その響きの多彩さ、豪華さを体感できること、また数多くの名曲の存在に触れること等、ピアノを学ぶ者にとっては大変貴重な音楽的な経験である。短期大学の2年間の学生生活におけるこの経験が学生たちの良い糧になる様、願うばかりである。

●　問題点

特になし

●　改善の方策

特になし

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

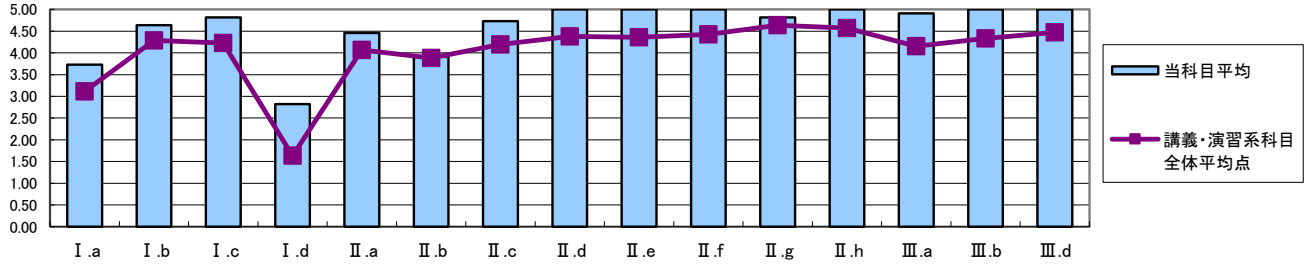
科目名	アンサンブル(ピアノ)ＩＢ
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	12
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.73	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.64	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.82	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.82	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.45	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.91	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.73	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.82	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.91	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.8	4: 27.3
			3: 63.6	2: 9.1
			1: 18.2	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度、アンサンブルＩＢは11名が受講した。内訳は、ピアノコース3名、ピアノ指導者コース3名、声楽専攻、フルート専攻、打楽器専攻、エレクトーン専攻、そして音楽教養専攻が各1名である。受講者の3分の1が社会人であり年齢・学年共に様々であったが、実に和気あいあいと明るいクラスであった。授業では4手連弾を行った。各組ごとに2～3曲の課題を選曲し、練習を重ね学期最終日に行われる録音に向けて仕上げていった。本講義は選択科目であることから、自ずとピアノのアンサンブルに興味がある学生が集合する為か、総じて学ぶ姿勢が大変積極的であった。授業時間以外での「合わせる練習」もよく行われており、教員が学生たちを先導すると言うより、むしろサポートに徹するという状況で授業は展開され、頼もしい限りであった。アンケートの結果において、Ⅱ-bとⅢ-cの２つの項目に着目した。まずⅡ-bでは、受講者のほぼ半数は「難しい」と感じていた。その難しさは十分に自覚し、それを克服するべく努力を重ねたということを再認識できた。Ⅲ-bでは「新しい知識・技能」と「関連分野の学習意欲」の選択者の数が多かった。課題にとり組む際、必ずその作曲者、作品についていくつかのアプローチから調べ、研究することを課しているのだが、この様な経験がきっかけとなり、音楽における知識や興味の引き出しがどんどん増えていくことを願っている。

●　問題点

特になし

●　改善の方策

特になし

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

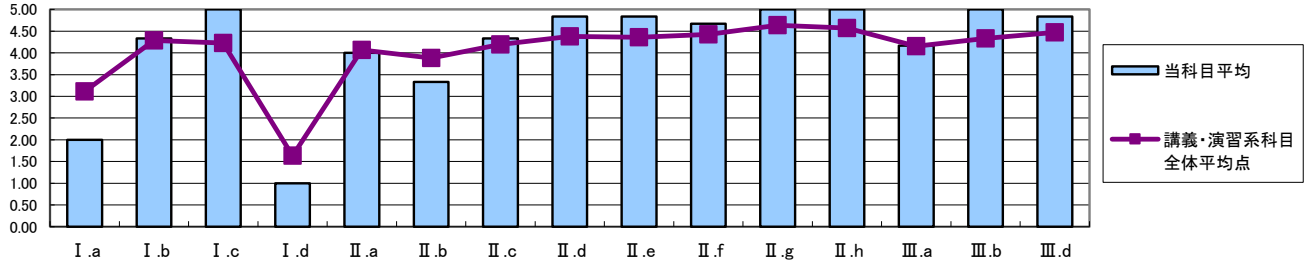
科目名	ソルフェージュ4a
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	8
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.33	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.83	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.83	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.0	4: 16.7
			3: 50.0	2: 50.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

新たにクラス分けテスト（聴音のみ）を行い、２クラスに分けられたうちの上のクラス。後期に再度クラス分けテストを行ったが、下のクラスからの昇格者はいなかった。上のクラスとはいえ、実力差がありそのことは、Ⅱｂの授業の難易度に対する回答に表れている。学生それぞれが到達目標に達することができるよう、時間を有効に使って課題を解かせている。１年次の授業同様、聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本弾き歌いを偏ることなく時間を振り分けている。特に聴音に関しては、個々の添削をていねいにし、よくなった点とこれから努力すべき点を毎回アドバイスをしている。学生たちは大変真面目で、集中力もあり、良く勉強していたと思う。

●　問題点

Ⅰｄは、予習復習をあまり必要としない上のレベルであったともいえるが予習復習の重大さは説いていきたい。

●　改善の方策

なお一層、課題、教材を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義･演習科目系

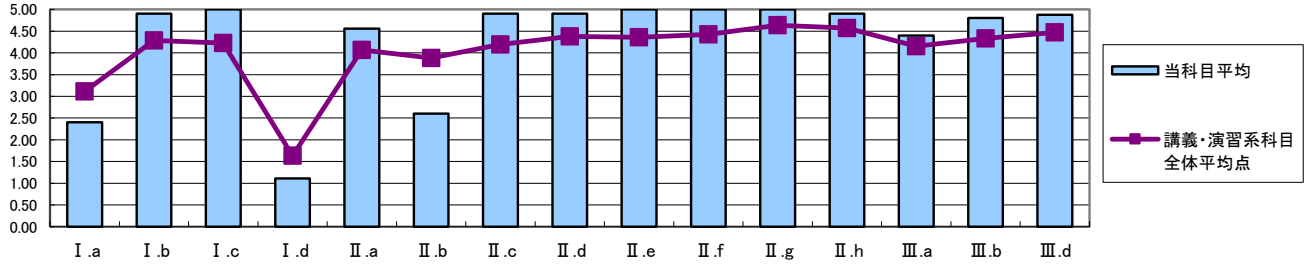
科目名	ソルフェージュ2a
教員名	横山　裕美子

職名	08. 講師

履修者数	10
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.40	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.90	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.11	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.56	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.60	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.90	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.90	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.90	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.80	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 70.0	4: 20.0
			3: 40.0	2: 20.0
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.47

当科目平均点と講義･演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

最初にクラス分けテスト（聴音のみ）を受験、2つに和得られたうちの上のクラス。後期にクラス分けテストを行い、１人が下のクラスから昇格してきた。１年生のソルフェージュクラスは去年までは３クラス制だったが、今年度から２クラスとなり、上のクラスといえども実力差が広がってきたことは否定できない。このことは、Ⅱｂの授業難易度に対する回答にも表れている。全員が最後まで集中力を切らさず、１問でも多くの課題を解けるよう、工夫を重ねた。聴音・新曲視唱・新曲リズム・青本暗譜唱を偏ることなく時間を振り分けている。特に聴音に関しては、苦手意識が強い学生もいるので、個々の添削をていねいにし、良くなった点とこれから努力すべき点を毎回アドバイスをしている。明るい学生が多く、自宅でかなり復習をしていると見うけられる学生もおり、和気あいあいとした雰囲気の中それぞれ着実に力を伸ばしていった。

●　問題点

予習復習の重大さをもっと説いていきたい。

●　改善の方策

なお一層、課題、教材を工夫していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

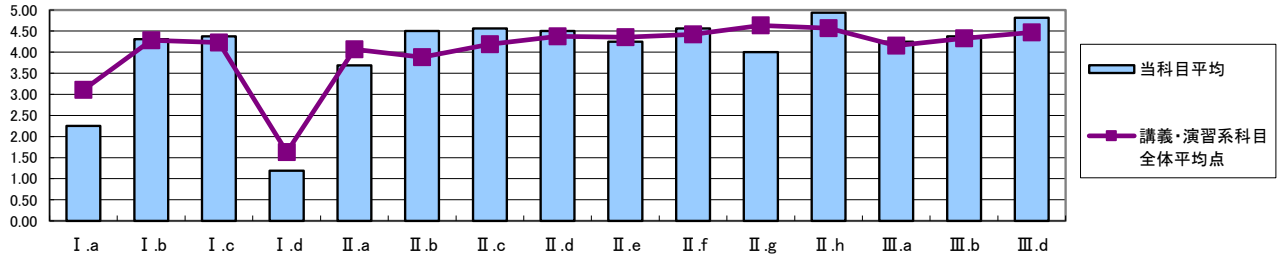
科目名	合唱ＩＢ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	21
回答者数	16

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.25	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.31	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.38	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.19	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.69	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.50	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.56	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.25	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.56	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.94	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.25	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.38	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.25 / 4: 12.50 / 3: 12.50 / 2: 6.25 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



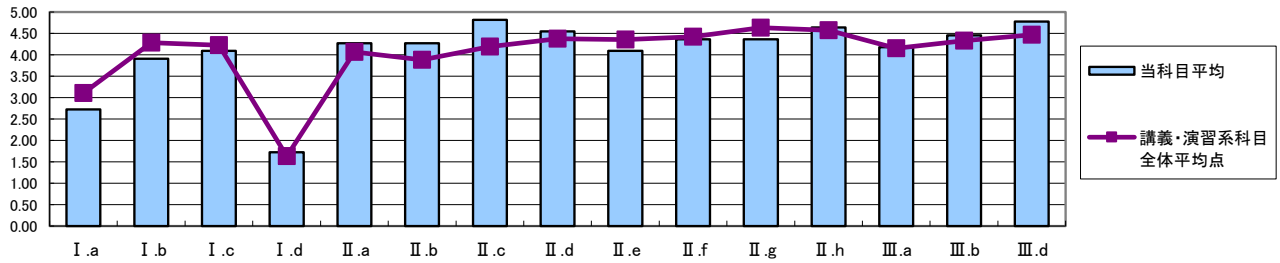
科目名	合唱ⅡＢ
教員名	荻久保　和明

職名	03. 特任教授

履修者数	17
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.73	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.91	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.09	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.73	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.27	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.27	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.82	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.09	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.36	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.36	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.18	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.45	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 45.45 / 4: 36.36 / 3: 27.27 / 2: 27.27 / 1: 18.18	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.78	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

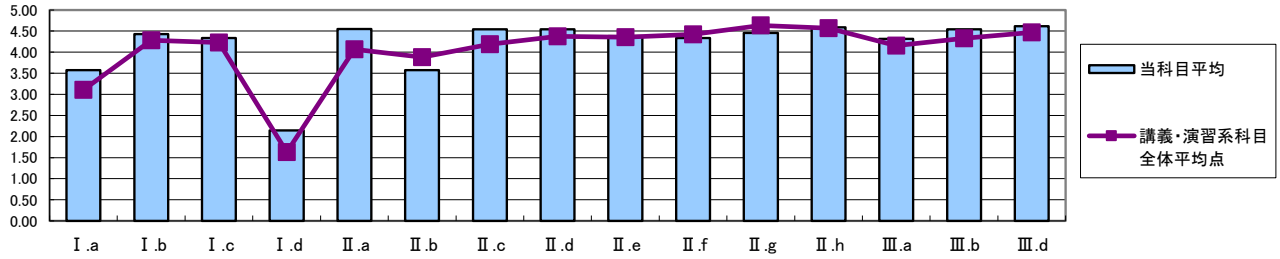
科目名	サウンドクリエーションB
教員名	城之内　ミサ

職名	03. 特任教授

履修者数	31
回答者数	22

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.57	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.43	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.14	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.55	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.57	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.55	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.55	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.38	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.45	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.59	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.32	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.55	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 57.14 / 4: 52.38 / 3: 38.10 / 2: 19.05 / 1: 14.29	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.62	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



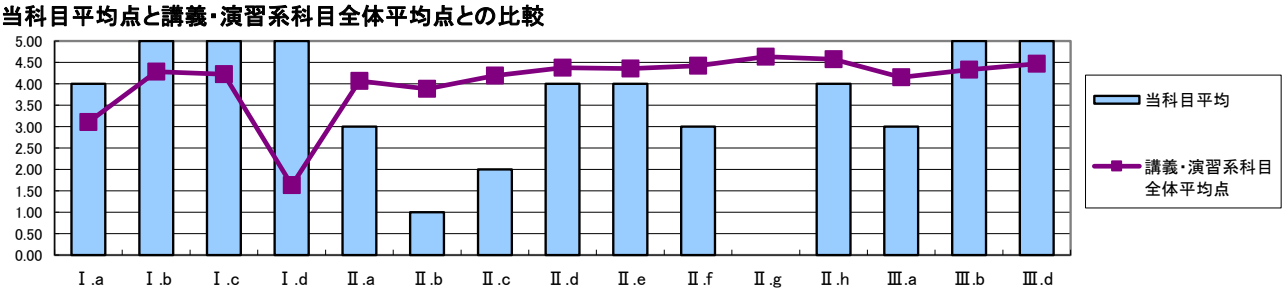
科目名	オーケストラⅡB
教員名	上野　正博

職名	05. 特任准教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	5.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	2.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	3.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	－	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 100.00 / 3: 100.00 / 2: 100.00 / 1: 100.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

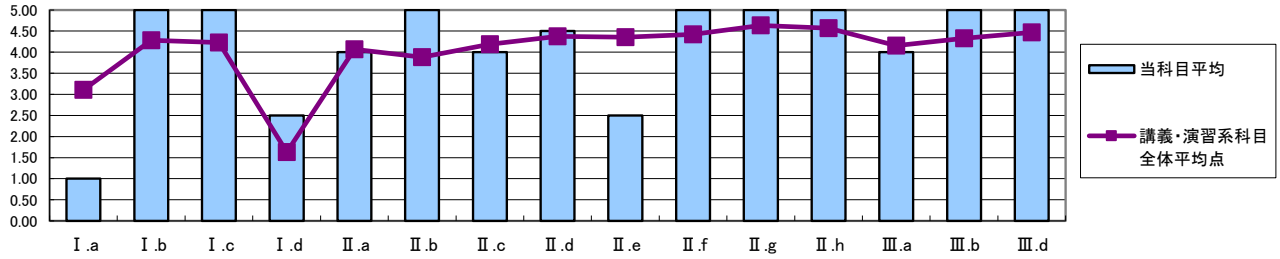
科目名	ウインドオーケストラＩＢ
教員名	福田　洋介

職名	05. 特任准教授

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	2.50	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 50.00 / 3: 100.00 / 2: 50.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



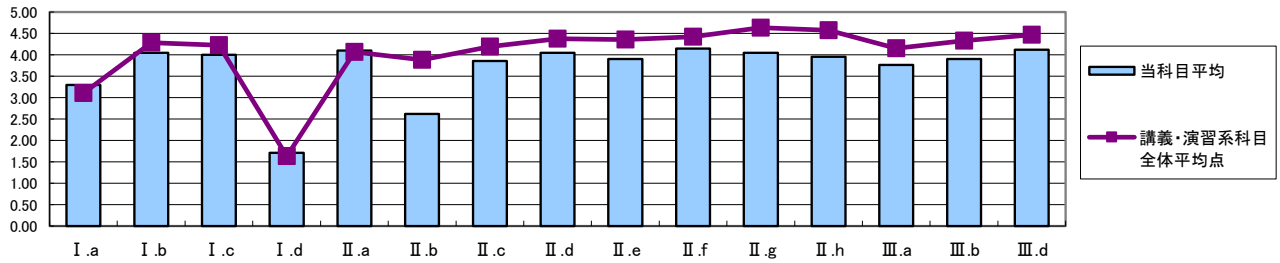
科目名	和声学4
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	21
回答者数	21

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.30	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.05	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.71	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.10	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.62	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.86	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.05	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.90	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.14	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.05	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.95	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.76	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.90	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 30.00 / 3: 40.00 / 2: 15.00 / 1: 5.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.12	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

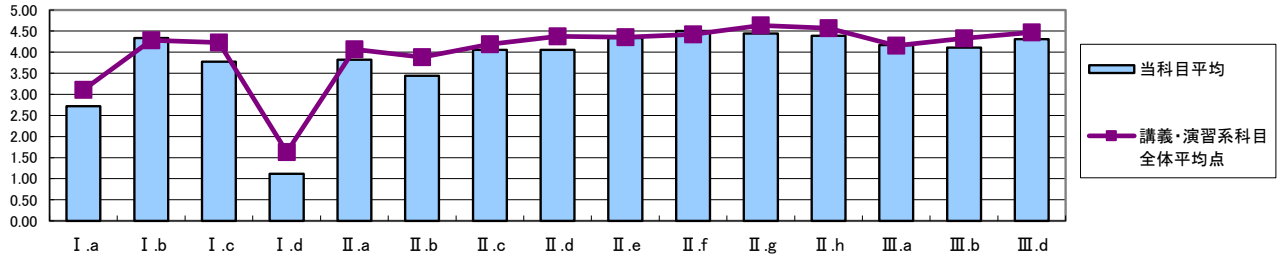
科目名	音楽の基礎理論B
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	21
回答者数	18

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.72	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.33	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.78	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.12	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.82	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.44	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.06	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.06	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.44	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.39	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.17	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.11	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 82.35 / 4: 29.41 / 3: 11.76 / 2: 11.76 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.31	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



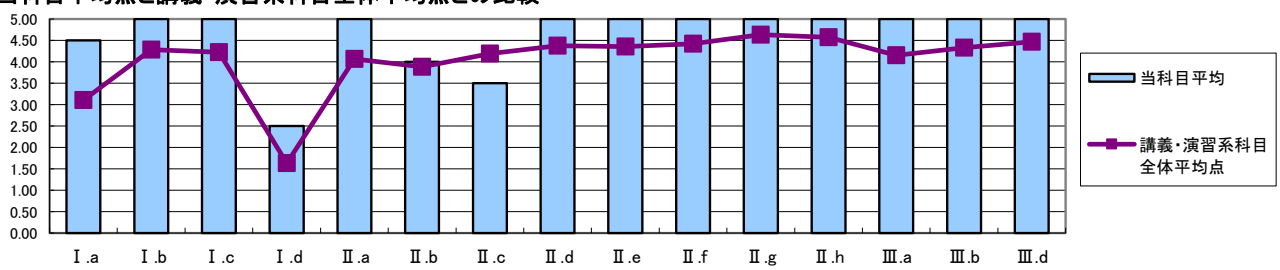
科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕ＩＢ
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.50	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.50	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	5.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 100.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

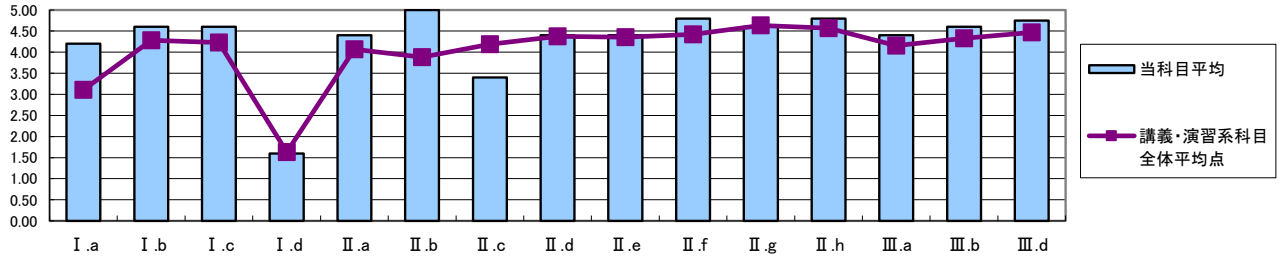
科目名	音楽教養基礎講座〔ソルフェージュ〕ＩＢ
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	5
回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.20	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.60	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.60	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.40	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.40	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.80	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.60	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.80	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.40	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 80.00 / 4: 20.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



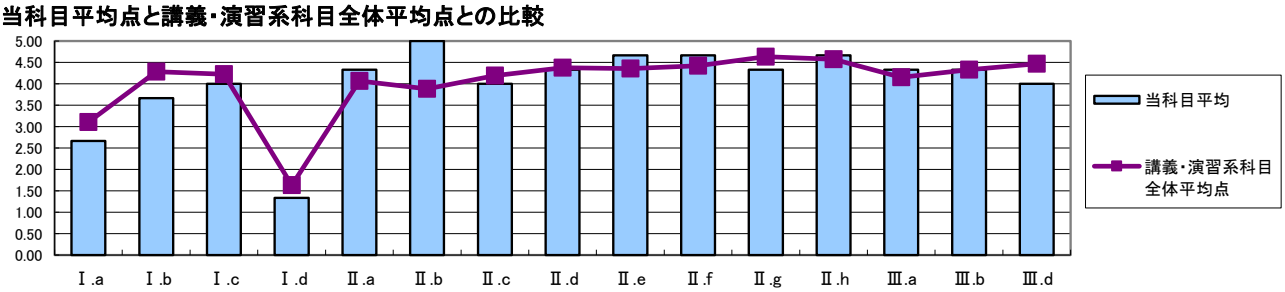
科目名	音楽教養基礎講座〔ソルフェージュ〕ⅡＢ
教員名	新井　雅之

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.67	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.67	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.67	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.67	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 66.67 / 3: 33.33 / 2: 33.33 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較

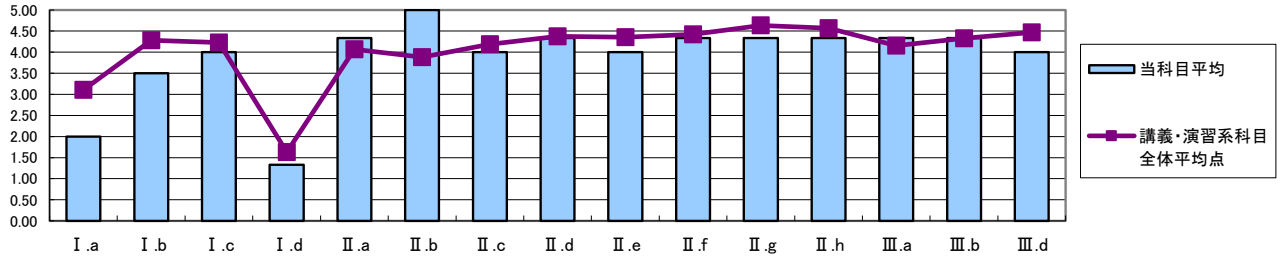


授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

科目名	音楽教養基礎講座〔楽典〕ⅡB	職名	08. 講師	履修者数	3
教員名	新井　雅之			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.33	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.33	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.33	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.33	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.33	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.33	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 33.33 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 33.33	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.00	4.47

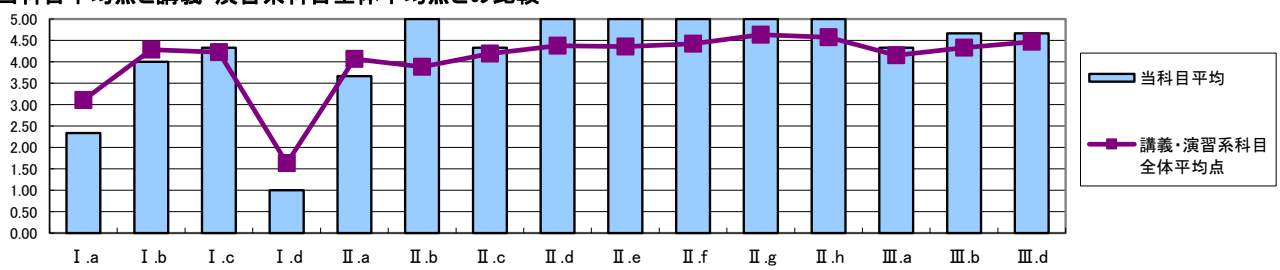
当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



科目名	レッスンマネージメントB	職名	08. 講師	履修者数	5
教員名	有門　真希			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.67	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	5.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.33	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.33	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.67	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 66.67 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

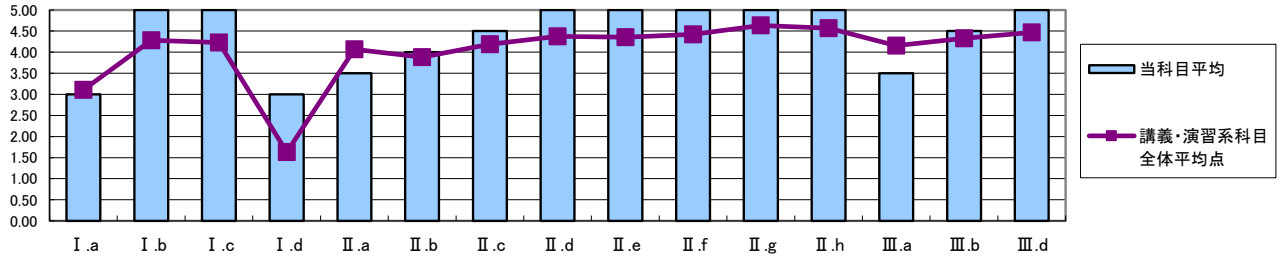
科目名	電子オルガン即興演奏ＩＢ
教員名	長野　洋二

職名	08. 講師

履修者数	3
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	5.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	3.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	3.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.50	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.50	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 50.00 / 3: 0.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



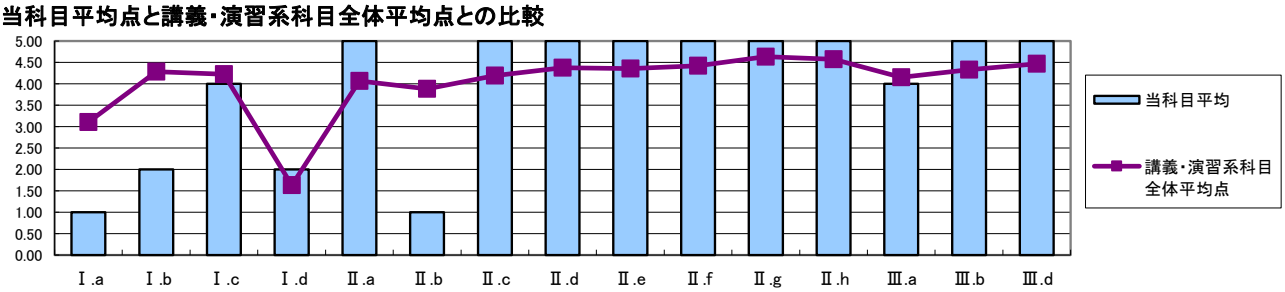
科目名	電子オルガン即興演奏ⅡB
教員名	長野　洋二

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	1.00	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	2.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	2.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	5.00	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	1.00	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	5.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	5.00	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	5.00	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	5.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.00	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	5.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 100.00 / 4: 0.00 / 3: 100.00 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

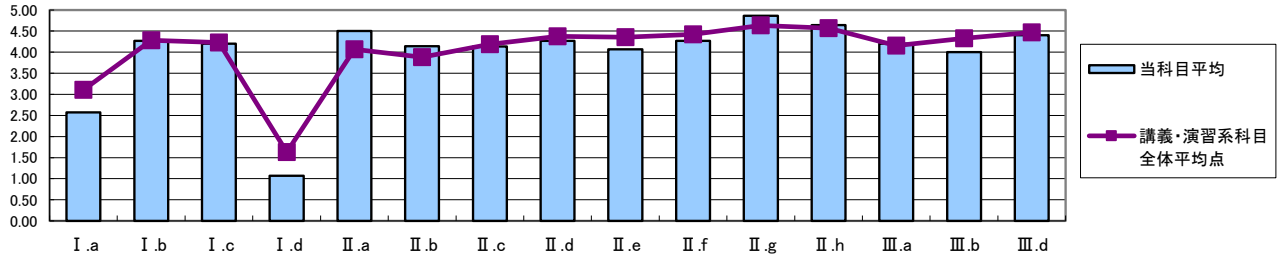
科目名	リトミックＩＢ
教員名	藤原　優里

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.57	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.27	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.20	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.07	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.50	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.14	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.13	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.27	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.07	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.27	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.87	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.64	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.00	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.00 / 4: 57.14 / 3: 21.43 / 2: 14.29 / 1: 21.43	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



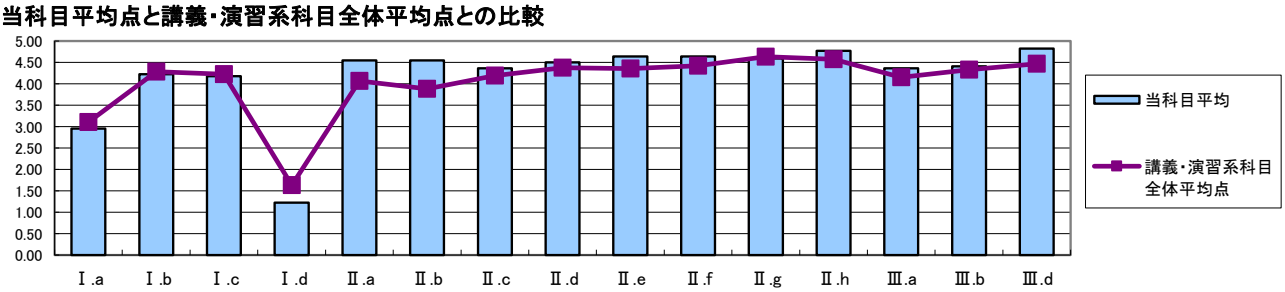
科目名	音楽史Ｂ
教員名	山下　暁子

職名	08. 講師

履修者数	23
回答者数	22

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.95	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.23	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.18	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.23	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.55	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.55	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.36	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.64	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.64	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.59	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.77	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.36	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.41	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.91 / 4: 36.36 / 3: 45.45 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.82	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



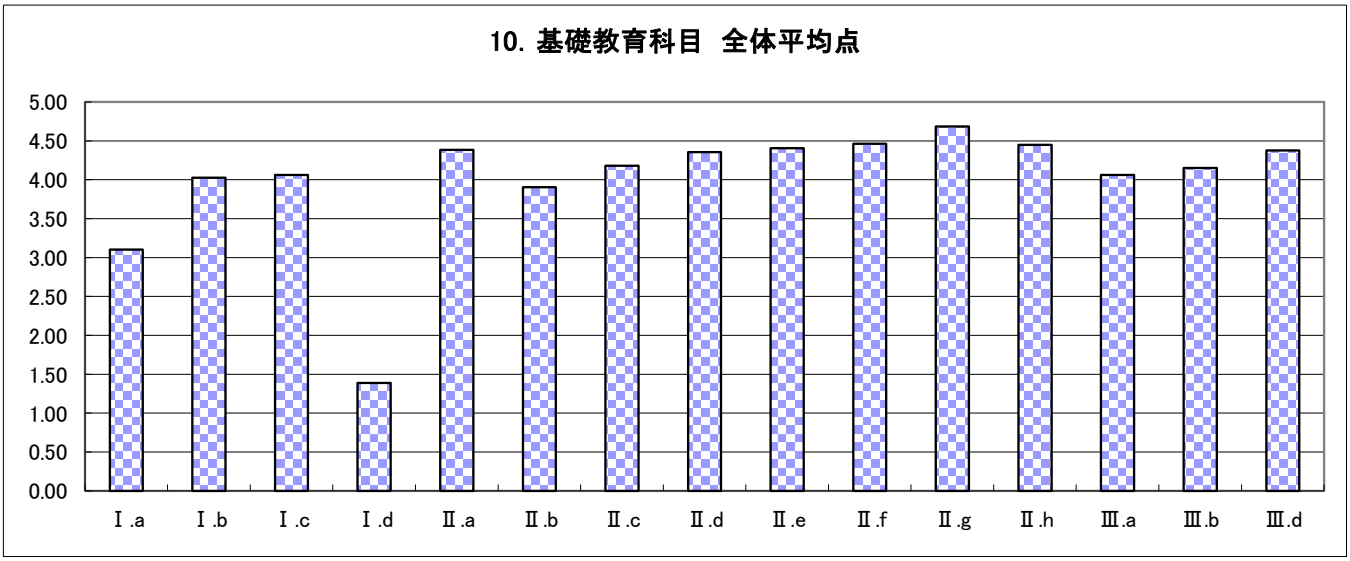
基礎教育科目

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

専攻	10. 基礎教育科目
科目数	11

履修者数	180
回答者数	146

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.10	35	29	32	12	36	144	2
				24.3	20.1	22.2	8.3	25.0		
	b	この授業の出席は良好であった。	4.03	72	37	14	12	10	145	1
				49.7	25.5	9.7	8.3	6.9		
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.06	60	48	28	4	5	145	1
				41.4	33.1	19.3	2.8	3.4		
	d	1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.39	5	1	10	13	116	145	1
				3.4	0.7	6.9	9.0	80.0		
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.38	86	27	29	1	0	143	3
				60.1	18.9	20.3	0.7	0.0		
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.90	15	24	91	6	10	146	0
				10.3	16.4	62.3	4.1	6.8		
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.18	70	38	32	3	2	145	1
				48.3	26.2	22.1	2.1	1.4		
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.36	78	41	22	1	1	143	3
				54.5	28.7	15.4	0.7	0.7		
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.40	87	39	15	2	3	146	0
				59.6	26.7	10.3	1.4	2.1		
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.46	90	37	15	1	2	145	1
				62.1	25.5	10.3	0.7	1.4		
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.68	112	25	7	1	1	146	0
				76.7	17.1	4.8	0.7	0.7		
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.45	99	26	11	4	5	145	1
				68.3	17.9	7.6	2.8	3.4		
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.06	55	53	32	4	2	146	0
				37.7	36.3	21.9	2.7	1.4		
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.15	70	43	23	5	5	146	0
				47.9	29.5	15.8	3.4	3.4		
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)	–	83	56	32	21	28	141	5
				58.9	39.7	22.7	14.9	19.9		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.38	67	26	12	5	1	111	35
				60.4	23.4	10.8	4.5	0.9		



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

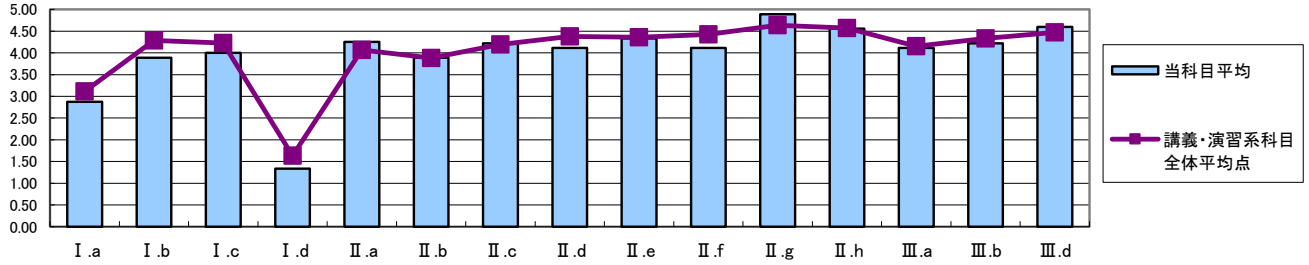
科目名	法と経済(日本国憲法を含む)B
教員名	川端　敏朗

職名	02. 教授

履修者数	12
回答者数	9

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.88	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.89	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.33	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.89	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.22	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.11	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.33	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.11	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.89	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.56	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.11	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.22	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 55.6	4: 77.8
			3: 33.3	2: 11.1
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.60	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本科目は，２年生の履修科目であり、学生の履修態度は真摯で熱心である。本科目では，法の基本的な概念について概説したうえで，日本国憲法の基本的な問題点や経済生活に関連する法について取り扱っている。講義内容は多岐にわたり，様々な角度から考察するものであったが，学生たちは興味をもって授業に臨んでくれた。履修者緒のコメントでは、法律を身近に感じることができてよかった，毎回プリントがあったのがありがたかったという意見があった。また、最近の新聞記事なども含めて、多くの資料を配っていただき身近に様々なことが動いていることを実感でき，説明が分かりやすかったといった意見があった。多くの配布資料や映像に触れつつ行った授業であったことや，様々な内容について取り扱ったために，学生たちが興味をもつことができたようである。

●　問題点

アンケートの結果から，学生個人が予習および復習にかける時間がやや不十分であったように見受けられるところが残念である。

●　改善の方策

予習や復習によって，理解が容易になるだけではなく，学生自身の今後の生活にも有用なものになるため、その重要性について更に指摘していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

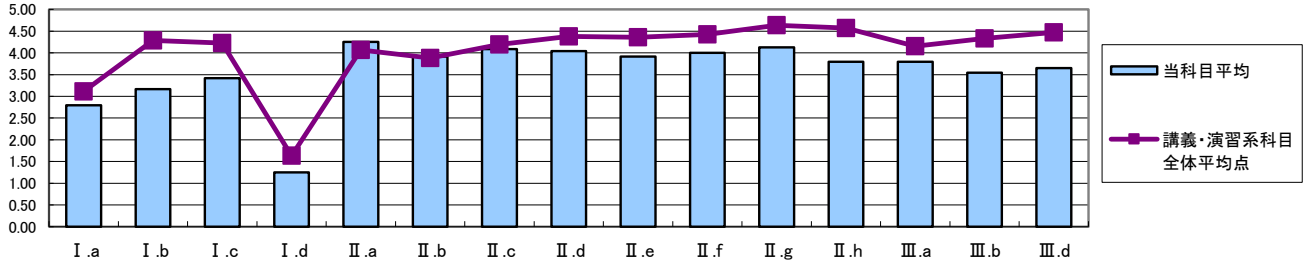
科目名	東邦スタンダードⅡB
教員名	岩間　丈正

職名	04. 准教授

履修者数	27
回答者数	24

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.79	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	3.17	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.42	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.25	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.25	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.92	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.08	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.04	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	3.92	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.00	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.13	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.79	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.79	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.54	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 28.6	4: 47.6
			3: 0.0	2: 23.8
			1: 23.8	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.65	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

短大2年生は就職に直結しているためキャリア関連の授業は重要である。学生は興味深く授業に参加していた。設問Ⅲは回答が5～3に集中しているため、学生の教員と外部講師に対する印象は悪くないと思われる。　短期大学のスタンダードはシラバスに沿ったテキストを使用するため、ほぼシラバス通りに授業を進められた。

●　問題点

キャリアについての授業は、音楽教員よりキャリア支援職員の方が適切な授業が出来ると思われるため、今年度はキャリア支援センターと連携して授業を進めたい。　学生はキャリアに直結した内容には興味を示すが、かかわりが薄いと、あまり興味を持たない。欠席する学生もいる。

●　改善の方策

キャリア支援センターとの連携を密にして、学生の就職に寄り添った授業にしたいと思う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

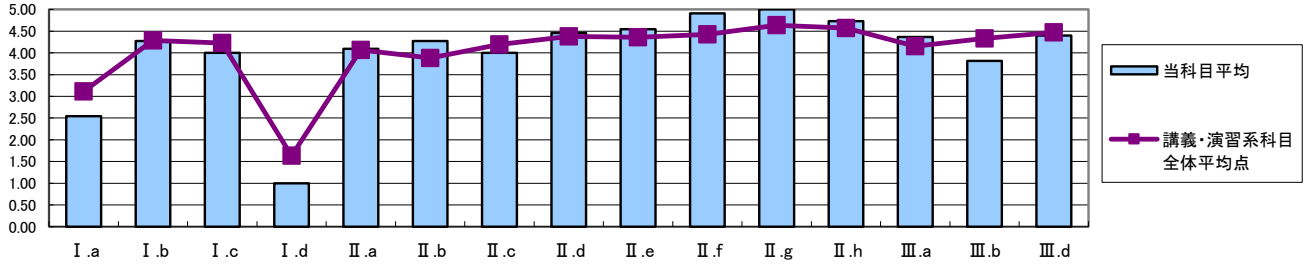
科目名	東邦スタンダードＩＢ
教員名	小林　律子

職名	04. 准教授

履修者数	18
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.55	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.27	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.09	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.27	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.00	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.45	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.55	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.91	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.73	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.36	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.82	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 54.5	4: 36.4
			3: 9.1	2: 18.2
			1: 36.4	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.40	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度、1年次生の東邦スタンダードを担当した。履修者数14名と小規模なクラスであったが、学生1人1人とコミュニケーションがとれたのではないか、と思っている。ほとんどが出席良好、授業とは関係のない私語もなく、授業に臨む姿勢も大変良いクラスであった。1年次のスタンダードでは、学生生活に必要なマナーや考え方だけでなく、広く社会における様々な制度も学ぶ態勢となっており、学生にとっては大変重要な知識を得る場となっていると思われる。また、週の中日である水曜日の1限目に授業が設定されていることにより、学生には時間に対する自己管理の意識が求められる為、やはり社会に出て行く上で必要な自己管理の習慣が身につくのではないだろうか。アンケートにおいてまず着目した項目は、Ⅲ-cであった。新しい知識、新しいものの見方と並んで、コミュニケーション能力向上の選択者が多かったことに関心を持った。授業内ではグループワークを機会がある度に実施してるのだが、初めのうちは人と関わるのが得意ではない様子の学生も、グループでのディスカッションを重ねることで自然と人との輪の中に入り意見を発表できる様になっていく。これは正しく、この様なクラス授業における大きなプラス面であることがアンケートの結果において証明されている。同じ項目の中の(3)関連分野の学習意欲の伸びがもう少しほしいところではある。いろいろな分野からのアプローチが存在する授業なので、興味の引き出しがどんどん増えていく様になるといい。理想である。

●　問題点

特にないが、受け身ではなく、学生からのより積極的な興味と関心が引き出せる授業展開を工夫したい。

●　改善の方策

特になし

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

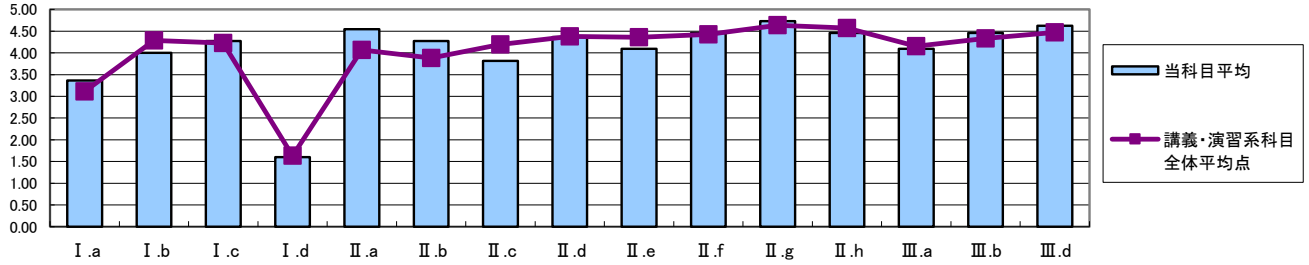
科目名	ひとを読み解く科学B
教員名	三室戸　元光

職名	04. 准教授

履修者数	15
回答者数	11

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.36	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.00	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.27	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.60	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.55	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.27	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.82	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.36	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.09	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.45	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.73	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.45	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.09	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.45	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 45.5	4: 36.4 / 3: 18.2 / 2: 18.2 / 1: 27.3
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.63	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

①科目の目的：『ひと』とは何か、『ひとの性格（キャラクター又はパーソナリティ）』とは何か、を理解することは、人間心理の中核を理解しようとすることであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は心理学を学ぶ人間にとって身近な問題です。ただ、そのためには単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠（＝心理学的な知識や考え方）が必要となります。この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、自分や「ひと」を多面的に理解する方法とその結果について、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。②授業の内容：心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応（感情、願望）への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』、それを認識できるようにしていきます。③授業形態：授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝える・相手にくわしく質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。④受講者数：15名在籍のうち回答は11名（社会人４名含む）である。⑤受講者の状況：2年生が半数以上。1年生と社会人（４名）は通年受講が多い。⑥集計結果の分析：全体平均値との比較を行った場合、「0.5p以上低い値」の項目は、「この授業の出席は良好【やや悪い】」「1回の授業のために平均どのくらい予習復習しましたか【1.1h以下】」「開講時に成績評価の基準が明示されていた【やや不明確】」「配布物は内容を理解する上で効果的【やや悪い】」「関連分野の学習意欲【低】」「新しいものの見方【低】」「新しい知識・技能【低】」の6項目である。このうち特に低い（1.0p）のは、「開講時に成績評価の基準が明示されていた」「配布物は内容を理解する上で適切」「関連分野の学習意欲」「新しい知識・技能」の4項目である

●　問題点

教員と学生の意識のズレ：社会人学生と現役学生とのギャップが大きく、現役学生は出席状況が低くなっており、それに対応した前期Ａの授業でお互いにコミュニケーション能力が高まるような指導をした上で、その学生が継続受講していることで効果が現れるようにした。それでも成績評価基準があいまいであるとか、配布物が内容理解に効果的ではなかった、という報告がされていた。また、関連分野の学習意欲を高めるかどうかが疑問視されている。新しい知識や技能が希薄であるという指摘も、次年度への反省点であろう。

●　改善の方策

短大は授業時間が短いこと、世代間ギャップも大きいことを配慮して、できるだけ単純化した解説や評価を行ったことが出席意欲や新規学習の意欲をそいだかもしれない。次年度は内容を刷新して、大学で用いている教材などを授業で使用して、学生に学習を進めてもらえるようにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

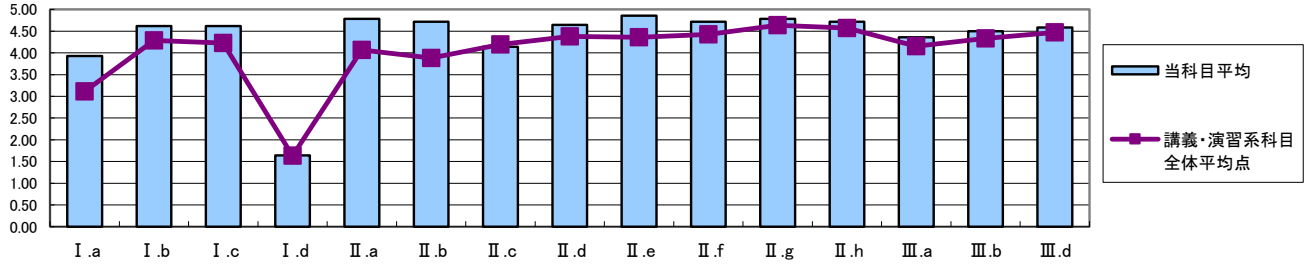
科目名	健康と音楽B
教員名	佐々木　和佳

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	14

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.93	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.62	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.62	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.64	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.79	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.71	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.14	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.64	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.86	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.71	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.79	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.36	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.50	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 71.4	4: 28.6
			3: 35.7	2: 7.1
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.58	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

様々な障害・疾患の方への音楽療法や音楽で関わる際の目的・音楽の使い方について深く理解することを目的とし、音楽療法の歴史、各領域（高齢者、ホスピス・緩和ケア、精神科、障害児・者）における音楽療法について紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数18名。開講は水曜日の2時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。　Ⅰ-a“この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか”について「強くそう思う、ある程度そう思う」71.5%、「どちらとも言えない」14.3%、「あまりそう思わない」7.1%、「全くそう思わない」7.1%だった。Ⅰ-d“予習・復習の時間”について、「5時間以上」7.1%、「4時間」0%、「3時間」14.3%、「2時間」7.1%、「1時間未満」71.4%だった。Ⅱ-a“授業はシラバスに沿って行われていたかに”ついて「強くそう思う、ある程度そう思う」92.8%、「どちらとも言えない」7.1%だった。Ⅱ-b“この授業の難易度”について、「難しい」0%、「やや難しい」14.3%、「適切」85.7%だった。Ⅱ-c“開講時に成績評価の基準が明確に示されていたか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」71.4%、「適切」21.4%、「あまりそう思わない」7.1%だった。Ⅱ-d“授業の進め方が分かりやすかったか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」が100%だった。Ⅲ-a“開講時に示された到達目標を充分に達成できたか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」92.9%、「どちらとも言えない」7.1%だった。Ⅲ-c“この授業を履修して自分のためになったこと”について、「新しい知識・技能」71.4%、「新しいものの見方」28.6%、「関連分野の学習意欲」35.7%、「問題発見・解決能力」7.1%、「コミュニケーション能力向上」0%だった。

●　問題点

シラバスの活用については、初回授業時にシラバスを配布し各回の内容を紹介し、また毎回の授業の開始時にはその日の内容と、終了時には次回の内容と予習について説明していたが、約30%の学生は活用していなかったことがわかった。成績評価の基準について、約30%の学生は明確なものとはとらえていなかったことがわかった。

●　改善の方策

毎回の授業内において各回の内容についてシラバスをもとに確認し、またシラバスを活用しながら予習や復習ができるような課題を果たし、発表等を通して予習・復習したことが授業内で活かされるようにする。成績評価の基準については、すべての学生に分かりやすいように説明を行う。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

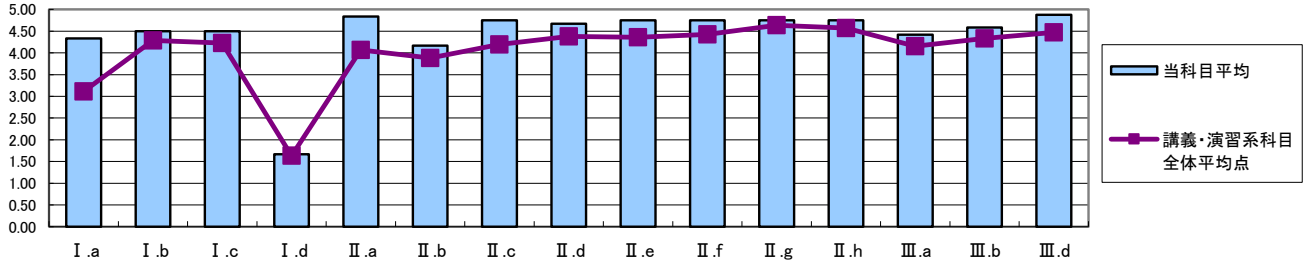
科目名	社会福祉概論(老人・児童福祉を含む)B
教員名	佐々木　和佳

職名	08. 講師

履修者数	14
回答者数	12

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	4.33	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.50	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.67	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.83	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.17	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.75	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.67	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.75	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.75	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.75	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.42	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.58	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 81.8	4: 54.5
			3: 18.2	2: 9.1
			1: 0.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.88	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

社会福祉に関する基本的な知識を身につけるとともに、我が国や諸外国の福祉の現状を通して、身近な出来事として考えることを目的とし、様々な施策や社会福祉に携わる人たちの仕事内容等を紹介。授業は講義形式で行い、より理解を深めるためにDVD等の視聴覚教材を使用。受講者数14名。開講は水曜日の3時限目。受講者は現役生と社会人入学生と年齢の幅が広い。　Ⅰ-a“この授業を履修するにあたって、シラバスを活用したか”について「強くそう思う、ある程度そう思う」83.4%、「どちらとも言えない」8.3%、「全くそう思わない」8.3%だった。Ⅰ-c“熱意を持って積極的に取り組んだか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」91.6%、「どちらとも言えない」8.3%だった。Ⅰ-d“1回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしたか”について、「3時間」16.7%、「2時間」33.3%、「1時間未満」50%だった。Ⅱ-a“授業はシラバスに沿って行われたか”について、「強くそう思う」91.7%、「どちらとも言えない」8.3%だった。Ⅱ-b“授業の難易度”について、「難しい」8.3%、「やや難しい」8.3%、「適切」75%、「易しい」8.3%だった。Ⅱ-d“授業の進め方は分かりやすかったか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」91.7%、「どちらとも言えない」8.3%だった。Ⅲ-a“開講時に示された到達目標を充分に達成できたか”について「強くそう思う、ある程度そう思う」91.6%、「あまりそう思わない」8.3%だった。Ⅲ-b“授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだったか”について、「強くそう思う、ある程度そう思う」91.7%、「どちらとも言えない」8.3%だった。Ⅲ-c“この授業を履修して自分のためになったことは何か”について、「新しい知識・技能」81.8%、「新しいものの見方」54.5%、「関連分野の学習意欲」18.2%、「問題発見・解決能力」9.1%だった。

●　問題点

シラバスの活用については、初回授業時にシラバスを配布し各回の内容を紹介し、また毎回の授業の開始時にはその日の内容と、終了時には次回の内容と予習について説明していたが、約17%の学生は活用していなかったことがわかった。授業の難易度について、「適切」との回答が75%だったのに対し、「難しい・やや難しい」約17%、「易しい」約8%と授業を受ける側の受け取り方に開きがあることがわかった。

●　改善の方策

毎回の授業内において各回の内容についてシラバスをもとに確認し、またシラバスを活用しながら予習や復習ができるような課題を果たし、発表等を通して予習・復習したことが授業内で活かされるようにする。授業内で扱う内容や説明の仕方を工夫し、理解しやすく今後に役立つことを学べる授業になるようにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

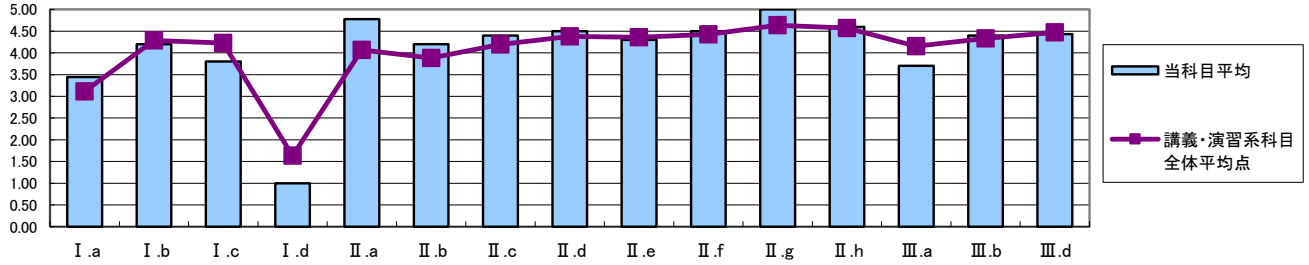
科目名	現代の心理学(発達心理を含む)B
教員名	徳富　政樹

職名	08. 講師

履修者数	13
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.44	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.20	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.80	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.78	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.40	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.30	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.50	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.60	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.70	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.40	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 50.0	4: 70.0
			3: 30.0	2: 30.0
			1: 10.0	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.43	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本講義は心理学初学者向けのものである。初めて心理学の話を聞くという人のためにできるだけわかりやすくを心がけて授業に臨んだ。受講者数は13人で、木曜日の1限目という1週間の疲れが出やすい時間ではあったが概ね出席は良好であった。

●　問題点

高等学校までは心理学の話をまとまって聞くという機会はまずなかったと思われる。従って、より多くの人が理解できるようできるだけわかりやすく解説をするというのがこの授業の最も重要な点だと考えている。しかし、「難しい」「やや難しい」という感想をもつ学生が3割いることから、まだまだその目標は達成できていないと考える。

●　改善の方策

重要なのは授業の最後のまとめをいかに充実させるかにあると考える。これまでは50分という時間いっぱいいっぱいでプランをしていたが、残り5分はフォローアップの時間とし、その日に登場した重要事項や専門用語を復習することにする。

授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

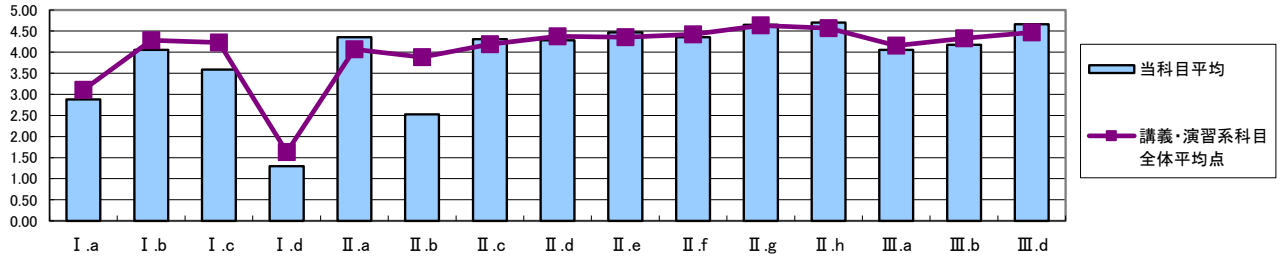
科目名	ドイツ語圏異文化コミュニケーション2
教員名	高橋　幸雄

職名	03. 特任教授

履修者数	19
回答者数	17

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.88	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.06	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	3.59	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.29	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.35	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	2.53	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.31	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.29	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.47	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.35	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.65	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.71	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.06	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.18	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 76.47 / 4: 11.76 / 3: 29.41 / 2: 0.00 / 1: 0.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



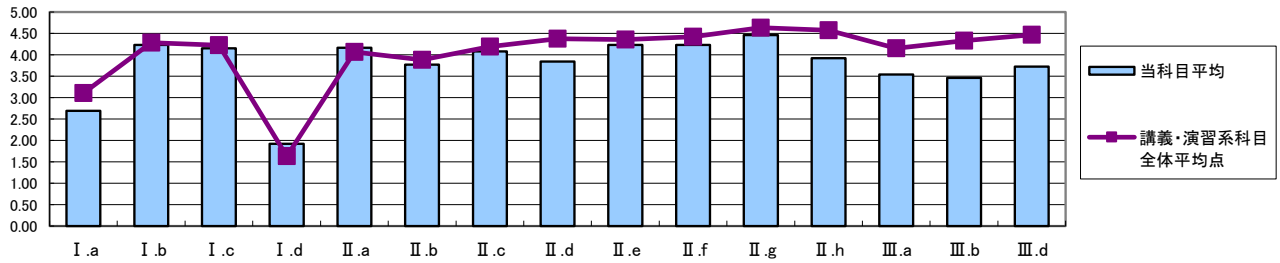
科目名	英語圏異文化コミュニケーション2
教員名	レンツ　I. K.

職名	04. 准教授

履修者数	15
回答者数	13

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.69	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.23	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.15	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.92	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.17	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.77	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.08	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	3.85	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.23	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.23	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.46	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	3.92	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	3.54	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	3.46	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 46.15 / 4: 15.38 / 3: 23.08 / 2: 7.69 / 1: 30.77	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	3.73	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果　講義・演習科目系

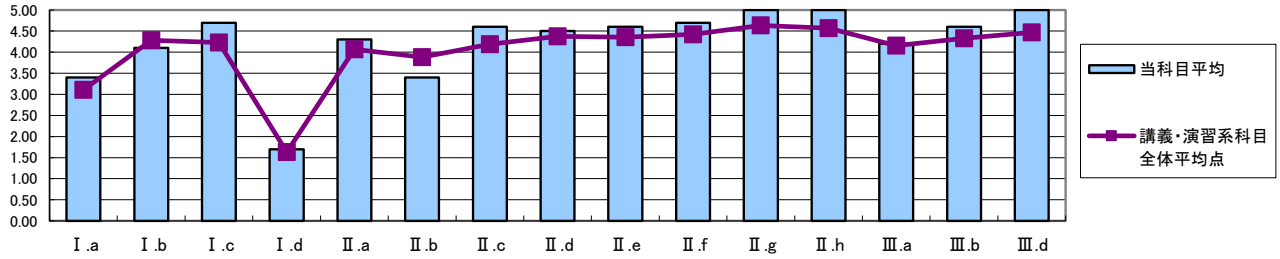
科目名	イタリア語圏異文化コミュニケーション2
教員名	エレオノーラ ブルンド

職名	08. 講師

履修者数	11
回答者数	10

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	3.40	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.10	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.70	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.70	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.30	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	3.40	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	4.60	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.50	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.60	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.70	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	5.00	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.20	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.60	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 90.00 / 4: 20.00 / 3: 40.00 / 2: 0.00 / 1: 30.00	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



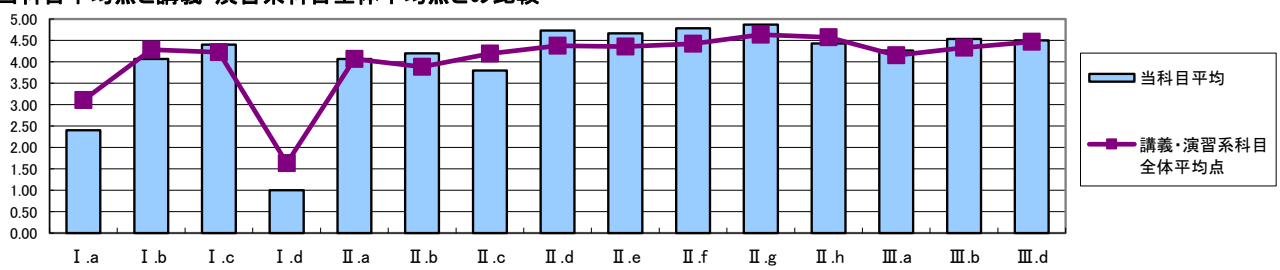
科目名	キャリアデザイン
教員名	キャリア支援センター

職名	08. 講師

履修者数	18
回答者数	15

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業を履修するにあたってシラバスを活用した。	2.40	3.11
	b	この授業の出席は良好であった。	4.07	4.28
	c	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.40	4.23
	d	１回の授業のために、平均どのくらい予習、復習をしましたか。	1.00	1.63
Ⅱ	a	この授業はシラバスに沿って行なわれていた。	4.07	4.07
	b	この授業の難易度はどうでしたか。	4.20	3.88
	c	開講時に成績評価の基準が明確に示されていた。	3.80	4.19
	d	この授業の進め方は丁寧で、説明・板書等は分かりやすかった。	4.73	4.38
	e	教科書や資料は内容を理解するうえで効果的であった。	4.67	4.36
	f	授業内外における質問や相談への対応は適切だった。	4.79	4.42
	g	授業回数や時間は守られていた。	4.87	4.63
	h	この授業に対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.43	4.57
Ⅲ	a	開講時に示された到達目標を充分に達成できた。	4.27	4.16
	b	授業内容は学習意欲を刺激し興味深いものだった。	4.53	4.33
	c	この授業を履修して自分のためになったことは何ですか。（複数回答可）	回答率	
			5: 64.29 / 4: 57.14 / 3: 28.57 / 2: 35.71 / 1: 57.14	
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.50	4.47

当科目平均点と講義・演習系科目全体平均点との比較



東 邦 音 楽 大 学 大 学 院

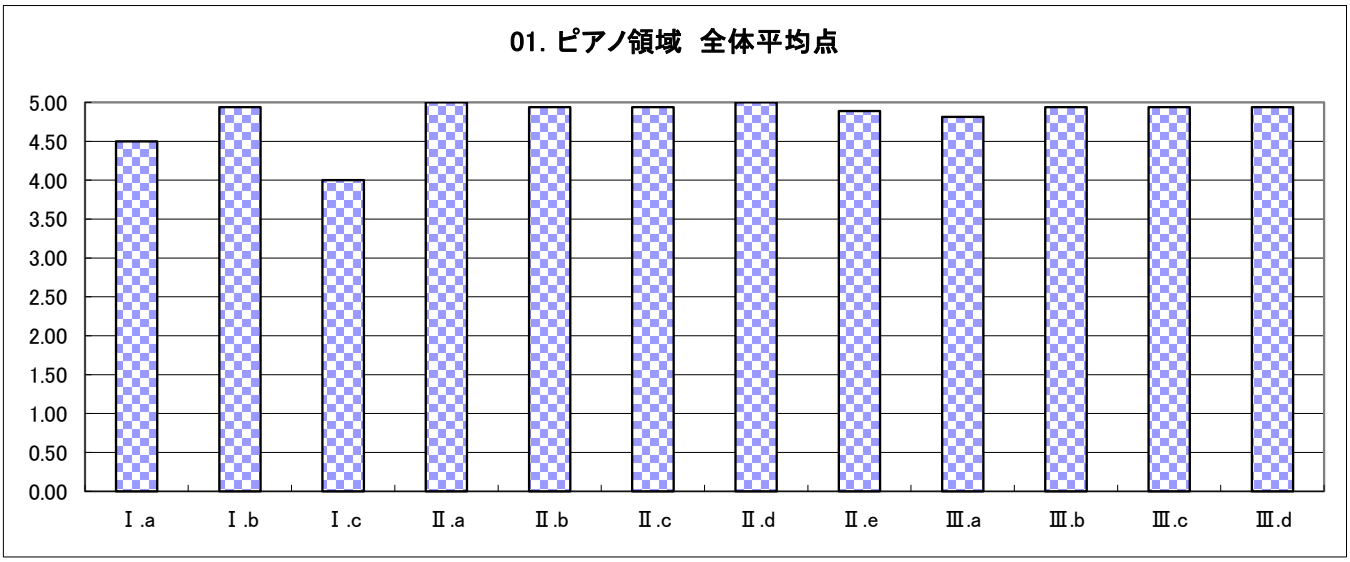
ピアノ領域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	01. ピアノ領域
科目数	8

履修者数	16
回答者数	16

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	12	2	0	2	0	16	0
				75.0	12.5	0.0	12.5	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.94	15	1	0	0	0	16	0
				93.8	6.3	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	7	5	2	1	1	16	0
				43.8	31.3	12.5	6.3	6.3		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	16	0	0	0	0	16	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.94	15	1	0	0	0	16	0
				93.8	6.3	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.94	15	1	0	0	0	16	0
				93.8	6.3	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	16	0	0	0	0	16	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.89	8	1	0	0	0	9	7
				88.9	11.1	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.81	13	3	0	0	0	16	0
				81.3	18.8	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.94	15	1	0	0	0	16	0
				93.8	6.3	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.94	15	1	0	0	0	16	0
				93.8	6.3	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.94	15	1	0	0	0	16	0
				93.8	6.3	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

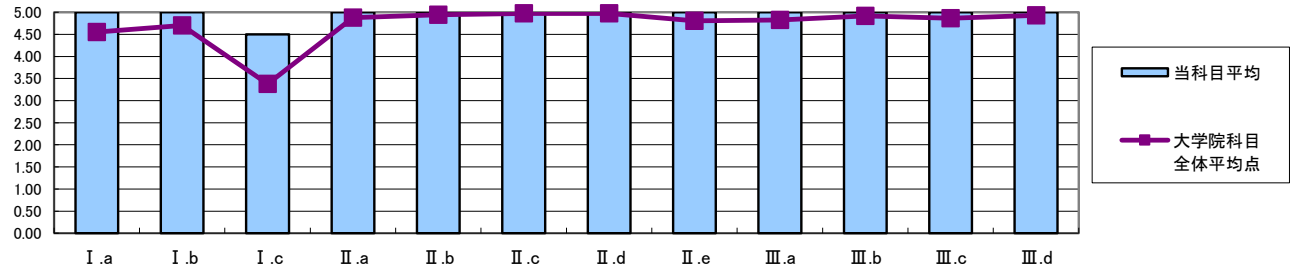
科目名	ピアノ特別演習
教員名	浦川　玲子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.50	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

レッスンの現状としては概ね順調な展開であり、履修者は自分の課題に対して真摯に取り組んでいる。１年次生は実技の研鑽に加えて自らの研究テーマの創出、２年次生は修士論文の執筆にも多大な労力を費やし、担当教員として最大限に助力した。

●　問題点

大学院生としての自覚を持ち、意欲的に研究・練習に励んでいる。

●　改善の方策

学生一人一人に常に寄り添う姿勢が大切であると考える。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

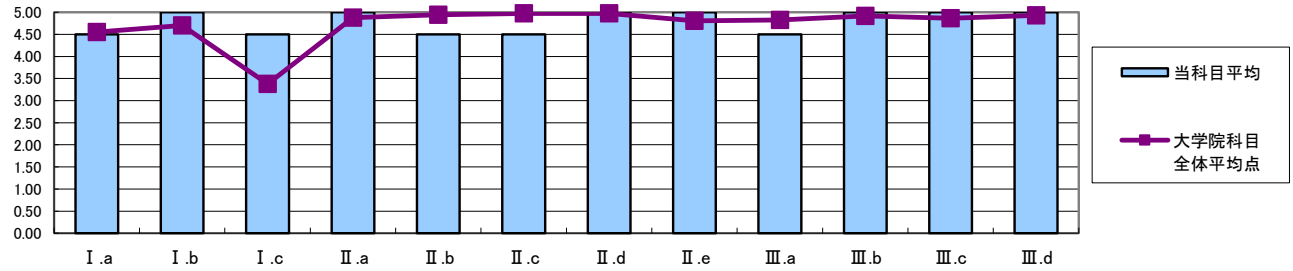
科目名	ピアノ特別演習
教員名	太田　幸子

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.50	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.50	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.50	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.50	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.50	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２０１９年、留学生２名担当。留学生は休暇が出来ると、直ぐに中国に帰国したり、海外旅行が習慣のようになっている。２年目に入り、学部からの学生が、語学能力が高く、いろいろ気配りも出来るため、大学の授業科目である、東邦スタンダード、楽典、又声楽国際コンクールの通訳等々、自分の研究時間をさき、通訳として活躍している姿に関係者一同、感謝しておりました。大学院からの学生を、透明感ある音色、誠実さが感じられる音楽性、又仲間と会話が自由になり、人間的にも大きな成長が見られた。

●　問題点

大学院は、後期に、論文・学位審査修了演奏会等で、集中力が必要ですが、前半の計画の立て方で、余裕を持って修了する事が出来たでしょう。

●　改善の方策

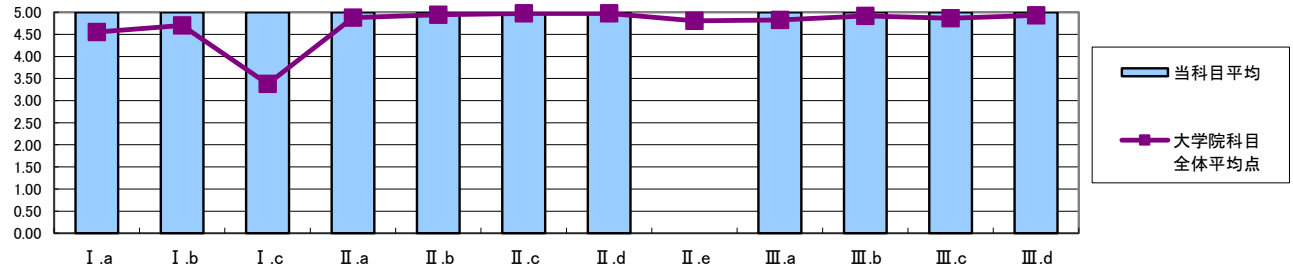
東邦音楽大学の留学生会にとり、2人の存在は大変偉大で、後輩達の良き指針になりました。今後は誇りを持ち社会で大きく成長して欲しいと願っております。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	ピアノ特別演習	職名	08. 講師	履修者数	1
教員名	國谷　尊之			回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	–	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

２０１９年度は、大学院ピアノ特別演習のレッスンを、１年次１名担当した。研究の進め方については詳しく時間をかけて会話し、演奏する楽曲の構成・和声分析などを積極的に取り入れ、来年度の研究へとつなげることを企図した。大学院1年次生演奏会、ウィーン研修の学修成果も満足行くものであった。

●　問題点

履修者が１名であるので、アンケートの数値には表れにくいと考えられるが、実際に授業を進めている中で大きな問題は生じていない。

●　改善の方策

今年度の成果を修士論文と演奏につなげられるよう努めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

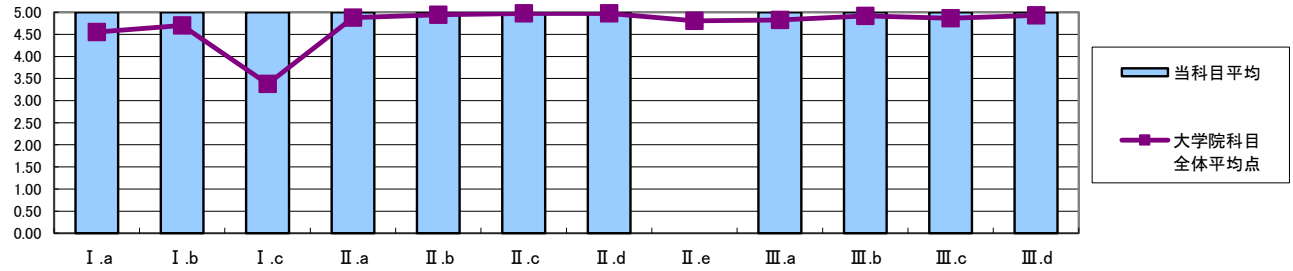
科目名	ピアノ特別演習
教員名	小林　律子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	–	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

今年度、大学院2年次生1名の専攻実技を担当した。大変目的意識の高い院生であり、年間の計画をきちんと立て、それをひとつずつ確実に実行するタイプであった。その際、必ず担当教員である私に意見を求め、自らの意志に客観性を付加することを忘れなかった。自分に必要なものは何か、どの様に学べばいいのか、常に行動の根幹には深い志向性が認められ、その姿勢には感心させられた。大学院の2年間、特に2年目である今年度は大変充実したものとなった。コンクールでも良い結果を得られたし、修士論文も高い評価を得ることができた。何よりも偉大な芸術作品と深く関わりたい。より良い演奏を目指したいという高い意識を褒めたい。アンケートの結果においても本人の達成感と満足感が表れている様に思う。教員としても、この様な優秀な院生を担当できたことに感謝の念を抱いている。

●　問題点

特になし

●　改善の方策

特になし

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

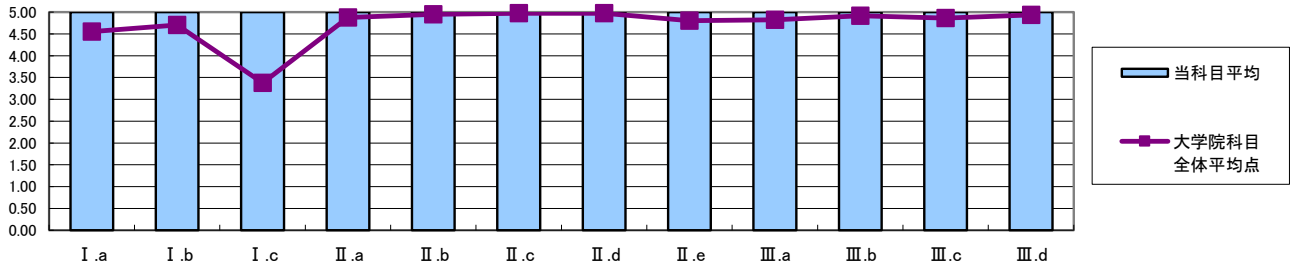
科目名	ピアノ特別演習
教員名	藤井　一興

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅱ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



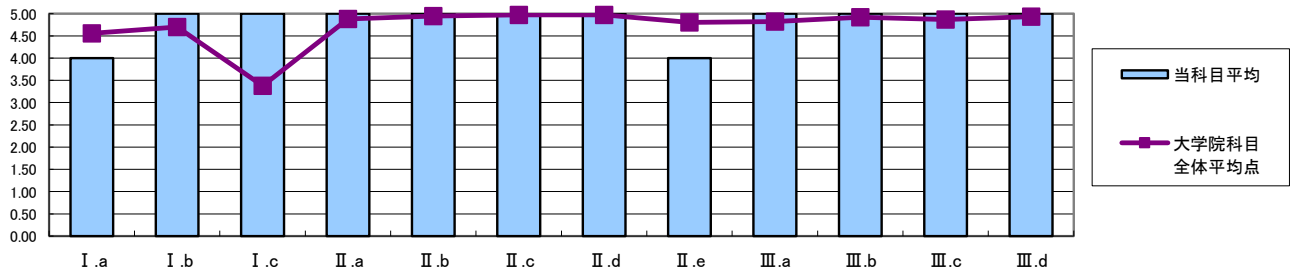
科目名	ピアノ特別演習
教員名	久邇　之宣

職名	03. 特任教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

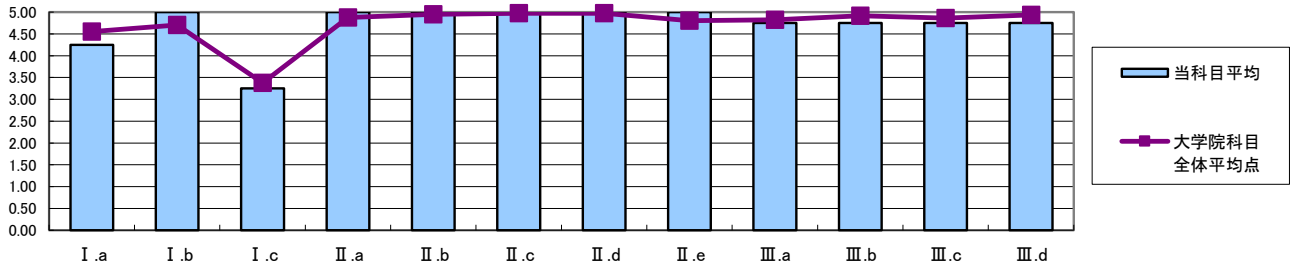
科目名	鍵盤音楽史研究
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.25	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.25	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅱ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.75	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.75	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.75	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.75	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



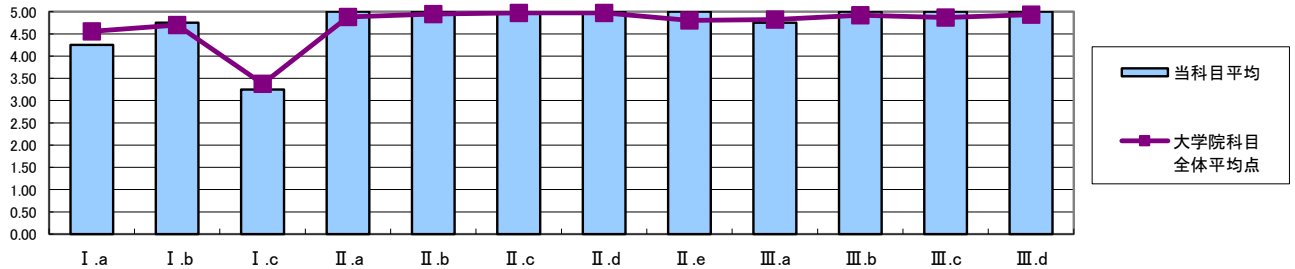
科目名	作品研究A(バロック･古典期)
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.25	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.25	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.75	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



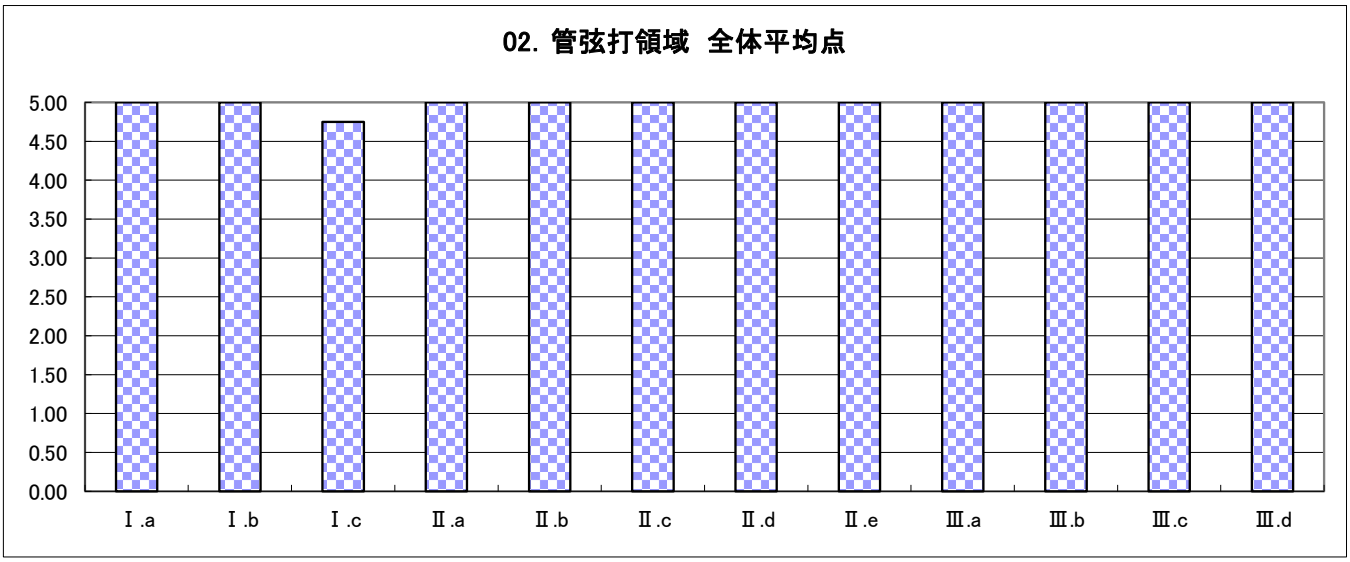
管弦打領域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	02. 管弦打領域
科目数	3

履修者数	4
回答者数	4

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.75	3	1	0	0	0	4	0
				75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4	0	0	0	0	4	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		



授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

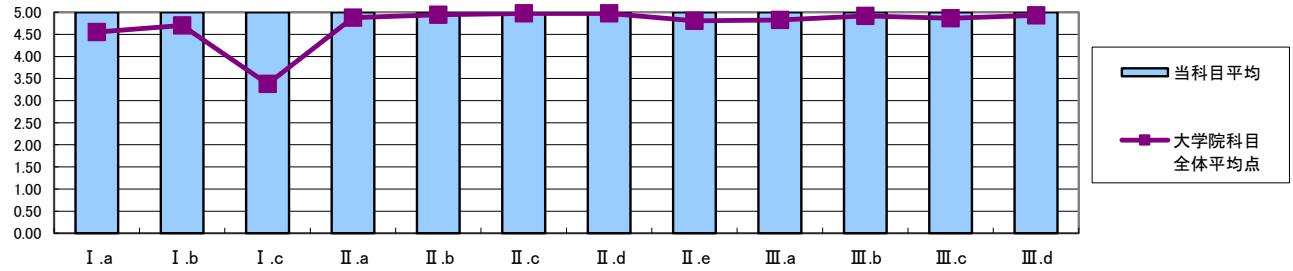
科目名	管弦打特別演習
教員名	天満　敦子

職名	02. 教授

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

大学院・大学共に学生の意欲がとても前向きでレッスンもわりと充実していると思います。社会に出てからも、意欲と夢を持ち続けていけるよう、積極的に励ましていきます。

●　問題点

問題は感じていません。

●　改善の方策

激励のみ！！

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

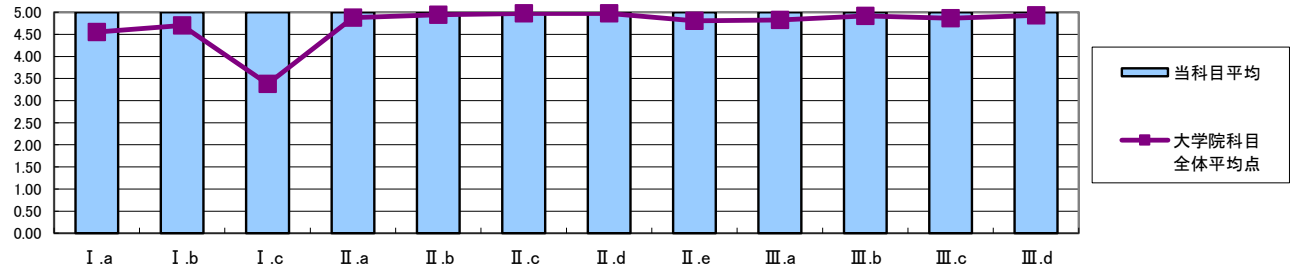
科目名	管弦打特別演習
教員名	佐々木　真史

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

ヴィオラの個人レッスンにより、ヴィオラ演奏の技術向上。そしてヴィオラ奏者としての基本的能力を身につけ、最終的に社会でプロの奏者として活動出来る事を目指して開講している。受講者は一名。曜日は受講者と教員の予定で都度決めている。受講者は出席状況、予習復習も含め、積極的に授業に参加している。受講者は修士論文の題材にヒンデミットを選択し、修士演奏ではヒンデミットの協奏曲(白鳥を焼く男)を演奏する。それに向けて、院1コンサートではヒンデミットのソナタ作品11-4を選び、取り組んだ。前段階では同じくソナタ作品25-1を勉強し、作曲家に対するより深い理解を得ることが出来た。そうした努力が実を結び、院1コンサートでは概ね良い評価を得ることができたようである。集計結果を見てもわかる通り、受講者は、教員の指導意図、科目の目的を良く理解し、熱心に授業に取り組んだ。

●　問題点

集計結果を見ると、大変良好な状態が見てとれる。ただ今回の集計結果からは抽出できない問題点も存在する。それは基礎力にやや未習熟な部分がある点である。具体にはボウイングの問題からくる、音量の不足、音色のコントロール不足等。それにイントネーションの問題等である。開講当初から、それらの問題点を指摘し、改善策として基本的エチュードの練習を指示。授業でもかなりの時間を割いて指導した。しかしながら、コンサートに向けての曲の勉強や、オーケストラ、室内楽も疎かにすることも出来ず、基礎部分がやや未消化になってしまった。

●　改善の方策

上記の反省を踏まえ、今年度も引き続き基礎練習の継続は勿論である。それに加え、忙しい学園生活の中でも基礎力の向上と定着化を図れるよう、練習の効率化を指導したい。具体的にはエチュードのエッセンスを抽出し、自分なりに最適化して練習すること。問題点をより強く意識して、改善策を探ること。それにより、短時間で結果が出るように指導していきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

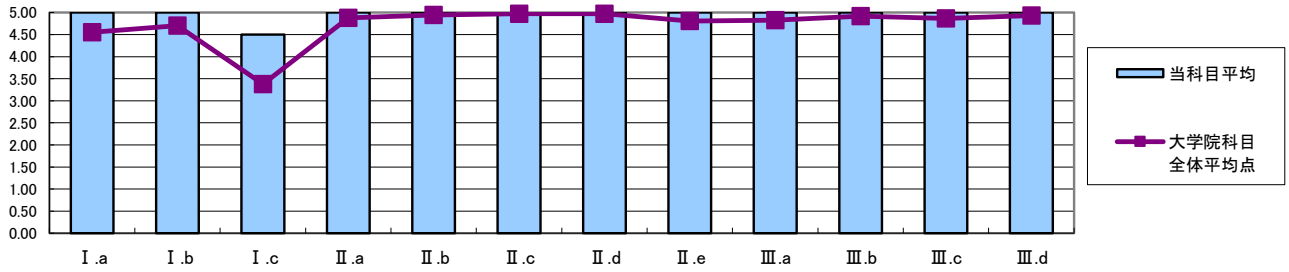
科目名	管弦打特別演習
教員名	松尾　賢一郎

職名	08. 講師

履修者数	2
回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.50	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



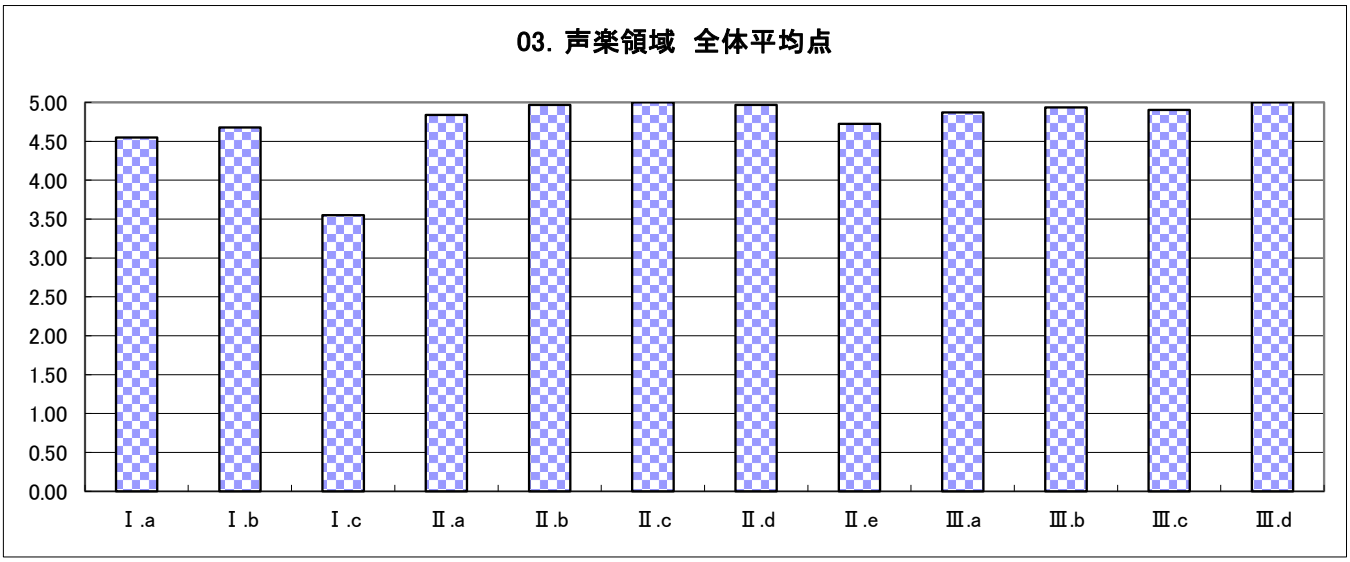
声 楽 領 域

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	03. 声楽領域
科目数	12

履修者数	42
回答者数	31

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.55	22	5	3	1	0	31	0
				71.0	16.1	9.7	3.2	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.68	21	10	0	0	0	31	0
				67.7	32.3	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.55	9	8	8	3	3	31	0
				29.0	25.8	25.8	9.7	9.7		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.84	26	5	0	0	0	31	0
				83.9	16.1	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.97	30	1	0	0	0	31	0
				96.8	3.2	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	31	0	0	0	0	31	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.97	30	1	0	0	0	31	0
				96.8	3.2	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.72	13	5	0	0	0	18	13
				72.2	27.8	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.87	27	4	0	0	0	31	0
				87.1	12.9	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.94	29	2	0	0	0	31	0
				93.5	6.5	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.90	28	3	0	0	0	31	0
				90.3	9.7	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	31	0	0	0	0	31	0
				100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

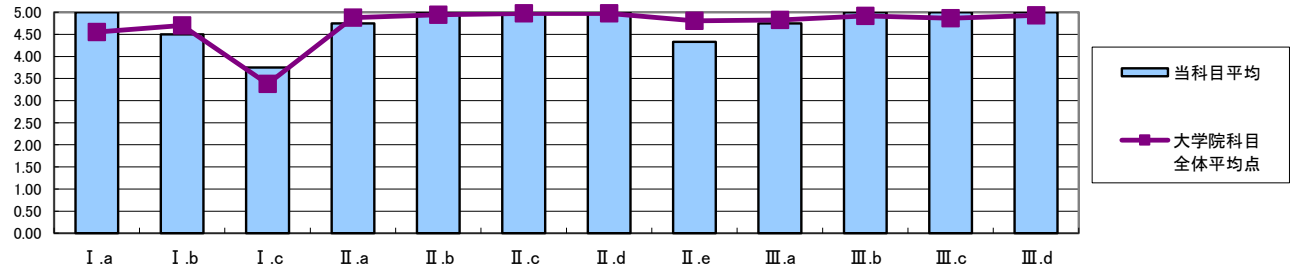


授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	作品研究A-Ⅰ(日本歌曲)	職名	02. 教授	履修者数	6
教員名	山崎　明美			回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.75	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.75	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.33	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.75	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者６名のうち４名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、設問Ⅰは４点台から5点。設問Ⅱはほぼ5であった。回答の分布はいずれも肯定にとどまっている。

●　問題点

Ⅰ―ｃ「1回の授業のために、平均どれくらい研究をしましたか」が３，７５となった点だろうか。

●　改善の方策

5時間が25パーセント、4時間が50パーセント、2時間が25パーセントという結果である。時間としては充分と思われる。「日本歌曲への理解が深まり、更に、探究できれば良いと思いました」という自由記述があった。学生への知識の伝達は確かにおこなわれていると実感している。さらに興味の幅が広がる授業にすべく自身も研究を深めていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

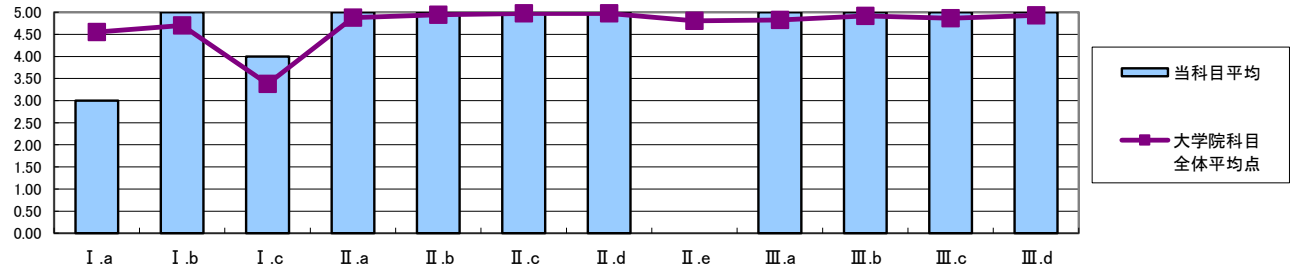
科目名	作品研究A-Ⅱ(日本歌曲)
教員名	山崎　明美

職名	02. 教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	3.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

講座の目的は、日本歌曲の成立、発展の変遷を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を養うことである。日本歌曲演奏における日本語の発音のあり方を系統的に学び、ベル・カント唱法と結びついた自然な日本語の表現を学ぶ。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、およびその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法を習得する。授業の進め方は、各自演奏を行い、担当の歌曲についてそれぞれが資料を作成、それをもとに研究発表を行う形である。教員は学生にさらなる資料の提示、または補足を行い、学生各自の積極的な研究を促し、資料の紹介、演奏者として取り組むべき内容、さまざまな課題を示す。各自が今後の演奏において役立つよう助言を行う形態である。楽譜の選択から、楽譜の読み方、研究の結果をどう演奏に反映させるかと言う教員自らの研究結果に基づき、授業を進め、必要に応じて視聴覚資料も用いている。本講座履修者２名のうち、アンケート期間に体調不良だったものを除く１名から提出された。アンケートは、本人の受講についての設問3項目、教員の授業の進め方についての設問5項目、学生が実感する到達度についての設問4項目よりなる。回答は積極的肯定：５、消極的肯定：４、普通：３、消極的否定：２、積極的否定：１で回答されている。アンケート結果は、Ⅰ―aを除きほぼ5点であった。

●　問題点

設問ⅠはⅠ―a「この授業への出席は良好であった」が、３となった点であろうか。

●　改善の方策

アンケート対象は１名であった。大学院生として学ぶ子の年代は、身体の変わり目でもあり、体調を崩す傾向も見られる。そのほかの設問がほぼ5であったことを考慮すると、授業目的の伝達はスムースにおこなわれていたのではないかと思われる。これに慢心することなく、自身の研究も進め、授業に反映させていきたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

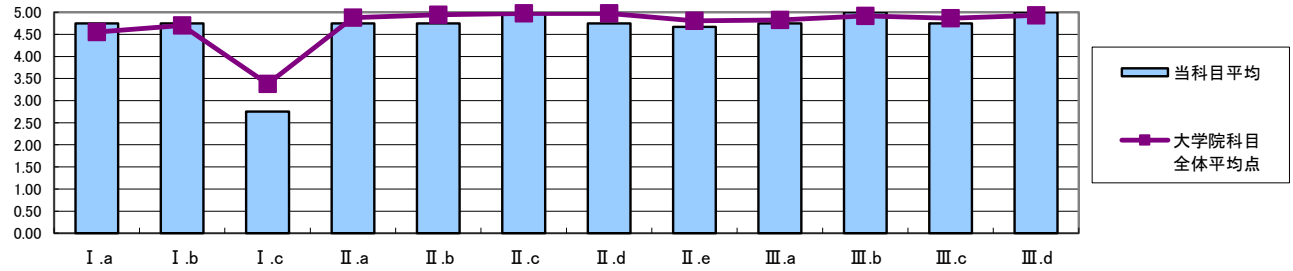
科目名	アンサンブル表現研究(声楽)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.75	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.75	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.75	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.75	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.75	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.67	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.75	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.75	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

この授業は4名が履修した。

● **問題点**

Ⅰ-Cの授業の為にどれくらい時間を費やしたか？という設問だが、実技系の場合、学ぶ時間は読譜力など個人差が大きく影響するので、この時間数が平均点と、どの位合ったものか、疑問が残る。

● **改善の方策**

日頃から、足りない学生がいないか注視して行く。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

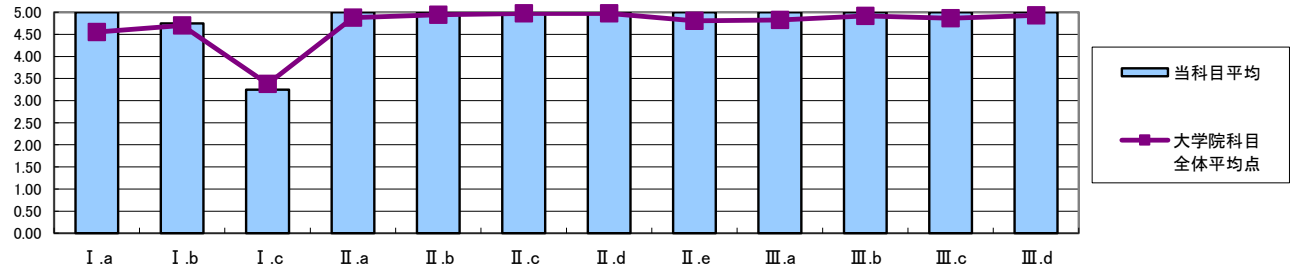
科目名	作品研究B-Ⅰ(外国歌曲)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.75	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.25	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業の1年生は6名の履修者であった。各々の実力の差は有ったものの、何とか理解し追い付いて行こうと真面目に努力をしていた。

●　問題点

問題をと考えると、ＩＣが平均より低いが、時間数で考えると授業時の様子と合わせて考えると大きな問題になって行くとは思わない。

●　改善の方策

今後の様子を見ながら、何か有ればアドバイスをする

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

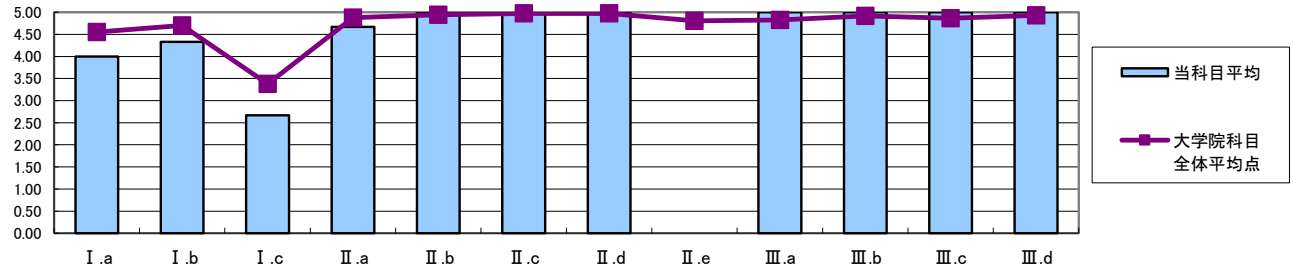
科目名	作品研究B-Ⅱ(外国歌曲)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.67	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	－	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

作品研究B-Ⅱ（外国歌曲）は本年度は4名の履修者がいた。ソプラノ3名、テノール1名であった。この学年は、出席に対して2名は大変良く、別の2名はむずかしかった。

●　問題点

ⅠのaとⅠのCが問題点と思われるが、前述の様に2名は良く、2名はそうではなかった為に、2のグラフの様になったと思われる。又ⅠのCに付いては、時間数での記述の為にこのような結果となっているが、回答した3名は、大変良く学んでいて、曲数や難易度も入学時より大きな成長をとげているので、大きな問題とはならないと感じる。

●　改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

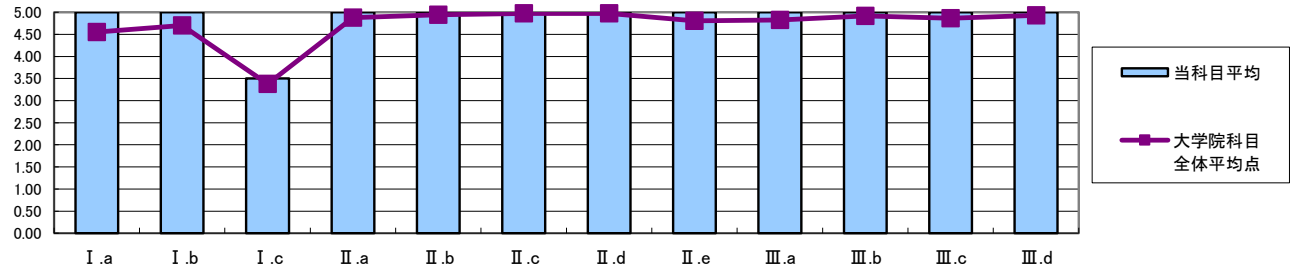
科目名	作品研究C-Ⅰ(オペラ)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	6
回答者数	4

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.50	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

この授業は、声楽領域1年生の6名が履修した。この学科は、地道に真面目に努力する学生が多く、とにかく少しでも身に付けようとしていた。問題点は特になかったと思う。

● **問題点**

● **改善の方策**

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

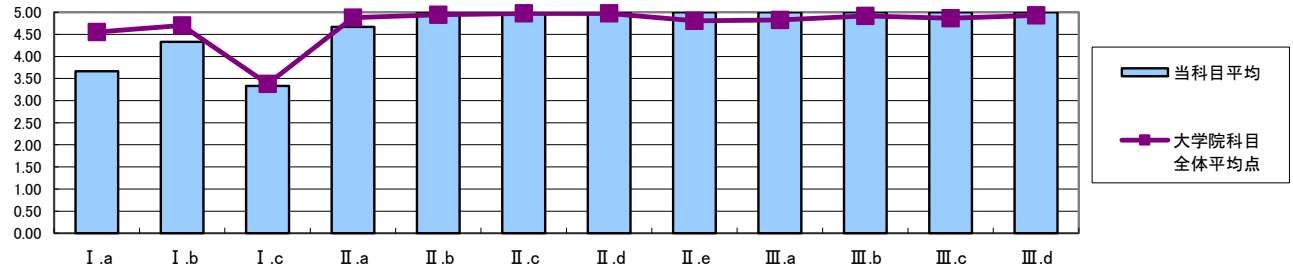
科目名	作品研究C-Ⅱ(オペラ)
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	4
回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	3.67	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.33	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.33	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

この授業は声楽領域２年の４名が履修した。外国歌曲の方にも記述したが、出席に問題の有る者が２名いたので、自ずと設問Ⅰ・aに付いては影響が出ているが、１名をのぞき３名は大変良く学び、その成長も著しいので、平均点としては低いが、大学院生であるので各々の個性を生かして大いに声楽の道に邁進して行って欲しいと考える。

●　問題点

●　改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

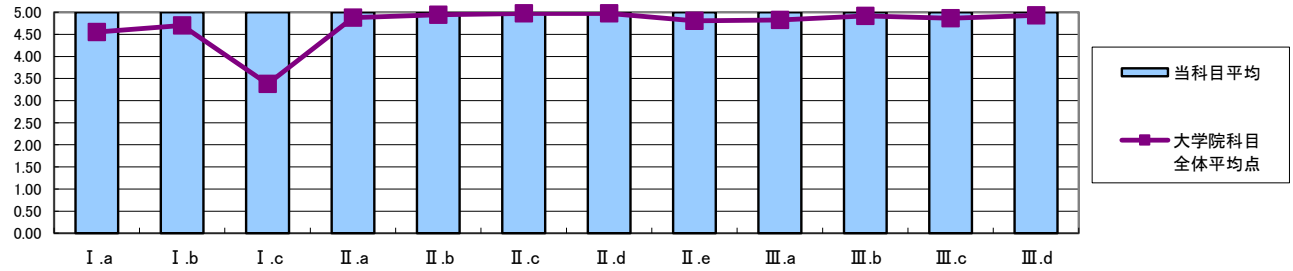
科目名	声楽特別演習
教員名	片岡　啓子

職名	03. 特任教授

履修者数	2
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

Ⅰ-eが平均点よりかなりひくいので、気にはなるが、私の周りの学生は、皆Ⅰ-Cは時間数でそのまま回答していたのか概ね全体に低い。しかし例年の学生を比べても特に勉強不足の様子は見られないので今後は様子を注視する。

●　問題点

●　改善の方策

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

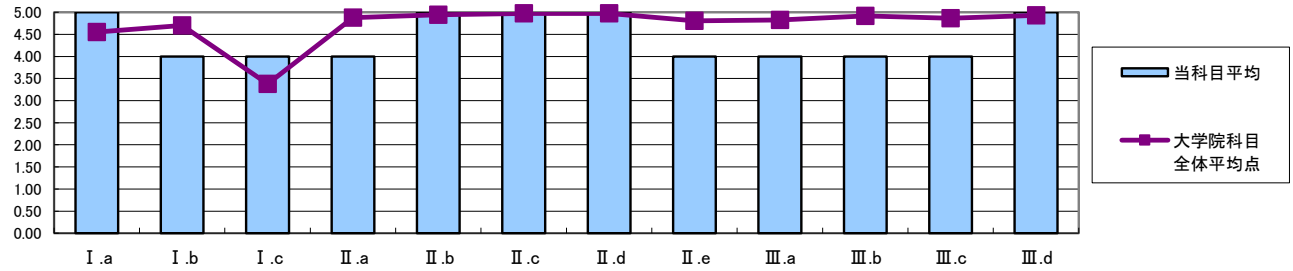
科目名	声楽特別演習
教員名	大島　洋子

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

● **現状の説明**

2019年度は大学院生1名、1年生。文京校舎で水曜日のレッスンとなりました。この学生は社会人入学で2年間短大で学び、長期履修で4年間勉学を続け、2018年4月から大学院に進学致しました。何事にも積極的で学びの意欲が強いので、課題も真面目に向き合い、勉強を積み重ねて身につけて行きました。

● **問題点**

問題は特に有りません

● **改善の方策**

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

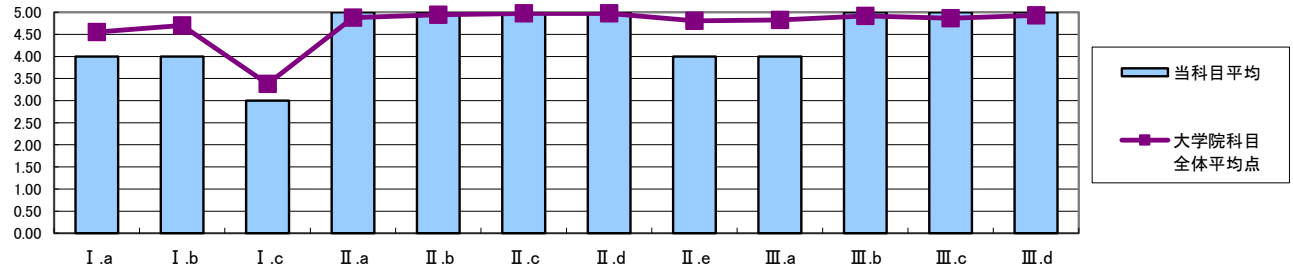
科目名	声楽特別演習
教員名	武藤　直美

職名	08. 講師

履修者数	1
回答者数	1

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	3.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

2年生1名の受講生に対して、シラバスに提示された授業計画に沿ってレッスンが行われていたと思います。受講生は独自の方法で学習し、積極的に曲の意味を音楽として表現しようとする意欲を持って授業に臨んでおりました。また実技ほか修士論文の作成においてかなり早い段階で準備につとめておりましたが、論文作成への比重が大きく、実技の練習時間が不足しておりました。

●　問題点

今回の結果から判断しますと、実技の指導方法については特に問題点はないと思われますが、修士論文研究指導においては早めに行う必要があると思料いたします。

●　改善の方策

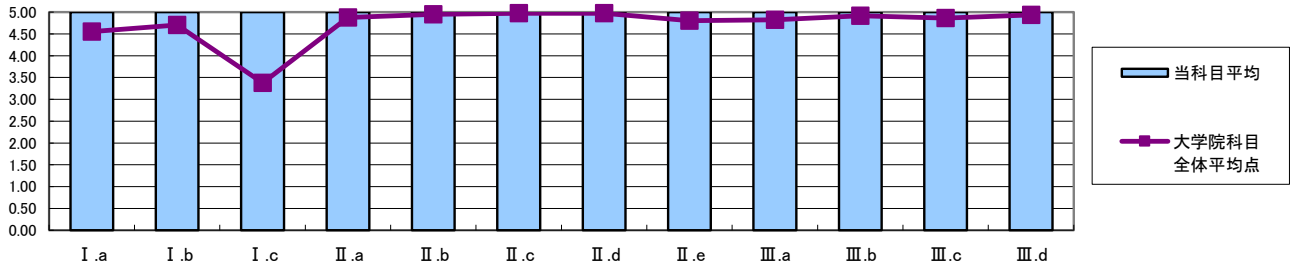
次年度も授業計画に沿ったレッスンを基本としますが、修士論文に向けてのさらなる指導の強化を追求、実践していく所存であります。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	歌曲･オペラ史研究	職名	08. 講師	履修者数	3
教員名	伊藤　制子			回答者数	2

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	5.00	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅱ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

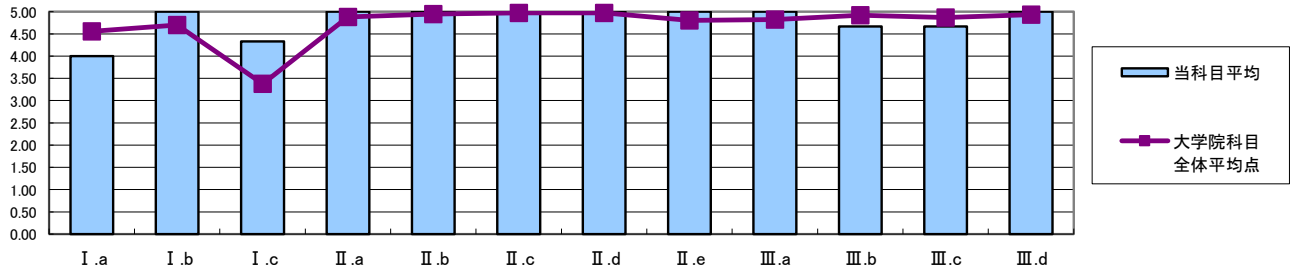
当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



科目名	声楽特別演習	職名	08. 講師	履修者数	3
教員名	岩見　真佐子			回答者数	3

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	5.00	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	4.33	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	5.00	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.67	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



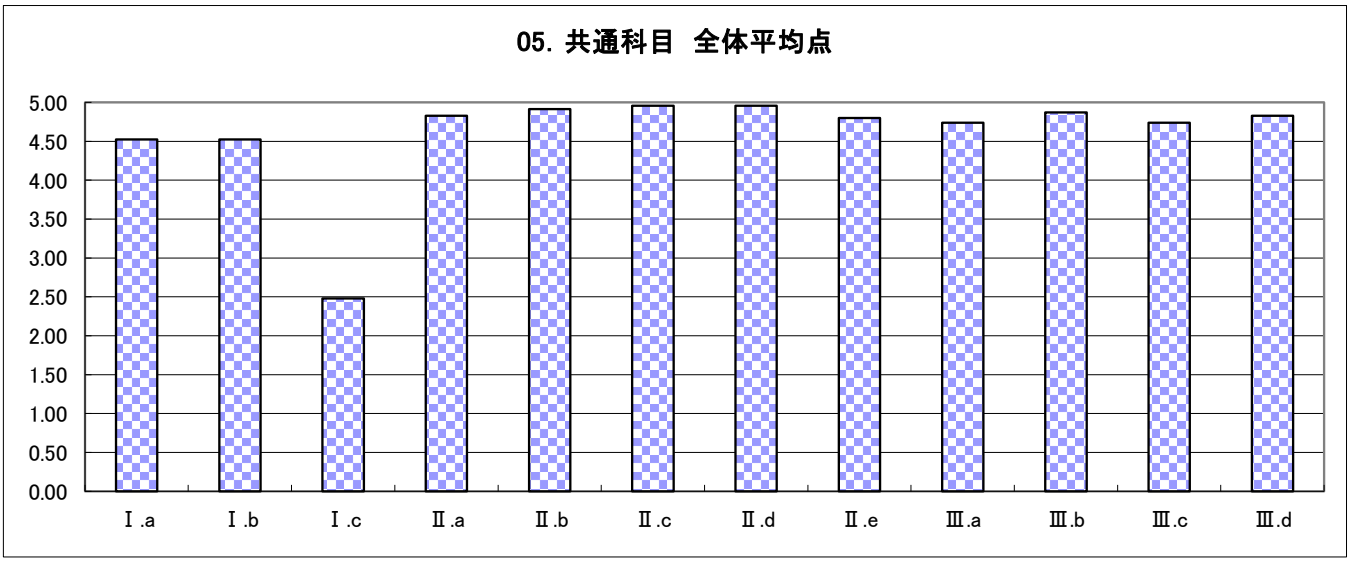
共 通 科 目

授業改善のための学生アンケート集計結果　大学院

専攻	05. 共通科目
科目数	4

履修者数	29
回答者数	23

設問		項目	平均点	回答数(人)／回答率(%)					有効回答数	無効回答数
				5	4	3	2	1		
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.52	13	9	1	0	0	23	0
				56.5	39.1	4.3	0.0	0.0		
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.52	12	11	0	0	0	23	0
				52.2	47.8	0.0	0.0	0.0		
	c	1回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.48	2	5	3	5	8	23	0
				8.7	21.7	13.0	21.7	34.8		
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.83	19	4	0	0	0	23	0
				82.6	17.4	0.0	0.0	0.0		
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.91	21	2	0	0	0	23	0
				91.3	8.7	0.0	0.0	0.0		
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.96	22	1	0	0	0	23	0
				95.7	4.3	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.96	22	1	0	0	0	23	0
				95.7	4.3	0.0	0.0	0.0		
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。（自分の論文指導教員の場合のみマークしてください。）	4.80	8	2	0	0	0	10	13
				80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.74	17	6	0	0	0	23	0
				73.9	26.1	0.0	0.0	0.0		
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.87	20	3	0	0	0	23	0
				87.0	13.0	0.0	0.0	0.0		
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.74	17	6	0	0	0	23	0
				73.9	26.1	0.0	0.0	0.0		
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	19	4	0	0	0	23	0
				82.6	17.4	0.0	0.0	0.0		

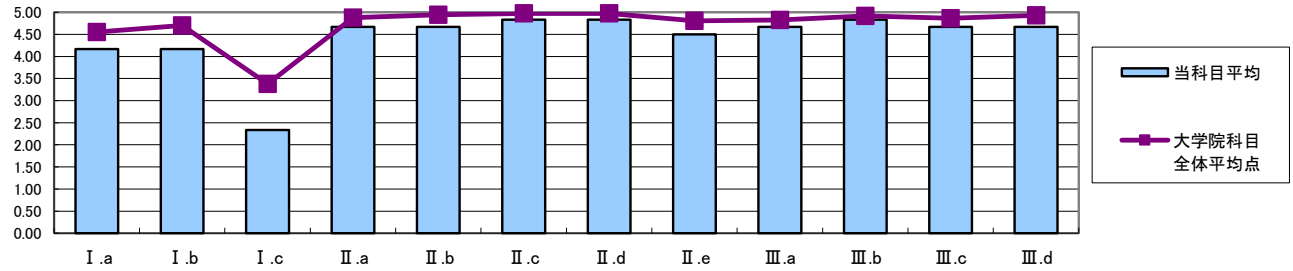


授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	演奏表現研究	職名	08. 講師	履修者数	6
教員名	上山　典子			回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.17	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.17	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.33	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.67	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	4.67	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	4.83	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	4.83	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.50	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.67	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.83	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.67	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は大学院1年以上を対象とする通年授業で、分析を通して個々の作品の構造やそれぞれの作品が属するジャンルとしての特徴を把握するとともに、これらの作品を生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向け、豊かな演奏表現につなげることを目的とした。 前期はバロック時代～古典派のいわゆる大作曲家の作品を中心に取り上げ、時代による形式構造の変化や作曲家の特色を把握した。後期は19世紀ロマン主義時代から、多くの履修者にとってこれまであまり馴染みがなかったという20世紀半ば頃までを対象に、作品が生み出された音楽史的背景に対する理解を深めた。講義形式を基本としたが、履修者による作品分析、作品批評など積極的な参加とディスカッションを求めた。履修者は修士1年生のピアノ専攻3名と管楽器3名の計6名（＋すでに昨年度この授業を履修済みの弦専攻修士2年生が聴講生として1名）で、最終的に全員が単位を取得した。（内3名（+1名）は、楽書講読（月曜1限）とこの演奏表現研究（月曜2限）を連続で履修していた。）年間を通して欠席者が少なく、例年、演奏会準備などで欠席が増える傾向にある12月も、ほぼ全員が通常通り、授業に参加できていた。

●　問題点

アンケートの結果、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みが履修者平均2.33と、とくに低い結果となってしまった。本来、全員がそうあるべき「5時間以上」（＝強くそう思う）と回答した学生は0人で、「4時間」が2人、「2時間」が2人、そして「1時間未満」が2人という状況だった。また、I-aの「出席」を問う設問、I-bの授業の取り組みに対する「熱意」・「積極性」に関する設問も、6名の内5名が4.の「ある程度そう思う」で、5.「強くそう思う」はそれぞれ1名にとどまった。これらI-a,b,cの設問は、学生の授業に対する根本的姿勢を問うものであり、今後、できる限り多くの履修者が「強くそう思う」と1年を振り返ることのできるよう、授業内容や進め方の改善を続けていきたい。

●　改善の方策

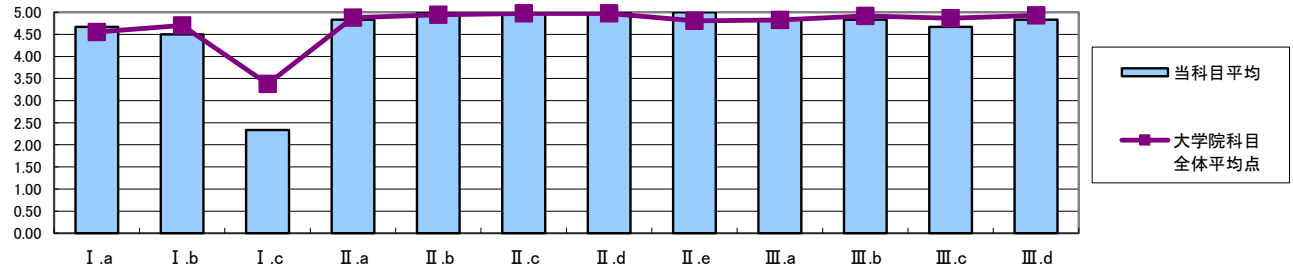
一部の学生の出席不良が目立った昨年度と比べて、今年度の学生の出席状況はおおむね良好だった。ただ、彼女たちがこの授業の予習復習に費やした時間は決して十分なものではなく、この点は、担当者として大いに反省すべきと認識している。輪読や演習系授業にあるような「宿題」といった性格の課題を出しにくいことから、学生に対して明確な指示や指導を行わないまま一年が過ぎてしまったように思う。授業で扱う、あるいは言及する作品のすべてを限られた授業時間内で聴くことは不可能なので、次年度は、学生にはそうした作品（あるいはその作品と同時代の関連作品など）の音源を各自で入手し、一曲を通しで聴いて確認するよう指導するなど、授業外時間の取り組みを促していくようにしたい。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	楽書研究	職名	08. 講師	履修者数	7
教員名	上山　典子			回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.67	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.50	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.33	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.83	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.83	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.83	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

本授業は英語で書かれた音楽事典や文献の内容を読み、その理解を深めることを目的とした。履修者には年間の授業を通して英文で書かれた音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指してもらった。履修登録者はピアノ専攻修士1年が2名、声楽専攻1名、そして管弦楽器の修士1年生が1名、2年生が2名の合計6名だった。前期・後期ともに履修者の希望をある程度取り入れながら、海外のオーケストラ楽団の演奏会用プログラムの楽曲解説や、New Harvard Dictionary of Music、New Grove Dictionary（第2版）の項目の講読に取り組んだ。例年、履修者によって基本的な語学能力に差があるのだが（また年によってはその差が著しく、授業の遂行方法に悩んだ年度も過去にはあったが）、今年度は履修者の英語力にそれほどの差がなく、文献の選択に苦労がなかった。また、「月曜1限」という学生にはあまり歓迎されない時間帯の開講だったが、履修学生の出席はおおむね良好だった。（この点については、年によって大きな差があるので、次年度も良好な出席を期待したい。）

●　問題点

アンケートの結果、設問I-cの授業のための予習復習に対する取り組みが履修者平均2.33と、極めて低い結果だった。本来、全員がそうあるべき「5時間以上」（＝強くそう思う）と回答した学生は0人で、「4時間」が2人、「2時間」が2人、そして「1時間未満」が2人という状況だった。楽書講読という英文書籍や文章を全員で輪読するという授業の性格上、文献の予習は不可欠であり、前期は多くの学生が最低限の予習に取り組んできていたように思っていたが、後期に関しては、授業中に慌てて単語の意味調べを行っている学生が多いのが現状だった。

●　改善の方策

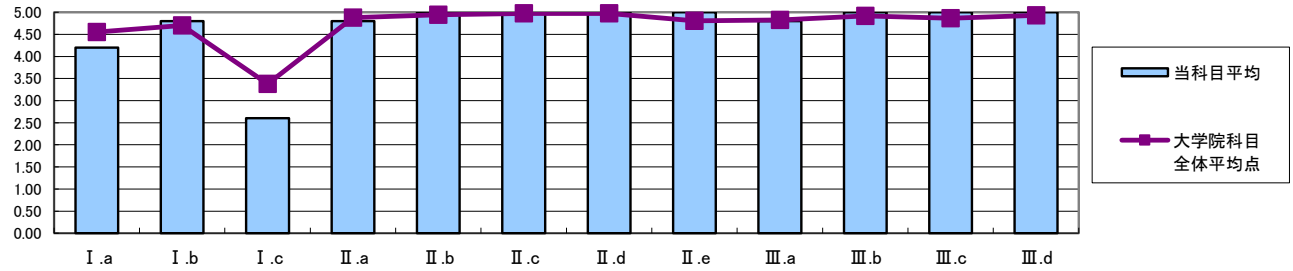
実技レッスンや修士論文の執筆と並行して、演習的性格を持つ授業の履修は大きな負担だとは思うが、楽書購読の授業においては、やはりある程度の予習が必須となる。確かに、辞書を用いずに多読を重ねる訓練もある意味では効果的で、この授業でも、意味調べの予習は敢えてせずに、まずは自力で読んでみる、という考え方もあるかもしれない。しかしこうしたことが可能になるのは、一定の語学力を備えた学生にとってであり、ほとんど学生にとっては、依然として地道な単語の事前調べが必要に思われた。今後も予習、そして復習の徹底を図っていきたい。しかし同時に、本授業は英語を文法的に正しく読むことではなく、あくまで英文で書かれた楽書の内容を理解することを目的にしていることも、忘れないでいたい。そのためには、授業時間外の「自修」の内容、あり方、そして学生にどう促すか等々、担当教員として常に考えていく必要がある。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

科目名	身体表現演習	職名	08. 講師	履修者数	9
教員名	渡辺　恵			回答者数	5

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	4.20	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.80	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.60	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	4.80	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	5.00	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.80	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	5.00	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	5.00	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	5.00	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



■アンケートの結果

●　現状の説明

・正しい姿勢を保つことが出来るか。・自分自身の身体をみつめ、コントロール出来るかどうか。・音楽を身体で感じ、表現できるかどうか。・積み重ねの効果を体現出来るかどうか。以上を目的としてパフォーマンスを向上させるための、身体の調整。バレエのレッスンを基礎として、ストレッチ、バーレッスン、センターワークをCD音楽を使用してレッスンを行う。履修者数　…　9名解答者数　…　5名・出席率も良く真面目に授業に取り組んでいた。

●　問題点

体を動かすことに慣れていないようで、自信がなさそうに動いている生徒がいた。

●　改善の方策

簡単な動きから導入し自信を持たせる。短い振りを踊ってもらい楽しさを実感させる。

授業改善のための学生アンケート集計結果 （大学院科目用）

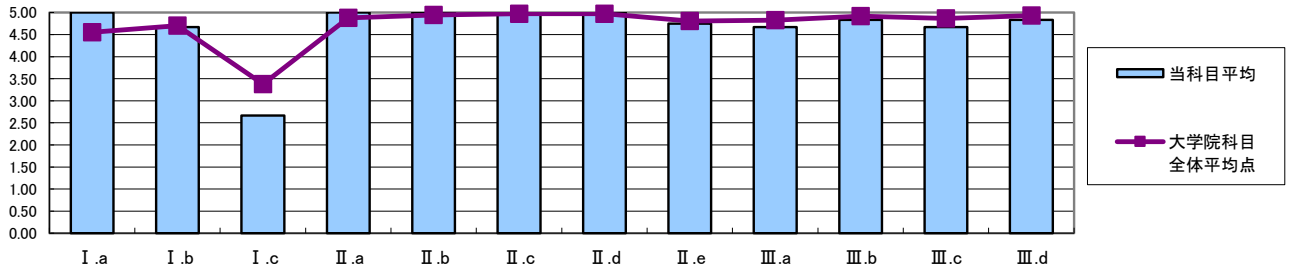
科目名	フランス語
教員名	伊藤　制子

職名	08. 講師

履修者数	7
回答者数	6

設問		設　問　文	平均点	全体平均点
Ⅰ	a	この授業・レッスンへの出席は良好であった。	5.00	4.55
	b	熱意を持って積極的に取り組んだ。	4.67	4.70
	c	１回の授業・レッスンのために、平均どのくらい研究・練習をしましたか。	2.67	3.38
Ⅱ	a	シラバス記載の到達目標に達するために、この授業・レッスンは工夫をなされて展開されていた。	5.00	4.88
	b	教員は、専門領域に関する研究の成果をこの授業・レッスンに反映させていた。	5.00	4.95
	c	教員は、授業内外の質問や相談に適切に対応していた。	5.00	4.97
	d	この授業・レッスンに対する教員の熱意や工夫が感じられた。	5.00	4.97
	e	教員は、修士論文の研究指導を定期的に行っていた。	4.75	4.80
Ⅲ	a	この授業・レッスンで、高度な概念、理論、技術を身につけることができた。	4.67	4.82
	b	この授業・レッスンで、知的刺激を受け、音楽的視野が広がった。	4.83	4.92
	c	この授業・レッスンで、問題の発見方法や研究の進め方が身についた。	4.67	4.86
	d	この授業は総合的に判断して、意義のあるものでしたか。	4.83	4.93

当科目平均点と大学院科目全体平均点との比較



東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

2019 年度　授業改善のための学生アンケート実施報告書

令和 2 年 3 月 31 日　発行

編集発行　　：東邦音楽大学・東邦音楽短期大学　FD 委員会

〒112-0012　東京都文京区大塚 4 丁目 46-9

TEL　03（3946）9667

FAX　03（3946）2455

印刷・集計　：株式会社　教育ソフトウェア